

青森市埋蔵文化財調査報告書 第111集

野尻館遺跡

発掘調査報告書

平成23年度

青森市教育委員会



平成21年度調査区近景（S→）



平成22年度調査区近景（W→）



S I - 05出土遗物



擦文土器



S D - 01出土土器

序

本書は、東青地域県民局地域整備部の堤川広域基幹河川改修事業に先立つ、発掘調査成果をまとめ報告するものであります。調査の結果、平安時代を主体とする竪穴住居跡・土坑・堀跡などの遺構や土師器・須恵器、中世のかわらけや青磁のほか、鉄器などが出土しました。

本書が今後の埋蔵文化財保護ならびに啓蒙に役立つことができれば幸いです。

終わりに本書を刊行するにあたり、関係各機関並びに関係各位のご指導・ご協力に対しまして深く感謝いたします。

平成24年3月

青森市教育委員会

教育長 月 永 良 彦

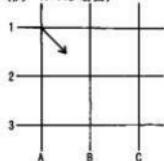
例　　言

1. 本書は、青森市教育委員会が発掘調査を実施した青森市大字野尻字野田及び大字四ツ石字里見に所在する野尻館遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書に記載される内容は、東青地域県民局地域整備部河川砂防施設課より委託を受けて、青森市教育委員会が平成21・22年度の2ヵ年にわたって実施した堤川広域基幹河川改修事業に係る発掘調査成果である。
3. 本遺跡は、青森県埋蔵文化財包蔵地台帳に遺跡番号201-173として登録されている。
4. 本書の編集は、青森市教育委員会が行った。執筆分担は文末に記した。
5. 出土遺物及び記録図面、写真関係資料は青森市教育委員会が保管している。
6. 第V章の分析については「株式会社 バレオラボ」、第37図1、6・7の鉄製品の保存処理については「株式会社吉田生物研究所」に委託した。
7. 引用・参考文献は巻末にまとめた。
8. 発掘調査及び報告書作成にあたって、佐藤 仁、工藤 清泰の各氏よりご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表する次第である。(敬称略・順不同)

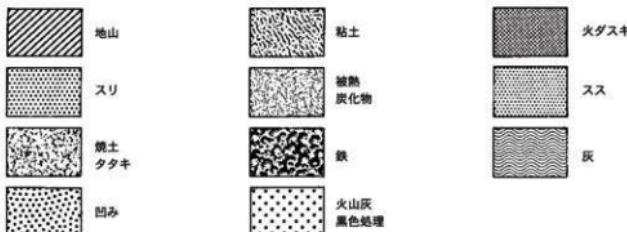
凡　　例

1. 図版番号及び表番号、写真図版番号は本書を通じて連続するものとし、「第〇図」、「第〇表」、「写真〇」とした。なお、第V章の分析においては、「図版1」、「表1」とした。
2. 遺構の略称は竪穴住居跡・竪穴遺構=S I、土坑=S K、焼土遺構=S N、堀跡=S D、ピット=S Pである。また遺構内土坑=S K (例:S I-01内S K-1)、遺構内ピット=Pit (例:S I-01内Pit 1)と表記した。
3. 図中で使用したアルファベットを用いた略称は、土器=P、石=S、白頭山苔小牧火山灰=B-Tm、ロームブロック=L Bである。
4. 掘図の縮尺は毎に示した。また写真図版の縮尺は統一していない。
5. 各種平面図の方針は磁北を示した。
6. 土層の注記については、『新版標準土色帳』(小山正忠、竹原秀雄 1993)に準拠した。
7. グリッドの呼称は次のとおりである。

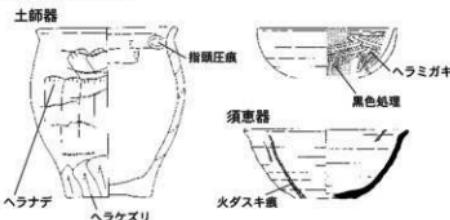
(例 A-1の場合)



8. 図中で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。



9. 遺物実測図の表現



目 次

序

例言

凡例

目次

図表・写真目次

| | |
|---------------|-----|
| 第Ⅰ章 調査の概要 | 1 |
| 第1節 調査に至る経緯 | 1 |
| 第2節 調査要項 | 1 |
| 第3節 調査方法 | 2 |
| 第4節 調査経過 | 6 |
| 第Ⅱ章 遺跡の環境 | 9 |
| 第1節 遺跡の位置 | 9 |
| 第2節 歴史的環境 | 9 |
| 第3節 遺跡の層序 | 11 |
| 第Ⅲ章 西郭の調査 | 12 |
| 第1節 検出遺構と出土遺物 | 12 |
| 1. 壑穴住居跡 | 12 |
| 2. 壑穴遺構 | 15 |
| 3. 土坑 | 52 |
| 4. 焼土遺構 | 53 |
| 5. ピット | 57 |
| 6. 遺構外出土遺物 | 69 |
| 第Ⅳ章 南郭の調査 | 79 |
| 第1節 検出遺構と出土遺物 | 79 |
| 1. 土坑 | 79 |
| 2. 堀跡 | 79 |
| 3. ピット | 80 |
| 第Ⅴ章 自然科学分析 | 98 |
| 第Ⅵ章 分析と考察 | 106 |
| 写真図版 | 125 |
| まとめ | 156 |
| 引用・参考文献 | 157 |
| 報告書抄録 | |

図表・写真目次

図版目次

| | | | |
|---------------------|-------|--|----|
| 第1図 遺跡位置図 | 3 | 第35図 遺構内出土石器 (SI) ② | · |
| 第2図 調査区位置図 | 4 | 遺構内出土土製品 (SI) ① | 47 |
| 第3図 グリッド位置図 | 5 | 第36図 遺構内出土土製品 (SI) ② | 48 |
| 第4図 遺構配置図 | 7・8 | 第37図 遺構内出土鉄製品・古銭 (SI) ① | 49 |
| 第5図 周辺の遺跡 | 10 | 第38図 遺構内出土鉄関連遺物 (SI) ① | 50 |
| 第6図 基本層序 | 11 | 第39図 遺構内出土鉄関連遺物 (SI) ② | 51 |
| 第7図 SI-01① | 19・20 | 第40図 SK-01~05、07・08 | 54 |
| 第8図 SI-01② | 21 | 第41図 遺構内出土遺物 (SK) | 55 |
| 第9図 SI-02 | 22 | 第42図 SN-01・出土土器 | 56 |
| 第10図 SI-03 | 23 | 第43図 SP-01~11、52・53・55・61~65、81・ 148・160・169 | 61 |
| 第11図 SI-04 | 24 | 第44図 SP-12~29、35~39、158 | 62 |
| 第12図 SI-05① | 25 | 第45図 SP-30~34、41~44、46~51、54、90~95、 151・152・154・159・162 | 63 |
| 第13図 SI-05② | 26 | 第46図 SP-40、45、56~60、102~107、 153、168、171 | 64 |
| 第14図 SI-06 | 27 | 第47図 SP-66、69~72、75~80、82~89、 155、156・163 | 65 |
| 第15図 SI-07 | 28 | 第48図 SP-67・68、73・74、147、149・150、 157、164、166、167 | 66 |
| 第16図 SI-08 | 29 | 第49図 SP-96~101、108~117、161、170 | 67 |
| 第17図 SI-09 | 30 | 第50図 SP-118~146 | 68 |
| 第18図 SI-10・11 | 31 | 第51図 遺構内出土遺物 (SP) | 69 |
| 第19図 SI-12・13 | 32 | 第52図 遺構外出土土器① | 72 |
| 第20図 遺構内出土土器 (SI) ① | 33 | 第53図 遺構外出土土器② | 73 |
| 第21図 遺構内出土土器 (SI) ② | 34 | 第54図 遺構外出土土器③ | 74 |
| 第22図 遺構内出土土器 (SI) ③ | 35 | 第55図 遺構外出土土器④ | 75 |
| 第23図 遺構内出土土器 (SI) ④ | 36 | 第56図 遺構外出土土器⑤ | 76 |
| 第24図 遺構内出土土器 (SI) ⑤ | 37 | 第57図 遺構外出土石器 | 77 |
| 第25図 遺構内出土土器 (SI) ⑥ | 38 | 第58図 遺構外出土土製品・鉄製品 | 78 |
| 第26図 遺構内出土土器 (SI) ⑦ | 39 | 第59図 遺構外出土鉄関連遺物 | 78 |
| 第27図 遺構内出土土器 (SI) ⑧ | 40 | 第60図 SK-06、09、SD-01①・② | 81 |
| 第28図 遺構内出土土器 (SI) ⑨ | 41 | 第61図 SD-02・SP-165 | 82 |
| 第29図 遺構内出土土器 (SI) ⑩ | 42 | 第62図 遺構内出土土器① (SD) | 83 |
| 第30図 遺構内出土土器 (SI) ⑪ | 43 | 第63図 遺構内出土土器② (SD) | 84 |
| 第31図 遺構内出土土器 (SI) ⑫ | 44 | | |
| 第32図 遺構内出土土器 (SI) ⑬ | 45 | | |
| 第33図 遺構内出土土器 (SI) ⑭ | 46 | | |
| 第34図 遺構内出土石器 (SI) ① | 46 | | |

| | | |
|------|----------------------------|-----|
| 第64図 | 遺構内出土土器③ (SD) | 85 |
| 第65図 | 遺構内出土石器・石製品・土製品 (SD) | 86 |
| 第66図 | 遺構内出土鉄関連遺物 (SD) | 86 |
| 第67図 | 豎穴住居跡・豎穴遺構集成..... | 107 |
| 第68図 | 遺物集成①..... | 110 |
| 第69図 | 遺物集成②..... | 111 |
| 第70図 | 遺物集成③..... | 112 |
| 第71図 | 遺物集成④..... | 113 |
| 第72図 | 遺物集成⑤..... | 114 |
| 第73図 | 遺物集成⑥..... | 115 |
| 第74図 | 遺物集成⑦..... | 116 |
| 第75図 | 遺物集成⑧..... | 117 |
| 第76図 | 遺物集成⑨..... | 118 |
| 第77図 | 遺物集成⑩..... | 119 |
| 第78図 | 遺物集成⑪..... | 120 |
| 第79図 | 遺物集成⑫..... | 121 |
| 第80図 | 遺物集成⑬..... | 122 |
| 第81図 | 縄張概略図..... | 124 |
| 第18表 | 遺構外出出土土製品観察表..... | 97 |
| 第19表 | 遺構外出土鉄製品・鉄滓・羽口観察表..... | 97 |

写真目次

| | | |
|------|------------|-----|
| 写真1 | 検出遺構①..... | 125 |
| 写真2 | 検出遺構②..... | 126 |
| 写真3 | 検出遺構③..... | 127 |
| 写真4 | 検出遺構④..... | 128 |
| 写真5 | 検出遺構⑤..... | 129 |
| 写真6 | 検出遺構⑥..... | 130 |
| 写真7 | 検出遺構⑦..... | 131 |
| 写真8 | 検出遺構⑧..... | 132 |
| 写真9 | 検出遺構⑨..... | 133 |
| 写真10 | 検出遺構⑩..... | 134 |
| 写真11 | 検出遺構⑪..... | 135 |
| 写真12 | 出土遺物①..... | 136 |
| 写真13 | 出土遺物②..... | 137 |
| 写真14 | 出土遺物③..... | 138 |
| 写真15 | 出土遺物④..... | 139 |
| 写真16 | 出土遺物⑤..... | 140 |
| 写真17 | 出土遺物⑥..... | 141 |
| 写真18 | 出土遺物⑦..... | 142 |
| 写真19 | 出土遺物⑧..... | 143 |
| 写真20 | 出土遺物⑨..... | 144 |
| 写真21 | 出土遺物⑩..... | 145 |
| 写真22 | 出土遺物⑪..... | 146 |
| 写真23 | 出土遺物⑫..... | 147 |
| 写真24 | 出土遺物⑬..... | 148 |
| 写真25 | 出土遺物⑭..... | 149 |
| 写真26 | 出土遺物⑮..... | 150 |
| 写真27 | 出土遺物⑯..... | 151 |
| 写真28 | 出土遺物⑰..... | 152 |
| 写真29 | 出土遺物⑱..... | 153 |
| 写真30 | 出土遺物⑲..... | 154 |
| 写真31 | 出土遺物⑳..... | 155 |

表目次

| | | |
|------|----------------------------------|----|
| 第1表 | 周辺の遺跡..... | 11 |
| 第2表 | ピット観察表..... | 57 |
| 第3表 | 遺構内出土土器観察表 (SI) | 87 |
| 第4表 | 遺構内出土石器観察表 (SI) | 92 |
| 第5表 | 遺構内出土土製品観察表 (SI) | 92 |
| 第6表 | 遺構内出土鉄製品・鉄滓・ 羽口観察表 (SI) | 92 |
| 第7表 | 遺構内出土古錢観察表 (SI) | 92 |
| 第8表 | 遺構内出土土器観察表 (SK) | 93 |
| 第9表 | 遺構内出土土製品観察表 (SK) | 93 |
| 第10表 | 遺構内出土土器観察表 (SN) | 93 |
| 第11表 | 遺構内出土土器観察表 (SD) | 93 |
| 第12表 | 遺構内出土石器・石製品観察表 (SD) | 94 |
| 第13表 | 遺構内出土土製品観察表 (SD) | 94 |
| 第14表 | 遺構内出土鉄滓・羽口観察表 (SD) | 94 |
| 第15表 | 遺構内出土土器観察表 (SP) | 95 |
| 第16表 | 遺構外出出土土器観察表..... | 95 |
| 第17表 | 遺構外出出土石器観察表..... | 97 |

第Ⅰ章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

東青地域県民局地域整備部河川砂防施設課（以下、県河川砂防施設課）は、青森市大字野尻字野田及び四ツ石字里見地内において堤川広域基幹河川改修事業に係る堤防整備工事を計画した。

計画地内には、野尻館遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号201-173）が該当することから、県河川砂防施設課と青森県教育庁文化財保護課（以下、県文化財保護課）との協議により、県文化財保護課が西郭東側（約360m²）について、平成20年7月10・11日に確認調査を実施した。その結果、平安時代を主体とする遺構や土師器・須恵器等が確認された（青森県教育委員会 2009）。

その結果を受けて、県河川砂防施設課の依頼により、当委員会が発掘調査を実施することとなった。発掘調査は第1次として熊野宮移設予定地である西郭東側を対象に平成21年5月18日～6月30日まで実施し、竪穴住居跡・竪穴遺構・土坑・小ピット・不明遺構を検出した。その後、遺構の広がり等が不明確であった南郭西側・西郭南北を対象に、平成21年9月14日～10月2日の日程で当委員会が確認調査を実施し、縄文時代の土坑等を確認した。第2次として、西郭西半・南郭西側・西郭南北を対象に平成22年8月30日～11月24日の日程で実施し、竪穴住居跡・竪穴遺構・土坑・堀跡・ピット等を検出した。

第2節 調査要項

1. 調査の目的

堤川広域基幹河川改修事業に先立ち、予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図るとともに、地域社会の文化財活用に資する。

2. 遺跡名及び所在地

野尻館遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号 201-173）

青森市大字野尻字野田、四ツ石字里見

3. 発掘調査期間

第1次 平成21年5月18日～平成21年6月30日

第2次 平成22年8月30日～平成22年11月24日

4. 調査面積 第1次 456m²

第2次 1,487m²

5. 調査委託者 東青地域県民局

6. 調査受託者 青森市教育委員会

7. 調査担当機関 青森市教育委員会文化財課

8. 調査指導機関 青森県教育庁文化財保護課

9. 調査体制

調査事務局 青森市教育委員会事務局

(平成21年度)

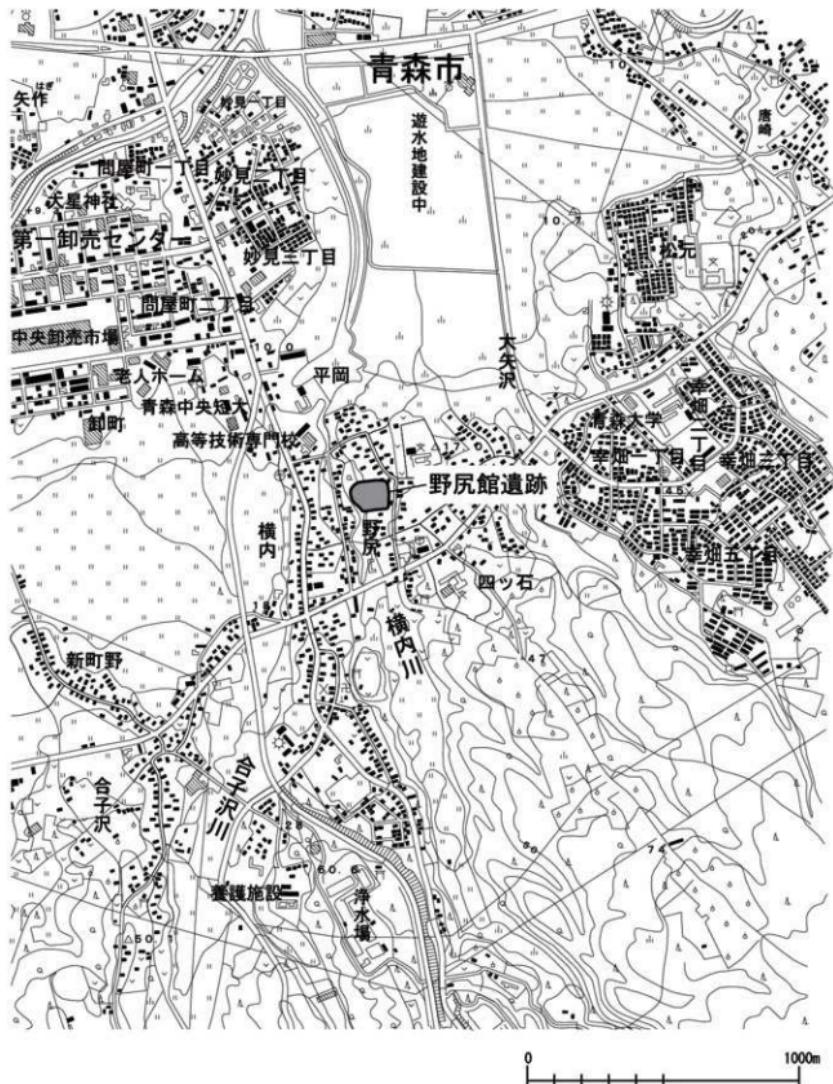
| | | | |
|----------|-------|----------|-------------|
| 教育長 | 月永 良彦 | 文化財主査 | 木村 淳一 |
| 教育部長 | 小林 順一 | 〃 | 小野 貴之 |
| 教育次長 | 今村 貴宏 | 〃 | 児玉 大成（調整担当） |
| 教育環境推進監 | 塩崎 章悦 | 文化財主事 | 設楽 政健（調査担当） |
| 文化財監査課課長 | 遠藤 正夫 | 主 事 | 対馬 広将 |
| 主 幹 | 上野富士子 | 埋蔵文化財調査員 | 野坂 知広（調査担当） |

(平成22年度)

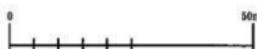
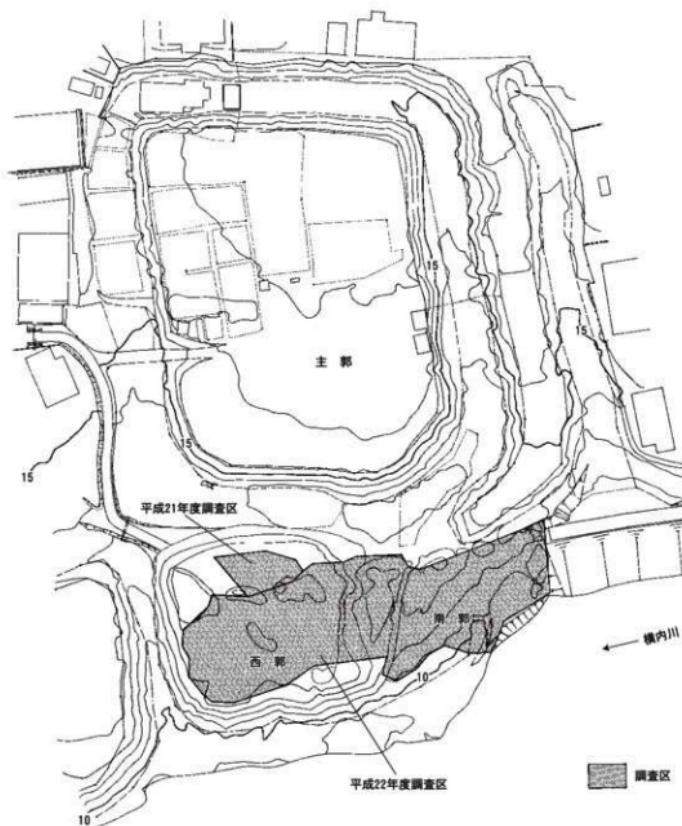
| | | | |
|----------|-------|-------|-------------|
| 教育長 | 月永 良彦 | 文化財主査 | 木村 淳一 |
| 教育部長 | 小林 順一 | 〃 | 小野 貴之 |
| 教育次長 | 小野寺 晃 | 〃 | 児玉 大成（調整担当） |
| 教育環境推進監 | 塩崎 章悦 | 〃 | 設楽 政健（調査担当） |
| 文化財監査課課長 | 遠藤 正夫 | 主 事 | 対馬 広将 |
| 主 幹 | 上野富士子 | | |

第3節 調査方法

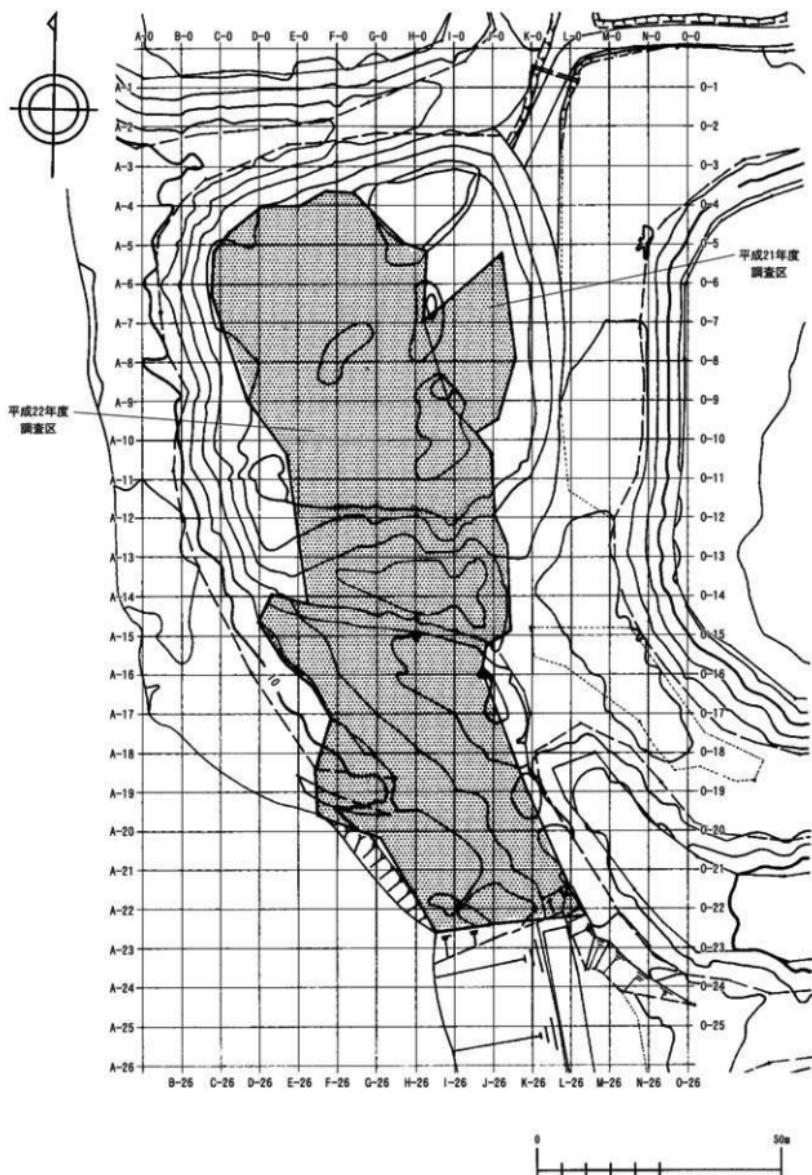
調査区は、熊野宮境内にあたる西郭とその南北の空堀、南郭西側に分けることができる。表土処理は、平成21年度調査では人力で表土を剥ぎ取り、22年度は重機で表土を剥ぎ取りした。グリッドについては公共座標に基づいた任意の基点から、調査区全体が網羅されるように4×4mメッシュで設定した（第3図）。各グリッドの呼称については東側に向かってA・B・C……の順にアルファベット、南に向かって1、2、3……の順に付し、両者の組み合わせ（例A-1）で示した（第3図）。測量原点は、近隣の横内小学校敷地内にある三角点（標高17.0m）より移動を行い、調査区の起伏に応じて各所に移動した。遺構精査は原則として、竪穴住居跡・竪穴遺構については4分法、土坑・ピットについては2分法を採用し、その他の遺構については必要に応じてセクションベルトを設定し、断面図を作成した。平面図作成にあたっては簡易遺り方測量とトータルステーションで作成し、図面の縮尺は基本的に20分の1を採用し、必要に応じて40分の1を併用した。遺物は遺構内、遺構外出土遺物とともに各層毎に一括し、必要に応じて番号を付して取り上げた。写真は土層断面、完掘状況、遺物出土状況を中心にデジタルカメラで撮影した。



第1図 遺跡位置図



第2図 調査区位置図



第3図 グリッド位置図

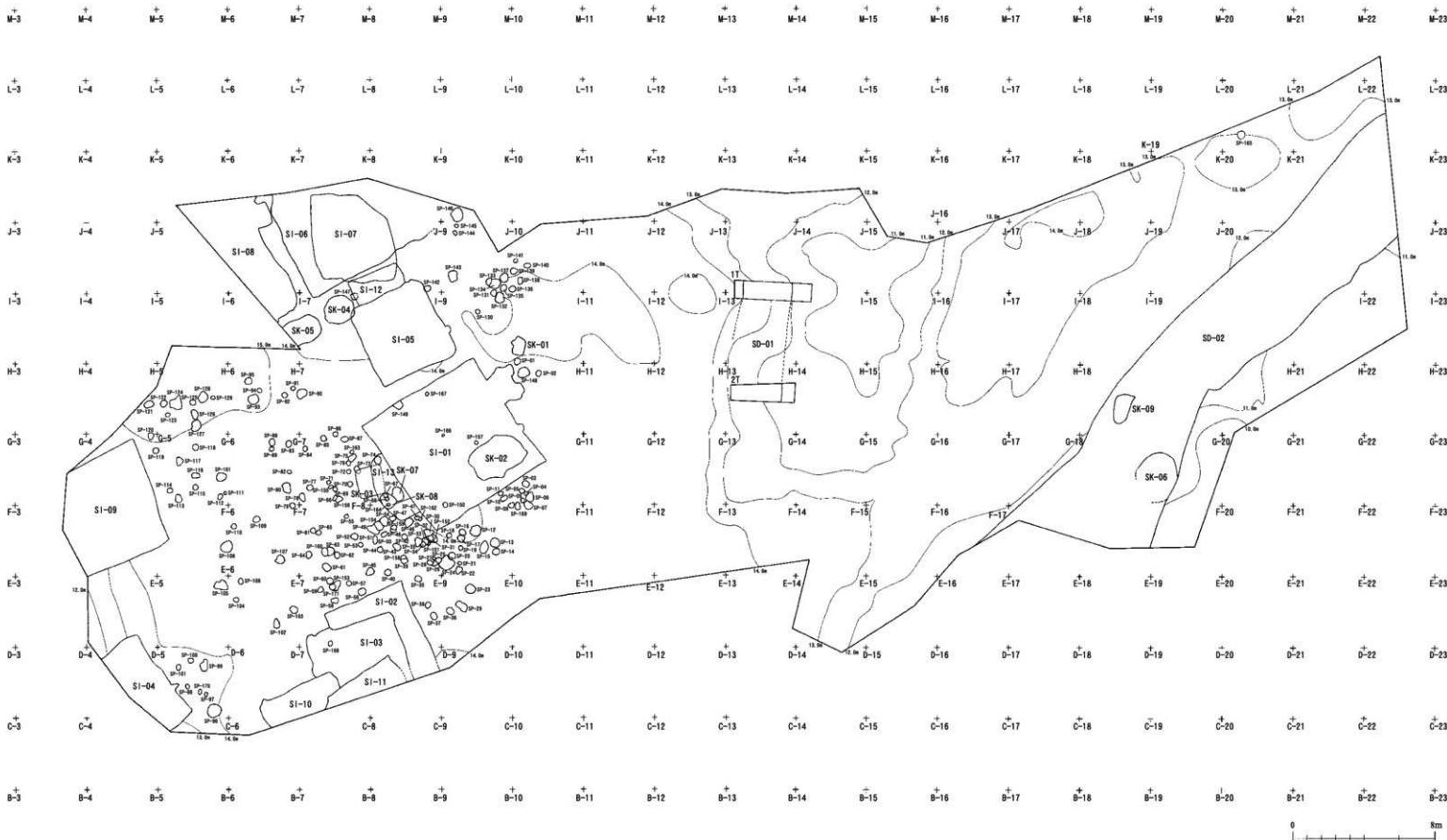
第4節 調査経過

・平成21年度

平成21年5月18日、西郭東側の発掘調査開始。調査開始式を行い、機材搬入・プレハブ内及び周辺の環境整備を実施した。平成20年度の県文化財保護課による確認調査で地山までの深さを把握できていたため、調査区北側から人力による遺構確認面までの掘削を行い、その後ジョレンがけにより遺構確認を行った。その結果、竪穴遺構、土坑、ピット・不明遺構を検出し、6月上旬から調査区北側の不明遺構や土坑へと順次、遺構精査を実施した。平成21年6月30日に全ての作業を終了し、機材・プレハブ等を撤収した。

・平成22年度

平成22年8月30日、西郭西側の発掘調査開始。調査開始式を行い、機材搬入・プレハブ内及びその周辺の環境整備を実施した。調査開始前に草刈及び表土処理を実施していたため、調査開始後、直ぐにジョレンがけによる遺構確認を行うことができた。遺構確認の結果、竪穴住居跡、土坑、ピット、不明遺構を検出した。9月中旬より竪穴住居跡から土坑へと遺構精査を進めた。10月12日から南郭西側の表土処理を行い、その後ジョレンがけにより遺構確認を行った。その結果、堀跡、土坑、ピットを検出し、堀跡から土坑、ピットと遺構精査を行った。平成22年11月24日に全ての作業を終了し、機材・プレハブ等を撤収した。



第4図 遺構配置図

第Ⅱ章 遺跡の環境

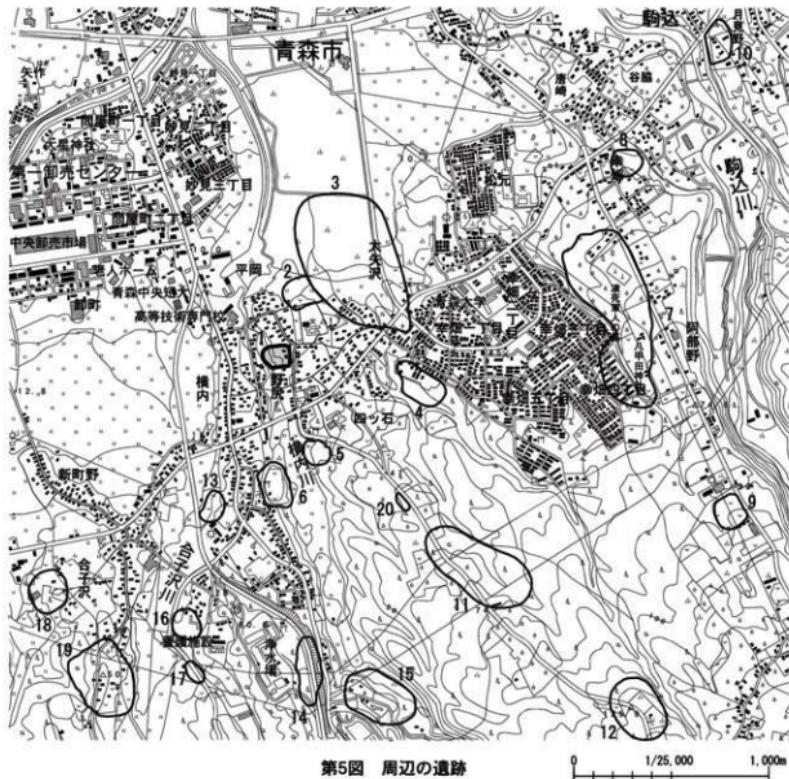
第1節 遺跡の位置

野尻館遺跡は中心市街地から南側に直線距離で約6km離れた、八甲田山から続く火山性台地上の標高11～15mの地点に位置している。本市の地形は陸奥湾に面して北側に広がる青森平野、南～東側には八甲田山から連なる丘陵、西側には中山山脈から続く大沢迦丘陵が広がっている。遺跡名でもある「野尻」という地名のとおり、遺跡南側の八甲田山から連なる丘陵と北側の青森平野が接する野の尻（青森平野の南端）にあたる。遺跡は東郭、西郭、南郭（帯郭）によって構成されており、東郭は長方形を呈し、東西70×南北56mを測る。現状は畠地で、周囲を空堀が巡っている。西郭は円形を呈し、東西25×南北35mを測り、現状は熊野宮となっている。南郭は不整形を呈し、東西70×南北15mを測り、現状は山林となっている。東郭は周囲を空堀が巡り、更にその外側には南郭を挟んで南側部分に空堀が見られ、一部二重堀を呈している。西郭と南郭には周囲に空堀が巡り、更にその西側には横内川が流れており、天然の堀を加えた二重堀を呈しており、西方からの攻めを考慮したものと考えられる。

第2節 歴史的環境

本遺跡周辺の丘陵地には、縄文時代早期～中世までの遺跡が分布している。周辺で最も古い遺跡は、縄文時代早期の白浜式土器を出土した横内遺跡である。平成5年度に市道改良工事に係り、当委員会が発掘調査を実施し、早期の土器のほか、前期中葉の堅穴住居跡1軒、前期末葉の堅穴住居跡2軒を検出しており、本遺跡で出土した物見台式土器との関連がうかがえる。後続する前期では、前述の横内遺跡のほか、大矢沢野田遺跡があり、平成10～13年に河川改修事業に係り、青森県教育委員会と当委員会が発掘調査を実施し、前期初頭の堅穴住居跡や前期中葉の遺物集中ブロックを検出した。本遺跡周辺の丘陵では、縄文中期の遺跡は、堅穴住居跡が1軒程度の小規模な遺跡が検出されており、桜峯（2）遺跡がある。平成6年度に国道103号バイパス改良工事に係り、当委員会が発掘調査を実施し、中期中葉の堅穴住居跡のほか、中期中葉～後期前葉を主体とする土坑等を検出した。後期～晩期の資料は、平成20年度に当委員会が高圧線鉄塔建設に係り、発掘調査を実施した阿部野（1）遺跡における十腰内I式土器と前述の桜峯（2）遺跡で遺構外から出土した晩期の大洞B C式土器がある。平安時代の遺跡は、合子沢松森（2）遺跡がある。平成16年度に東北新幹線建設工事に係り、当委員会が発掘調査を実施し、堅穴住居跡・土坑・溝状土坑等を検出した。中世の遺跡としては横内城跡がある。昭和61年度に寺院改築に係り当委員会の発掘調査により、堅穴造構、土坑、溝状遺構を検出した。本遺跡周辺では中世以降の様相は横内城跡以外、不明であるが、史料から周辺の様相が読み取れるようになるのは鎌倉時代からである。本遺跡周辺は鎌倉時代に野尻郷と呼ばれ、北条氏の得宗であったが、元弘三年（1333）に始まった大光寺合戦において建武政権方として戦った工藤貞行に建武二年正月二十六日（1335）に陸奥守北畠顯家より勲功として、工藤右衛門尉祐貞法師の旧領であった津軽鼻和郡目谷郷と外浜野尻郷が安堵されている。その所領は貞行の没後、妻である尼しれんに譲られたが、興国五年二月十三日（1344）の尼しれん譲状により、南部信政に嫁いだ長女加伊寿御前の子信光・政光兄弟に田舎郡冬井郷、日野間郷と共に譲っている。これにより野尻郷は根城南部氏の支配することとなり、青森県内は西側の津軽安藤氏、東側の根城南部氏によって支配されることになった。正平十五年六月五日（1360）には北畠顯信に

より南部雅楽助（加伊寿御前の子である南部信光か政光と考えられる）に津軽田舎郡冬井郷、日野間郷と共に野尻郷が改めて安堵されたとしている。文明八年（1476）には野尻館主と伝えられる南部雅楽頭信忠（南部信光・政光兄弟の末裔と考えられる）が家臣三代理右衛門に殺されたとされているが、これを当時、勢力を増していた三戸南部氏による領地略奪と捉える説もあり、詳細は不明である。明応七年（1498）になると野尻郷には三戸南部氏から津軽支配のために任命された堤氏が横内城を築いたとされており、このころ野尻郷は三戸南部氏に伝領されたと考えられる。天正十八年（1590）に大浦為信の油川城攻略により4代弾正左衛門が開城し、降服したとされ、その後、為信によって城番十人衆が置かれたとされている（青森市 2011）。本遺跡とこれら史料は必ずしも一致するものではないが、近隣の工藤氏関連と伝えられる五輪塔2基や四ツ石の地名の由来とされる明石神社といった野尻郷と関わる史料の存在から、本遺跡と関連する可能性も考えられる。



第5図 周辺の遺跡

0 1/25,000 1,000m

第1表 周辺の遺跡

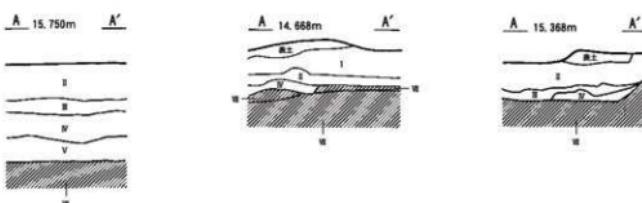
| 番号 | 台帳番号 | 遺跡名 | 所在地 | 種別 | 時代 | 文献 |
|----|---------|------------|-------------|-----|----------------|--|
| 1 | 201-173 | 野尻熊遺跡 | 青森市大字野尻字野田 | 集落跡 | 中世 | |
| 2 | 201-283 | 野尻野田遺跡 | 青森市大字野尻字野田 | 散布地 | 平安 | |
| 3 | 201-292 | 大矢野田遺跡 | 青森市大字大矢字野田 | 集落跡 | 縄文(早・前・中・後)・平安 | 青森市教育委員会2000、2002 |
| 4 | 201-236 | 大矢字里見(1)遺跡 | 青森市大字大矢字里見 | 散布地 | 縄文 | |
| 5 | 201-215 | 四ツ石(3)遺跡 | 青森市大字四ツ石字里見 | 散布地 | 縄文 | |
| 6 | 201-174 | 横内城跡 | 青森市大字横内字鬼井 | 城館跡 | 縄文・奈良・平安・中世 | 青森市教育委員会1987 |
| 7 | 201-050 | 阿部野(1)遺跡 | 青森市大字幸畑字阿部野 | 集落跡 | 縄文・奈良・平安 | 藤田1975、日本考古学協会1976、裏西1976、青森市教育委員会2009 |
| 8 | 201-219 | 阿部野(2)遺跡 | 青森市大字幸畑字阿部野 | 散布地 | 平安 | |
| 9 | 201-220 | 阿部野(3)遺跡 | 青森市大字幸畑字阿部野 | 散布地 | 平安 | |
| 10 | 201-048 | 駒込熊遺跡 | 青森市大字駒込字崩ノ沢 | 城館跡 | 平安・中世 | 青森市教育委員会2003 |
| 11 | 210-028 | 四ツ石(1)遺跡 | 青森市大字四ツ石字里見 | 集落跡 | 縄文(中・後)・平安 | 青森市教育委員会1965 |
| 12 | 210-194 | 四ツ石(2)遺跡 | 青森市大字四ツ石字里見 | 散布地 | 縄文(中・後) | |
| 13 | 210-293 | 横内(3)遺跡 | 青森市大字横内字鬼井 | 散布地 | 平安 | |
| 14 | 210-208 | 桜峠(2)遺跡 | 青森市大字横内字鬼井 | 集落跡 | 縄文(前・中・後) | 青森市教育委員会1995b |
| 15 | 210-284 | 横内猪沢(1)遺跡 | 青森市大字横内字猪沢 | 散布地 | 平安 | |
| 16 | 201-164 | 横内遺跡 | 青森市大字合子字山崎 | 集落跡 | 縄文(早・前) | 青森市教育委員会1995a |
| 17 | 201-206 | 横内(2)遺跡 | 青森市大字合子字山崎 | 集落跡 | 縄文(前・中)・平安 | |
| 18 | 201-261 | 合子沢松森(1)遺跡 | 青森市大字合子沢松森 | 散布地 | 平安 | |
| 19 | 201-262 | 合子沢松森(2)遺跡 | 青森市大字合子沢松森 | 集落跡 | 縄文・平安 | 青森市教育委員会2007 |
| 20 | 201-418 | 四ツ石(4)遺跡 | 青森市大字四ツ石字里見 | 散布地 | 縄文(中) | |

第3節 遺跡の層序

本遺跡の層序は調査区東壁・北壁で観察し、以下の7層に分層できる。調査区周辺は主に神社や林として利用されており、上層に一部搅乱が見られたものの、概ねプライマリーな堆積を呈していた。第I・II層は表土で、実際の構造は第III～IV層と考えられる。本遺跡からは、B-Tmを層状に検出した住居跡(S I-02)を検出しているが、層序からは確認することができなかった。

| | | | |
|-------|---------|--------|------------------------------|
| 第I層 | 10YR2/1 | 黒色土 | ローム粒微量 |
| 第II層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | ローム粒少量、炭化物微量、焼土粒微量 |
| 第III層 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | ローム粒中量、ロームブロック中量 |
| 第IV層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 黄褐色土との混合土、ローム粒中量、炭化粒微量、焼土粒微量 |
| 第V層 | 10YR3/2 | 黒色土 | ローム粒少量 |
| 第VI層 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 漸移層 |
| 第VII層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 地山層 |

(説明 政健)



第6図 基本層序

第III章 西郭の調査

第1節 検出遺構と出土遺物

1. 積穴住居跡

S I -01 (第7・8図)

E -7・E -8・E -9、F -8・F -9・F -10、G -7・G -8・G -9・G -10、H -9に位置している。平面は、方形を呈し、南東側に張出部をもつ。規模は740×736×60cm、床面積は54.46m²を測る。S I -13、S K -02、S K -03、S K -08、S K -09、S N -01、S P -01、S P -67、S P -68、S P -74、S P -149、S P -150、S P -164、S P -166と重複しており、新旧関係はS K -02、S P -01、S P -149、S P -150、S P -166>S I -01>S I -13、S K -03である。なお、S K -08、S K -09、S N -01、S P -67、S P -68、S P -74との新旧関係は不明である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は断続的ではあるが、張出部を除いて全周する。床面は住居中央部付近でやや起伏がある。土坑は11基検出した。S K -1: 152×144×44cm、S K -2: 284×232×110cm、S K -3: 290×282×58cm、S K -4: 98×92×20cm、S K -5: 100×98×76cm、S K -6: 178×98×82cm、S K -7: 122×122×112cm、S K -8: 90×50×40cm、S K -9: 84×80×44cm、S K -10: 270×126×110cm、S K -11: 66×62×36cmを測る。本遺構では、方形を呈する土坑（S K -1、S K -2、S K -5、S K -6、S K -8、S K -10）、円形を呈する土坑（S K -3、S K -4、S K -7、S K -9、S K -11）があり、用途等の違いがあると考えられる。ピットは22基検出した。Pit 1: 38×18×16cm、Pit 2: 22×20×24cm、Pit 3: 46×26×48cm、Pit 4: 30×20×36cm、Pit 5: 28×26×18cm、Pit 6: 52×32×12cm、Pit 7: 56×42×22cm、Pit 8: 28×26×20cm、Pit 9: 56×46×28cm、Pit 10: 50×42×34cm、Pit 11: 54×40×16cm、Pit 12: 38×30×9cm、Pit 13: 30×26×28cm、Pit 14: 24×22×16cm、Pit 15: 44×34×18cm、Pit 16: 46×34×28cm、Pit 17: 44×42×18cm、Pit 18: 34×24×44cm、Pit 19: 62×50×66cm、Pit 20: 48×46×56cm、Pit 21: 50×44×36cm、Pit 22: 68×58×34cmを測る。22基のピットのうち、柱穴と考えられるのはPit 3、6、10、18、20である。カマドは南東壁より1基検出した。主軸はN-148°-Eで、構造は半地下式を呈し、袖部幅116cm、煙道長58cmを測る。火床面は不整形を呈し、82×63cmを測り、火床面の被熱の深さは6cmである。火床面下の土層は明黄褐色の11層と黒色土の12層があり、堀方の埋土と考えられる。煙道は住居壁部分で段を有し、そこからほぼ平坦に立ち上がる。カマド土層は、7層が天井崩落粘土と考えられる。付属施設としては、張出部があり、用途は不明である。堆積土は24層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積しており、中層から下層にかけてローム粒やロームブロック等が多量に混入しており、埋め戻されたような状況を呈しており、人為堆積と考えられる。遺物は土師器が、壺7点、甕30点、鍋3点、須恵器は壺2点、鉢1点、甕3点（第20～23図1～47）、剥片石器3点（第34図1、3、5）、礫石器2点（第35図6・7）、砥石2点（第35図10、14）、土製品3点（第35図1～3）、鐵滓2点（第38図2・3）、羽口2点（第38図4・5）、鐵製品4点（第37図1～4）、金床石（第38図1）が出土した。遺物は堆積土、住居内S K、カマドを中心に出土している。壺は内面が黒色処理されたもの（第20図2・4）とそうでないもの（第20図1、3、5～7）がある。全体に器形は底部から丸みを帯びて立ち上がっており、底径が小さくなっている。7は系切の上に放射状にヘラの痕跡と見られる部分がある。甕は口縁部が短くなっているものが多い。ロクロによって成形されたもの（19、23、26）、そうでないもの（10～18、20～22、24・25、27～38）があり、ロクロ成形のものが圧倒的に少ない。26はロクロ成形で胸部には刻書が認められる。器形は胸部が

丸みを帯びるものが多い。8・9は小甕と考えられる。31～37は底部の資料で、31は木葉痕、32・33、35・36は砂底である。40～42、45・46は須恵器で、46の頸部には刻書が認められる。47は甕の胴部へ底部の資料で、底部付近には焼台痕が認められる。第35図2・3は焼成粘土塊と考えられ、ナデによって調整されている。第35図10、14は砥石である。10は砥面のほか、側面に溝状の砥面が認められる。また、全面に鉄が付着しており、鍛冶などの作業で使われたと考えられる。14も砥石で、全面に砥面が認められるほか、一部に鉄が付着している。第37図1～4は鉄製品で、1は鍬先、2・3は棒状の鉄製品、4は棒状の不明鉄製品である。2は先端が先細りであることから、釘の可能性も考えられる。4は先端が薄く延ばされており、何かを搔くための工具とも考えられる。第35図1は金床石、2・3は鉄滓で、4・5は羽口である。金床石は2面にわたって敲打痕と鉄滓の付着が認められ、2回にわたって使用されたと考えられる。鉄滓は両者ともに楔形鍛治済と考えられる。48～56は早期～後期までの繩文土器、第34図1、3、5は剥片石器、第35図6・7は磨製石斧、くぼみ石、第35図1はミニチュア土器、粘土塊で、流れ込みと考えられる資料である。本遺構の帰属時期は出土遺物から10世紀前葉～中葉と考えられる。

S I -02 (第9図)

C-7・C-8・D-7・D-8グリッドに位置している。重複により全容は不明であるが、平面は方形を呈していると考えられ、残存する部分の規模は、470×480×32cm、床面積は22.56m²を測る。S I -10、S I -11と重複しており、新旧関係はS I -11>S I -10>S I -02である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は南隅でやや途切れるが、残存部分ではほぼ全周している。床はほぼ平坦で、住居南隅付近の床面にB-Tm火山灰を確認できたほか、南東側では半径30～70cmの焼土範囲が4基検出された。土坑は2基検出した。SK-1:96×78×30cm、SK-2:122×76×40cmを測る。ピットは8基検出した。Pit 1:34×32×14cm、Pit 2:40×30×30cm、Pit 3:38×18×42cm、Pit 4:22×20×28cm、Pit 5:18×14×8cm、Pit 6:38×32×18cm、Pit 7:34×24×24cm、Pit 8:48×24×44cmを測る。このうち、柱穴と考えられるのは、Pit 3、Pit 4、Pit 8である。カマドは南東壁から1基検出した。主軸はN-156°-Eで、構造は半地下式を呈し、袖部幅54cm、煙道長64cmを測る。火床面は円形を呈し、38×36cmを測り、被熱部分の深さは5cmである。火床面下の土層は黒褐色土の12層があり、堀方の埋土と考えられる。煙道はやや角度をもって立ち上がる。堆積土は9層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積しており、上層から中層はローム粒などが混入していることから、人為堆積と考えられる。遺物は土師器窯5点、鍋3点、須恵器坏2点、壺1点(第23～25図57～67)、磨石1点(第35図8)、土製支脚(第36図5・6)が出土した。遺物は堆積土と住居内土坑を中心に出土している。甕の口縁部付近の資料は口縁部が比較的長めのものが多く、胴部は丸みを帯びており、64は胴部下半に段が認められる。須恵器坏はロクロ成形による稜が顕著であり、甕は胴部の資料である。第35図8は磨石で、側面にスリが認められる。第36図5・6は土製支脚で両者ともに巻き上げによって成形されており、5はヘラナデ、6は指ナデ、ヘラケズリによって調整されている。本遺構の帰属時期は降下火山灰及び出土土器から9世紀前葉～10世紀前葉と考えられる。

S I -03 (第10図)

C-7・C-8・D-7・D-8グリッドに位置している。西側が調査区外にあるため、全容は不明であ

るが、平面は方形を呈していると考えられ、残存する部分の規模は $510 \times 326 \times 36\text{cm}$ 、床面積は 16.32m^2 を測る。S I -02、S I -10、S I -11と重複しており、新旧関係は S I -02 > S I -03 < S P -168 < S I -10 < S I -11である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は北隅で途切れるが、残存する部分ではほぼ全周する。床はほぼ平坦で、砂質の土である。土坑は6基検出した。S K -1 : $100 \times 96 \times 76\text{cm}$ 、S K -2 : $76 \times 40 \times 36\text{cm}$ 、S K -3 : $106 \times 66 \times 72\text{cm}$ 、S K -4 : $138 \times 126 \times 38\text{cm}$ 、S K -5 : $86 \times 68 \times 32\text{cm}$ 、S K -6 : $70 \times 48 \times 22\text{cm}$ を測る。ピットは6基検出した。Pit 1 : $14 \times 11 \times 12\text{cm}$ 、Pit 2 : $58 \times 36 \times 18\text{cm}$ 、Pit 4 : $30 \times 24 \times 12\text{cm}$ 、Pit 5 : $24 \times 24 \times 14\text{cm}$ 、Pit 6 : $36 \times 32 \times 20\text{cm}$ を測る。このうち、柱穴と考えられるのは、Pit 3・4・5・6である。Pit 3・4の間は出入口の可能性が考えられる。本遺構からはカマドは検出できなかつたが、調査区外の部分に存在していた可能性が高いと考えられることから、住居跡と判断した。堆積土は13層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積しており、上層から中層にローム粒・炭化粒などが混入していることから、人為堆積と考えられる。遺物は土師器坏6点、甕7点、擦文土器1点、須恵器壺1点、甕1点、鉄製品1点（第37図5）が出土した（第24・25図68～83）。坏は6点のうち、3点（68、78、81）が黒色処理されている。器形は68～79が底部から、丸みを帯びて立ち上がっており、81は底部付近からやや直線的に立ち上がっている。80は器高が低く皿に近い資料でほぼ直線的に立ち上がる。甕は口縁部が短く、口縁部から胴部にかけてほぼ直線的なものが多い。73は口縁部を欠損しているが、頸部が大きく屈曲し、胴部は丸みを帯びている。76は底部の資料で上げ底状を呈している。77は擦文土器の口縁部～胴部の破片で、口縁部には横走沈線が5条施され、胴部外面はハケメ、内面にはミガキが施されている。82は須恵器壺の口縁部の資料、83は須恵器甕の胴部資料である。第37図5は釘と考えられる資料で、3本の釘が鋸びによってくつついている。本遺構の帰属時期は出土土器から10世紀前葉～10世紀後葉と考えられる。

S I -04（第11図）

B -4・B -5・C -4・C -5・D -4・D -5グリッドに位置している。西側が堀によって削平されているため、全容は不明だが、平面は方形を呈していると考えられ、規模は $570 \times 240 \times 48\text{cm}$ 、床面積は 13.68m^2 を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床はほぼ平坦である。床面にはカマド付近を中心に $30 \sim 80\text{cm}$ 程度の焼土範囲を確認できた。ピットは4基検出した。Pit 1 : $26 \times 26 \times 16\text{cm}$ 、Pit 2 : $28 \times 24 \times 20\text{cm}$ 、Pit 3 : $24 \times 24 \times 16\text{cm}$ 、Pit 4 : $34 \times 28 \times 16\text{cm}$ を測る。このうち柱穴と考えられるのは、Pit 1・2・4である。なお、ピットがカマド付近に集中していることから、カマド周辺とそれ以外の空間を画す間仕切りがあつた可能性が考えられる。カマドは南東壁より1基検出した。主軸はN-144°-Eで、構造は半地下式で袖部幅80cm、煙道長70cmを測る。火床面は概ね円形を呈し、 $46 \times 44\text{cm}$ を測り、被熱部分の厚さは8cmを測る。煙道は住居壁部分で段を有し、そこからほぼ平坦に立ち上がる。堆積土は7層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積しており、上層から下層にかけてローム粒が混入しており、人為堆積と考えられる。遺物は土師器坏2点、甕12点のほか流れ込みと考えられる繩文土器1点が出土した（第25・26図84～97、99）。遺物は堆積土を中心に出土している。土師器坏は2点のうち1点が黒色処理されている。器形は2点とも底部から口縁部付近まで直線的に立ち上がり、口縁部付近で微妙にくびれが認められる。甕は口縁部が短く、胴部が直線的なものがほとんどで、88・89以外には、86・87、90、92・93・94と比較的小型の資料が多い。92はロクロ成形されている資料である。底部の資料は95のように上げ底状のものや、砂底を呈するものがある。99は流れ込みと考えられる繩文時代後期の資料で横走沈線と短沈線が施されている。本遺構の帰属時期は10世紀前葉～10世紀中葉と考えられる。

S I - 05 (第12・13図)

G-7・G-8・G-9・H-7・H-8・H-9・I-7・I-8・I-9グリッドに位置している。平面は方形を呈しており、規模は470×450×36cm、床面積は21.15m²を測る。S I - 12・S K - 04・S P - 142と重複しており、新旧関係はS P - 142 > S I - 05 > S I - 12・S K - 04である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床はほぼ平坦である。床面にはカマド付近に80~120cm程度の炭化粒を含んだ焼土範囲を確認できた。ピットは8基検出した。Pit 1 : 22×16×18cm、Pit 2 : 34×22×12cm、Pit 3 : 28×24×20cm、Pit 4 : 44×28×8cm、Pit 5 : 40×34×22cm、Pit 6 : 32×24×76cm、Pit 7 : 32×30×16cm、Pit 8 : 20×20×28cmを測る。このうち柱穴と考えられるのはPit 2・6・8である。カマドは南東壁より1基検出した。主軸はN-153°-E、構造は半地下式で袖部幅84cm、煙道長52cmを測る。火床面は不整形を呈し、54×38cmを測り、被熱部分の厚さは4cmを測る。煙道は火床面からやや起伏をもって立ち上がる。堆積土は13層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積しており、上層は全体に混入物が多量に認められることから、人為堆積と考えられ、中～下層は混入物が少なく、自然堆積と考えられる。なお、中層にはB-Tm火山灰が粒状に混入しているが、二次堆積の可能性が考えられる。遺物は土師器壺8点、甕20点、把手付土器1点、擦文土器1点、須恵器壺1点、壺4点、粘土塊1点、鉄滓6点、縄文土器1点、剥片石器1点が出土した（第26~28図98、100~133、第34図4、第35図4、第38図7~10、第39図11・12）。遺物は堆積土を中心に出土している。土師器壺は8点のうち、100・101の2点が黒色処理されている。103・104は内面一部にススが付着しており、灯明具として転用されたものと考えられる。器形は丸みを帯びて立ち上がるものの（100~102、104）と垂直に立ち上がるものの（103、105）があり、103・104は口唇がやや外反する。甕は口縁部が短いものが多く、胴部は丸みを帯びるものが多い。113はロクロにより成形されており、外面にはススが付着している。119・124は底部の資料は、木葉痕が施されている。126は把手付土器の胴部～底部付近の資料で、ヘラケズリによって調整されており、把手がはずれたものである。127は土師器甕と考えられる資料で、外面はヘラケズリ、内面は細めの工具によつてヘラケズリが施されている。98は擦文土器甕で口唇には刻目、胴部には2~3条単位で菱形文、内面はヘラナデが施されている。須恵器壺は4点出土しており、128は小型の壺で、頸部に刻書が施されている。129、131は128に比べるとやや大型の壺で、129の肩部に刻書が施されている。第35図4は粘土塊で、ナデによって調整されている。第38・39図7~12は鉄滓で、全て椀形鍛冶滓と考えられる。第28図133は流れ込みと考えられる縄文土器で、沈線によって文様が施されている。本遺構の帰属時期は出土遺物などから10世紀後葉と考えられる。

2. 積穴遺構

S I - 06 (第14図)

H-6・H-7・H-8・I-6・I-7・I-8・J-6・J-7・J-8グリッドに位置している。平面は一部調査区外にあるため、全容は不明であるが方形を呈していると考えられ、規模は870×540×46cm、床面積は46m²を測る。S I - 07・S K - 06と重複しており、新旧関係はS I - 06 < S I - 07・S K - 06である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床はやや起伏が認められる。ピットは5基検出した。Pit 1 : 24×22×18cm、Pit 2 : 68×32×28cm、Pit 3 : 30×28×8cm、Pit 4 : 26×26×9cm、Pit 5 : 84×28×52cmを測る。カマドは検出できなかったが、住居南東側より185×100cmの焼土範囲を検出した。堆積土は44層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積しており、全体に混入物が混入しており、人為堆積と考えられる。遺物は土師器皿1点、壺8点、甕11点、製塙土器3点、須恵器壺1点、甕1点、砥石1点、土製品1点、鉄製品1点、鉄滓

4点のほか、流れ込みと考えられる縄文土器5点が出土した（第28図134～第29図163、第35図13、第36図7、第37図6、第39図13～16）。遺物は堆積土を中心に出土している。134は台付の皿でロクロナデによって成形されている。环は8点のうち、135～137、139の4点が黒色処理されている。135は内外面ともに黒色処理されている。器形は丸みを帯びて立ち上がるものの（137・138、140）、直線的に立ち上がるものの（135・136、139、141）がある。135～138は口縁部がつまみあげられたような形状を呈している。136は底部を欠損しているため、全容は不明であるが、器高が高いと考えられる。甕は口縁部が長いもの（143・144、152）と短いもの（145～151）がある。143、145、147は内面にススが付着しており、153は外面上にススが付着している。154～156は製塙土器の胴部と底部の資料である。胴部の資料はナデで調整されており、154の外面には指頭圧痕が認められる。157は須恵器壺と考えられる資料で、ロクロナデ、ヘラケズリによって調整されている。158はタタキが認められる。第35図13は砥石で、砥面は2面あり、一部には鉄が付着している。また、敲打痕が一部に認められる。第39図13～16は鉄滓で、13は炉壁、14・15は椀形鍛冶滓、16は炉壁溶解物である。160～163は流れ込みと考えられる縄文土器で、早期～後期の資料である。本遺構の帰属時期は10世紀前葉～中葉と考えられる。

S I - 07 (第15図)

I - 7・I - 8・J - 7・J - 8グリッドに位置している。平面は方形を呈しており、規模は484×452×30cm、床面積は21.87m²を測る。S I - 06と重複しており、新旧関係はS I - 07 > S I - 06である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床はほぼ平坦である。ピットは1基検出した。Pit 1 : 30×30×20cmを測る。カマドは検出できなかつたが、住居西壁より36×38cmの焼土範囲を検出した。堆積土は7層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積しており、全体にローム粒等が混入しており、人為堆積と考えられる。遺物は土師器環4点、甕5点、把手付土器1点、須恵器壺1点、甕2点、鉄滓2点が出土した（第29図164～176、第39図17、19）。164は須恵器壺の口縁部から胴部の資料で、内外面には火捺痕が認められる。器形は底部から丸みを帯びて立ち上がる考え方られ、口唇部はややつまみあげられた形状である。168は环の底部の資料で、高台付の环である。甕はすべて口縁部が短い資料である。器形は胴部が丸みを帯びる形状であると考えられる。170は甕の口縁部～胴部の資料で内面に一部ススが付着している。174は把手付土器の把手の部分の資料で、ヘラナデ・ヘラケズリによって調整されている。175・176は須恵器甕の胴部資料で、外面はタタキ、内面はナデによって調整されている。第39図17、19は鉄滓で、17は椀形鍛冶滓、19は製錬のもので、流出孔溝である。本遺構の帰属時期は出土遺物と新旧関係から10世紀中葉～後葉と考えられる。

S I - 08 (第16図)

H - 6・H - 7・I - 6・I - 7・J - 6・J - 7グリッドに位置している。平面は方形を呈していると考えられ、規模は872×446×48cm、床面積は38.89m²を測る。S I - 06と重複しており、新旧関係はS I - 08 < S I - 06である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は西壁と南壁の一部で検出した。床はほぼ平坦である。土坑は7基検出した。S K - 1 : 72×68×32cm、S K - 2 : 94×88×20cm、S K - 3 : 106×90×28cm、S K - 4 : 54×48×28cm、S K - 5 : 108×102×42cm、S K - 6 : 70×46×20cm、S K - 7 : 66×50×18cmを測る。ピットは10基検出した。Pit 1 : 28×18×12cm、Pit 2 : 40×32×12cm、Pit 3 : 38×24×12cm、Pit 4 : 45×24×16cm、Pit 5 : 24×15×20cm、Pit 6 : 44×32×8cm、Pit 7 : 32×32×54cm、Pit 8 : 44×38×24cm、Pit 9 : 18×18×18cm、Pit 10 : 40×36×32cmを測る。このうち、柱穴と考えられるピットはPit 1・4・7である。

カマドは検出できなかったが、南壁で75×40cm、140×33cmの焼土範囲を検出した。堆積土は24層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積しており、全体にロームブロック等が混入しており、人為堆積と考えられる。遺物は土師器壺3点、甕23点、把手付土器2点、製塙土器1点、須恵器壺1点、甕1点、砥石1点、鉄製品4点、鉄滓1点のほか、流れ込みと考えられる縄文土器が4点出土した（第30図177～第31図211、第35図11、15・16、第37図8～11、第39図18）。遺物は堆積土を中心に出土した。壺は3点のうち1点が黒色処理された土器である。器形は178・179が底部から丸みをもって立ち上がり、177はやや直線的に立ち上がる。甕は口縁部が残存するものについては口縁部が短いものが多く、胴部付近が丸みを帯びるもの（181～183、187・188、191）、直線的に立ち上がるもの（180、184～186、189・190）がある。181、184、185は外外面にスグが付着している。底部の資料では192～194、199～201がヘラナデによって調整され、196は網代痕が認められる。195は擦文土器の底部付近の資料で、ハケメが施されている。205は甕の胴部資料でタキが認められる。206は須恵器壺の口縁部の資料で、ロクロナデによって成形され、器形はやや丸みを帯びる形状と考えられる。第35図11、15は砥石の破片と考えられる資料である。11は柱状節理の石材の表面を砥石としている。15は砥石の破片と考えられる資料である。第37図8は紡錘車の紡輪と軸の一部、9・10は棒状鉄製品、11は筒状の鉄製品である。11は薄板状の鉄を筒状にしたもので、本来は断面円形のものであった可能性が考えられ、詳しい用途は不明であるが、締金具あるいは錫杖状鉄製品の鉄鐸の可能性も考えられる。縄文土器は4点出土し、208は早期の物見台式土器、209は前期と考えられる破片、210・211は後期と考えられる資料である。第39図18は鍛冶滓である。本遺構の帰属時期は出土遺物から10世紀前葉～中葉と考えられる。

S I - 09 (第17図)

E - 3・F - 3・E - 4・F - 4・E - 5・F - 5 グリッドに位置している。平面は方形を呈していると考えられ、規模は602×554×44cm、床面積は33.35m²を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床は西側から東側にかけて下っている。土坑は3基検出した。SK-1：110×94×28cm、SK-2：196×100×34cm、SK-3：88×78×60cmを測る。Pitは10基検出した。Pit 1：28×28×20cm、Pit 2：38×28×38cm、Pit 3：30×24×10cm、Pit 4：50×30×106cm、Pit 5：24×18×12cm、Pit 6：26×26×20cm、Pit 7：20×20×12cm、Pit 8：24×20×12cm、Pit 9：36×28×20cm、Pit 10：48×42×20cmを測る。このうち、柱穴と考えられるのは、Pit 1・4・9である。本遺構からはカマドは確認できなかったが、堀によって削られた北側に存在していた可能性も考えられる。堆積土は6層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積している。全体的に混入物が少ないと考えられることから、自然堆積と考えられる。遺物は土師器壺7点、甕13点、把手付土器1点、擦文土器1点、須恵器壺1点、鉢1点、甕1点、鉄製品1点が出土した（第31図212～第33図236、第37図12）。遺物は堆積土を中心に出土している。土師器壺は7点のうち、2点が黒色処理されている。器形は丸みを帯びて立ち上がるものが多く、直線的に立ち上がるものは214のみである。213・214の口縁部は微妙にくびれが認められる。甕は口縁部が短いものが多く、胴部が丸みを帯びるもの（219、221・222、224、230）、直線的なもの（220、223、226・227）がある。227は比較的小型と考えられる甕の胴部～底部の破片で、直線的に立ち上がっている。225は底部付近の資料で、底部はヘラナデが施されている。232は把手付土器の把手部分の資料で、ヘラケズリによって調整されている。233は擦文土器の小型の甕で、口縁部付近から沈線によって格子文が施されている。234は須恵器壺の胴部の資料で、ロクロナデにより成形され、ヘラケズリによって調整されている。235は須恵器鉢の口縁部破片でロクロナデによって調整されている。第37図12は棒状鉄製品で、くの字状を呈し、やや先細りの形状を呈する。本遺構の帰属時期は10世紀中葉～10世紀後葉と考えられる。

S I - 10 (第18図)

B - 6・B - 7・C - 6・C - 7・D - 6・D - 7 グリッドに位置している。平面は方形を呈していると考えられ、規模は $468 \times 172 \times 46$ cm、床面積は7.82m²を測る。S I - 03・S I - 11と重複しており、新旧関係は、S I - 11 > S I - 10 > S I - 03である。壁はやや丸みをもって立ち上がり、床はやや起伏をもつ。堆積土は5層に分層した。黒褐色土を主体とした土層が堆積している。全体的に混入物が少なく、自然堆積と考えられる。遺物は流れ込みと考えられる縄文土器1点、土製品1点が出土した（第33図237、第36図9）。237は流れ込みと考えられる縄文時代後期の土器で、R L施文後、沈線が施されている。第36図9は不整形を呈する粘土塊で、表面と側面には沈線が1条ずつ施されている。出土した遺物は流れ込みと考えられる縄文土器と土製品であるが、S I - 03・S I - 11との新旧関係から、本遺構の帰属時期は平安時代以降と考えられる。遺物は出土しなかったため、帰属時期の詳細は不明であるが、S I - 03・S I - 11との新旧関係を考慮すると10世紀後葉ごろと考えられる。

S I - 11 (第18図)

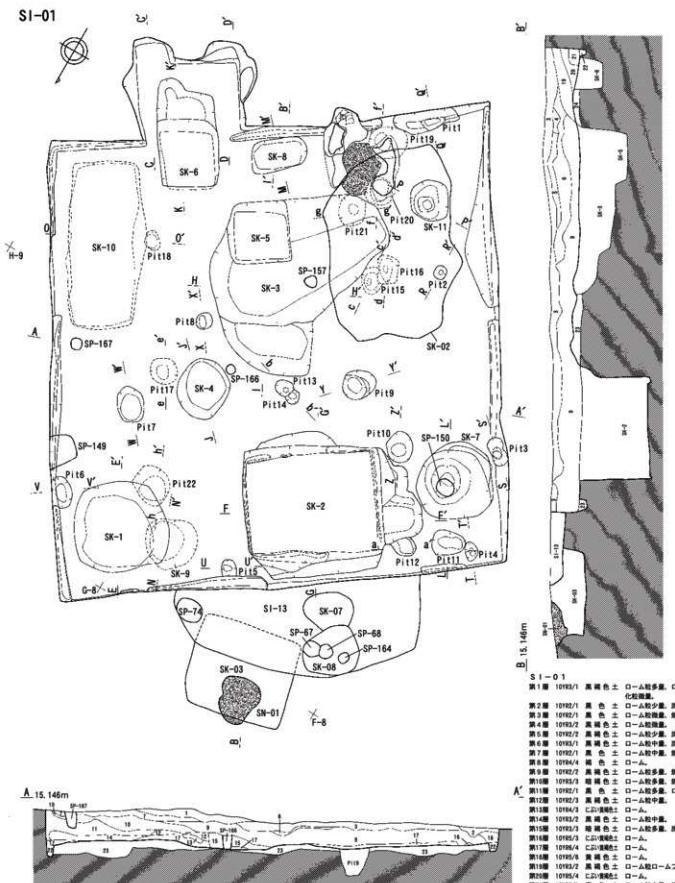
C - 7・C - 8 グリッドに位置している。平面は不整形を呈していると考えられ、規模は $460 \times 168 \times 44$ cm、床面積は7.72m²を測る。S I - 03・S I - 10と重複しており、新旧関係はS I - 11 > S I - 03 < S I - 10である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床はやや起伏をもつ。ピットは2基検出した。Pit 1 : $34 \times 26 \times 16$ cm, Pit 2 : $28 \times 26 \times 36$ cmを測る。このうち、柱穴と考えられるのはPit 2である。堆積土は7層に分層した。暗褐色土を主体とする土層が堆積しており、全体に混入物が少なく、自然堆積と考えられる。遺物は土師器壺3点、甕5点、擦文土器1点が出土した（第33図238～246）。壺は3点のうち1点が黒色処理された土器である。器形は238・239については、丸みを帯びて立ち上がっていると考えられる。甕については口縁部が残存するものについては短く、底部の資料は242、245のように丸みを帯びるものと241のように直線的なものがある。246は擦文土器の胴部下半の資料で、ハケメが施されている。本遺構の帰属時期は出土遺物から10世紀後葉と考えられる。

S I - 12 (第19図)

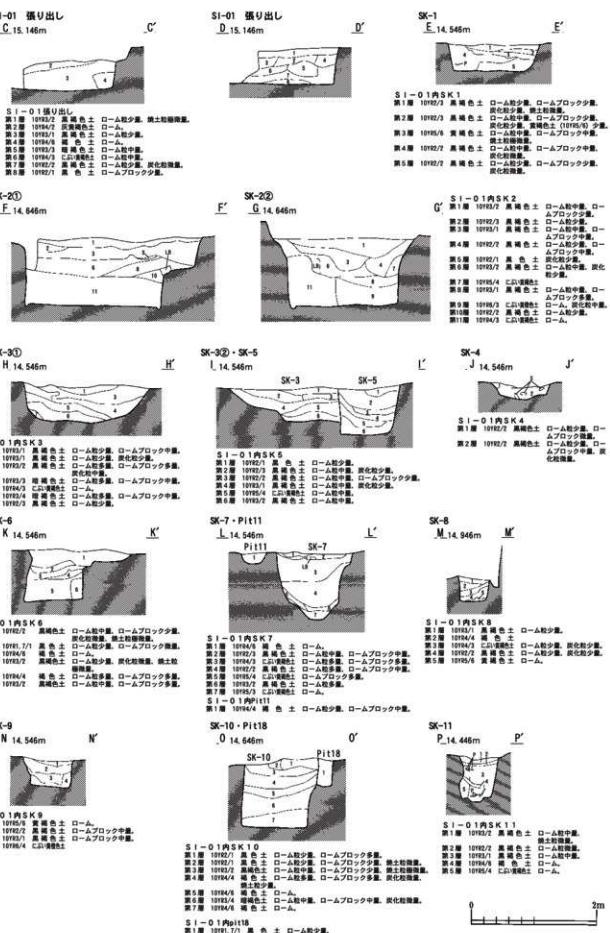
H - 7・H - 8・I - 7・I - 8 グリッドに位置している。平面は方形を呈していると考えられ、規模は $306 \times 142 \times 50$ cm、床面積は4.2m²を測る。S I - 05・S I - 07・S P - 147と重複しており、新旧関係はS I - 05・S I - 07・S P - 147 > S I - 12である。堆積土は7層に分層した。黒褐色土を主体とした土層が堆積している。全体にローム・炭化物等が混入しており、人為堆積と考えられる。遺物は擦文土器の胴部下半の資料が1点出土した（第34図247）。247は擦文土器胴部の破片で、ハケメが施されている。本遺構の帰属時期は出土遺物が少ないため、詳細は不明であるが、新旧関係から9世紀後葉から10世紀前葉と考えられる。

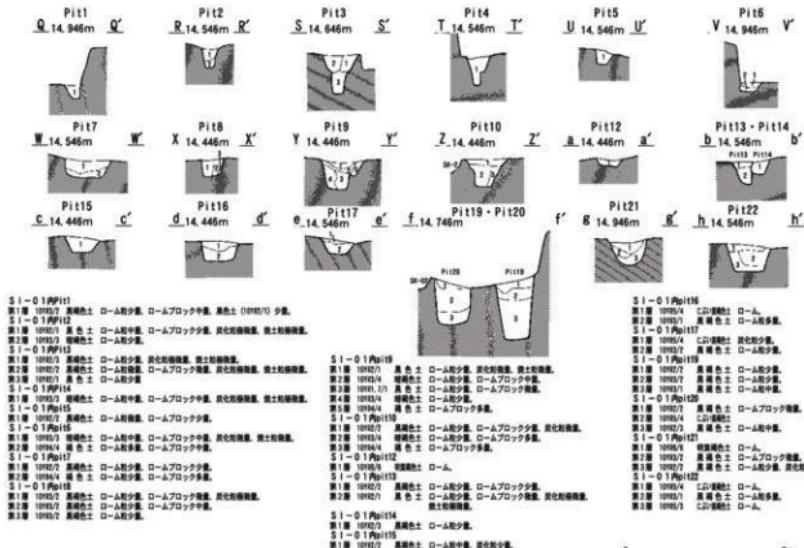
S I - 13 (第19図)

E - 8・F - 8 グリッドに位置している。平面は不整方形を呈していると考えられ、規模は $386 \times 148 \times 24$ cm、床面積は5.71m²を測る。S I - 01・S K - 03と重複しており、S I - 01・S K - 08・S K - 09・S N - 01・S P - 67・S P - 68・S P - 69・S P - 74 > S I - 13 < S K - 03である。堆積土は1層に分層した。黒褐色土が堆積しており、全体にローム等が多量に混入しており、人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかったため、帰属時期は不明である。

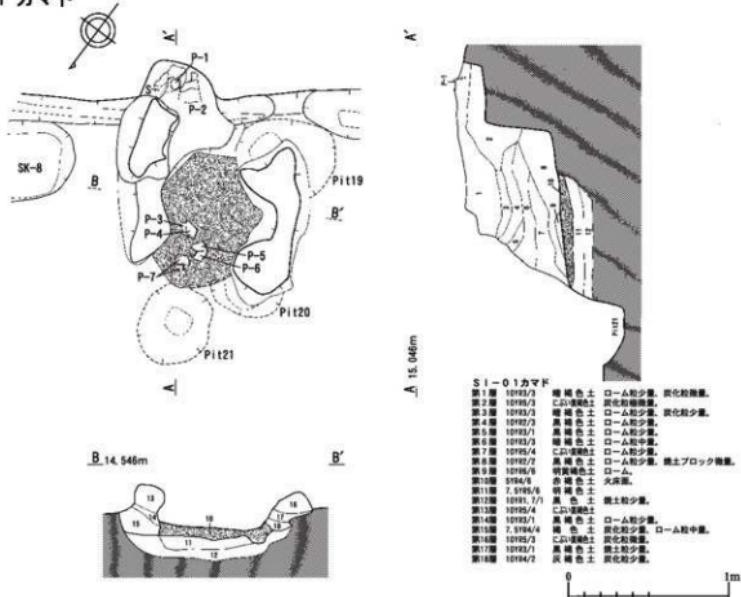


第7図 SI-01①



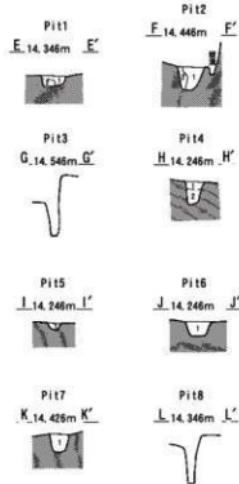
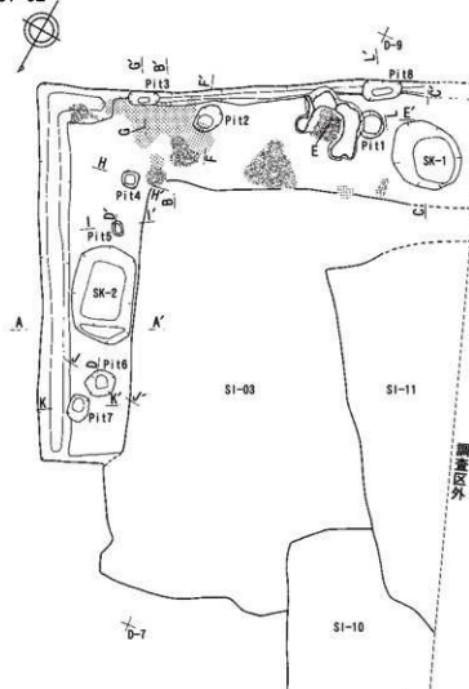


SI-0-1 カマド



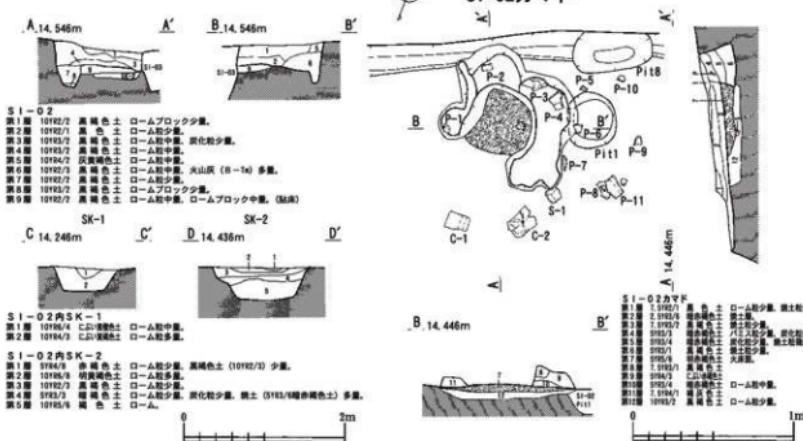
第8図 SI-01②

SI-02

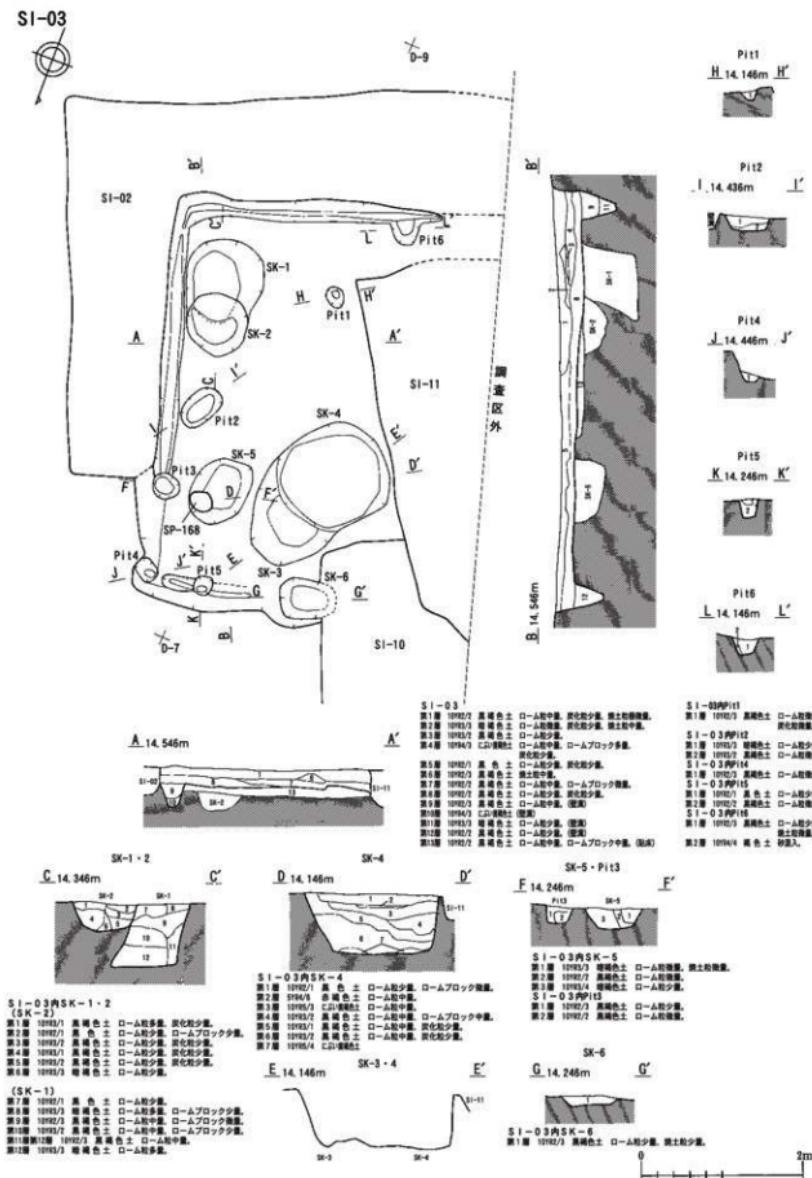


- SI-02 内Pit1**
第1層 10192/3 深褐色土 ローム粒中量、炭化物少量。
第2層 10192/3 深褐色土 ローム粒微量。
- SI-02 RP12**
第1層 10192/4 暗褐色土 ローム粒少量、
第2層 10192/3 暗褐色土 ローム粒微量。
- SI-02 RP14**
第1層 10192/4 暗褐色土 ローム粒少量、
第2層 10192/4 暗褐色土 ローム粒微量。
- SI-02 RP15**
第1層 10192/1 暗褐色土 ローム粒少量。
- SI-02 RP16**
第1層 10192/2 暗褐色土 ローム粒微量、ロームブロック微量、
第2層 10192/1 暗褐色土 ローム粒少量。
- SI-02 RP17**
第1層 10192/1 暗褐色土 ローム粒少量。

SI-02カマド

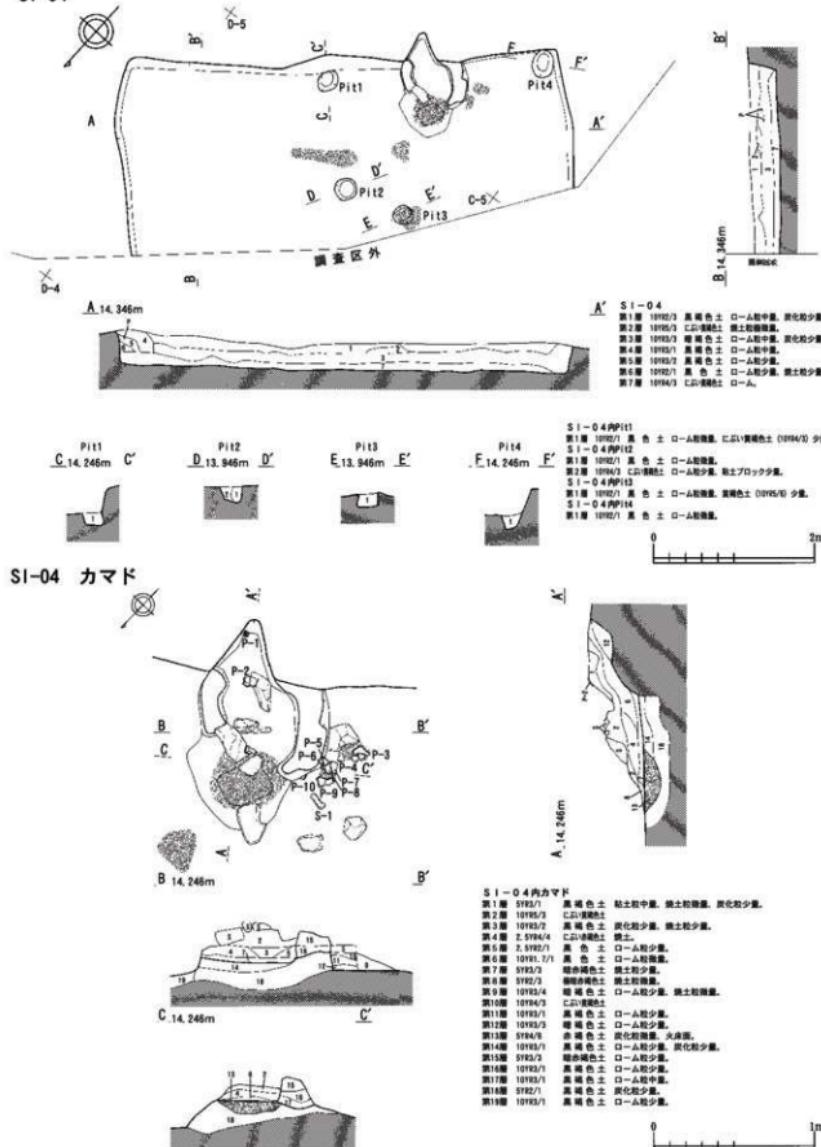


第9図 SI-02

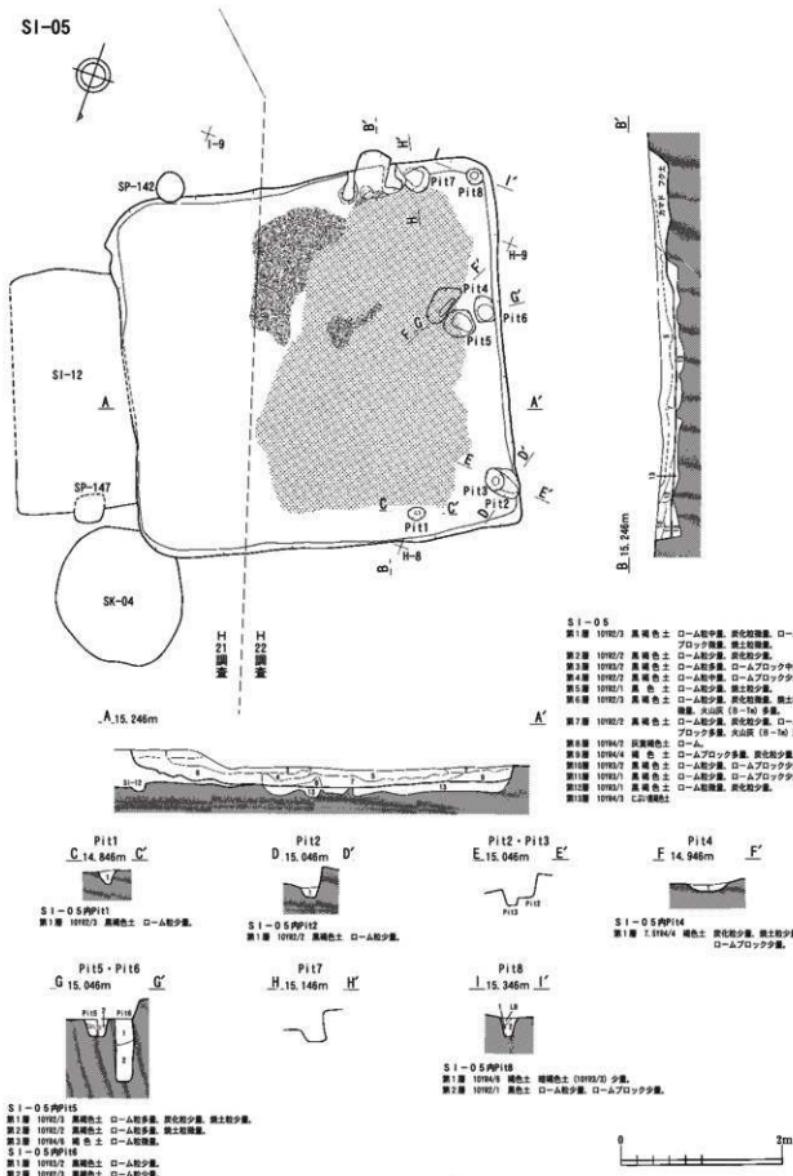


第10図 SI-03

SI-04

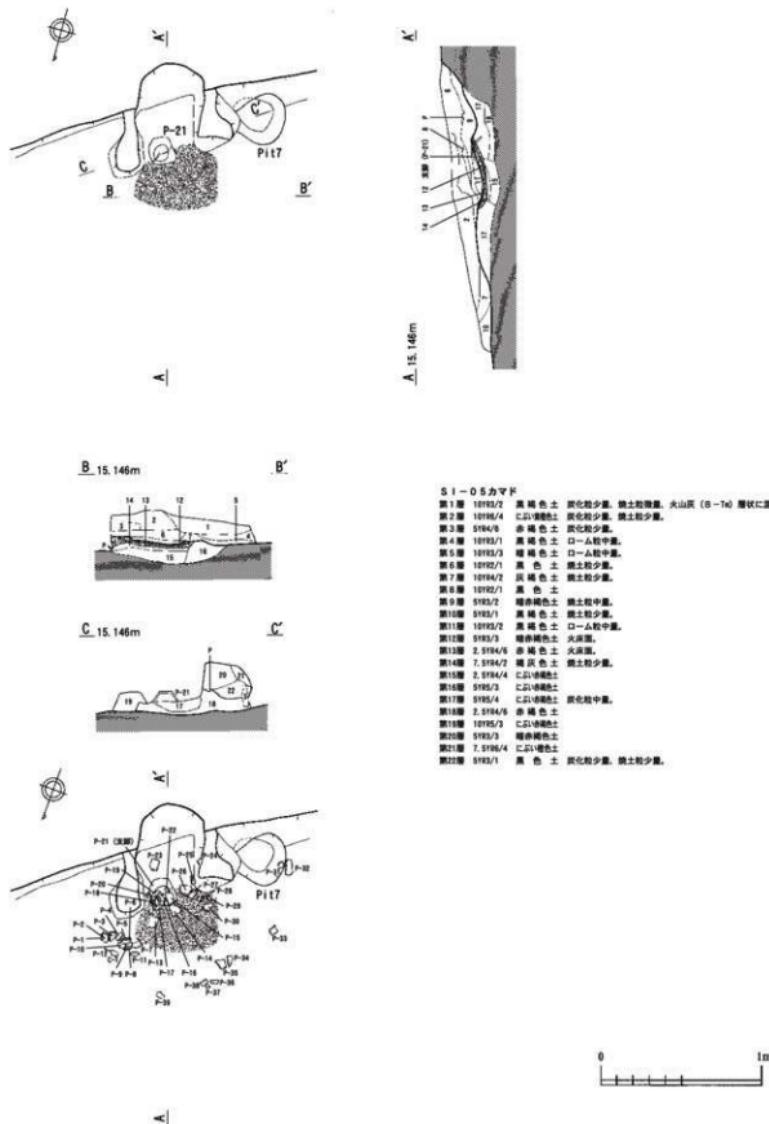


第11図 SI-04

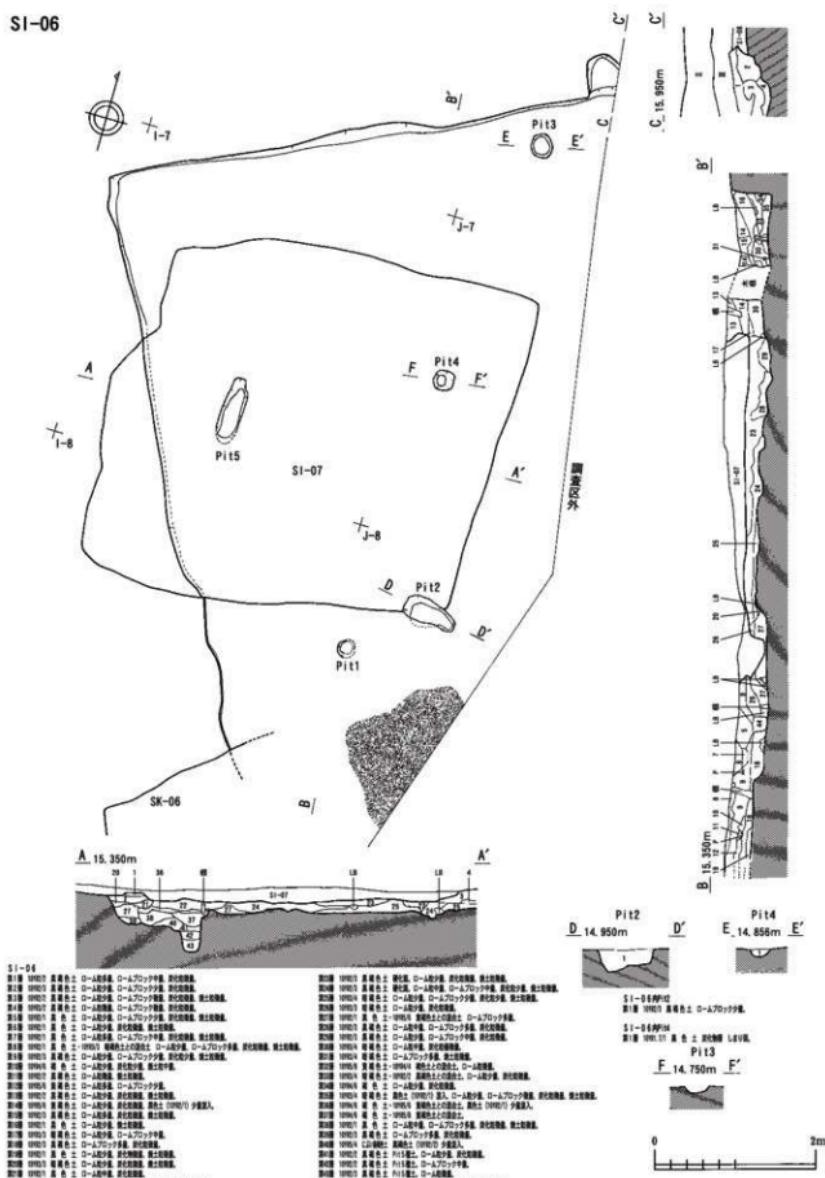


第12図 SI-05①

SI-05カマド

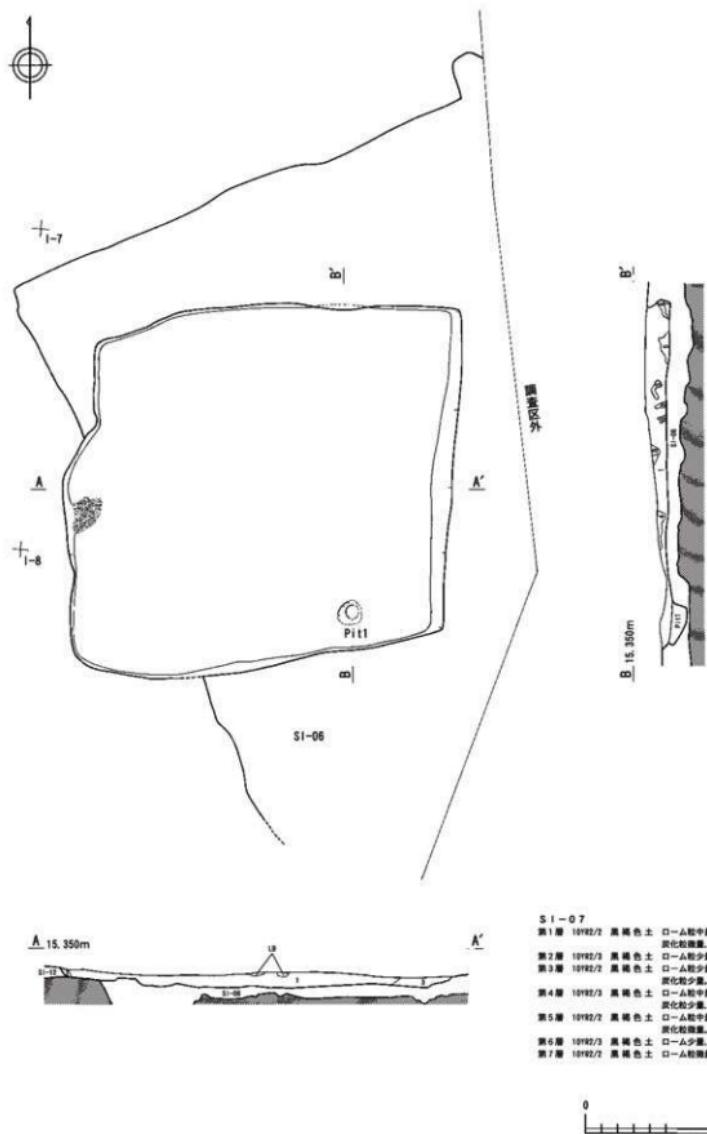


SI-06

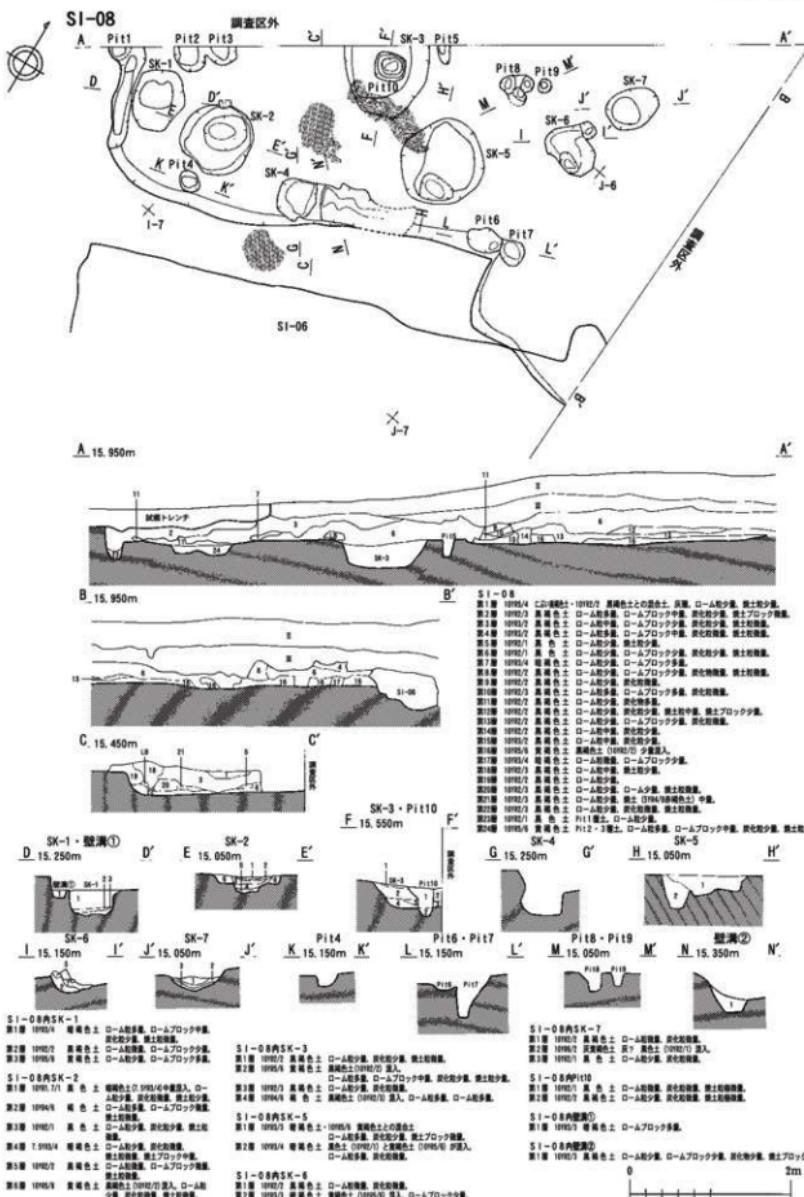


第14図 SI-06

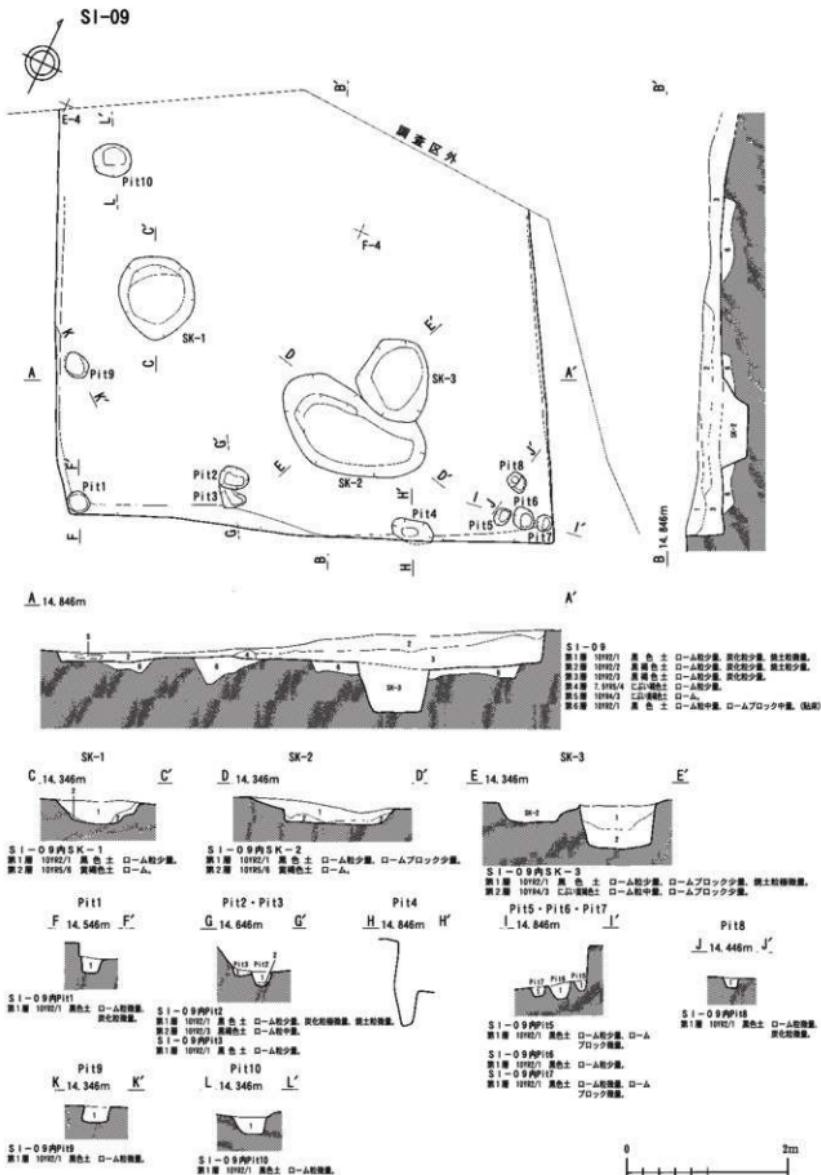
SI-07



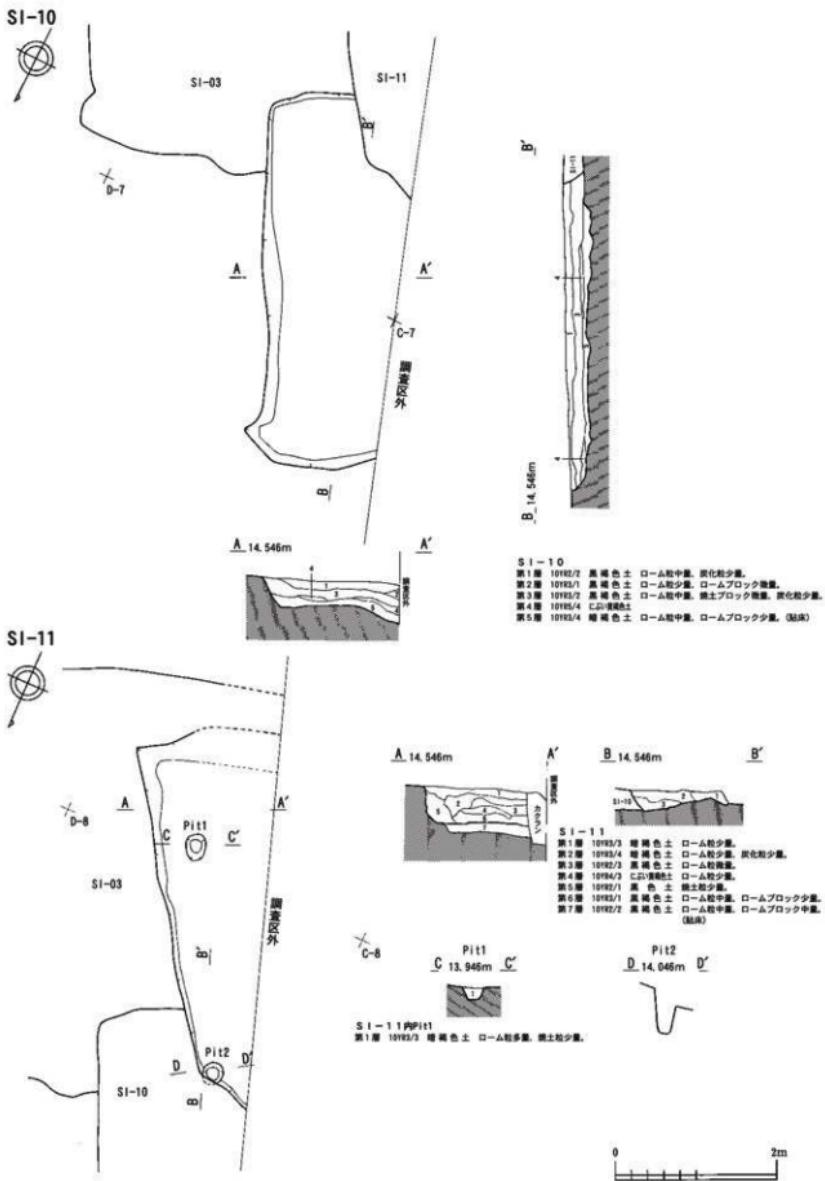
第15図 SI-07



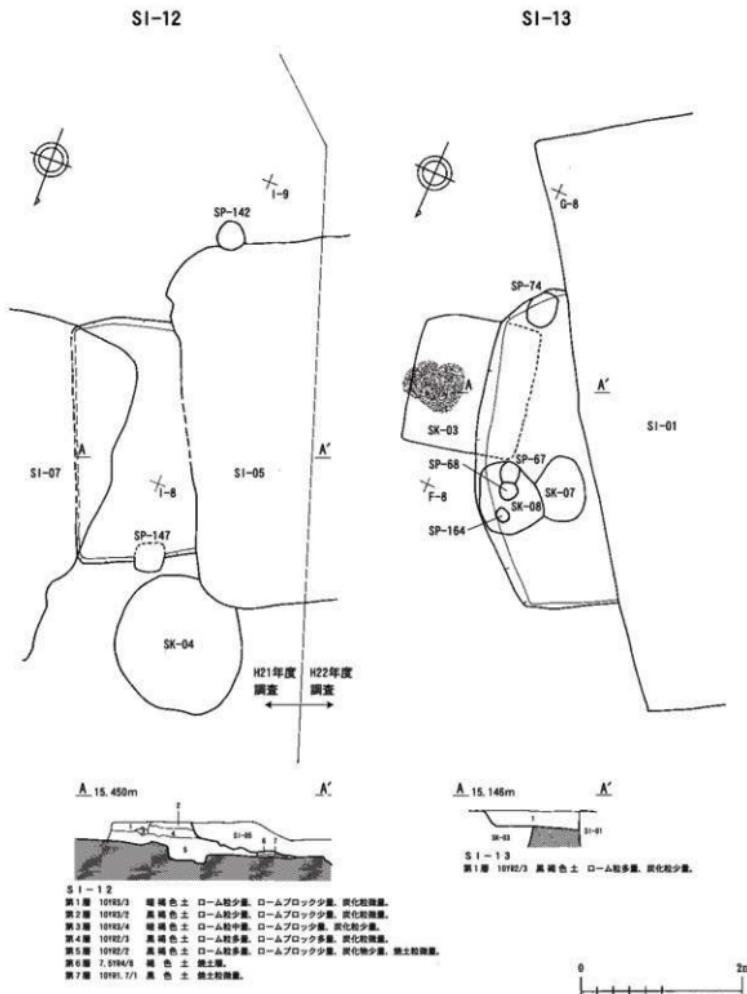
第16図 SI-08



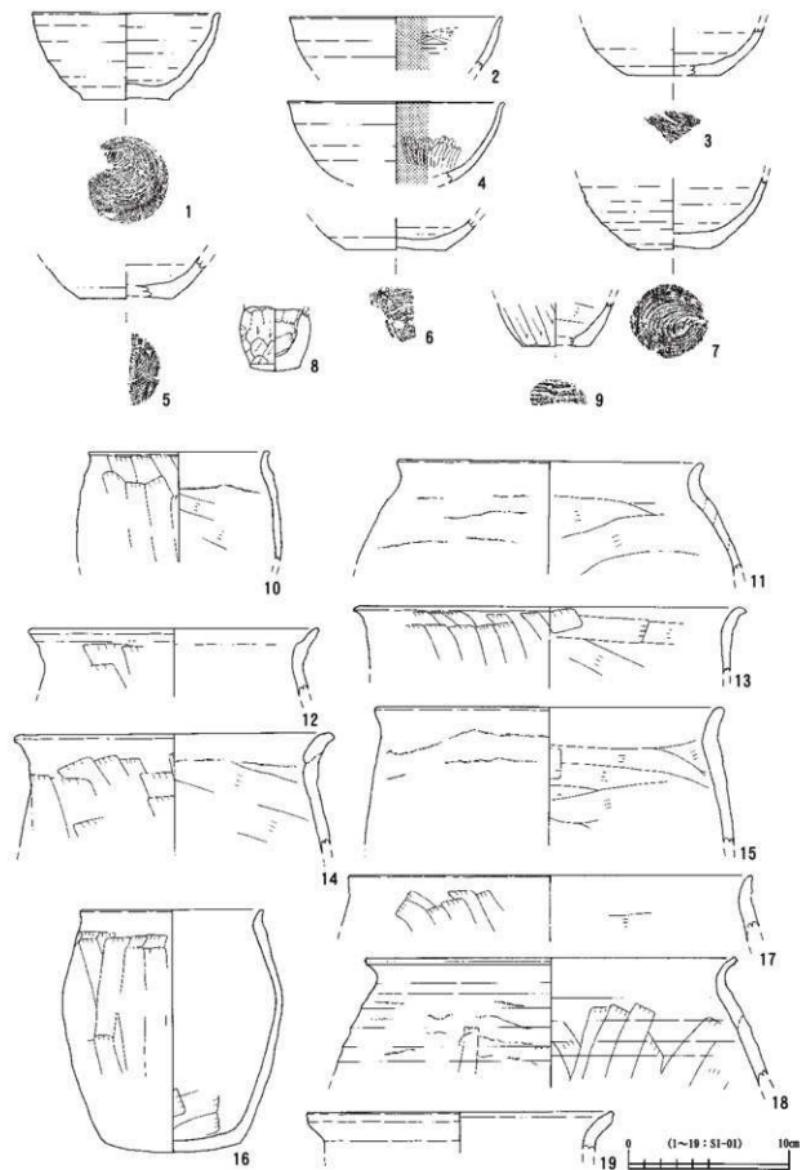
第17図 SI-09



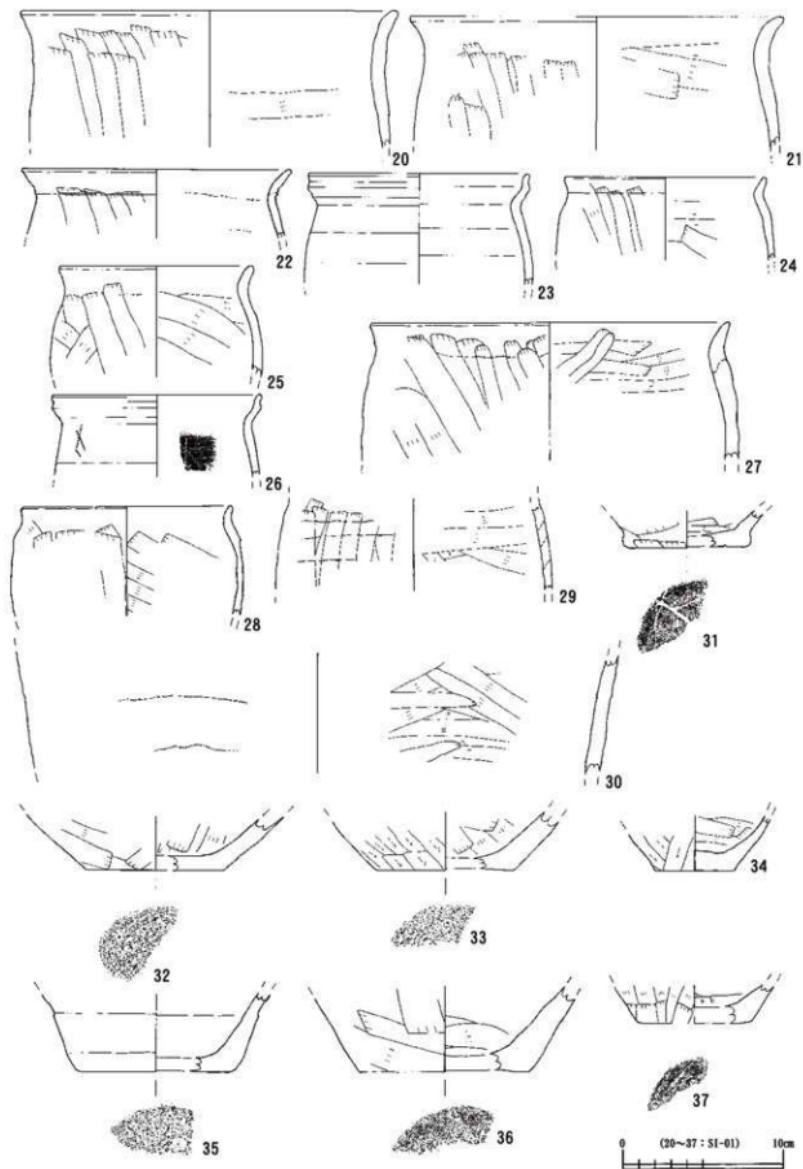
第18図 SI-10・11



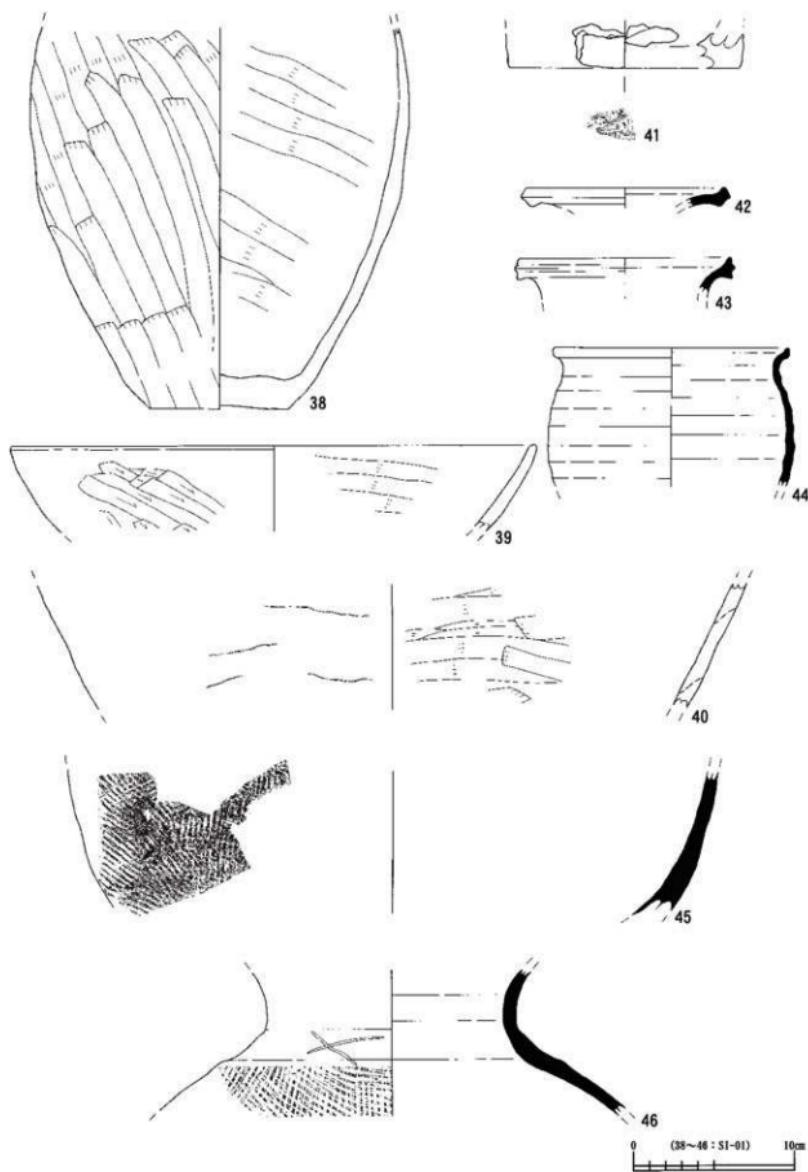
第19図 SI-12・13



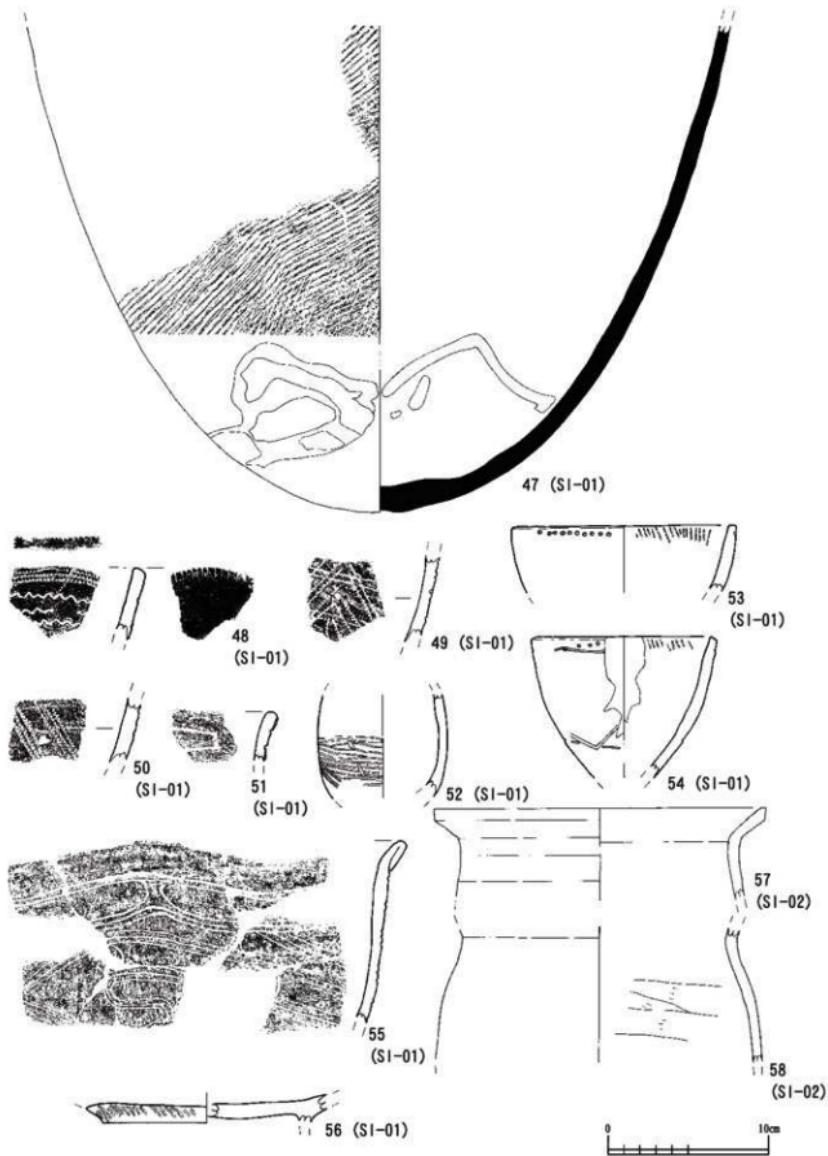
第20図 遺構内出土土器 (S) ①



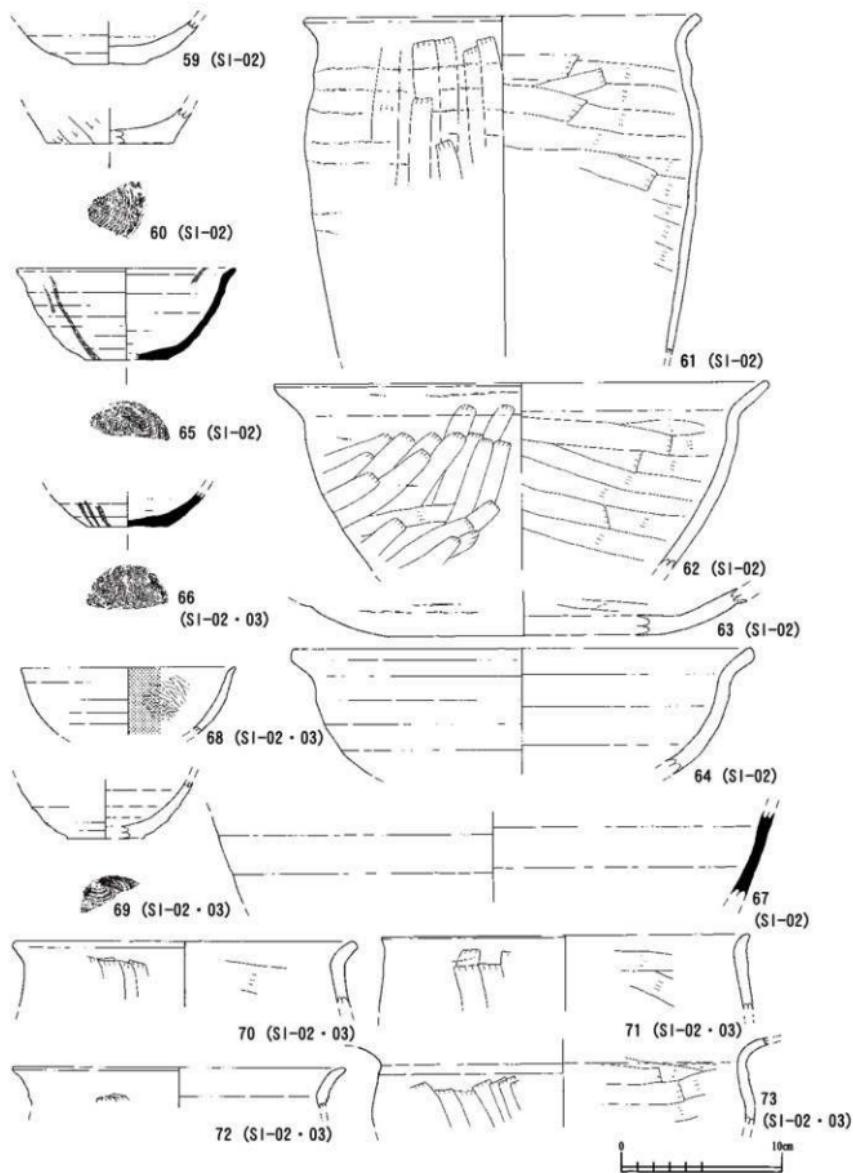
第21図 遺構内出土土器 (S) ②



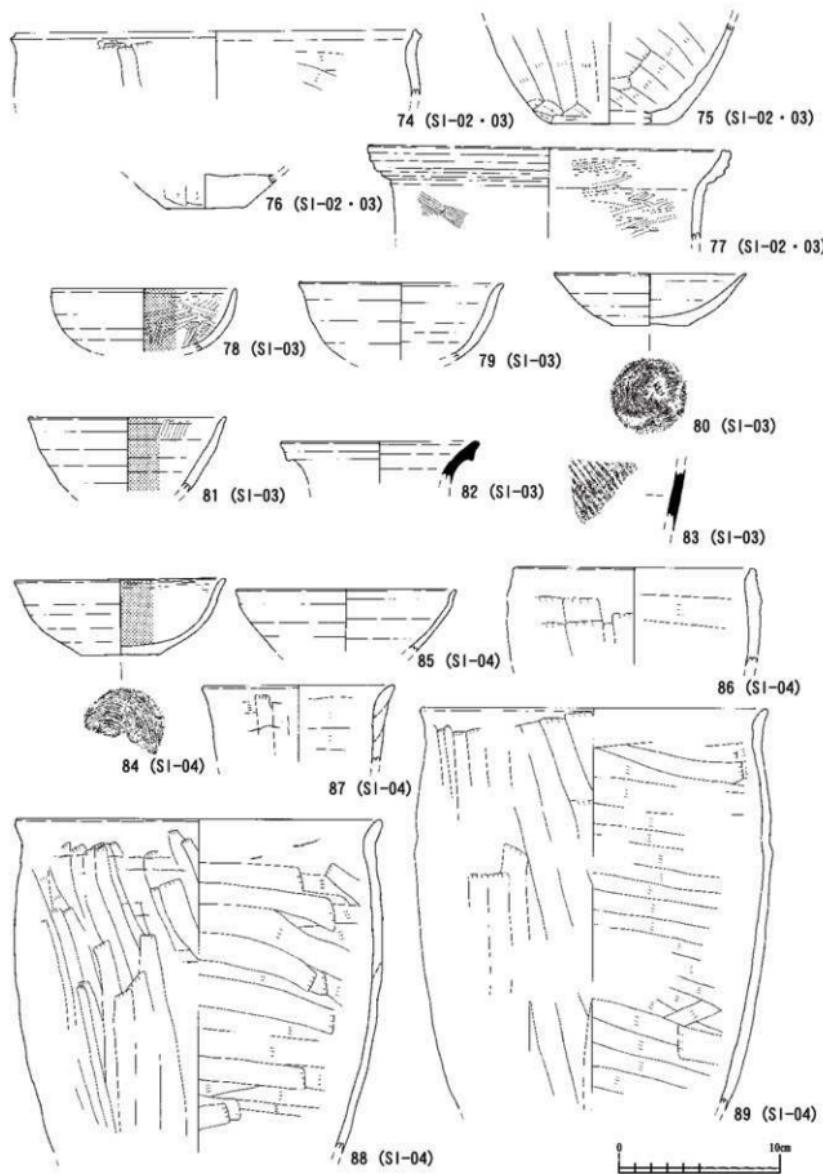
第22図 遺構内出土土器 (S) ③



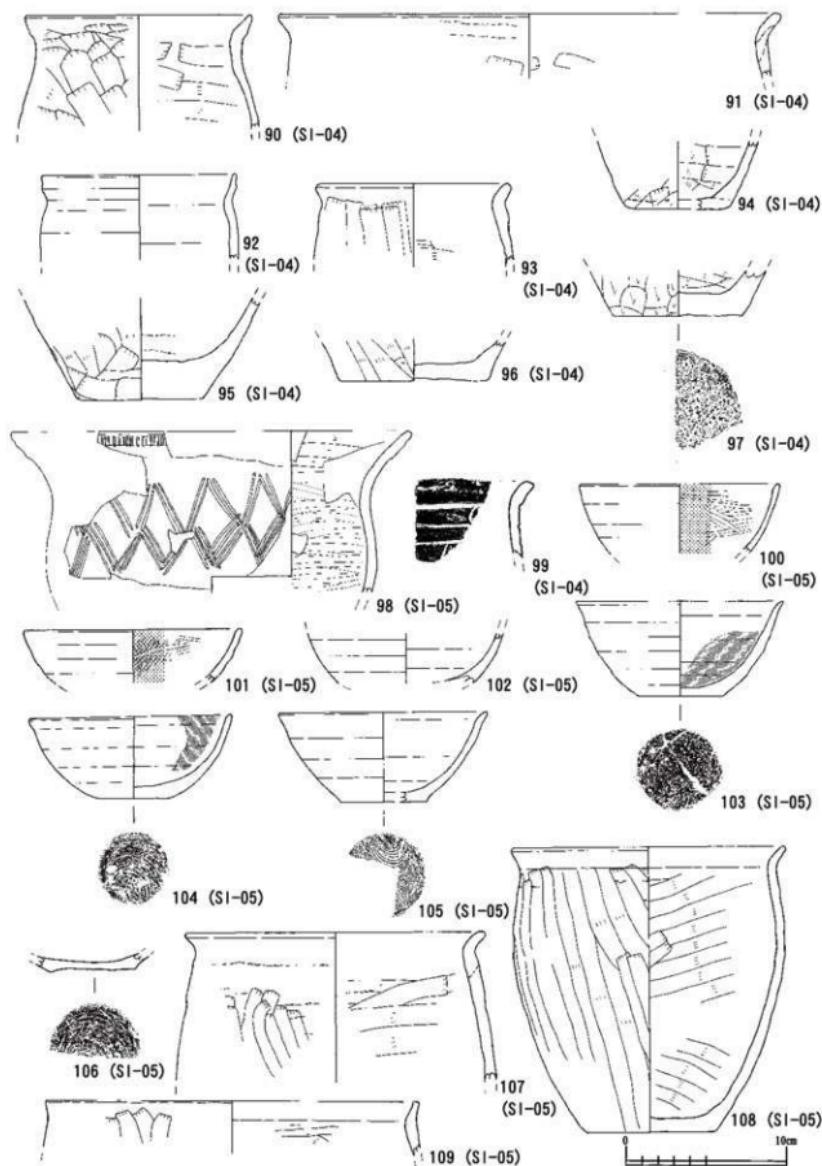
第23図 遺構内出土土器 (SI) ④



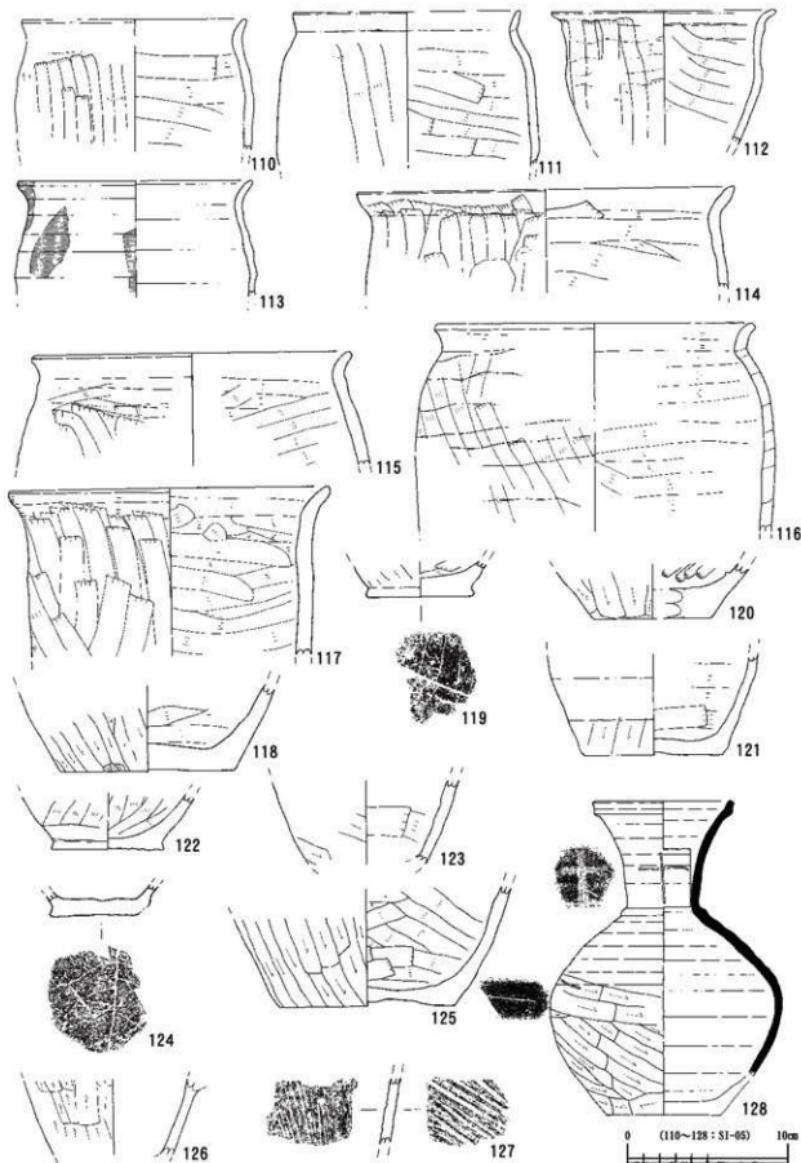
第24図 遺構内出土土器 (SI) ⑤



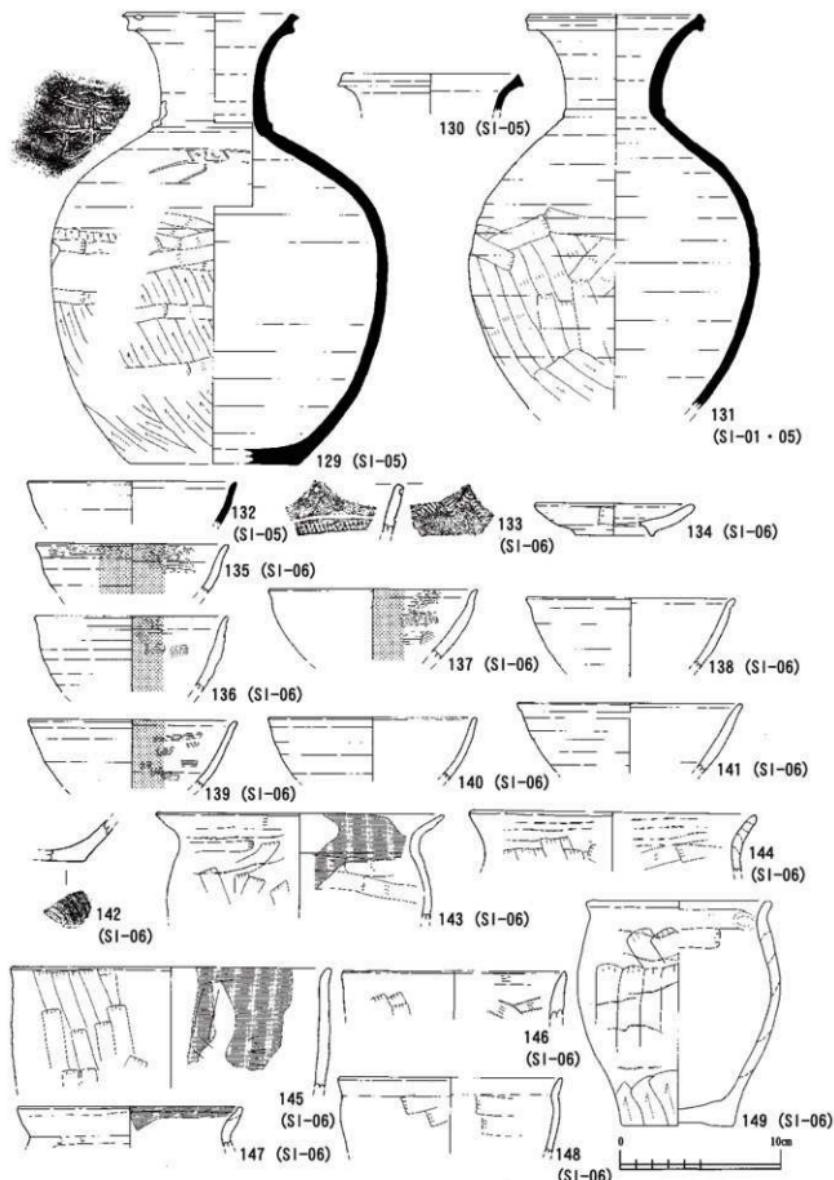
第25図 遺構内出土土器 (SI) ⑥



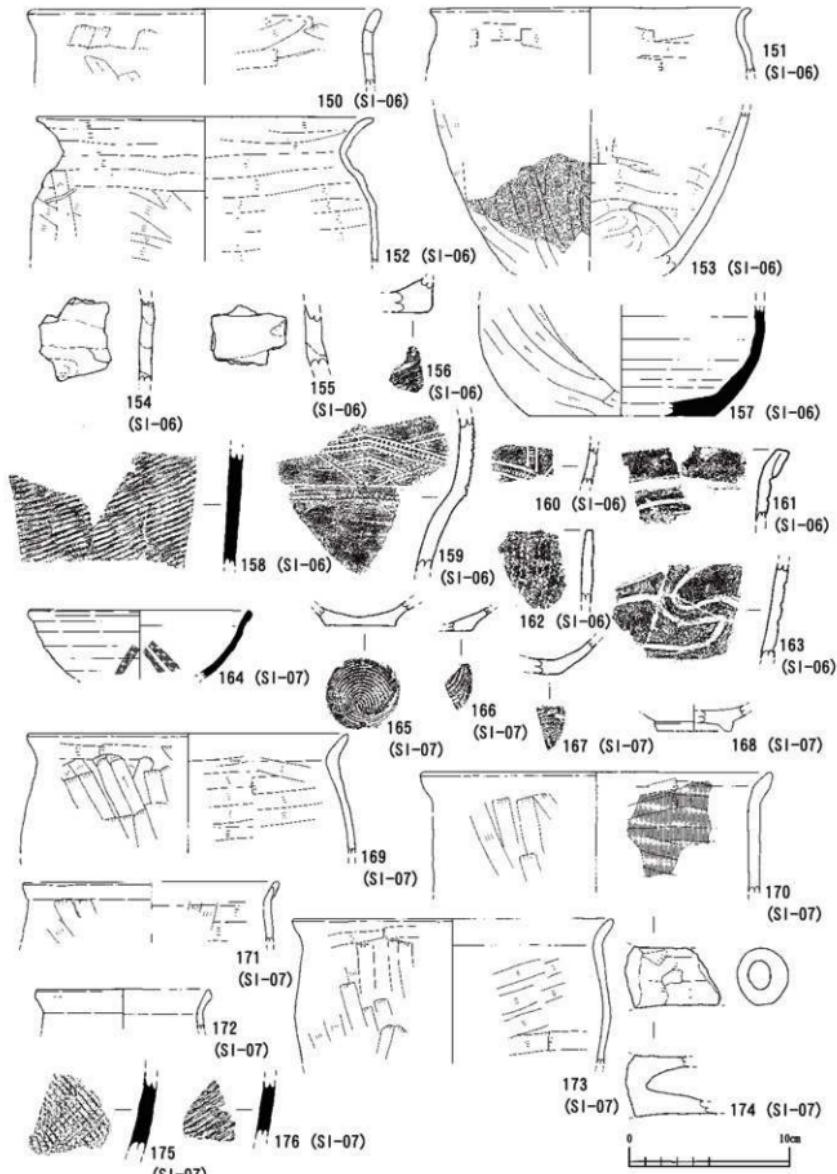
第26図 遺構内出土土器 (SI) ⑦



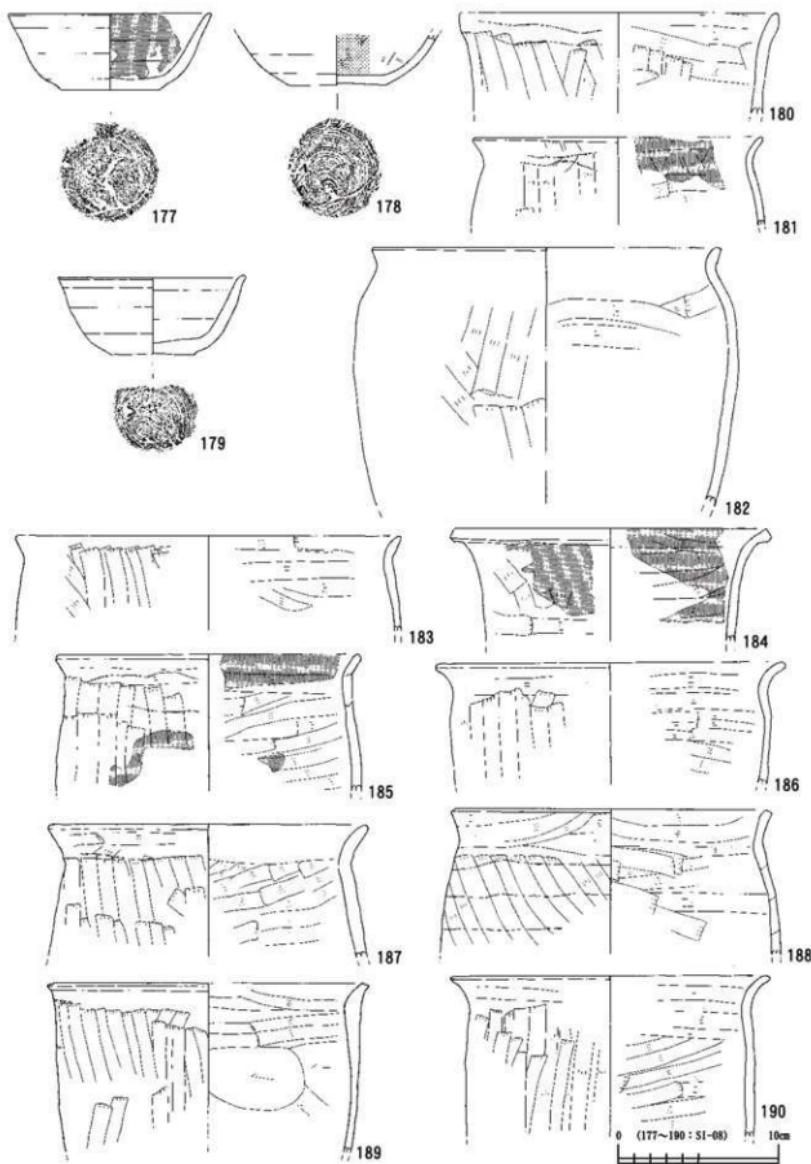
第27図 遺構内出土土器 (S) ⑧



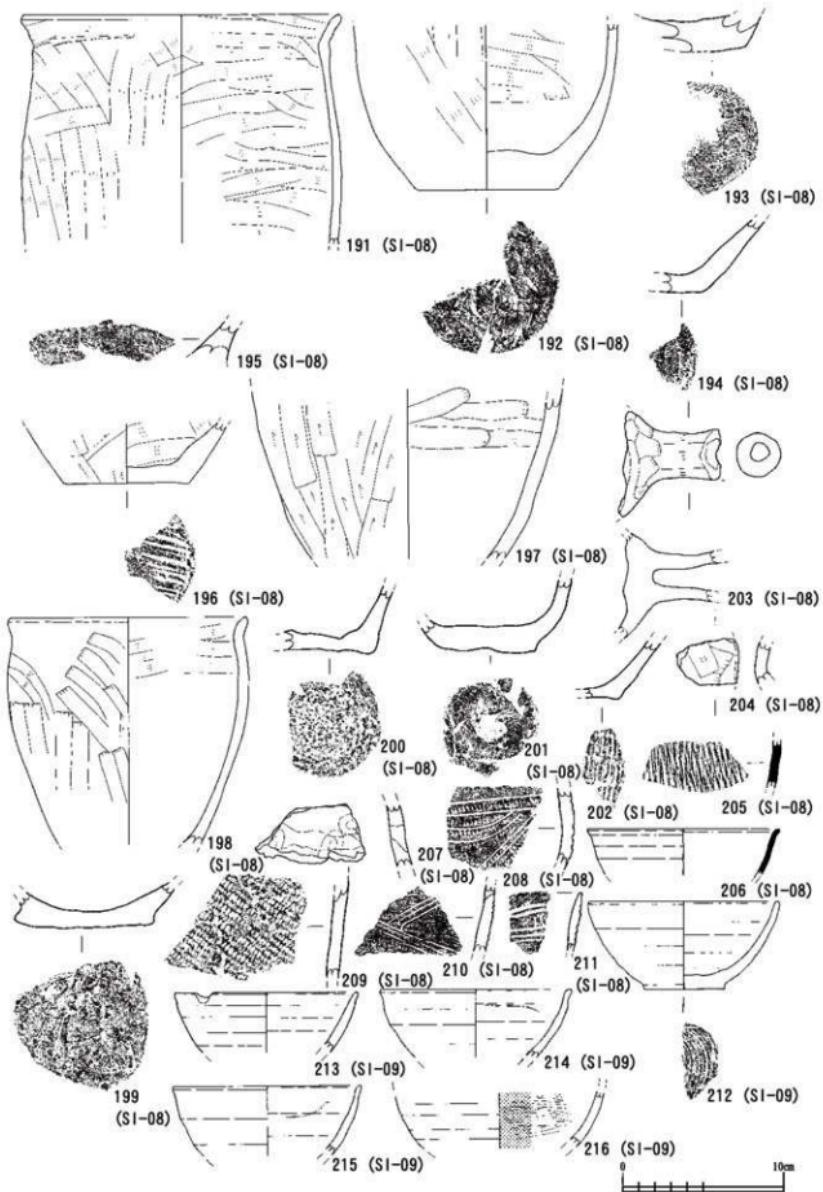
第28図 遺構内出土土器(SI)⑨



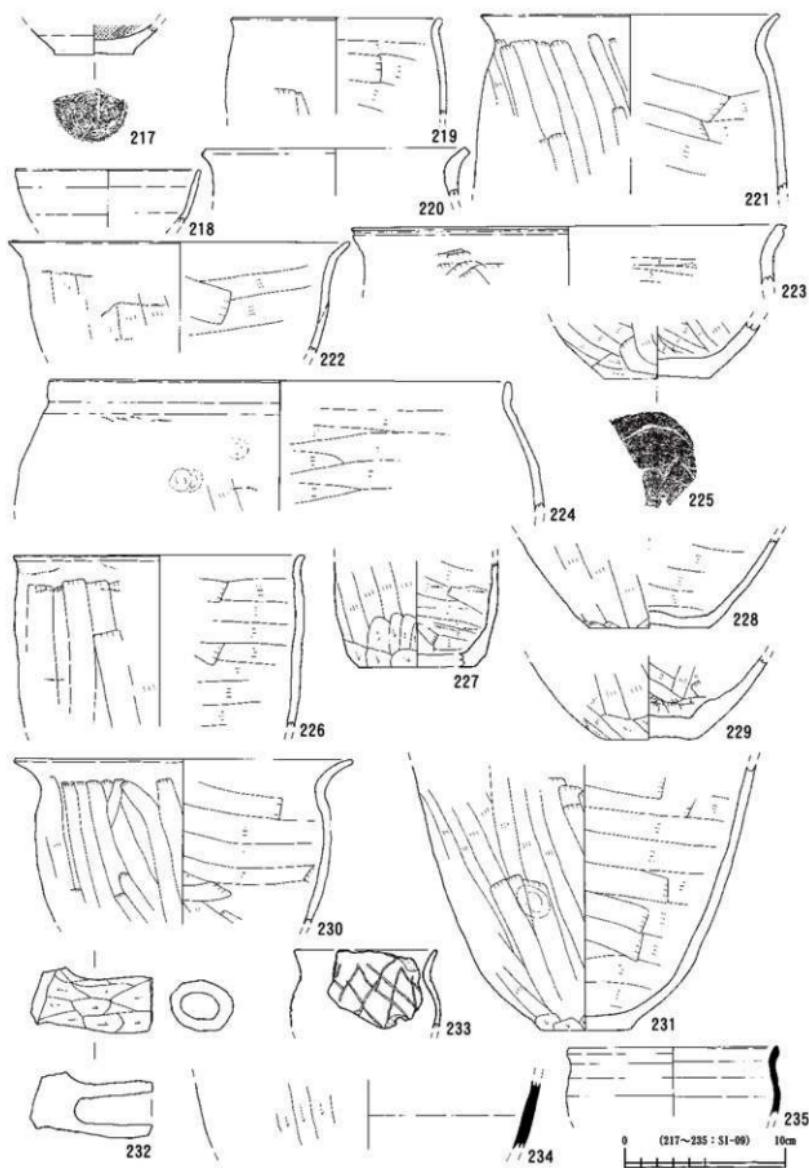
第29図 遺構内出土土器 (SI) ⑩



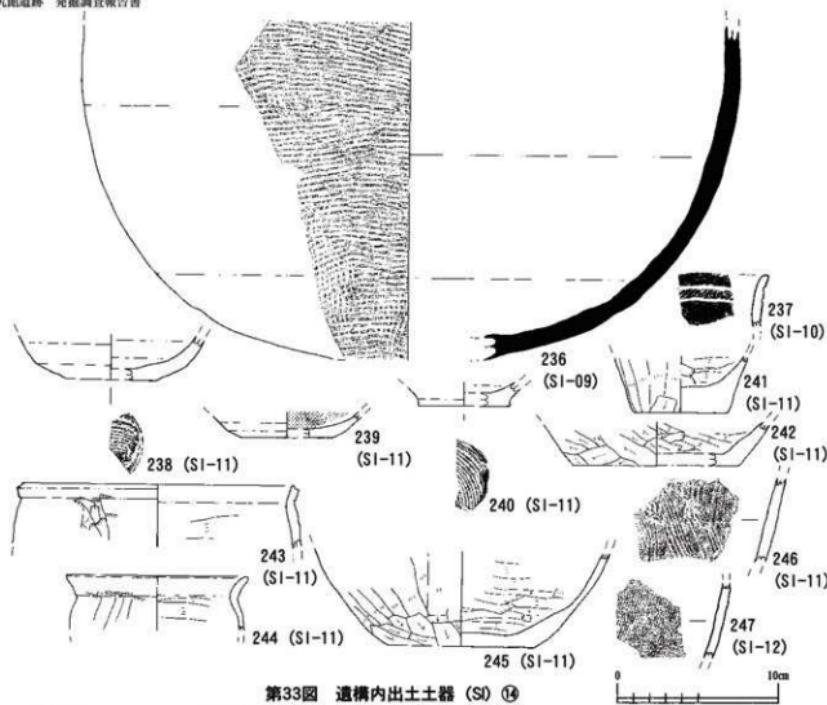
第30図 遺構内出土土器 (S) ⑪



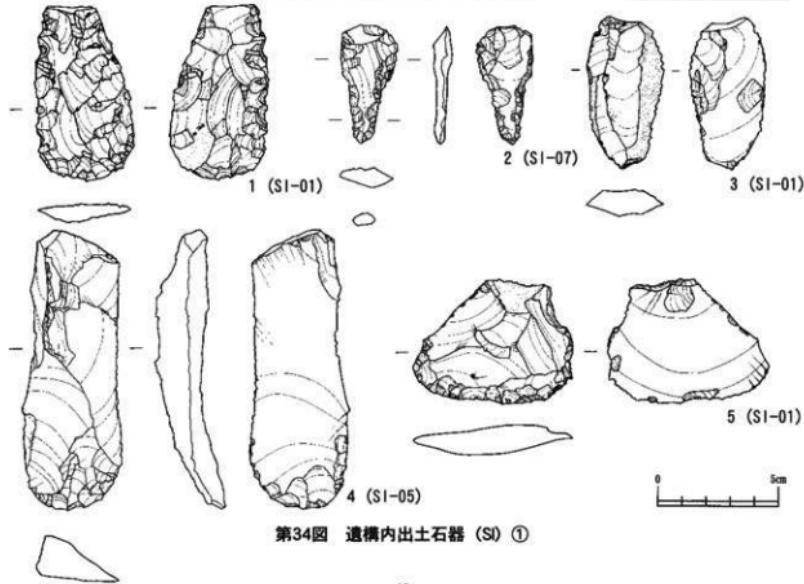
第31図 遺構内出土土器 (SI) ⑫



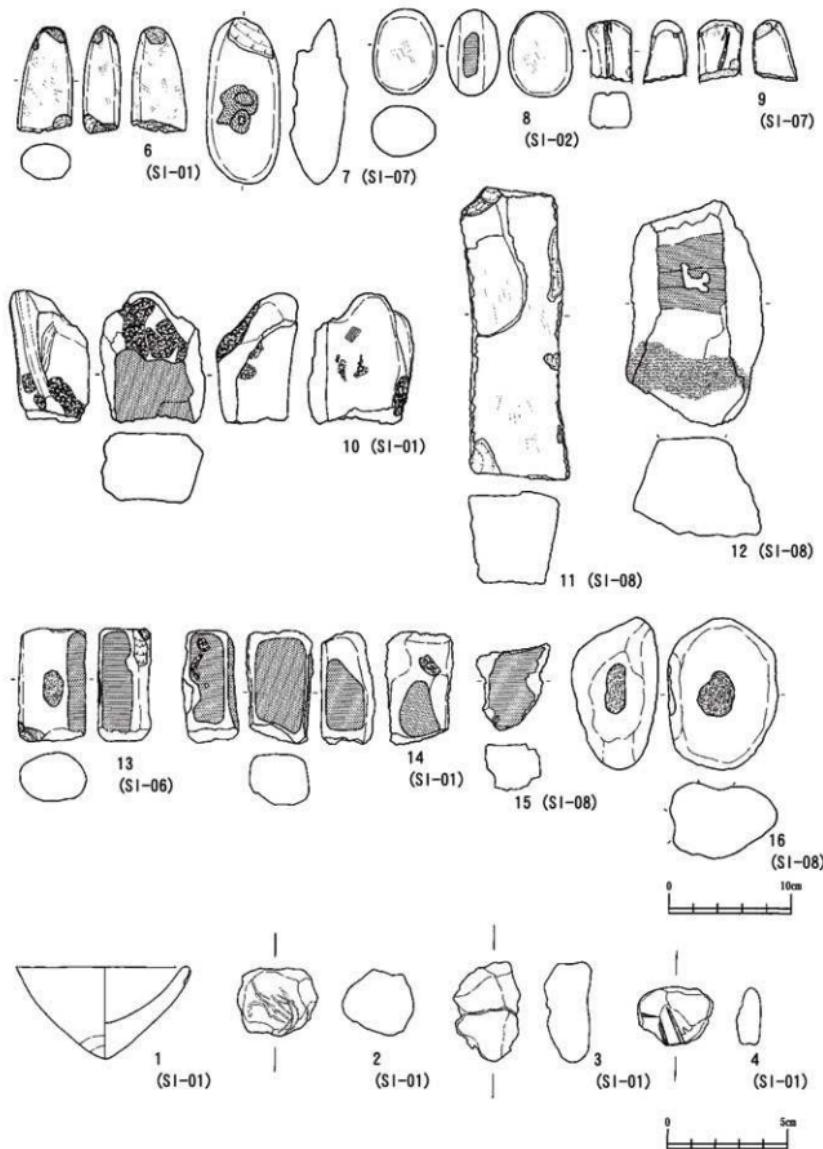
第32図 遺構内出土土器 (S) ⑬



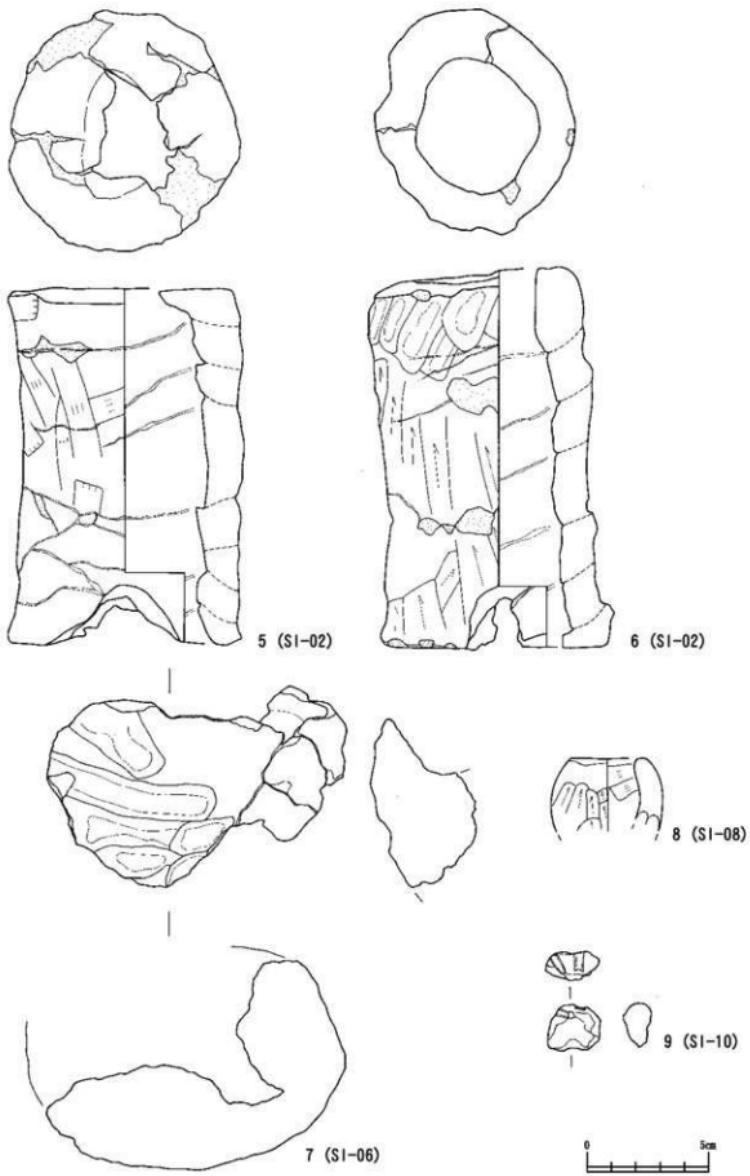
第33図 遺構内出土土器 (SI) ⑭



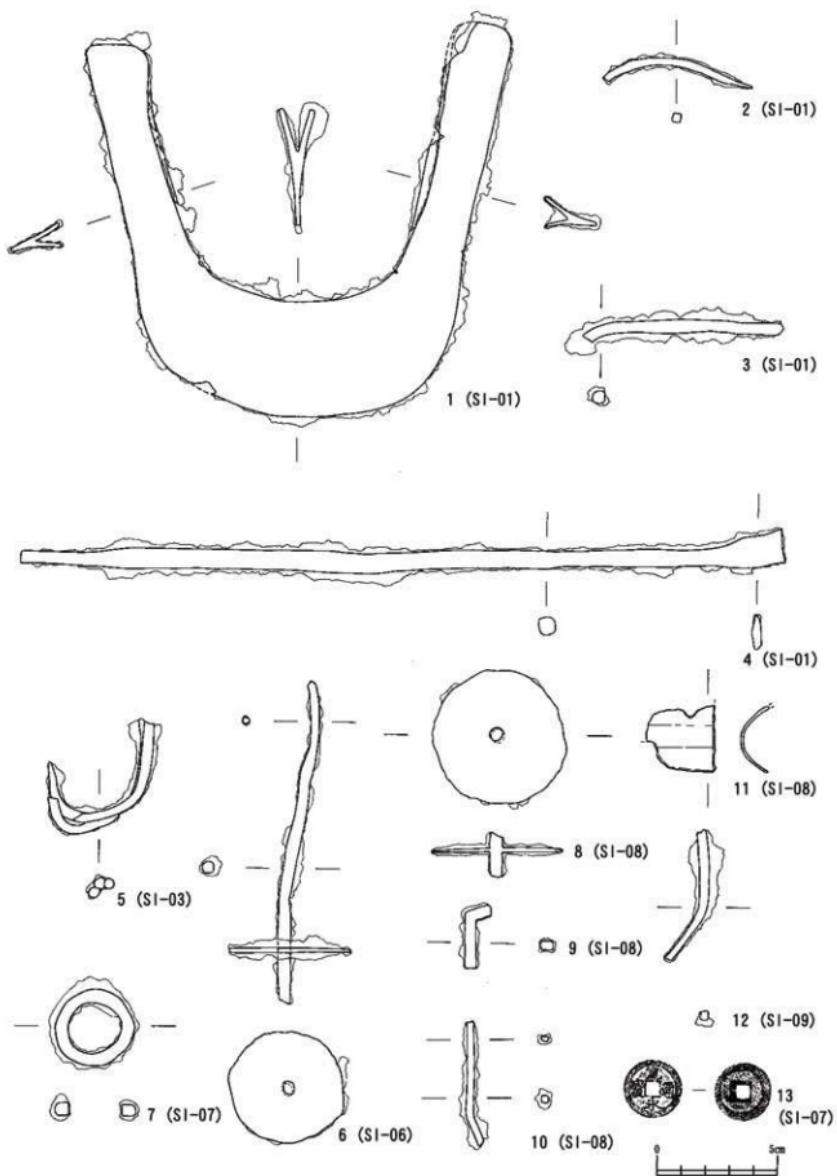
第34図 遺構内出土石器 (SI) ①



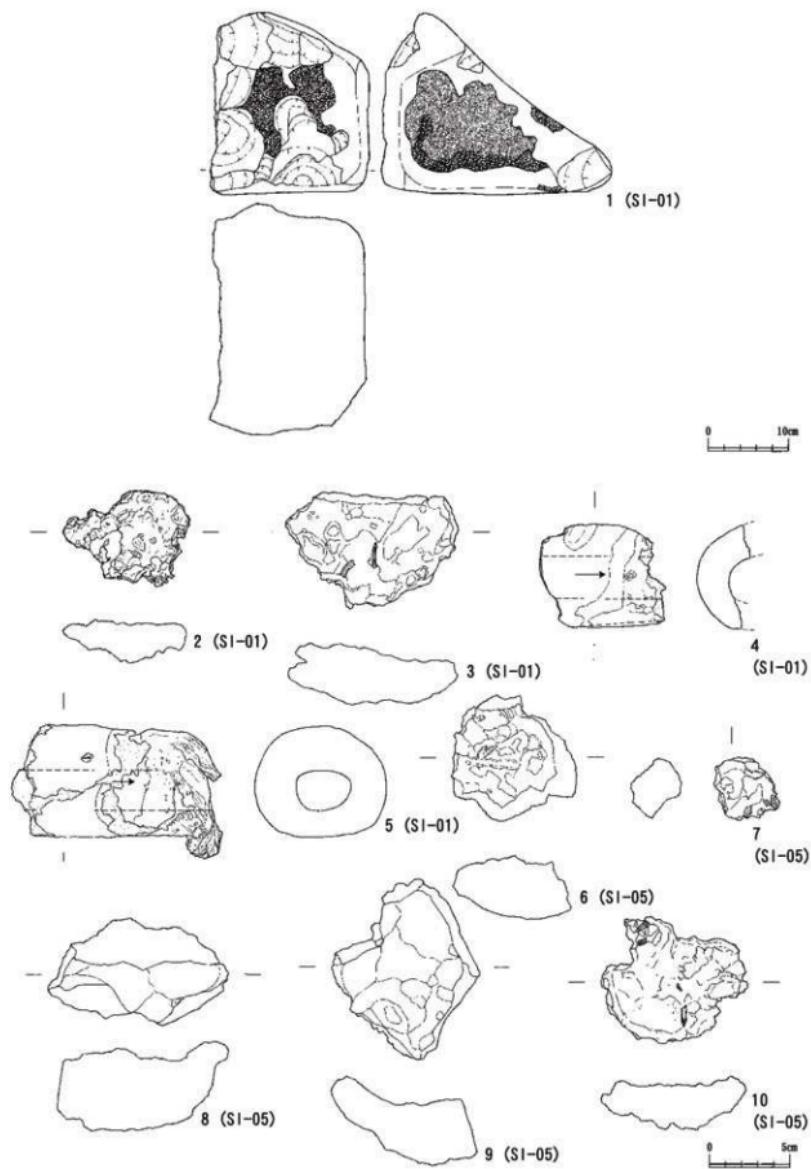
第35図 遺構内出土石器(SI)②・遺構内出土土製品(SI)①



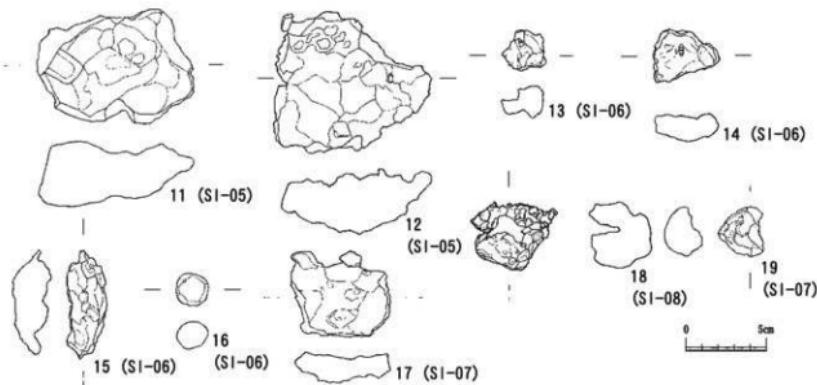
第36図 遺構内出土土製品 (SI) ②



第37図 遺構内出土鉄製品・古銭 (SI) ①



第38図 遺構内出土鐵門閂遺物 (SI) ①



第39図 遺構内出土鐵関連遺物 (SI) ②

3. 土坑

S K - 01 (第40図)

H-10グリッドに位置している。平面は不整形を呈し、規模は106×72×40cmを測る。断面はやや角度をもって立ち上がる。堆積土は1層で黒褐色土が堆積しており、自然堆積と考えられる。遺物は確認面より土師器甕の口縁部破片が1点、擦文土器1点が出土した（第41図1・2）。1は口縁部が短く、胴部が丸みを持ち、ヘラナデによって調整されている。2は口縁部に横走沈線が施されている。遺物は遺構確認面での出土であるため、詳細は不明であるが、帰属時期は平安時代と考えられる。

S K - 02 (第40図)

F-9・F-10グリッドに位置している。平面は長方形を呈し、規模は300×214×26cmを測る。断面はやや角度をもって立ち上がる。S I - 01と重複しており、新旧関係はS I - 01 < S K - 02である。堆積土は2層に分層し、黒色土を主体とする土層が堆積しており、人為堆積と考えられる。遺物は1層より土師器甕1点、擦文土器1点、須恵器甕1点、粘土塊1点の胴部破片が出土した（第41図3～5、10）。3は甕の口縁部破片で、ヘラナデによって調整されている。4は擦文土器の胴部の資料で、ハケメが施されている。5は須恵器甕の胴部破片で、タタキが施されている。10は粘土塊で沈線が施されている。遺物は上層からの出土であり、不明な点が多いが、帰属時期は平安時代と考えられる。

S K - 03 (第40図)

F-7・F-8グリッドに位置している。平面は長方形を呈し、規模は170×160×68cmを測る。断面はほぼ垂直に立ち上がる。S I - 13・S N - 01と重複しており、新旧関係はS K - 03 < S I - 13・S N - 01である。堆積土は4層に分層し、黒褐色土を主体とする土層が堆積しており、人為堆積と考えられる。遺物は1層より土師器鍋が1点出土した（第41図6）。6は鍋の胴部破片で、ヘラナデが施されている。遺物は上層からの出土であり、詳細は不明であるが、帰属時期は平安時代と考えられる。

S K - 04 (第40図)

H-7グリッドに位置している。平面は円形を呈し、規模は164×158×20cmを測る。断面はほぼ垂直に立ち上がる。S I - 02と重複しており、新旧関係はS K - 04 < S I - 02である。底面からはピットを2基検出し、規模はPit 1 : 29×28×21cm、Pit 2 : 53×49×17cmを測る。堆積土は3層に分層し、黒褐色土を主体とする土層が堆積しており、人為堆積と考えられる。遺物はフク土より土師器甕の口縁部破片1点と流れ込みと考えられる繩文土器1点が出土した（第41図7・8）。7はヘラナデが施されており、外面口縁部付近には一部ススが付着している。8は早期の土器で、貝殻腹縁文と沈線が施されている。遺物は上層からの出土であり、詳細は不明であるが、帰属時期は平安時代と考えられる。

S K - 05 (第40図)

H-6・H-7グリッドに位置している。北側が調査区外のため、不明であるが円形を呈していると考えられ、規模は184×142×148cmを測る。断面はいくつかの段をもって立ち上がる。堆積土は10層に分層し、黒褐色土を主体とする土層が堆積しており、自然堆積と考えられる。本遺構は底部付近の10層部分に木杭状のものを設置した陥穴遺構と考えられる。遺物は繩文土器1点が出土した（第41図9）。9は早期の土器で、貝

殻腹縁文と沈線、貝殻による刺突が施されている。本遺構の帰属時期は出土遺物から縄文時代と考えられる。

S K - 07 (第40図)

F - 8 グリッドに位置している。平面は不整円形を呈し、規模は $54 \times 83 \times 11\text{cm}$ を測る。断面はほぼ垂直に立ち上がる。S I - 13・S K - 08と重複しており、新旧関係は S K - 03 < S I - 13 < S K - 07 < S K - 08 である。堆積土は2層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積しており、人為堆積と考えられる。遺物が出土しなかつたため、帰属時期は不明である。

S K - 08 (第40図)

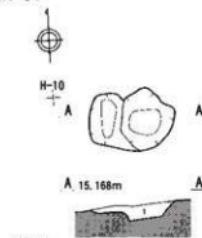
F - 8 グリッドに位置している。平面は円形を呈し、規模は $90 \times 75 \times 20\text{cm}$ を測る。断面はほぼ垂直に立ち上がる。S I - 13・S K - 03・S K - 07・S P - 67・S P - 68・S P - 164と重複しており、新旧関係は S K - 03 < S I - 13 < S K - 07 < S K - 08 < S P - 67・S P - 68・S P - 164である。堆積土は2層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積しており、人為堆積と考えられる。遺物が出土しなかつたため、帰属時期は不明である。

4. 焼土遺構

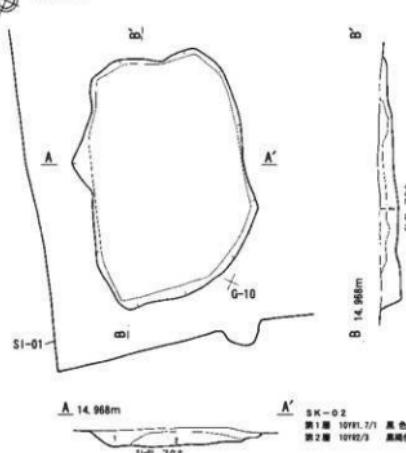
S N - 01 (第42図)

F - 7 グリッドに位置している。平面は不整形を呈し、規模は $78 \times 60\text{cm}$ 、被熱部分の厚さは 22cm を測る。S K - 03と重複しており、新旧関係は S N - 01 > S K - 03 である。遺物は土師器甕が5点出土した（第42図1～5）。1・2は胸部から口縁部までの立ち上がりや、口縁部の形状が類似する資料である。1は甕の口縁部～胸部の資料で、ヘラナデにより調整され、内面の口縁部付近にはススが付着している。2は甕の口縁部～胸部の資料でヘラナデにより調整されている。3は甕の口縁部～胸部の資料で、器形は口縁部が短く、胸部が丸みを帯びる形状で、ヘラナデによって調整されている。4は甕の口縁部の資料で、器形は口縁部のくびれが大きく、胸部は丸みを帯びると考えられる。ヘラナデによって調整されている。5は甕の胸部で粘土紐の巻き上げによる段が明瞭で、ヘラナデにより調整されている。帰属時期は出土土器や新旧関係から平安時代と考えられる。

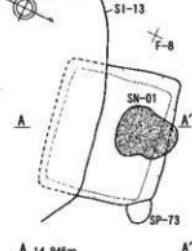
SK-01



SK-02



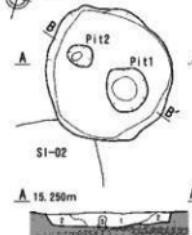
SK-03



SK-03

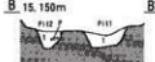
- 第1層 10102/2 黑褐色土 ローム粒中量。
第2層 10102/3 黑褐色土 ローム粒少量、ロームブロック多量。
第3層 10102/3 黑褐色土 ローム粒多量、炭化粒少量。
第4層 10102/3 黑褐色土 ローム粒多量。

SK-04



- 第1層 10102/2 黑褐色土 ローム粒少量、鐵土粒微量。
第2層 10102/3 黑褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量。

- 第3層 10102/3 黑褐色土 ローム粒中量。



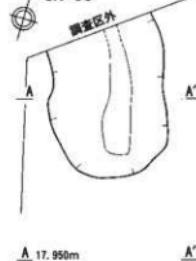
SK-04 (Pit1)

- 第1層 10102/2 黑褐色土 ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量、鐵土粒微量。

SK-04 (Pit1)

- 第2層 10102/3 黑褐色土 ローム粒多量、鐵土粒少量。

SK-05



- SK-05
第1層 10102/2 黑褐色土 ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量。

- 第2層 10102/3 黑褐色土 ローム粒少量、鐵土粒微量。

- 第3層 10102/3 黑褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量、鐵土粒微量。

- 第4層 10104/5 黑褐色土 ローム粒中量、炭化粒微量。

- 第5層 10102/3 黑褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量、鐵土粒微量。

- 第6層 10102/3 黑褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量。

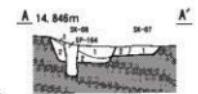
- 第7層 10102/3 黑褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量。

- 第8層 10102/3 黑褐色土 ローム粒多量、ロームブロック中量、炭化粒微量。

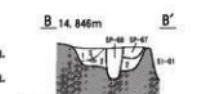
- 第9層 10102/4 黑褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量。

- 第10層 10102/3 黑褐色土 ローム粒多量、炭化粒微量。

SK-07-08



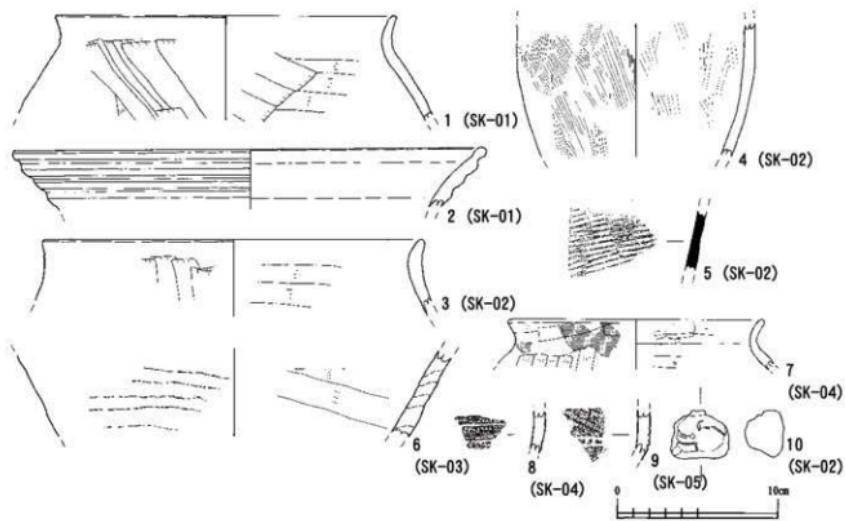
- SK-07
第1層 10103/2 黑褐色土 ローム粒中量、ロームブロック少量。
第2層 10102/3 黑褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量。



- SK-08
第1層 10103/1 黑褐色土 ローム粒少量。
第2層 10102/1 黑色土 ローム粒中量、炭化粒微量。

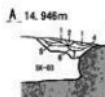
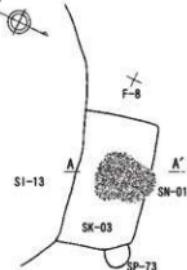


第40図 SK-01～05、07・08



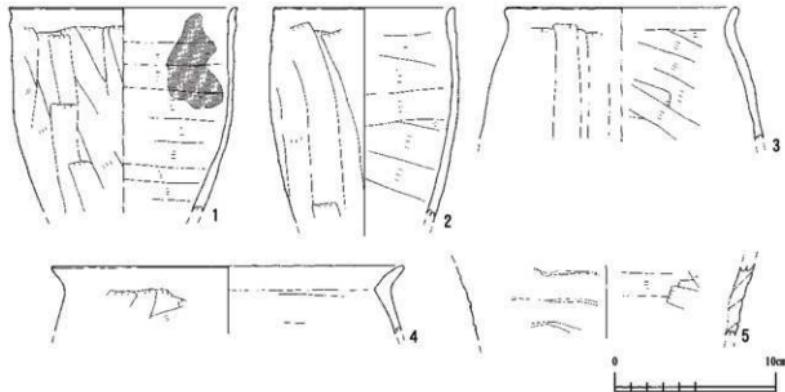
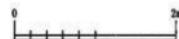
第41図 遺構内出土遺物（SK）

SN-01



SN-01

- 第1層 10195/5 黄褐色土 ローム。
- 第2層 5192/7 黑褐色土 粘土質細粒土。
- 第3層 7.5194/7 黑褐色土 土塊ブロック状構造。
- 第4層 7.5194/7 黑褐色土 黒土ブロック状構造。
- 第5層 7.5194/2 黑褐色土 ローム少量。後土粒少量。
- 第6層 7.5194/2 黑色土 ローム。
- 第7層 7.5192/1 黑色土 ローム粒中量。後土粒微量。



第42図 SN-01・出土土器

5. ピット

第2表 ピット観察表

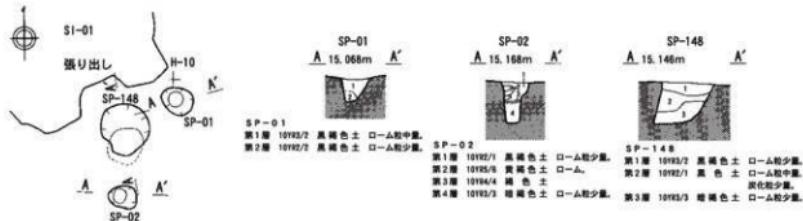
| 遺構番号 | 回収番号 | 位 置 | 重複 | 平面形 | 規模(cm) | | | 出 土 遺 物 | 帰属時期 | 備 考 |
|-------|------|----------|---------------------------------|-----|--------|----|----|---------|------|----------------------|
| | | | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | |
| SP-01 | 第43回 | G-H-10 | 無 | 円形 | 40 | 34 | 30 | 土師器壺 | 平安時代 | |
| SP-02 | 第43回 | G-H-10 | 無 | 円形 | 36 | 26 | 51 | | | |
| SP-03 | 第43回 | F-10 | 無 | 円形 | 25 | 19 | 22 | | | |
| SP-04 | 第43回 | F-10 | 無 | 円形 | 25 | 18 | 27 | | | |
| SP-05 | 第43回 | F-10 | 無 | 円形 | 30 | 26 | 29 | | | |
| SP-06 | 第43回 | F-10 | 無 | 不整形 | 47 | 43 | 61 | | | 3層は木杭が設置されていたと考えられる。 |
| SP-07 | 第43回 | F-10 | 無 | 円形 | 51 | 39 | 25 | | | |
| SP-08 | 第43回 | E-F-9-10 | 無 | 不整形 | 34 | 32 | 16 | | | |
| SP-09 | 第43回 | F-10 | 無 | 円形 | 27 | 24 | 14 | | | |
| SP-10 | 第43回 | F-9 | 無 | 楕円形 | 46 | 26 | 14 | | | |
| SP-11 | 第43回 | F-9 | 無 | 円形 | 30 | 25 | 8 | | | |
| SP-12 | 第44回 | E-9 | 無 | 円形 | 66 | 61 | 40 | | | |
| SP-13 | 第44回 | E-9 | 無 | 円形 | 50 | 46 | 30 | | | |
| SP-14 | 第44回 | E-9 | 無 | 円形 | 34 | 22 | 28 | | | |
| SP-15 | 第44回 | E-9 | 無 | 楕円形 | 72 | 44 | 40 | | | |
| SP-16 | 第44回 | E-9 | 無 | 円形 | 40 | 35 | 42 | | | |
| SP-17 | 第44回 | E-9 | 無 | 円形 | 40 | 38 | 23 | | | |
| SP-18 | 第44回 | E-9 | 無 | 円形 | 32 | 28 | 58 | 土師器壺 | 平安時代 | |
| SP-19 | 第44回 | E-9 | 無 | 円形 | 27 | 25 | 16 | | | |
| SP-20 | 第44回 | E-9 | 無 | 不整形 | 43 | 34 | 50 | | | |
| SP-21 | 第44回 | E-9 | 無 | 円形 | 25 | 21 | 42 | | | |
| SP-22 | 第44回 | E-9 | 無 | 不整形 | 45 | 37 | 53 | | | |
| SP-23 | 第44回 | D-9 | 無 | 円形 | 56 | 54 | 34 | | | |
| SP-24 | 第44回 | E-8-9 | 無 | 不整形 | 76 | 70 | 41 | | | |
| SP-25 | 第44回 | E-8 | SK-26<SK-25<SK-27 | 不整形 | 31 | 28 | 10 | | | |
| SP-26 | 第44回 | E-8 | 無 | 不整形 | 30 | 20 | 36 | | | |
| SP-27 | 第44回 | E-8 | 無 | 円形 | 20 | 18 | 20 | | | |
| SP-28 | 第44回 | E-8 | 無 | 円形 | 32 | 30 | 23 | | | |
| SP-29 | 第44回 | D-9 | 無 | 不整形 | 71 | 44 | 32 | | | |
| SP-30 | 第45回 | E-8 | SP-31>SP-151・SP-30 | 不整形 | 52 | 30 | 28 | | | |
| SP-31 | 第45回 | E-8 | SP-31>SP-151・SP-30>SP-32>SP-152 | 不整形 | 40 | 28 | 29 | | | |
| SP-32 | 第45回 | E-8 | SP-34>SP-32>SP-33>SP-151・SP-152 | 円形 | 40 | 19 | 34 | | | |
| SP-33 | 第45回 | E-8 | SP-34>SP-32>SP-34 | 不整形 | 52 | 40 | 58 | | | |
| SP-34 | 第45回 | E-8 | SP-34>SP-32>SP-33 | 円形 | 32 | 28 | 18 | | | |
| SP-35 | 第44回 | D-8 | 無 | 円形 | 36 | 34 | 6 | | | |
| SP-36 | 第44回 | D-9 | 無 | 円形 | 42 | 40 | 34 | | | |
| SP-37 | 第44回 | D-8 | 無 | 円形 | 32 | 23 | 45 | | | |
| SP-38 | 第44回 | D-8 | 無 | 円形 | 32 | 30 | 42 | | | |
| SP-39 | 第44回 | E-8 | SP-39>SP-158 | 不整形 | 42 | 26 | 40 | | | |
| SP-40 | 第46回 | E-8 | 無 | 円形 | 37 | 38 | 28 | | | |
| SP-41 | 第45回 | E-8 | SP-41>SP-162 | 円形 | 26 | 22 | 15 | | | |
| SP-42 | 第45回 | E-8 | 無 | 円形 | 32 | 31 | 12 | | | |
| SP-43 | 第45回 | E-8 | 無 | 不整形 | 48 | 36 | 56 | | | |
| SP-44 | 第45回 | E-8 | 無 | 円形 | 32 | 28 | 20 | | | |
| SP-45 | 第46回 | E-7-8 | 無 | 不整形 | 50 | 40 | 30 | | | |
| SP-46 | 第45回 | E-8 | 無 | 不整形 | 54 | 22 | 60 | | | |
| SP-47 | 第45回 | E-8 | 無 | 不整形 | 39 | 28 | 32 | | | |
| SP-48 | 第45回 | E-8 | SP-48>SP-159 | 不整形 | 32 | 30 | 44 | | | |
| SP-49 | 第45回 | E-8 | SP-49<SP-154 | 不整形 | 65 | 44 | 37 | | | |
| SP-50 | 第45回 | E-8 | 無 | 不整形 | 36 | 26 | 14 | | | |
| SP-51 | 第45回 | E-8 | 無 | 不整形 | 50 | 23 | 26 | | | |
| SP-52 | 第43回 | E-7 | 無 | 円形 | 21 | 16 | 26 | | | |

| 遺物番号 | 回収番号 | 位 置 | 重 複 | 平面形 | 規模(cm) | | | 出 土 遺 物 | 帰属時期 | 備 考 |
|--------|------|-------|-------------------|-----|--------|----|----|---------|------|-----|
| | | | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | |
| SP-53 | 第43回 | E-7 | 無 | 円形 | 28 | 27 | 17 | | | |
| SP-54 | 第45回 | E-8 | SP-54>SP-154 | 不整形 | 60 | 40 | 18 | | | |
| SP-55 | 第43回 | E-7 | 無 | 円形 | 26 | 25 | 29 | | | |
| SP-56 | 第46回 | D-7 | 無 | 楕丸形 | 42 | 37 | 31 | | | |
| SP-57 | 第46回 | D-7 | 無 | 円形 | 29 | 26 | 60 | | | |
| SP-58 | 第46回 | D-7 | 無 | 不整形 | 40 | 32 | 52 | | | |
| SP-59 | 第46回 | D-7 | 無 | 不整形 | 32 | 31 | 30 | | | |
| SP-60 | 第46回 | D-7 | 無 | 円形 | 36 | 35 | 19 | | | |
| SP-61 | 第43回 | E-7 | 無 | 円形 | 48 | 40 | 21 | | | |
| SP-62 | 第43回 | E-7 | 無 | 円形 | 38 | 32 | 35 | | | |
| SP-63 | 第43回 | E-7 | SP-53>SP-160 | 円形 | 48 | 38 | 16 | | | |
| SP-64 | 第43回 | E-7 | 無 | 円形 | 37 | 34 | 34 | 須恵器長頸壺 | 平安時代 | |
| SP-65 | 第43回 | E-7 | 無 | 円形 | 32 | 28 | 27 | | | |
| SP-66 | 第47回 | F-7 | SP-66>SP-156 | 楕円形 | 31 | 20 | 14 | | | |
| SP-67 | 第48回 | F-8 | SK-09<SP-67<SP-68 | 不整形 | 26 | 25 | 14 | | | |
| SP-68 | 第48回 | F-8 | SK-09<SP-67<SP-68 | 円形 | 23 | 22 | 39 | | | |
| SP-69 | 第47回 | F-7 | 無 | 円形 | 30 | 28 | 39 | | | |
| SP-70 | 第47回 | F-7 | 無 | 円形 | 32 | 28 | 50 | | | |
| SP-71 | 第47回 | F-7 | 無 | 不整形 | 23 | 21 | 26 | | | |
| SP-72 | 第47回 | F-7 | 無 | 円形 | 24 | 23 | 35 | | | |
| SP-73 | 第48回 | F-7 | SK-03>SP-73 | 円形 | 31 | 24 | 23 | | | |
| SP-74 | 第48回 | F-8 | 無 | 円形 | 47 | 45 | 41 | | | |
| SP-75 | 第47回 | F-7 | 無 | 方形 | 50 | 30 | 18 | | | |
| SP-76 | 第47回 | F-7 | 無 | 円形 | 29 | 23 | 41 | | | |
| SP-77 | 第47回 | F-7 | 無 | 円形 | 35 | 34 | 24 | | | |
| SP-78 | 第47回 | F-7 | 無 | 不整形 | 46 | 28 | 32 | | | |
| SP-79 | 第47回 | E-F-6 | 無 | 円形 | 33 | 30 | 44 | | | |
| SP-80 | 第47回 | F-6 | 無 | 不整形 | 60 | 38 | 52 | 土師器甌 | 平安時代 | |
| SP-81 | 第43回 | E-7 | 無 | 円形 | 31 | 29 | 33 | | | |
| SP-82 | 第47回 | F-6 | 無 | 円形 | 25 | 22 | 22 | | | |
| SP-83 | 第47回 | F-7 | 無 | 円形 | 35 | 37 | 19 | 鄉文土器甌 | 平安時代 | |
| SP-84 | 第47回 | F-7 | 無 | 円形 | 26 | 30 | 65 | | | |
| SP-85 | 第47回 | F-7 | 無 | 不整形 | 38 | 30 | 13 | | | |
| SP-86 | 第47回 | F-G-7 | 無 | 円形 | 31 | 30 | 44 | | | |
| SP-87 | 第47回 | F-7 | 無 | 円形 | 44 | 32 | 36 | | | |
| SP-88 | 第47回 | F-6 | 無 | 不整形 | 41 | 32 | 10 | | | |
| SP-89 | 第47回 | F-6 | 無 | 円形 | 26 | 25 | 12 | | | |
| SP-90 | 第45回 | G-6-7 | 無 | 不整形 | 59 | 55 | 50 | 土師器甌 | 平安時代 | |
| SP-91 | 第45回 | G-6 | 無 | 円形 | 27 | 24 | 32 | | | |
| SP-92 | 第45回 | G-6 | 無 | 円形 | 34 | 31 | 30 | | | |
| SP-93 | 第45回 | G-6 | 無 | 不整形 | 62 | 46 | 61 | | | |
| SP-94 | 第45回 | G-6 | 無 | 円形 | 30 | 24 | 16 | | | |
| SP-95 | 第45回 | G-6 | 無 | 円形 | 40 | 37 | 31 | | | |
| SP-96 | 第49回 | C-5 | 無 | 円形 | 82 | 70 | 21 | | | |
| SP-97 | 第49回 | C-5 | 無 | 円形 | 24 | 20 | 24 | | | |
| SP-98 | 第49回 | C-5 | 無 | 楕円形 | 30 | 22 | 21 | | | |
| SP-99 | 第49回 | C-5 | 無 | 不整形 | 70 | 42 | 42 | | | |
| SP-100 | 第49回 | C-5 | 無 | 円形 | 31 | 28 | 42 | | | |
| SP-101 | 第49回 | C-5 | 無 | 円形 | 33 | 25 | 47 | | | |
| SP-102 | 第46回 | D-6 | 無 | 不整形 | 51 | 33 | 51 | | | |
| SP-103 | 第46回 | D-6 | 無 | 円形 | 43 | 38 | 54 | | | |
| SP-104 | 第46回 | D-6 | 無 | 円形 | 32 | 26 | 10 | | | |
| SP-105 | 第46回 | D-6 | 無 | 不整形 | 80 | 38 | 44 | | | |
| SP-106 | 第46回 | D-6 | 無 | 円形 | 33 | 30 | 48 | | | |
| SP-107 | 第46回 | E-6 | 無 | 不整形 | 51 | 48 | 28 | | | |

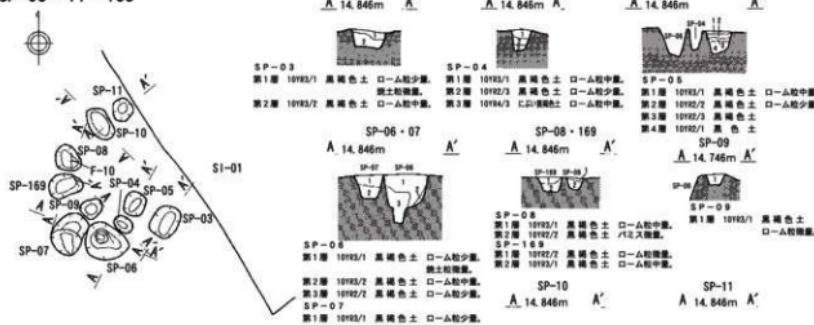
| 遺物番号 | 図版番号 | 位 置 | 重複 | 平面形 | 規模(cm) | | | 出 土 遺 物 | 帰属時期 | 備 考 |
|--------|------|--------|--------------------|-----|--------|----|----|---------|------|---------------|
| | | | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | |
| SP-108 | 第49回 | E-5・6 | 無 | 円形 | 66 | 61 | 56 | | | |
| SP-109 | 第49回 | E-6 | 無 | 円形 | 40 | 33 | 30 | | | |
| SP-110 | 第49回 | E-6 | 無 | 円形 | 29 | 29 | 24 | | | |
| SP-111 | 第49回 | F-5 | 無 | 橢円形 | 17 | 15 | 20 | | | |
| SP-112 | 第49回 | F-5 | 無 | 不整形 | 33 | 30 | 14 | | | |
| SP-113 | 第49回 | F-5 | 無 | 不整形 | 46 | 36 | 26 | | | |
| SP-114 | 第49回 | F-5 | 無 | 円形 | 31 | 28 | 16 | | | |
| SP-115 | 第49回 | F-5 | 無 | 円形 | 32 | 28 | 30 | | | |
| SP-116 | 第49回 | F-5 | 無 | 橢円形 | 46 | 28 | 46 | | | |
| SP-117 | 第49回 | F-5 | 無 | 不整形 | 47 | 40 | 70 | | | |
| SP-118 | 第50回 | F-5 | 無 | 不整形 | 34 | 33 | 67 | | | |
| SP-119 | 第50回 | F-4・5 | 無 | 円形 | 32 | 31 | 40 | | | |
| SP-120 | 第50回 | F・G-4 | 無 | 橢円形 | 40 | 31 | 40 | | | |
| SP-121 | 第50回 | G-4 | 無 | 不整形 | 56 | 36 | 43 | | | |
| SP-122 | 第50回 | G-5 | 無 | 円形 | 17 | 16 | 53 | | | |
| SP-123 | 第50回 | G-5 | 無 | 円形 | 26 | 24 | 18 | | | |
| SP-124 | 第50回 | G-5 | 無 | 不整形 | 80 | 72 | 46 | | | |
| SP-125 | 第50回 | G-5 | 無 | 円形 | 34 | 31 | 31 | | | |
| SP-126 | 第50回 | G-5 | 無 | 不整形 | 55 | 38 | 52 | | | |
| SP-127 | 第50回 | G-5 | 無 | 不整形 | 72 | 50 | 51 | | | |
| SP-128 | 第50回 | G-5 | 無 | 不整形 | 60 | 57 | 54 | | | |
| SP-129 | 第50回 | G-5 | 無 | 円形 | 24 | 20 | 23 | | | |
| SP-130 | 第50回 | H-9 | 無 | 円形 | 26 | 25 | 36 | | | |
| SP-131 | 第50回 | H-1・9 | 無 | 円形 | 32 | 20 | 44 | | | |
| SP-132 | 第50回 | H-9 | 無 | 不整形 | 61 | 53 | 80 | | | |
| SP-133 | 第50回 | I-9 | SP-133>SP-134 | 円形 | 45 | 29 | 27 | 土師器壺 | 平安時代 | |
| SP-134 | 第50回 | I-9 | SP-133>SP-134 | 円形 | 60 | 54 | 28 | | | |
| SP-135 | 第50回 | I-9 | 無 | 円形 | 40 | 34 | 21 | | | |
| SP-136 | 第50回 | I-9・10 | 無 | 円形 | 40 | 33 | 19 | | | |
| SP-137 | 第50回 | I-9 | 無 | 円形 | 50 | 49 | 24 | | | |
| SP-138 | 第50回 | I-10 | 無 | 不整形 | 42 | 30 | 21 | | | |
| SP-139 | 第50回 | I-9・10 | 無 | 不整形 | 42 | 38 | 30 | | | |
| SP-140 | 第50回 | I-10 | 無 | 円形 | 37 | 28 | 22 | | | |
| SP-141 | 第50回 | I-10 | 無 | 円形 | 22 | 20 | 5 | | | |
| SP-142 | 第50回 | H-8 | 無 | 円形 | 36 | 33 | 30 | 土師器壺 | 平安時代 | |
| SP-143 | 第50回 | I-9 | 無 | 不整形 | 61 | 55 | 14 | | | |
| SP-144 | 第50回 | I-9 | 無 | 不整形 | 30 | 24 | 21 | | | |
| SP-145 | 第50回 | I-9 | 無 | 円形 | 23 | 18 | 25 | | | |
| SP-146 | 第50回 | I-9 | 無 | 円形 | 80 | 68 | 10 | | | |
| SP-147 | 第48回 | H-7 | SI-12<SP-147 | 方形 | 38 | 36 | 30 | | | |
| SP-148 | 第43回 | G-10 | 無 | 不整形 | 65 | 50 | 52 | | | 南壁がオーバーハングする。 |
| SP-149 | 第48回 | G-8 | SI-01<SP-149 | 不整形 | 28 | 24 | 18 | | | |
| SP-150 | 第48回 | E・F-9 | SI-01<SP-150 | 円形 | 28 | 26 | 12 | | | |
| SP-151 | 第45回 | E-8 | SP-151<SP-32・SP-34 | 不整形 | 20 | 16 | 23 | | | |
| SP-152 | 第45回 | E-8 | SP-31>SP-30>SP-152 | 不整形 | 38 | 22 | 30 | | | |
| SP-153 | 第46回 | D-7 | 無 | 不整形 | 70 | 39 | 30 | | | |
| SP-154 | 第45回 | E-8 | SP-154<SP-54>SP-49 | 不整形 | 56 | 38 | 31 | | | |
| SP-155 | 第47回 | F-7 | 無 | 不整形 | 30 | 10 | 26 | | | |
| SP-156 | 第47回 | F-7 | SP-66>SP-156 | 不整形 | 39 | 37 | 25 | | | |
| SP-157 | 第48回 | F-9 | SI-01<SP-157 | 円形 | 21 | 20 | 21 | | | |
| SP-158 | 第44回 | E-8 | SP-39>SP-158 | 不整形 | 32 | 20 | 28 | | | |
| SP-159 | 第45回 | E-8 | SP-159>SP-48 | 不整形 | 36 | 24 | 36 | | | |
| SP-160 | 第43回 | F-7 | SP-63>SP-160 | 円形 | 46 | 36 | 32 | | | |
| SP-161 | 第49回 | F-5 | 無 | 円形 | 55 | 23 | 24 | | | |

| 遺構番号 | 図版番号 | 位 置 | 重 複 | 平面形 | 規模(cm) | | | 出 土 遺 物 | 帰属時期 | 備 考 |
|--------|------|------|---------------|-----|--------|----|----|---------|------|-----|
| | | | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | |
| SP-162 | 第45図 | F-6 | 無 | 円形 | 24 | 22 | 32 | | | |
| SP-163 | 第47図 | F-7 | 無 | 円形 | 24 | 23 | 14 | | | |
| SP-164 | 第48図 | F-8 | SK-09<SP-164 | 円形 | 20 | 15 | 40 | | | |
| SP-166 | 第48図 | G-8 | SI-01<SP-166 | 円形 | 16 | 15 | 12 | | | |
| SP-167 | 第48図 | G-8 | SI-01<SP-167 | 円形 | 21 | 19 | 14 | | | |
| SP-168 | 第46図 | D-7 | SI-03<SP-168 | 円形 | 28 | 26 | 28 | | | |
| SP-169 | 第43図 | F-10 | 無 | 不整形 | 49 | 29 | 14 | | | |
| SP-170 | 第49図 | C-5 | 無 | 円形 | 26 | 20 | 18 | | | |
| SP-171 | 第46図 | E-8 | SP-153>SP-171 | 円形 | 30 | 32 | 26 | | | |

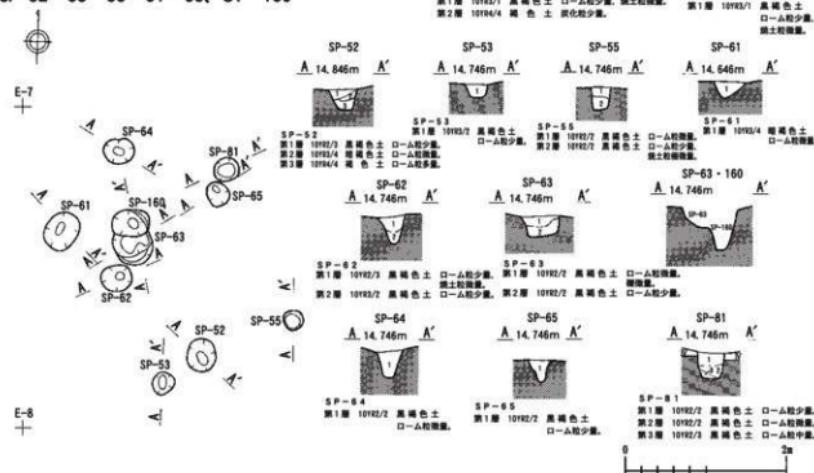
SP-01・02・148



SP-03~11・169

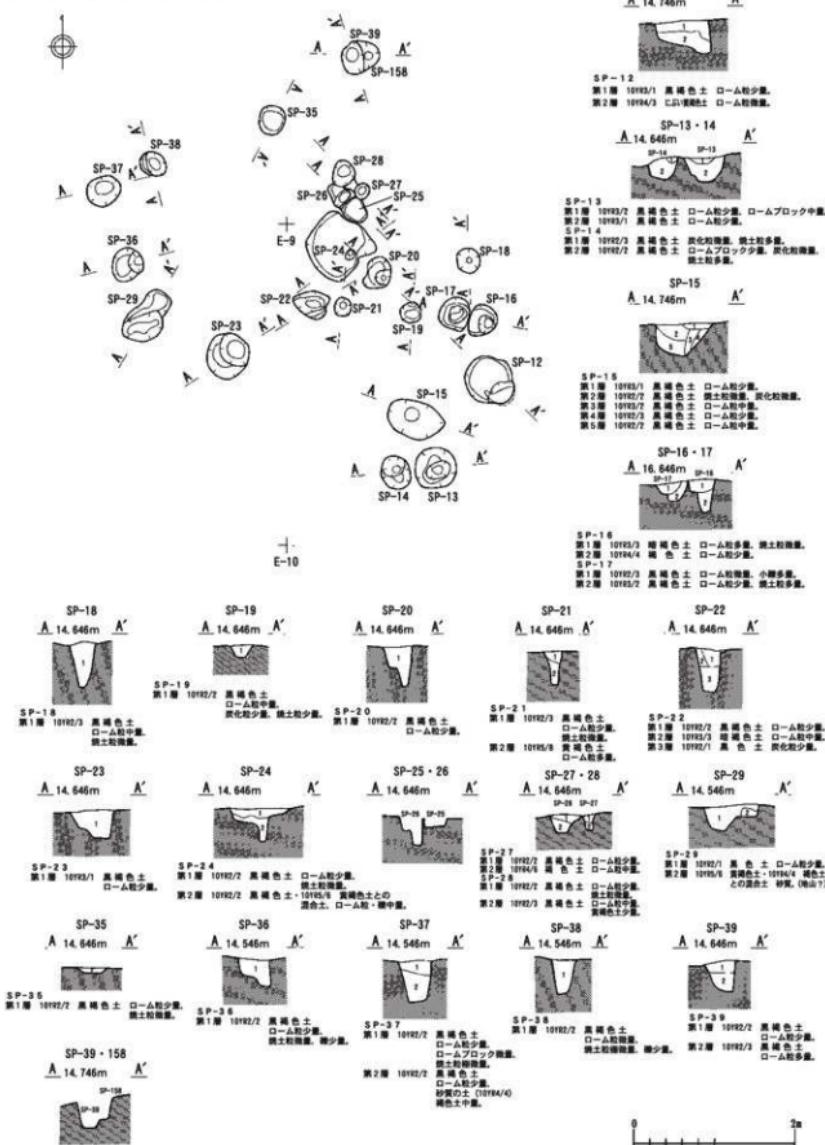


SP-52・53・55・61~65、81・160

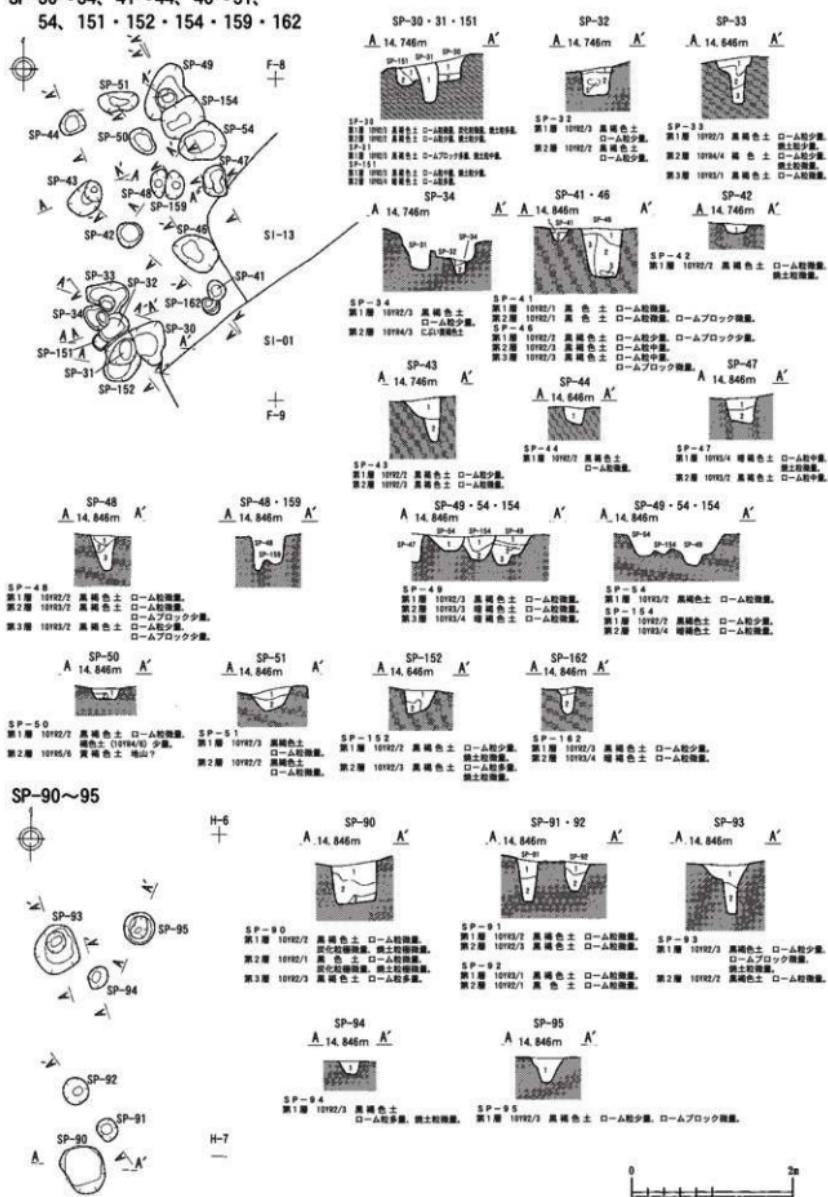


第43図 SP-01~11、52・53・55・61~65、81・148・160・169

SP-12~29、35~39、158

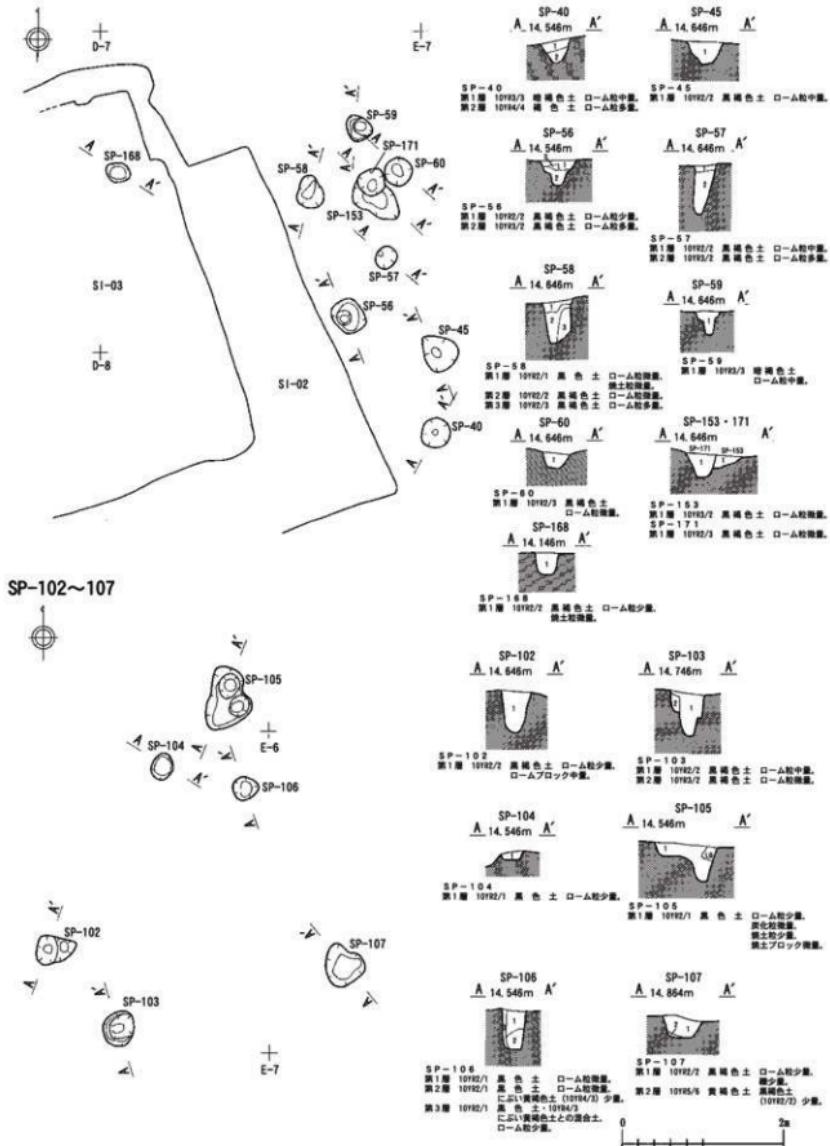


第44図 SP-12~29、35~39、158



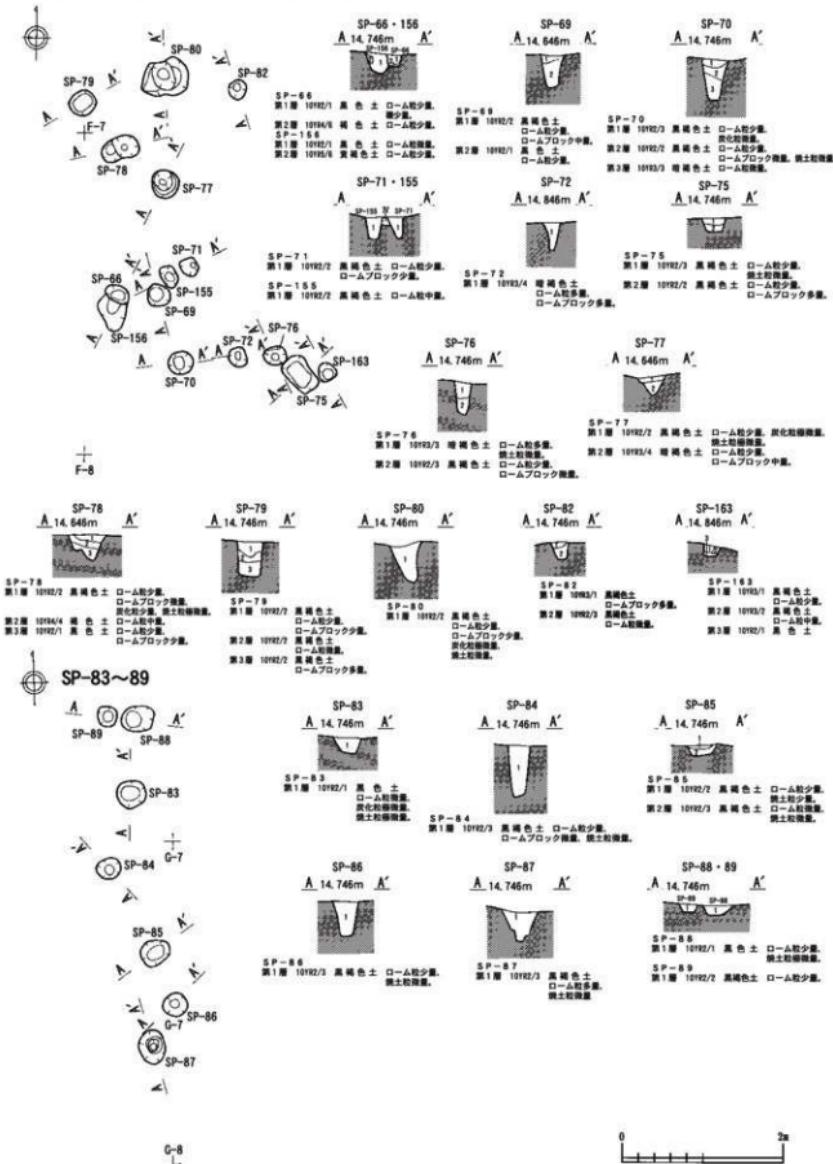
第45図 SP-30~34、41~44、46~51、54、90~95、151・152・154・159・162

SP-40、45、56~60、153、168、171



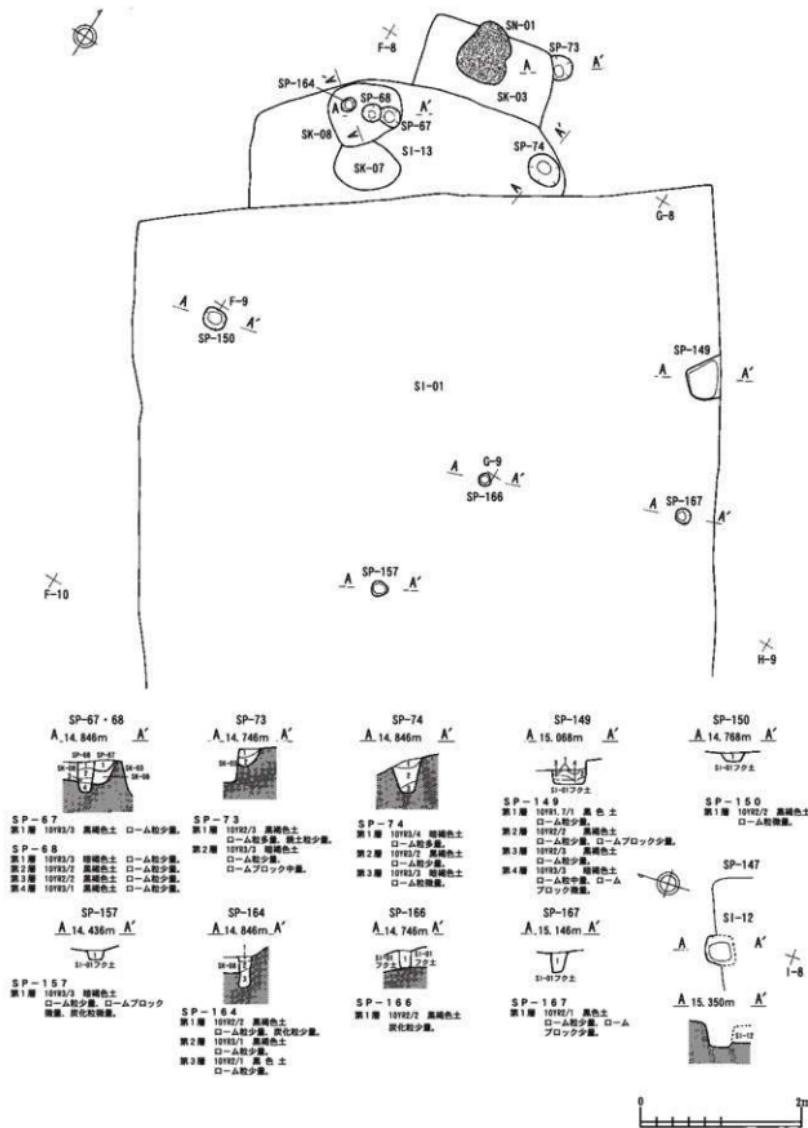
第46図 SP-40、45、56~60、102~107、153、168、171

SP-66、69~72、75~80、82~89、155、156・163



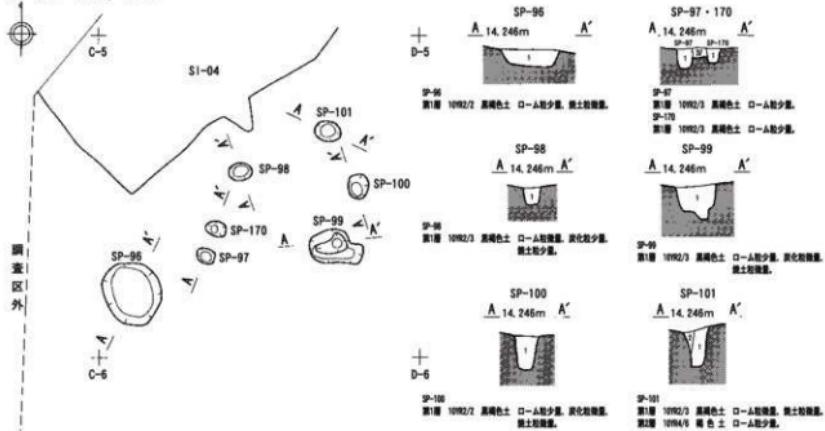
第47図 SP-66、69~72、75~80、82~89、155、156・163

SP-67・68、73・74、147、149・150、157、164、166、167



第48図 SP-67・68、73・74、147、149・150、157、164、166、167

SP-96~101, 170



SP-108~117, 161

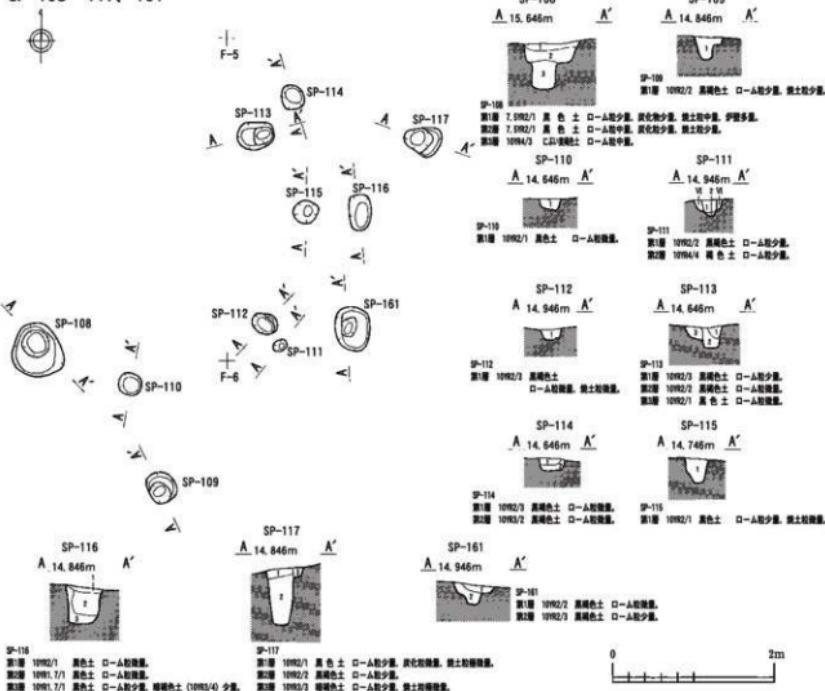
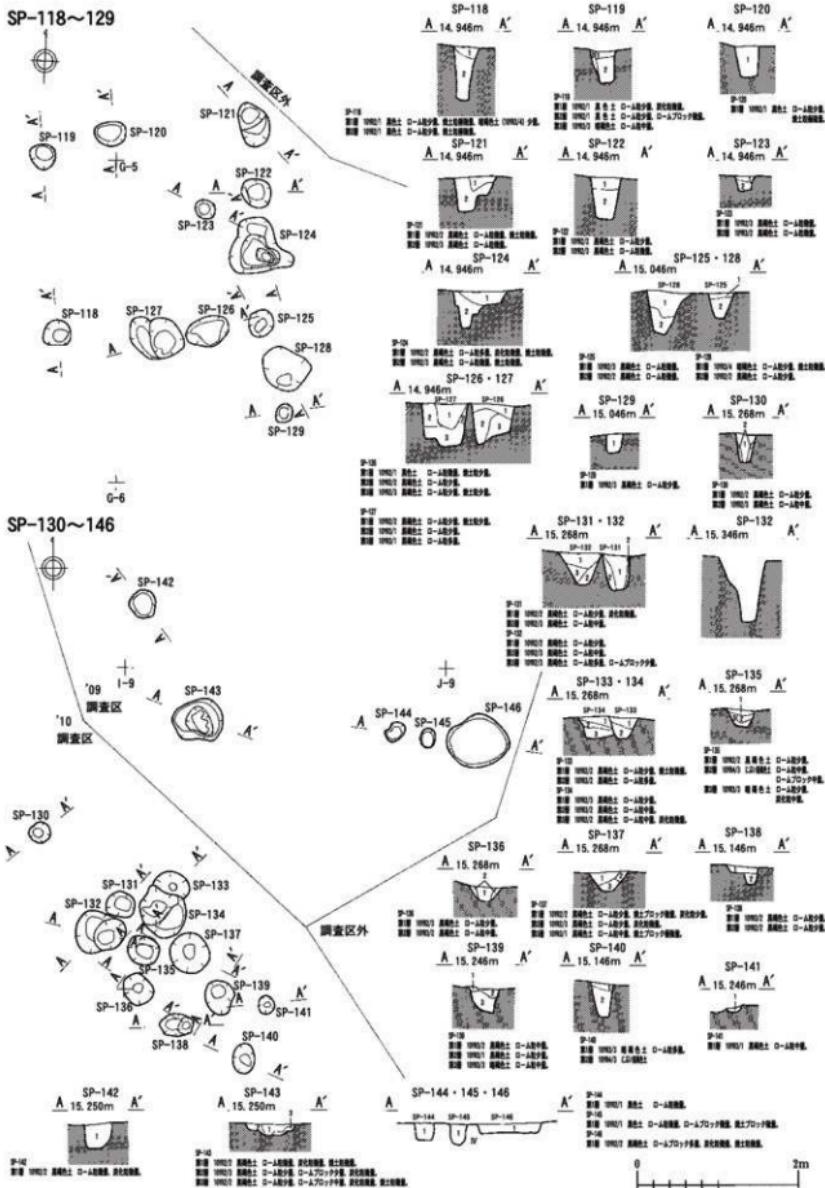
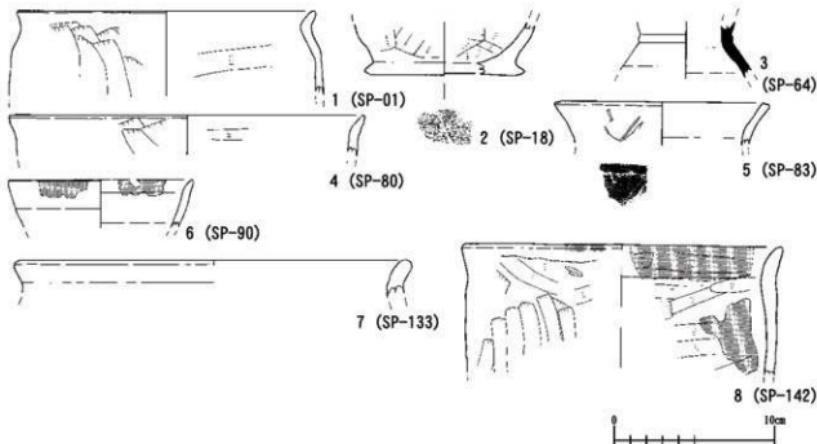


図49 SP-96~101, 108~117, 161, 170



第50図 SP-118~146



第51図 遺構内出土遺物 (SP)

6. 遺構外出土遺物

遺構外からは縄文時代早期から近代と考えられる遺物が出土しており、その中でも平安時代を主体とする。

1. 土器

・縄文土器 (第52図 1~31)

1~6は縄文時代早期の物見台式土器と考えられる土器である。1は口縁部破片で、波状口縁を呈し、貝殻腹縁文と沈線が施されている。2・3は胴部の破片で、沈線と貝殻腹縁文が施されており、3は内面にミガキが施されている。4~6は胴部の資料で、貝殻腹縁文が施され、6の内面には貝殻によるミガキが施されている。7~15は前期~中期と考えられる胴部破片である。すべて単節の縄文が施されており、15はRL施文後、RL結節回転文が施されている。17・18・19は中期の土器で、いずれも大木10式併行の土器と考えられる。17は口縁部にRL、その下にはLRを施文し、沈線で区画した部分を擦り消している。18・19も同様で、RL施文後、沈線で区画した部分を擦り消している。29は明確な時期は不明であるが、中期後葉~後期初頭に帰属すると考えられる。折返口縁で、器面にRLが施されている。16、20~30は後期の土器である。16、20~24、27は十腰内I式と考えられる土器で、沈線によって文様が施されている。26、28、30は後期後葉~晩期初頭と考えられる土器である。十腰内V式土器と考えられる。26は深鉢の口縁部破片で、RLが施されている。28は口縁部の破片で、沈線で区画された部分にヘラ状工具によると考えられる刺突と粘土粒が貼り付けられている。30は鉢の胴部と考えられる破片で、上段はLRの地文の上に沈線が施され、下段は沈線による区画の間に刺突列と粘土粒が貼り付けされている。31は時期不明の土器で、口唇に棒状工具の圧痕が施され、口縁部には沈線が2条施されている。

・平安時代の土器 (第52~56図32~108)

32~47は土師器坏である。黒色処理されたものは33~39である。39・40は胴部下半の部分で、ロクロ

ナデによる稜の幅が狭くなっている。42は口径18.6cm、器高は残存部分で8.1cmと他の15点に比べてかなり大型の資料である。全体的に器形をみると、32・33、35～37、40は底部付近から丸みを帯びて立ち上がり、34、36、38～40は直線的に立ち上がる。42・43は口縁部に大きなくびれをもつ資料である。底部の資料は、47は底径が5.2cmとやや小さめでそのほかの44～46は6cm程度である。48は土師器の小甕でヘラケズリによって調整されている。49～83は土師器甕である。34点のうち、ロクロ成形のものは75の1点のみである。口縁部は短いものがほとんどで、口縁部にくびれをもつものが51・52、56・57、60、62、65、67、69～71、75のように多い。66は内面に部分的にススが付着している。底部の資料では、81～83は底面にヘラナデが施され、84は網代痕をもつ。80は壺と考えられる資料で、内面はヘラミガキが施され黒色処理されている。85～95は擦文土器である。85～92は甕の口縁部資料、93～95は甕の胴部～底部の資料である。85・86はハケメの上から、沈線によって、鋸齒状文が施されている。87は沈線によって区画された部分に刻目が3段施されている。88は全面にハケメが施され、その上に沈線によって段が施されている。89は沈線によって区画された間に刺突が施されている。90は沈線によって渦巻文と鋸齒状文が施されている。91は小破片で、ハケメの上に粘土帯を貼付し、その上に渦巻文が施されている。92はハケメの上に鋸齒状文を施し、口縁部と胴部の境に粘土帯を貼付し渦巻文を施している。93～95はハケメが施されており、93は底部に網代状の圧痕が認められる。96は製塙土器で、ヘラナデやナデによつて調整されている。97～108は須恵器である。97・98は底部を欠いた坏の資料で、98には火燐痕が認められる。97はロクロナデによる稜が明瞭な資料である。99は小型の壺と考えられる。100～103・107は壺である。101・102は甕の口縁部の資料で、両者ともに比較的頸部が太めの資料である。103は壺の胴部の資料である。103は甕の口縁部～肩部の資料で、頸部には刻書が認められ、頸部と肩部の境には粘土帯が認められる。107は壺の肩部～底部の資料で、ロクロナデの上にヘラケズリが施されている。104～106は甕である。いずれも胴部の資料で、タタキが施されている。

・中世以降の土器（第56図109～112）

109は甕の底部と考えられる資料である。110は底部と考えられる資料で、いくつもの穿孔がされていたと考えられ、瓶等の用途が考えられる。111・112は近・現代の徳利と考えられる資料で、酒や醤油等を入れたものと考えられる。112には屋号とも考えられる部分もみられる。これらは本遺跡に存在する熊野宮の祭礼等に関連する可能性も考えられる。

2. 石器（第57図1～11）

1～3は剥片石器、4～11は砾石器である。1は縦長の剥片で両側縁が刃部となっている。2はやや厚みのある剥片で下端が刃部となっている。3は石箒の上端が欠損した資料で、片刃である。細かい剥離によって調整されている。4・5はタタキが認められる資料で、4は表面・裏面・側面に認められ、5は表面のみに認められる資料である。6・7は砥石と考えられる資料で、6は側面下端に砥面が認められるほか、全面に鉄の付着が認められる。7は表面に砥面が認められ、裏面にはタタキが認められる。8は石皿と考えられる破片で表面に磨りが認められる。9は柱状節理の石で角の部分を面取りするように磨りが施されている。10はくぼみ石で、表裏面にくぼみが認められる。11は用途不明の石器で、表面の下端に剥離が認められ、皮なめし等の可能性が考えられる。

3. 土製品（第58図1～3）

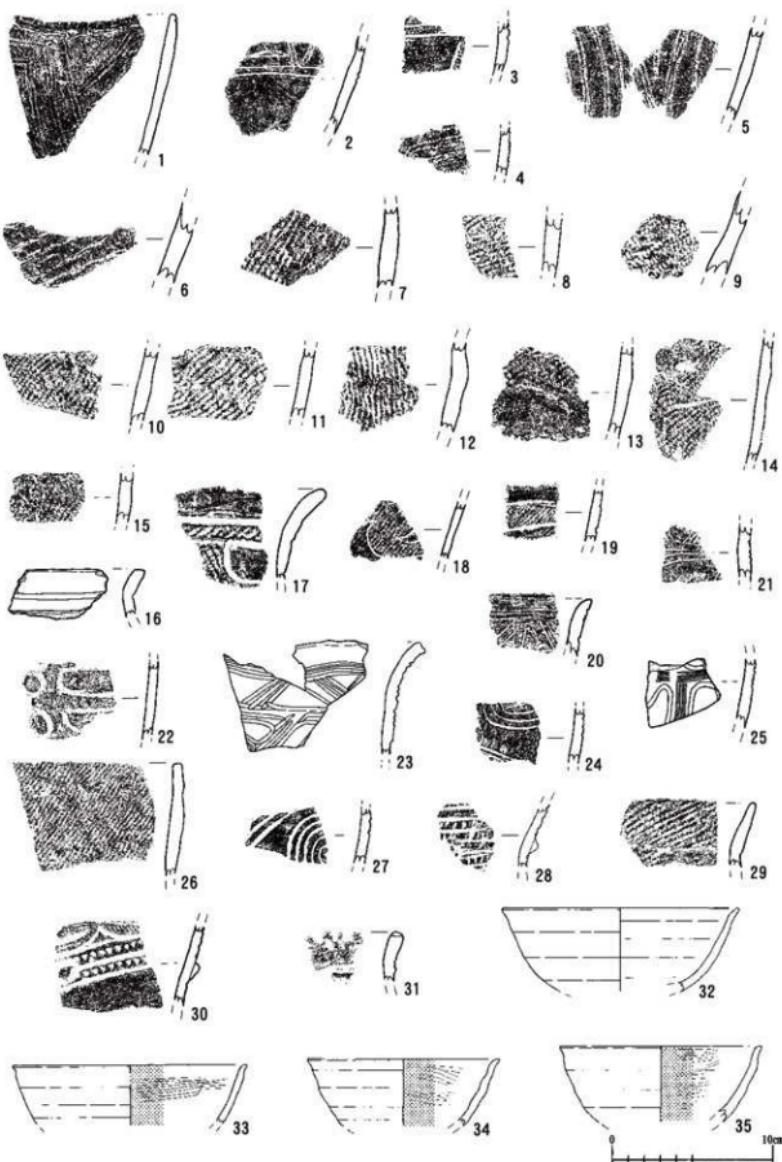
1は土器片利用土製品で、後期前葉の土器を利用したと考えられ、沈線が施されている。2・3は焼成粘土塊で両者ともにヘラ状工具によるナデと考えられる細かい調整が認められる。

4. 鉄製品（第58図4～6）

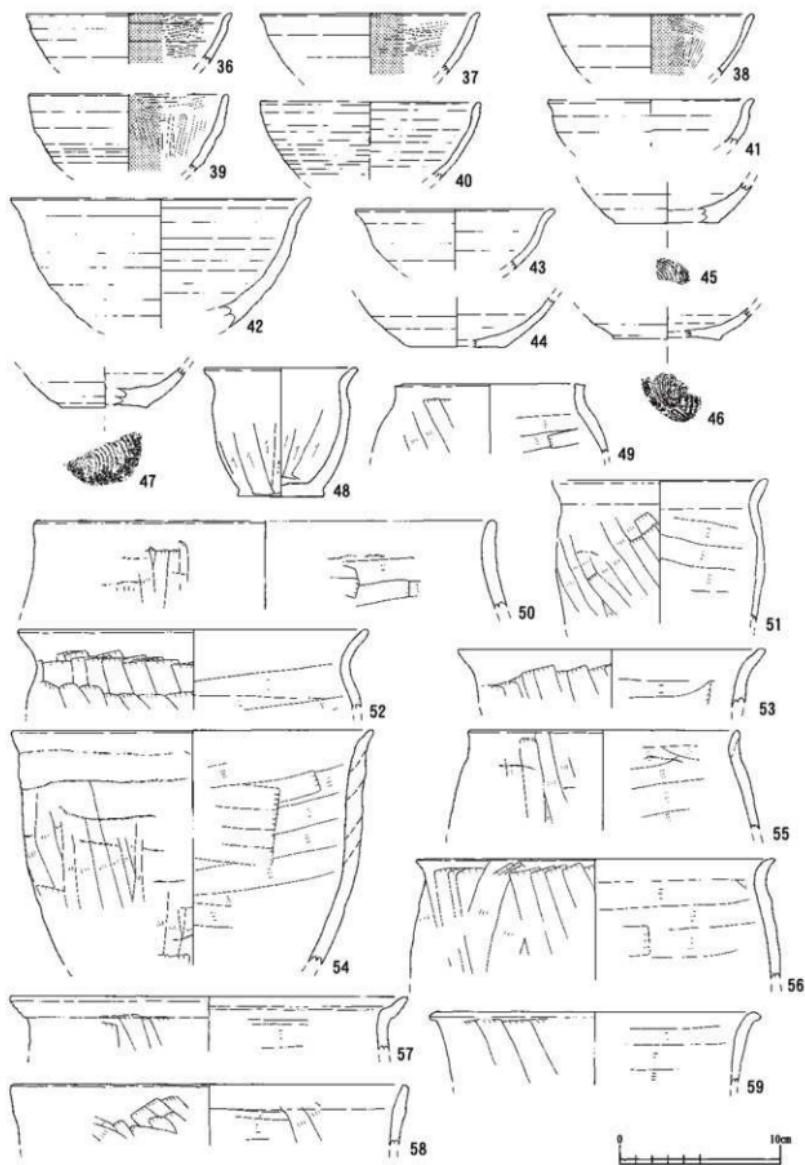
4は紡錘車の軸と紡輪を一部欠損した資料である。軸は断面方形で先端から末端にかけてやや太くなっている。5・6は棒状鉄製品で、両者とも断面方形を呈する。6よりも5のほうが太めの資料である。

5. 鉄滓・羽口（第59図1～9）

1～5、7は鉄滓、6、8・9は羽口である。1～5は楕形鍛治滓である。1・2はやや大型の楕形鍛治滓で、1は一部欠損し、2は完形である。2は細かい木炭が全体に付着している。3～5はやや小型の鉄滓である。4は全体に細かい木炭が付着している。7は楕形滓である。6はやや怪の小さい羽口である。8は外面に簾状の圧痕があり、成形時に簾状のもので巻いたと考えられる。



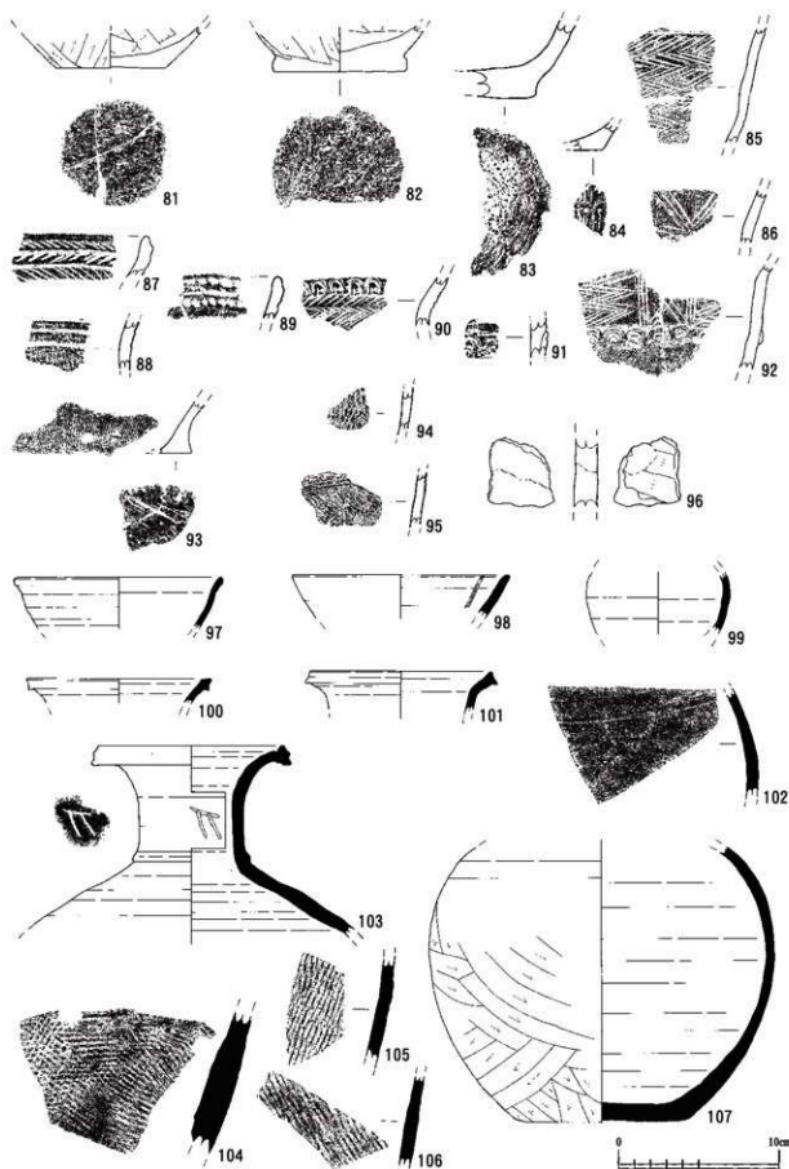
第52図 遺構出土土器①



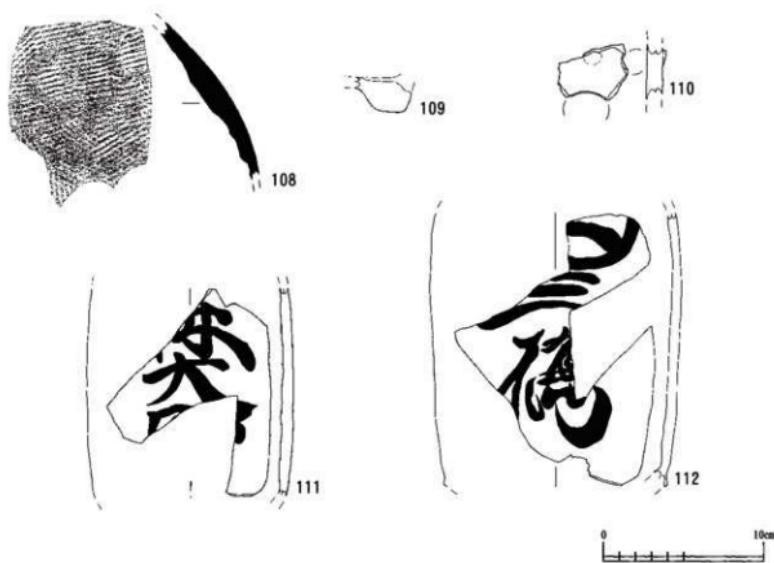
第53図 遺構外出土土器②



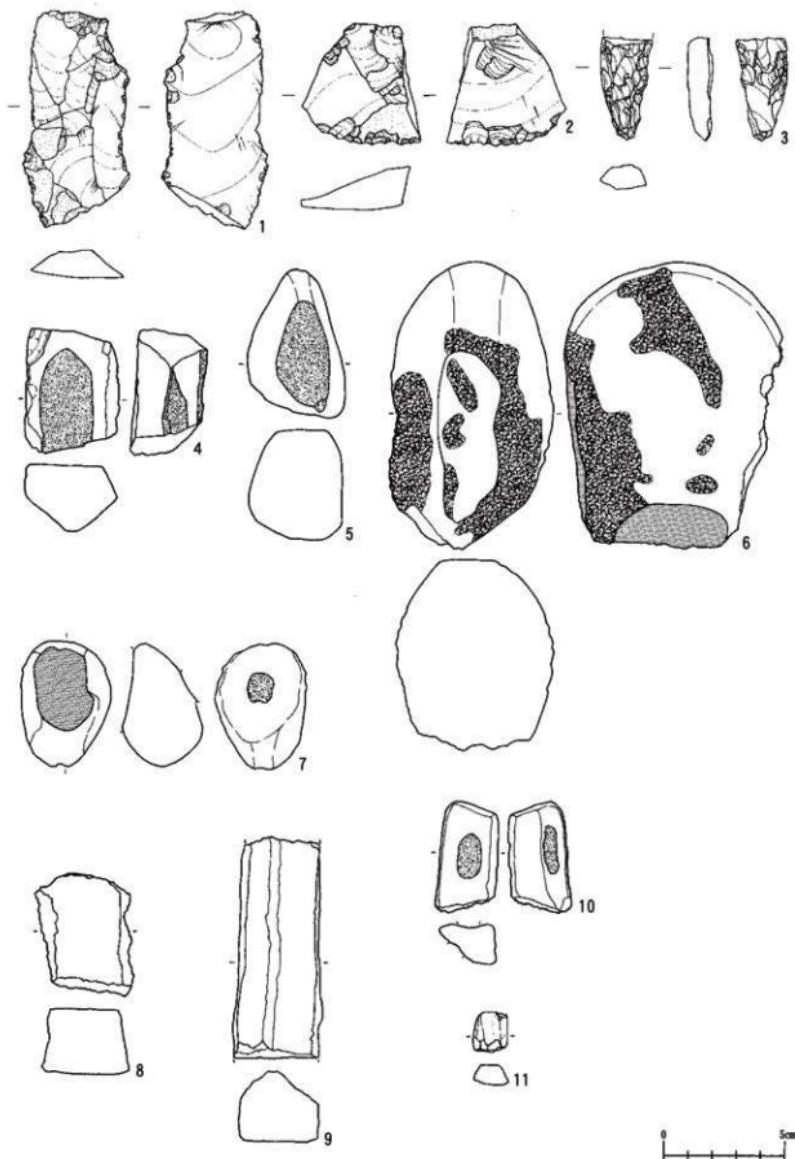
第54図 遺構出土土器③



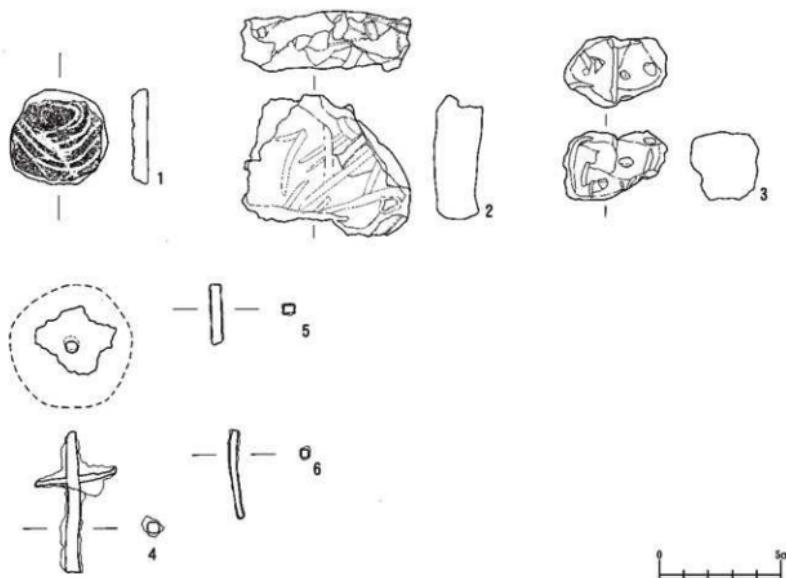
第55図 遺構出土土器④



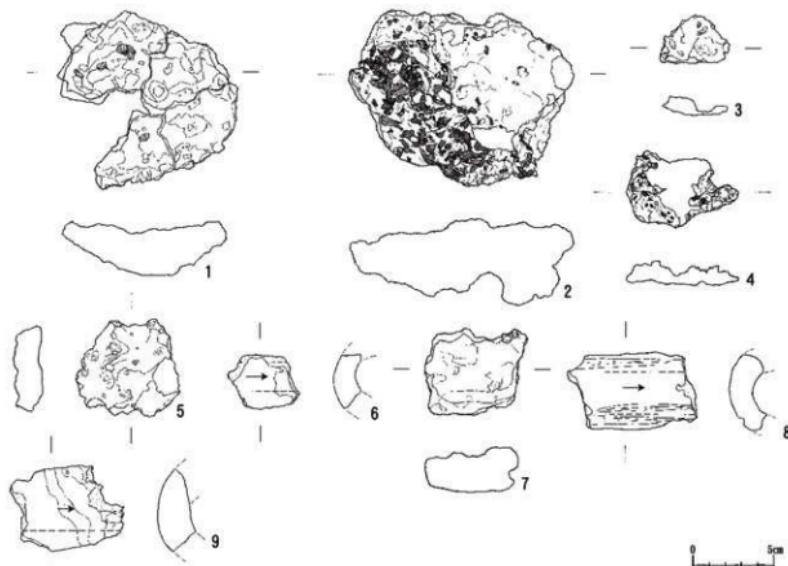
第56図 遺構外出土土器⑤



第57図 遺構外出土石器



第58図 遺構外出土土製品・鉄製品



第59図 遺構外出土鐵器類遺物

第IV章 南郭の調査

第1節 検出遺構と出土遺物

1. 土坑

S K - 06 (第60図)

F - 18・F - 19グリッドに位置している。平面は円形を呈していると考えられ、規模は $240 \times 223 \times 79\text{cm}$ を測る。断面はやや角度をもって立ち上がる。S D - 02と重複しており、新旧関係は S K - 06 < S D - 02である。堆積土は2層に分層し、黒褐色土を主体とする土層が堆積しており、人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかつたため、帰属時期は不明であるが、S D - 02との新旧関係から平安時代と考えられる。

S K - 09 (第60図)

G - 18グリッドに位置している。平面は不整形を呈し、規模は $162 \times 92 \times 98\text{cm}$ を測る。断面はほぼ垂直に立ち上がる。S D - 02と重複しており、新旧関係は S K - 09 > S D - 02である。遺物は出土しなかつたため、帰属時期は不明であるが、S D - 02との新旧関係から平安時代と考えられる。

2. 堀跡

S D - 01 (第60図)

G・H・I - 13グリッドに位置している。西郭と南郭の間に位置する空堀で横内川へ注いでいたと考えられる。調査期間内で終了することができず、トレンチを2ヶ所設置して調査を実施した。トレンチで検出した部分の間の規模は、長さ 670cm で、幅は上端で 385cm 、下端で 212cm を測り、深さ $135 \sim 190\text{cm}$ を測る。壁面は $55 \sim 65^\circ$ の角度で立ち上がり、底面はほぼ平坦で箱堀の形状を呈する。トレンチ1の底面には幅 57cm 、深さ 38cm の落ち込みが認められ、S D - 02と同様に上段と下段の2段の溝が存在していた可能性が考えられる。トレンチ2においては、南側に溝状の落ち込みが認められ、2条存在していた可能性も考えられる。堆積土は7層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積している。上層はロームや焼土粒などが混入しており、人為堆積と考えられるが、下層は自然堆積と考えられる。遺物は土師器甕1点、擦文土器2点、須恵器壺1点、かわらけ2点、青磁皿1点が出土した(第62図1~7)。1は土師器甕の口縁部破片でヘラナデによって調整されている。2は擦文土器甕の底部資料、7は擦文土器甕の口縁部~胴部の資料である。2はハケメによって調整されている。7は外面全面にハケメが施された後、沈線によって文様が施され、粘土帯の上に沈線で文様が施されている。3は須恵器壺でロクロナデによって成形されている。外面には火燐痕が認められ、底部はヘラケズリが施されている。4・5はかわらけで4はやや器高の低い資料で、5は器高の高い資料である。両者ともに手づくねにより成形され、口縁部付近や内面はヘラナデによって調整されている。6は青磁皿で巻き上げによって成形され、ロクロナデによって調整されている。外面には輪積み痕が認められる。本遺構の帰属時期は出土土器から12世紀後葉~13世紀前葉と考えられる。

S D - 02 (第61図)

E ~ K - 16~22グリッドに位置している。南郭西側で検出した堀で、外堀として本遺跡全体を巡っていた可能性が考えられる。S K - 06とS K - 09と重複しており、新旧関係は S K - 06・S K - 09 > S D - 02である。

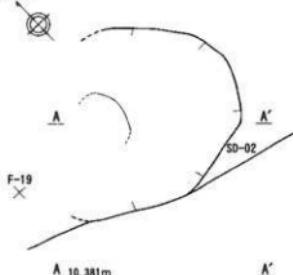
S D-01と異なり、溝全体が埋没した状況を呈していた。調査期間内で終了することができず、検出した部分の規模は長さ3,369cmで、幅は上端で543cm、下端で367cmを測り、深さ74cmを測る。壁面は約70°の角度で立ち上がる。底面には断面箱型の溝がもう1段存在しており、その上面には底面と同じレベルにロームを主体とする7層があり、固く閉まっていることから、ある時点で細い溝が埋めもどされ、上段の溝のみ使用されたと考えられ、複数の時期にわたって使用されたと考えられる。下段の溝以外の底面はほぼ平坦で断面は箱型の形状を呈する。本遺構の底面は、前述の2段の溝のほか、土坑状の落ち込みが2~3ヶ所認められ、区画のための機能だけでなく、他の機能もあった可能性がある。堆積土は18層に分層した。黒褐色土・にぶい黄褐色土を主体とする土層が堆積している。全体にローム等が混入しており、人為堆積と考えられる。遺物は土師器壺12点、土師器甕21点、把手付土器2点、製塙土器5点、擦文土器甕14点、須恵器壺1点、須恵器壺3点、須恵器甕4点が出土した(第62~64図8~69)。土師器壺は12点のうち黒色処理された壺は1点(16)のみである。16は口縁部を欠いた資料で底部付近から垂直に近い形で立ち上がる。口縁部から胴部上半までの資料がほとんどであるため、器形は不明な点が多いが、口縁部が外反し、直線的に立ち上がるものが多いと考えられる。18は墨書きのある壺で、内面には指頭圧痕が認められる。甕はすべて非クロコである。器形は口縁部が短いもので、胴部については強く丸みを帯びるのは少なく、口縁部付近でくびれをもつものが多く、17、22~24、26・27、29・30、32~34、36、39がある。40は土師器甕と考えられ、内外面とともにロクロナデによって調整されている。41・42は把手付土器の把手部分でヘラケズリによって調整されている。43~46、49は製塙土器で、43~46は胴部破片、49は底部の破片である。49は底部に杼目痕が認められる。47・48、50~61は擦文土器で、47・48、50~59は口縁部の資料である。47・48、51は横走沈線を施した上に刻目が2~3段施されている。51はハケメが施されている。50、52、54は口縁部と胴部の境に粘土帯をもつもので、地文としてハケメを施し、その上に粘土帯を貼り付けし、粘土帯に沈線による渦巻文、その上部に沈線文を施している。53は地文としてハケメを施し、その上に沈線により鋸歯状文を施しており、粘土帯の位置に2条の沈線と円形の粘土を貼り付け、沈線による渦巻文を施している。55は小甕と考えられる資料で、口縁部は沈線による刻目、鋸歯状文、横走沈線が施され、胴部にはハケメが施されている。56~59は口縁部資料で口縁部には2~3条の横走沈線が施され、胴部と内面にはハケメが施されている。60・61は底部の資料で、ハケメが施されている。62~69は須恵器で、62は壺、63、65・66、68は甕、67・69は甕と考えられる。第65図2は石製品と考えられる。2は敲石で先端にタタキが認められる。板状を呈し、沈線で文様が施されている。3は板状を呈し、粘土の離ぎ目が認められ、ヘラナデによって調整されている。第67図1、3・4は鉄滓。1は楕円形鍛冶滓、3・4は製錬系の流动滓である。2、5~7は羽口である。7は表面に簾状の圧痕が認められる。本遺構の帰属時期は出土遺物から10世紀後葉~11世紀前葉と考えられる。

3. ピット

S P-165 (第61図)

K-20グリッドに位置している。平面は円形を呈しており、規模は24×22×19cmを測る。断面は東側がほぼ垂直に立ち上がり、西側は緩やかに立ち上がる。堆積土は2層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積しており、自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかったため、帰属時期は不明である。

SK-06

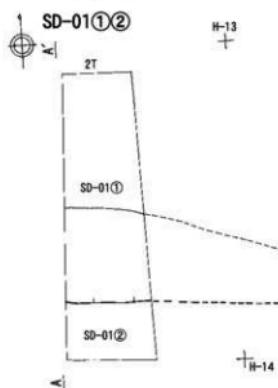
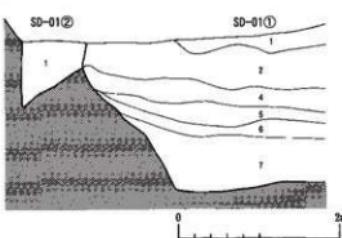
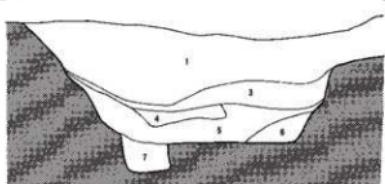
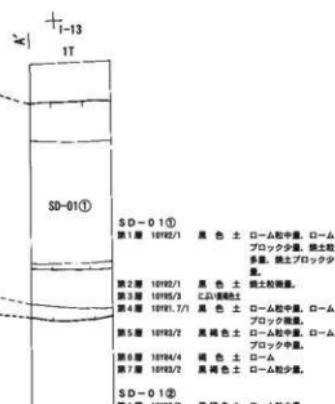


SK-09

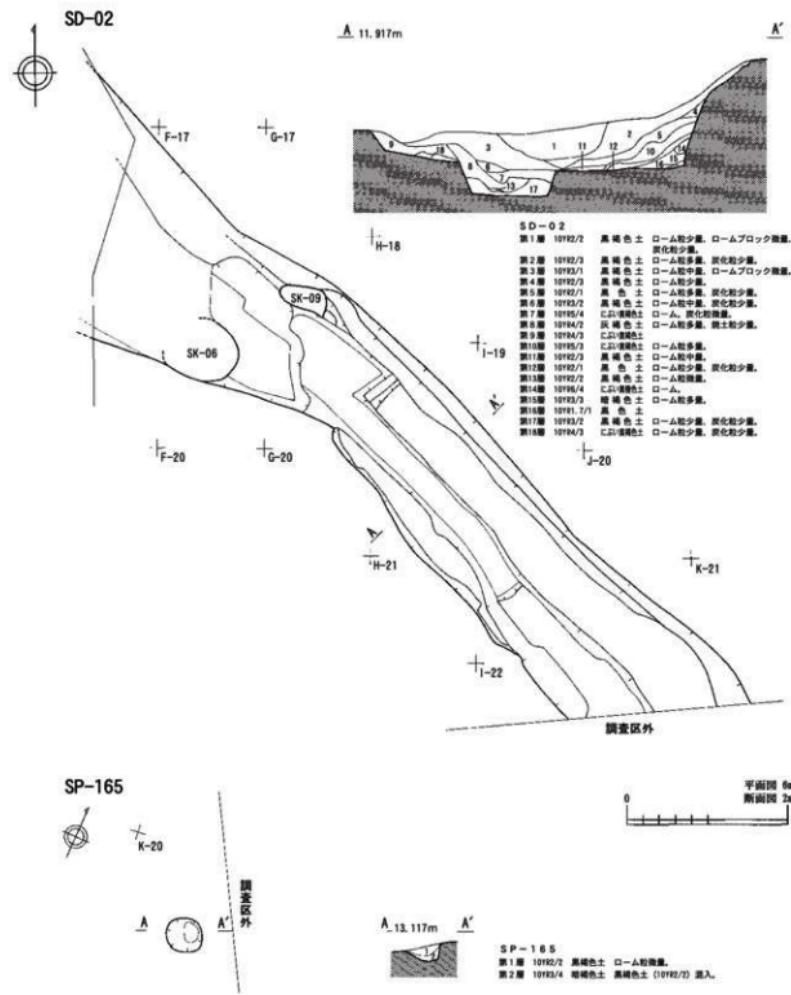


第IV章 南部の測定

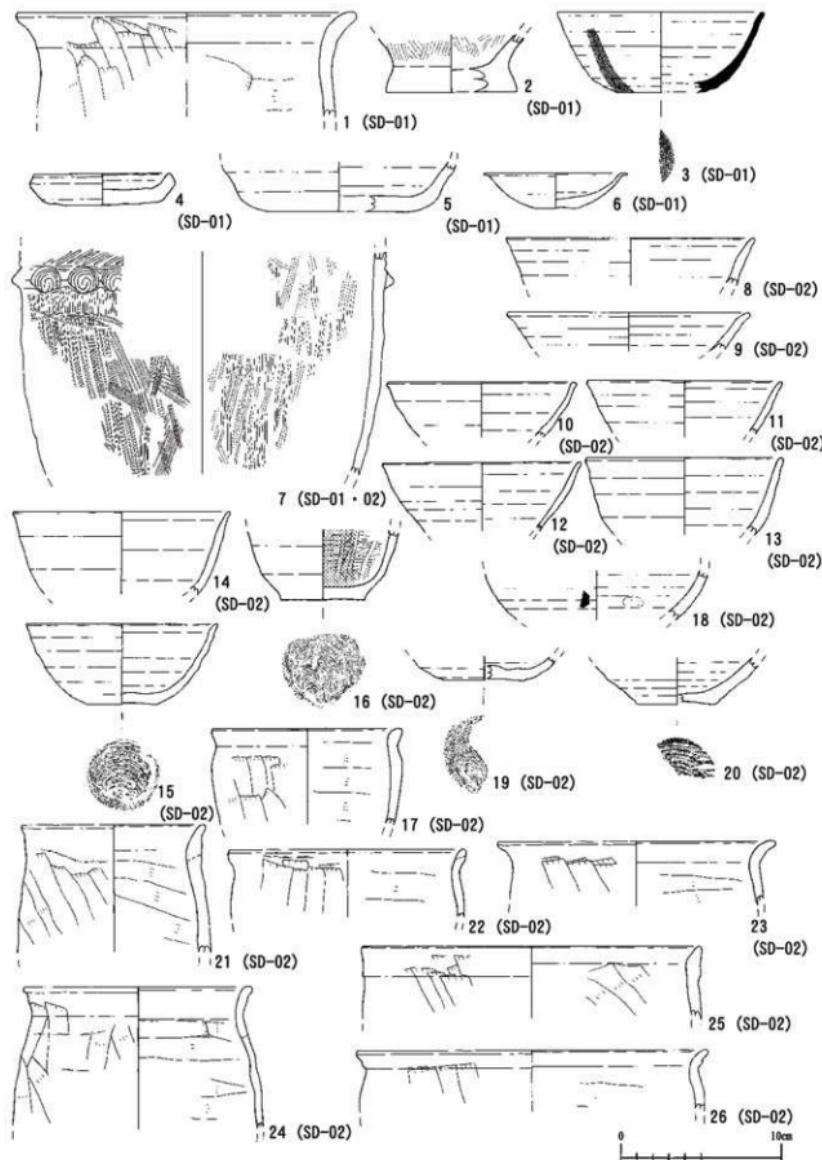
- G-18

SD-01①・② A
A' A 11.46m

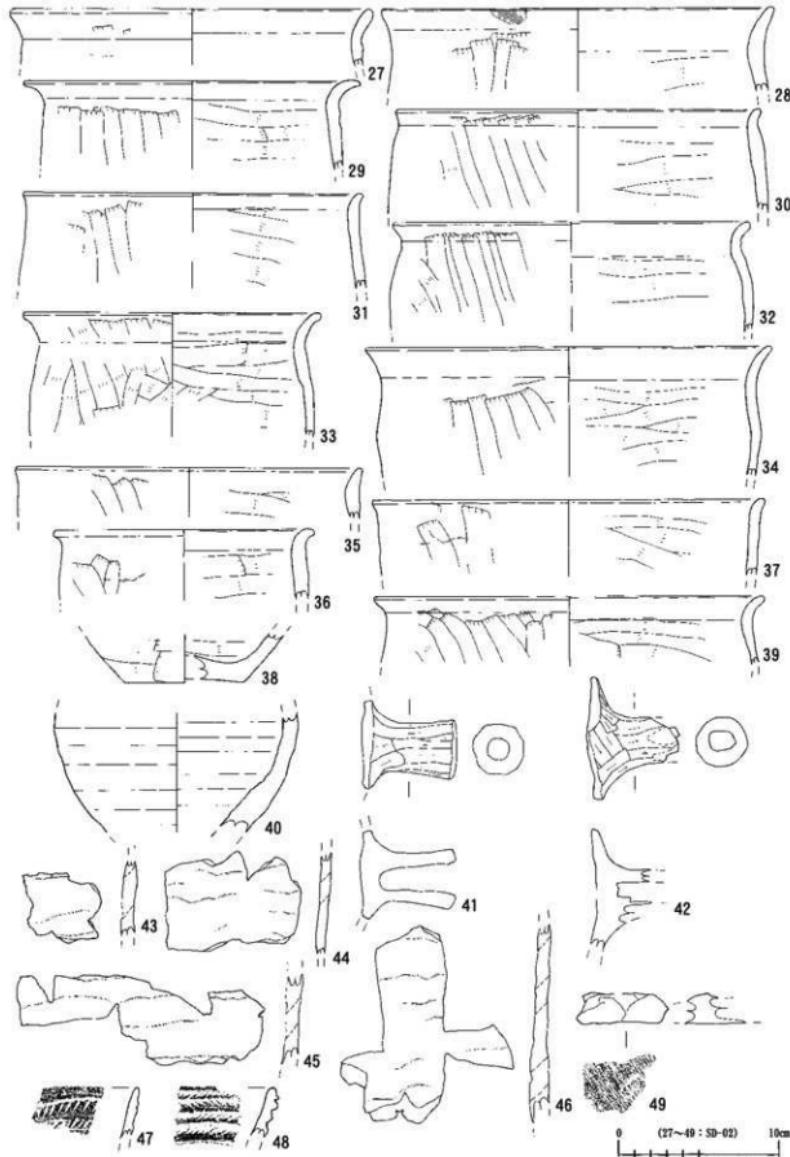
第60図 SK-06、09、SD-01①・②



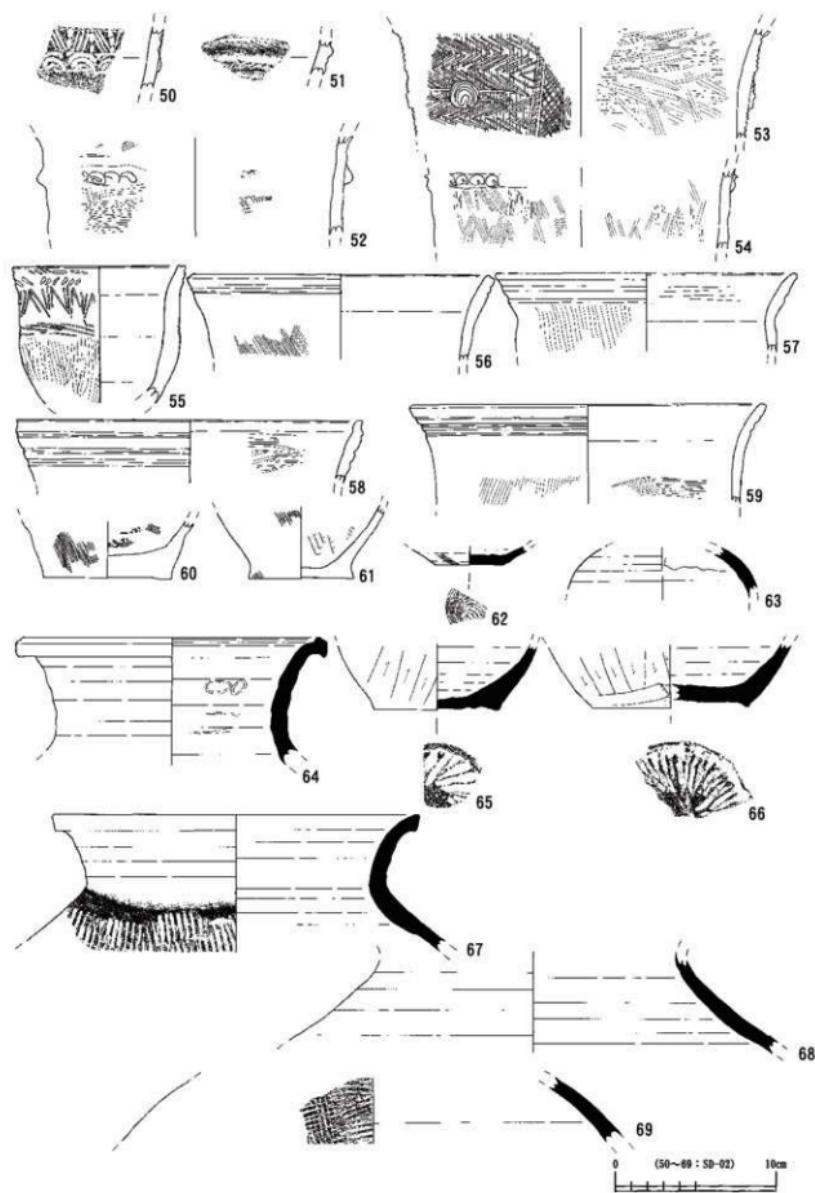
第61図 SD-02・SP-165



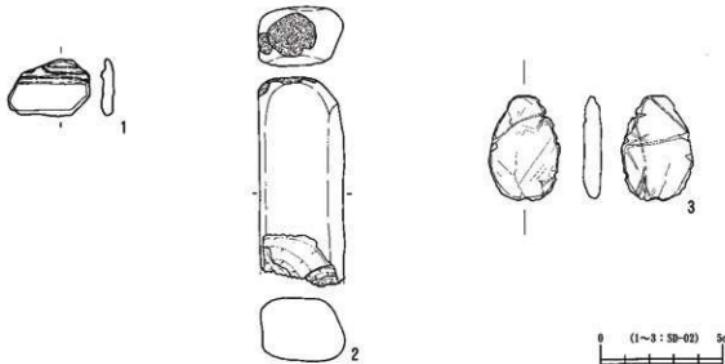
第62図 遺構内出土土器① (SD)



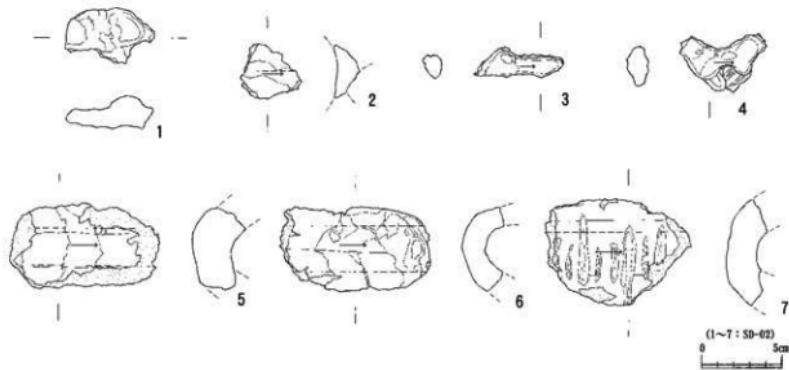
第63図 遺構内出土土器② (SD)



第64図 遺構内出土土器③ (SD)



第65図 遺構内出土石器・石製品・土製品 (SD)



第66図 遺構内出土鉄関連遺物 (SD)

第3表 遺構内出土土器観察表(S I)

| 器皿番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 計測値(cm) | | | 文様・調整 | | | 備考 |
|-----------------|-----------------------|----------|------|-----|-------|---------|--------|-------|----------------|----------------|-------|----------------------|
| | | | | | | 口径 | 裏高 | 底座 | 外面 | 内面 | 底面 | |
| 20-1 | SI-01内SK10 SD-02 | 覆土 下層 | 土師器 | 壺 | 口縁～底部 | 11.6 | 5.4 | 5.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 | |
| 20-2 | SI-01 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 13.2 | (3.35) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラミガキ | 内面黒色処理、外面口縁部にスス、外面磨滅 |
| 20-3 | SI-01内SK6 | 5層 | 土師器 | 壺 | 底座 | — | (3.0) | 5.6 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切 | 内面黒色処理、外面口縁部にスス、外面磨滅 |
| 20-4 | SI-01 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 13.4 | (4.9) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラミガキ | 一部欠け |
| 20-5 | SI-01 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 底座 | — | (2.6) | 5.8 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 | 内面黒色処理、外面一部スス付着 |
| 20-6 | SI-01 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 底座 | — | (1.9) | 6.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 | 内面一部スス付着 |
| 20-7 | SI-01内カマド | 覆土 | 土師器 | 壺 | 胴部～底部 | — | (4.4) | 4.6 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラミガキ | 右回転糸切、ヘラミガキ |
| 20-8 | SI-01PSK2 | 覆土 | 土師器 | 小壺 | 口縁～底部 | 3.0 | (3.9) | 1.0 | ヘラケズリ | ナデ | ナデ | |
| 20-9 | SI-01 | 覆土 | 土師器 | 小壺? | 底座 | — | (2.7) | 4.2 | ヘラナデ | ヘラナデ | ヘラナデ | |
| SI-01内カマド 覆土 | — | | | | | | | | | | | |
| SI-01内カマド — | | | | | | | | | | | | |
| SI-01PSK2 覆土 | | | | | | | | | | | | |
| SI-01PSK3 覆土 | | | | | | | | | | | | |
| SI-01PSK8 4層 | | | | | | | | | | | | |
| 20-11 | SI-01 | 上層 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 18.6 | (7.0) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 20-12 | SI-01 | 覆土 | 織文土器 | 壺 | 口縁部 | 17.8 | (4.2) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 20-13 | SI-01 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 23.7 | (4.1) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 20-14 | SI-01 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁～頭部 | 19.2 | (7.55) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 20-15 | SI-01 | 下層 | 土師器 | 壺 | 口縁～頭部 | 21.2 | (8.6) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| SI-01内SK3 覆土 | | | | | | | | | | | | |
| SI-01 覆土 | | | | | | | | | | | | |
| SI-01内カマド — | | | | | | | | | | | | |
| SI-01WP21 2層 | | | | | | | | | | | | |
| 20-17 | SI-01 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁～頭部 | 25.0 | (4.1) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 20-18 | SI-01PSK7 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁～頭部 | 23.0 | (7.3) | — | ロクロナデ、 ヘラナデ | ロクロナデ、 ヘラナデ | — | |
| 20-19 | SI-01内SK2 | 1層 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 19.0 | (2.5) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 21-20 | SI-01内SK10 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 23.2 | (8.5) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | 内外面にスス付着 |
| 21-21 | SI-01内カマド 覆土 | | 土師器 | 壺 | 口縁～頭部 | 23.2 | (8.3) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | 外表面スス付着 |
| 21-22 | SI-01内カマド 覆土 | | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 16.8 | (4.3) | — | ヘラナデ | ロクロナデ、 ヘラナデ | — | |
| 21-23 | SI-01内SK10 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁～頭部 | 13.8 | (6.9) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | 外表面スス付着 |
| 21-24 | SI-01内カマド 覆土 | | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 12.4 | (5.1) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 21-25 | SI-01内SK11 | 3層 | 土師器 | 壺 | 口縁～頭部 | 12.0 | (6.9) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | 内面炭化物付着 |
| 21-26 | SI-01PSK3 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 12.8 | (4.95) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 21-27 | SI-01PSK3 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁～頭部 | 22.2 | (8.55) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | 外表面全体に炭化物付着 |
| 21-28 | SI-01内カマド — | | 土師器 | 壺 | 口縁～頭部 | 13.2 | (6.8) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 21-29 | SI-01 | 下層 | 土師器 | 壺 | 胴部 | — | (5.6) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 21-30 | SI-01PSK8 4層 | | 土師器 | 壺 | 胴部 | — | (7.7) | — | ナデ | ヘラナデ | — | 輪ぬき痕あり |
| 21-31 | SI-01 | 上層 | 土師器 | 壺 | 底座 | — | (2.3) | 7.1 | ヘラナデ | ヘラナデ | 木漆痕 | |
| SI-01PSK7 3層 | | | | | | | | | | | | |
| 21-32 | SI-01PSK7 4層 | | 土師器 | 壺 | 胴部～底部 | — | (3.4) | 8.6 | ヘラナデ | ヘラナデ | 砂底 | 内面一部スス付着 |
| 21-33 | SI-01内SK11 | 3層 | 土師器 | 壺 | 底座 | — | (3.6) | 8.6 | ヘラナデ | ヘラナデ | 砂底 | |
| 21-34 | SI-01 | 覆土 | 土師器 | 壺? | 底座 | — | (3.4) | 5.0 | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 21-35 | SI-01張り出し | 覆土 | 土師器 | 壺 | 底座 | — | (4.9) | 10.0 | ヘラナデ | ヘラナデ | 砂底 | |
| 21-36 | SI-01内SK7 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 底座 | — | (5.3) | 10.4 | ヘラナデ | ヘラナデ | 砂底 | |
| 21-37 | SI-01 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 底座 | — | (2.4) | 5.6 | ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラナデ | |
| 22-38 | SI-01内カマド 煙道-P.1.2 | | 土師器 | 壺 | 胴部～底部 | — | (23.7) | 8.4 | ヘラナデ | ヘラナデ | ナデ | 外表面黒～茶褐色土砂付着 |
| 22-39 | SI-01内カマド 覆土 | | 土師器 | 壺 | 口縁～頭部 | 32.8 | (5.3) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 22-40 | SI-01 | 覆土 | 土師器 | 壺? | 頭部 | — | (7.25) | — | ナデ | ヘラナデ | — | 輪ぬき痕あり |
| 22-41 | SI-01 | 覆土 | 製塼土器 | — | 底座 | — | (2.1) | 14.2 | ナデ | ナデ | 柱目痕 | |
| 22-42 | SI-01内SK10 | 覆土 | 須恵器 | 壺 | 口縁部 | 12.2 | (1.2) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 22-43 | SI-01内カマド 煙道 | 須恵器 | 壺 | 口縁部 | 13.2 | (2.5) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | | |
| 22-44 | SI-01 | 覆土 | 須恵器 | 鉢? | 口縁～頭部 | 14.6 | (6.6) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 22-45 | SI-01 | 覆土 | 須恵器 | 壺 | 胴部 | — | (8.8) | — | タキ | ナデ | — | 焼台痕あり |
| 22-46 | SI-01 | 覆土 | 須恵器 | 壺 | 口縁～頭部 | — | (9.1) | — | ロクロナデ、 タキ | ロクロナデ、 ナデ | — | 刻畫あり |
| 23-47 | SI-01 SI-01内SK11 | 上層 3層 | 須恵器 | 壺 | 胴部～底部 | — | (30.3) | 3.0 | タキ | あて具痕、 ナデ | — | 焼台痕あり |
| 23-48 | SI-01 | 覆土 | 織文土器 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | — | 貝殻巻縞文、 沈線 | ミガキ | — | |
| 23-49 | SI-01 | 上層 | 織文土器 | 深鉢 | 胴部 | — | — | — | 貝殻巻縞文 | ミガキ | — | |
| 23-50 | SI-01 | 覆土 | 織文土器 | 深鉢 | 胴部 | — | — | — | 貝殻巻縞文 | ミガキ | — | |
| 23-51 | SI-01 | 覆土 | 織文土器 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | — | 沈線 | ナデ | — | |

| 既版番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 計測値(cm) | | | 文様・調整 | | 備考 |
|-----------|-----------|---------|------|-------|--------|---------|--------|----------------|----------------|---------------|---------------------|
| | | | | | | 口径 | 底高 | 底径 | 外面 内面 | 底面 | |
| 23-52 | SI-01 | 下層 | 縄文土器 | 壺? | 胴部 | - | (6.4) | - | 沈線 | ナデ | - |
| | SK-02 | 1層 | | | | | | | | | |
| 23-53 | SI-01 | 下層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 13.2 | (4.15) | - | 刺突、ナデ | 貝殻模様文 | - |
| | SI-01 | 覆土 | | | | | | | | | |
| 23-54 | SI-01 | 下層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 10.9 | (8.8) | - | ナデ | 貝殻模様文 | - |
| | SI-01 | 覆土 | | | | | | | | | |
| | SI-01 | 下層 | | | | | | | | | |
| 23-55 | SI-01 | 覆土 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | - | - | - | 沈線、ナデ | ナデ | - |
| | SI-01PSK2 | 2層 | | | | | | | | | |
| SI-01内SK2 | | 覆土 | | | | | | | | | |
| 23-56 | SI-01内SK2 | 9層 | 縄文土器 | 台付? | 底部 | - | (1.8) | - | LR | ナデ | - |
| | SI-01PSK2 | 覆土 | | | | | | | | | |
| 23-57 | SI-02内SK2 | 3層 | 土師器 | 壺 | 口縁～胴部 | 20.6 | (5.7) | - | ロクロナデ、 ヘラナデ | ロクロナデ | - |
| | SI-02内SK2 | 1層 | 土師器 | 壺 | 口縁～胴部 | - | (8.4) | - | ヘラナデ | - | 外側一部剥落、外側 縁部スス付着 |
| 24-59 | SI-02PSK2 | 1層 | 土師器 | 壺 | 底部 | - | (2.7) | 4.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | ナデ |
| 24-60 | SI-02内カマド | 3層、P-11 | 土師器 | 壺 | 底部 | - | (2.2) | 7.8 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 |
| SI-02内カマド | 2層、P-3、4 | 土師器 | 壺 | 口縁～胴部 | 24.4 | (21.2) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - | 輪積み痕あり、外側 一部スス付着 |
| SI-02内カマド | 4層 | 土師器 | 壺 | 口縁～胴部 | - | | | | | | 内外面部分的に炭化 物付着 |
| 24-62 | SI-02内カマド | 3層 | 土師器 | 壺 | 口縁～胴部 | 30.6 | (11.6) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 24-63 | SI-02内SK2 | 4層 | 土師器 | 壺 | 底部 | - | (2.8) | 17.0 | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 24-64 | SI-02 | 貼床 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 28.6 | (7.8) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| SI-02 | 貼床 | 須恵器 | 壺 | 口縁～底部 | 13.6 | 5.7 | 5.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 | |
| SI-02PSK2 | 1層 | 須恵器 | 壺 | 底部 | - | (2.2) | 5.0 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 | |
| SI-02 | 覆土 | 火山灰直上 | 須恵器 | 壺? | 胴部 | - | (5.6) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 24-67 | SI-02 | 須恵器 | 壺? | 胴部 | - | | | | | | スス付着 |
| 24-68 | SI-02-03 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 13.4 | (4.2) | - | ロクロナデ | ロクロナデ、ミガキ | - |
| 24-69 | SI-02-03 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 胴部～底部 | - | (3.7) | 4.8 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 |
| 24-70 | SI-02-03 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 21.2 | (4.1) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 24-71 | SI-02-03 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁～胴部 | 22.0 | (3.1) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 24-72 | SI-02-03 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 20.6 | (2.5) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 24-73 | SI-02-03 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 胴部 | - | (5.4) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | 外側茶褐色物質付着 |
| 25-74 | SI-02-03 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 24.8 | (4.2) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 25-75 | SI-02-03 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 底部 | - | (6.4) | 7.4 | ヘラナデ、 ヘラケツリ | ヘラナデ | - |
| 25-76 | SI-02-03 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 底部 | - | (2.1) | 5.0 | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 25-77 | SI-02-03 | 覆土 | 縄文土器 | 壺 | 口縁～胴部 | 22.6 | (5.6) | - | 沈線、ハケメ | ハケメ | - |
| 25-78 | SI-03内SK4 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 11.4 | (3.9) | - | ロクロナデ | ロクロナデ、ミガキ | 内面黒色処理、口縁部 一部欠け |
| 25-79 | SI-03 | 1層 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 12.8 | (4.8) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 25-80 | SI-03 | 8層 | 土師器 | 壺 | 口縁～底部 | 12.0 | 3.3 | 4.8 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 |
| 25-81 | SI-03 | 1層 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 12.4 | (4.6) | - | ロクロナデ | ロクロナデ、ミガキ | - |
| 25-82 | SI-03 | 1層 | 須恵器 | 壺 | 口縁部 | 12.4 | (2.6) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| SI-03PSK1 | 9層 | 須恵器 | 壺 | 胴部 | - | - | - | タタキ | タタキ | あて具痕 | |
| SI-04内カマド | 1層、P-2 | 土師器 | 壺 | 口縁～底部 | 13.0 | 4.7 | 4.8 | ロクロナデ | ロクロナデ、ミガキ | 右回転糸切 | |
| SI-04内カマド | 6層、P-1 | 土師器 | 壺 | 口縁～底部 | - | | | | | | 内面黒色処理、外側 一部スス付着 |
| SI-04内カマド | | 覆土 | | | | | | | | | |
| 25-85 | SI-04 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 13.6 | (3.8) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 25-86 | SI-04 | 1層 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 14.6 | (6.0) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 25-87 | SI-04 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 11.8 | (4.8) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| SI-04 | 1層 | 土師器 | 壺 | 口縁～胴部 | 22.5 | (20.8) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - | |
| SI-04 | 覆土 | | | | | | | | | | |
| 25-89 | SI-04 | 1層 | 土師器 | 壺 | 口縁～胴部 | 21.4 | (24.9) | - | ヘラナデ | ロクロナデ | - |
| SI-04 | 10層、P-9 | 土師器 | 壺 | 口縁～胴部 | - | | | | | | |
| 26-90 | SI-04 | 3層 | 土師器 | 壺 | 口縁～胴部 | 13.9 | (7.0) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| SI-04 | 覆土 | 壺 | 口縁部 | 31.0 | (4.05) | - | | | | | |
| 26-92 | SI-04 | 覆土 | 土師器 | 小壺 | 口縁部 | 11.9 | (5.35) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 26-93 | SI-04 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 11.7 | (5.2) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | 内面一部スス付着 |
| SI-04 | 1層 | 土師器 | 壺 | 胴部～底部 | - | (4.25) | 6.3 | ヘラナデ、 ヘラケツリ | ヘラナデ | ヘラナデ | 内面一部スス付着 |
| 26-94 | SI-04 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 胴部～底部 | - | | | | | |
| 26-95 | SI-04 | 1層 | 土師器 | 壺 | 胴部～底部 | - | (6.25) | 8.0 | ヘラナデ、 ヘラケツリ | ヘラナデ | ヘラナデ |
| 26-96 | SI-04 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 底部 | - | (2.55) | 9.0 | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 26-97 | SI-04 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 底部 | - | (2.8) | 8.0 | ヘラナデ、 ヘラケツリ | ヘラナデ | 砂底 |
| SI-05 | — | — | 縄文土器 | 壺 | 口縁～胴部 | (4.0) | (10.0) | - | 沈線、ハケ メ、ナデ | ナデ | - |
| SI-04 | — | — | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | - | 沈線 | ミガキ | - |
| 26-99 | SI-04 | 覆土 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | - | ロクロナデ | ロクロナデ、 ミガキ | - |
| 26-100 | SI-05 | 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 12.4 | (4.3) | - | ロクロナデ | ロクロナデ、 ミガキ | - |

| 測定番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 基準 | 部位 | 計測値(cm) | | | 文様・調整 | | 備考 |
|-----------|-----------|---------------------|-------|----|-------|---------|--------|------|----------------|---------------|-----------------------|
| | | | | | | 口径 | 基高 | 底径 | 外側 | 内面 | |
| 26-101 | SI-05 | 覆土 | 土師器 | 环 | 口縁部 | 13.6 | (3.3) | — | ロクロナデ、ミガキ | ロクロナデ、ミガキ | — |
| 26-102 | SI-05 | 覆土 | 土師器 | 环 | 底部 | — | (3.1) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — |
| 26-103 | SI-05 | — | 土師器 | 环 | 口縁～底部 | 13.0 | 5.9 | 5.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | — |
| 26-104 | SI-05 | — | 土師器 | 环 | 口縁～底部 | 12.6 | 5.2 | 4.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口縁部欠け、内面にスス、灯明具として転用? |
| 26-105 | SI-05内カマド | 9層,P-16, 18,19 | 土師器 | 环 | 口縁～底部 | 13.0 | 5.6 | 5.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 内面一部にスス、灯明具として転用? |
| 26-106 | SI-05 | — | 土師器 | 环 | 底部 | — | — | — | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切 |
| 26-107 | SI-05 | 7層 | 土師器 | 斐 | 口縁部 | 18.6 | (9.3) | — | ロクロナデ、ヘラナデ | ロクロナデ、ヘラナデ | — |
| 26-108 | SI-05 | — | 土師器 | 斐 | 口縁～底部 | 16.8 | 17.8 | 8.0 | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| 26-109 | SI-05内P11 | 11層 | 土師器 | 斐 | 底部 | 23.2 | (3.3) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| 27-110 | SI-05 | 床面 | 土師器 | 斐 | 口縁部 | 14.0 | (8.2) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | 内面一部スス付着 |
| 27-111 | SI-05内カマド | 5層,P-1,2,3 | 土師器 | 斐 | 口縁～底部 | 14.0 | (9.7) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | 外側一部剥落 |
| 27-112 | SI-05 | 焼土 | 土師器 | 斐 | 口縁～底部 | 14.0 | (8.3) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| 27-113 | SI-05 | 7層 | 土師器 | 斐 | 口縁～底部 | 14.6 | (7.2) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | 内外面一部スス付着 |
| 27-114 | SI-05 | 7層 | 土師器 | 斐 | 口縁～底部 | 23.4 | (6.4) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| 27-115 | SI-05 | — | 土師器 | 斐 | 口縁部 | 20.0 | (7.0) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | 外側茶褐色土砂付着 |
| 27-116 | SI-05 | — | 土師器 | 斐 | 口縁～底部 | 20.0 | (13.0) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| 27-117 | SI-05 | — | 土師器 | 斐 | 口縁部 | 20.0 | (10.5) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | 外側スス付着 |
| 27-118 | SI-05 | — | 土師器 | 斐 | 底部 | — | (5.3) | 10.8 | ヘラナデ、 ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラナデ |
| 27-119 | SI-05 | 5層 | 土師器 | 斐 | 底部 | — | (2.2) | 6.6 | ヘラナデ | ヘラナデ | 木痕痕 |
| 27-120 | SI-05 | 5層 | 土師器 | 斐 | 底部 | — | (3.4) | 7.4 | ヘラナデ、 ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラナデ |
| 27-121 | SI-05内カマド | 4層,P-5, 6,7,8,10 | 土師器 | 斐 | 口縁～底部 | — | (6.3) | 8.6 | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| 27-122 | SI-05内カマド | 覆土 | 土師器 | 斐 | 底部 | — | (3.5) | 7.0 | ヘラナデ | ヘラナデ | 砂底 |
| 27-123 | SI-05内P15 | 1層 | 土師器 | 斐 | 底部 | — | (5.2) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| SI-05内カマド | 5層,P-4 | — | 土師器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | 木痕痕 |
| SI-05内カマド | 6層,P-27 | — | 土師器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| SI-05内カマド | 9層,P-29 | — | 土師器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| SI-05内カマド | 10層,P-39 | — | 土師器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | 把手剥落部あり |
| SI-05内カマド | 覆土 | — | 土師器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラケズリ | — |
| SI-05内カマド | 20層 | — | 土師器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| 27-124 | SI-05 | — | 土師器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | 木痕痕 |
| SI-05内カマド | 9層,P-22 | — | 土師器 | 斐 | 口縁～底部 | — | (7.3) | 11.0 | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| SI-05内カマド | 11層,P-21 | — | 土師器 | 斐 | 底部 | — | (4.7) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| 27-126 | SI-05 | — | 把手付土器 | — | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | 把手剥落部あり |
| 27-127 | SI-05内カマド | 9層,P-17 | 土師器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラケズリ | — |
| SI-05 | 床面 | — | 土師器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラケズリ | — |
| SI-05 | 5層 | — | 土師器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラケズリ | — |
| SI-05 | 10層 | — | 土師器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラケズリ | — |
| SI-05 | 11層 | — | 土師器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラケズリ | — |
| 28-129 | SI-05 | — | 須恵器 | 斐 | 口縁～底部 | 10.4 | 28.0 | 10.6 | ロクロナデ、 ナデ | ロクロナデ | ヘラ 須部に刻書 |
| SI-05 | 床面 | — | 須恵器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| SI-05 | 7層 | — | 須恵器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| SI-05 | 11層 | — | 須恵器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| SI-05 | 覆土 | — | 須恵器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| SI-05内カマド | 6層,P-34 | — | 須恵器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| H-11 | 確認面 | — | 須恵器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| 28-130 | SI-05 | — | 須恵器 | 斐 | 口縁部 | 11.0 | (2.5) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — |
| SI-05 | — | — | 須恵器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| SI-05 | 床面 | — | 須恵器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| SI-05 | 7層 | — | 須恵器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| SI-05 | 10層 | — | 須恵器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| SI-05 | 11層 | — | 須恵器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| SI-05 | 覆土 | — | 須恵器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| SI-05内カマド | 14層 | — | 須恵器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| SI-01 | 覆土 | — | 須恵器 | 斐 | 底部 | — | — | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — |
| 28-132 | SI-05 | — | 須恵器 | 环 | 口縁部 | 13.0 | (2.7) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — |
| 28-133 | SI-05 | — | 須恵器 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | — | 沈線、判定 | 沈線 | — |
| 28-134 | SI-06 | — | 土師器 | 斐 | 口縁～底部 | 10.0 | 2.0 | 4.8 | ロクロナデ、 ナデ | ロクロナデ | — |
| 28-135 | SI-06 | — | 土師器 | 环 | 口縁部 | 12.0 | (3.0) | — | ロクロナデ、 ミガキ | ロクロナデ、 ミガキ | — |
| 28-136 | SI-06 | — | 土師器 | 环 | 口縁部 | 12.0 | (5.3) | — | ロクロナデ、 ミガキ | ロクロナデ、 ミガキ | 内面黑色処理 |

| 発掘番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 計測値(cm) | | | 文様・調整 | | 備考 |
|--------|-------------|-------------|------|----|-------|---------|--------|-------|---------------|--------------|-------------------|
| | | | | | | 口径 | 底高 | 底径 | 外側 | 内面 | |
| 28-137 | SI-06 | - | 土師器 | 甕 | 口縁~胴部 | 13.0 | (4.4) | - | ロクロナデ ミガキ | ロクロナデ ミガキ | - |
| 28-138 | SI-06 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 13.0 | (5.0) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 28-139 | SI-06 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 13.0 | (4.2) | - | ロクロナデ | ロクロナデ ミガキ | - |
| 28-140 | SI-06 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 13.0 | (4.0) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 28-141 | SI-06 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 14.0 | (4.4) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 28-142 | SI-06 | - | 土師器 | 甕 | 底部 | - | - | - | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切 |
| 28-143 | SI-06 | - | 土師器 | 甕 | 口縁~胴部 | 18.0 | (6.5) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 28-144 | SI-06 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 18.0 | (3.6) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 28-145 | SI-06 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 20.0 | (7.5) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 28-146 | SI-06 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 14.0 | (3.0) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 28-147 | SI-06 | 床面 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 14.0 | (2.5) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 28-148 | SI-06 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 14.0 | (4.7) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 28-149 | SI-06 | - | 土師器 | 甕 | 口縁~底部 | 11.6 | 14.0 | 7.0 | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 29-150 | SI-06 | 床面 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 22.0 | (4.7) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 29-151 | SI-06 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 20.0 | (4.1) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 29-152 | SI-06 | - | 土師器 | 甕 | 口縁~胴部 | 21.0 | (9.0) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 29-153 | SI-06 | - | 土師器 | 甕 | 胴部 | - | (10.0) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | 外画裏~茶褐色土砂付着 |
| 29-154 | SI-06 | - | 製陶土器 | 甕 | 胴部 | - | (5.1) | - | ナデ | ナデ | - |
| 29-155 | SI-06 | - | 製陶土器 | 甕 | 胴部 | - | (3.9) | - | ナデ | ナデ | - |
| 29-156 | SI-06 | - | 製陶土器 | 甕 | 底部 | - | - | - | ナデ | ナデ | 胚目痕 |
| 29-157 | SI-06 | H-11 確認箇 | 須恵器 | 甕 | 口縁~底部 | - | (6.9) | 11.6 | ロクロナデ ヘラナデ | ロクロナデ | ヘラ |
| 29-158 | SI-06 | I-6 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | - | - | - | タキ | ロクロナデ | - |
| 29-159 | SI-06 | - | 绳文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | - | 貝殻復縫文、 沈線 | ナデ | - |
| 29-160 | SI-06 | - | 绳文土器 | 鉢 | 胴部 | - | - | - | 沈線、貝殻 復縫文 | ナデ | - |
| 29-161 | SI-06 | I-6 | 绳文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | - | 沈線 | ナデ | - |
| 29-162 | SI-06 | - | 绳文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | - | 貝殻復縫文 | ナデ | - |
| 29-163 | SI-06 | - | 绳文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | - | 沈線 | ナデ | - |
| 29-164 | SI-07 | - | 須恵器 | 甕 | 口縁部 | 14.0 | (4.3) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 29-165 | SI-07 | - | 土師器 | 甕 | 底部 | - | - | - | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 |
| 29-166 | SI-07 | - | 土師器 | 甕 | 底部 | - | - | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 29-167 | SI-07 | - | 土師器 | 甕 | 底部 | - | - | - | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切 |
| 29-168 | SI-07 | - | 陶器 | 皿 | 底部 | - | (1.6) | (4.6) | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 29-169 | SI-07 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 20.0 | (7.4) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 29-170 | SI-07 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 22.0 | (7.5) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 29-171 | SI-07 | - | 土師器 | 甕 | 底部 | 16.0 | (3.8) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 29-172 | SI-07 | - | 土師器 | 小甕 | 口縁部 | 11.0 | (2.5) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 29-173 | SI-07 | - | 土師器 | 甕 | 口縁~胴部 | 20.0 | (9.0) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 29-174 | SI-07 | - | 土師器 | 甕? | 把手 | 3.8 | (6.0) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 29-175 | SI-07 | - | 須恵器 | 甕 | 底部 | - | - | - | タキ | ナデ | - |
| 29-176 | SI-07 | - | 須恵器 | 甕 | 底部 | - | - | - | タキ | ナデ | - |
| 30-177 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 口縁~胴部 | (12.6) | 4.8 | 6.0 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 内面一部スス付着 |
| 30-178 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 胴部~底部 | - | (3.3) | 6.0 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 内面黒色処理 |
| 30-179 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 口縁~底部 | (11.0) | 4.8 | 5.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 |
| 30-180 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 19.6 | (6.3) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 30-181 | SI-08PSK4 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 18.0 | (5.5) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 30-182 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 口縁~底部 | 21.6 | (15.9) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 30-183 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 口縁~胴部 | 24.0 | (5.9) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 30-184 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 19.4 | (7.0) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 30-185 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 18.6 | (6.6) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 30-186 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 口縁~底部 | 21.6 | (7.6) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 30-187 | SI-08PSK5 | - | 土師器 | 甕 | 口縁~胴部 | 19.6 | (8.2) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 30-188 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 口縁~底部 | 19.2 | (9.0) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 30-189 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 口縁~胴部 | 20.0 | (10.5) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 30-190 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 口縁~底部 | 19.6 | (10.0) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 31-191 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 口縁~底部 | 19.6 | (14.3) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 31-192 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 胴部~底部 | - | (11.2) | (8.8) | ヘラナデ | ヘラナデ | 外画スス付着 |
| 31-193 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 底部 | - | - | - | ヘラナデ ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラ |
| 31-194 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 底部 | - | - | - | ヘラナデ ヘラケズリ | ヘラナデ | - |
| 31-195 | SI-08 | - | 绳文土器 | 甕 | 底部 | - | - | - | ハケメ | ナデ | - |
| 31-196 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (3.8) | 7.8 | ヘラナデ | ヘラナデ | 網代痕 外画スス付着 |
| 31-197 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (10.5) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 31-198 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 口縁~底部 | 15.0 | (14.1) | - | ヘラナデ ハケメ | ヘラナデ | - |
| 31-199 | SI-08SI SK6 | - | 土師器 | 甕 | 底部 | - | - | - | ヘラナデ ヘラケズリ | ハケメ | - |

| 回収番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 計測値(cm) | | | 文様・調整 | | 備考 |
|------------|------------|----|-------|-----|-------|---------|--------|------|----------------|---------------|------------|
| | | | | | | 口径 | 最高 | 底径 | 外面 内面 | 底面 | |
| 31-200 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 底部 | - | - | - | ヘラナデ、 ヘラケズリ | ヘラナデ | - |
| | SI-08PSK5 | - | | | | | | | | | |
| 31-201 | SI-08 | - | 土師器 | 甕 | 底部 | - | - | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| | SI-08SK6 | - | | | | | | | | | |
| 31-202 | SI-08PSK4 | - | 土師器 | 甕 | 底部 | - | - | - | ヘラナデ、 ヘラケズリ | ヘラナデ | 調代度 |
| 31-203 | SI-08 | - | 把手付土器 | - | 把手 | 6.6 | (6.5) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 31-204 | SI-08 | - | 把手付土器 | - | 把手 | (2.9) | (3.9) | 0.8 | ナデ | ナデ | - |
| 31-205 | SI-08 | - | 須恵器 | 甕 | 腹部 | - | - | - | タタキ | ナデ | - |
| 31-206 | SI-08PSK4 | - | 須恵器 | 甕 | 口縁部 | 11.8 | (3.1) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 31-207 | SI-08 | - | 製罐土器 | - | 腹部 | - | (3.6) | - | ナデ | ナデ | - |
| 31-208 | SI-08 | - | 縄文土器 | 深鉢 | 腹部 | - | - | - | 貝殻埋込み、 洗練 | ナデ | - |
| 31-209 | SI-08 | - | 縄文土器 | 深鉢 | 腹部 | - | - | - | LR | ミガキ | - |
| 31-210 | SI-08PSK18 | - | 縄文土器 | 甕 | 腹部 | - | - | - | 沈練 | ミガキ | - |
| 31-211 | SI-08PSK2 | - | 縄文土器 | 小鉢? | 口縁部 | - | - | - | 沈練 | ナデ | - |
| SI-09 | 2層 | | | | | | | | | | |
| SI-09 | 3層 | | 土師器 | 甕 | 口縁~腹部 | 11.8 | 5.5 | 5.0 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 |
| SI-09 | 覆土 | | | | | | | | | | |
| 31-212 | SI-09 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 11.4 | (3.7) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 31-213 | SI-09 | - | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 12.0 | (4.2) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 31-214 | SI-09 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 11.8 | (4.3) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 31-215 | SI-09 | 3層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | - | - | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 31-216 | SI-09 | 2層 | 土師器 | 甕 | 腹部 | - | (3.4) | - | ロクロナデ | ロクロナデ、 ミガキ | 内面黒色処理 |
| 32-217 | SI-09 | 2層 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (1.9) | 4.8 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 |
| 32-218 | SI-09 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 11.4 | (3.4) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 32-219 | SI-09 | 2層 | 土師器 | 甕 | 口縁~腹部 | 12.8 | (6.0) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 32-220 | SI-09 | 2層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 16.2 | (3.05) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 32-221 | SI-09 | 2層 | 土師器 | 甕 | 口縁~腹部 | 18.4 | (11.2) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 32-222 | SI-09 | 2層 | 土師器 | 甕 | 口縁~腹部 | 11.0 | (6.9) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 32-223 | SI-09 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 26.0 | (3.7) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| SI-09 | 2層 | | | | | | | | | | |
| SI-09 | 覆土 | | 土師器 | 甕 | 口縁~腹部 | 28.6 | (8.1) | - | ヘラナデ、 ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラナデ |
| SI-09PSK14 | 1層 | | | | | | | | | | |
| SI-09 | 3層 | | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (3.5) | 6.5 | ヘラナデ、 ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラ |
| SI-09 | 覆土 | | 土師器 | 甕 | 口縁~腹部 | 18.0 | (10.7) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 32-225 | SI-09 | 2層 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (6.6) | 7.2 | ヘラナデ、 ヘラケズリ | ヘラナデ | - |
| 32-226 | SI-09 | 3層 | 土師器 | 甕 | 腹部 | - | (5.6) | 7.5 | ヘラナデ、 ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラ |
| 32-227 | SI-09 | 2層 | 土師器 | 甕 | 腹部 | - | - | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 32-228 | SI-09 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 腹部 | - | - | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 32-229 | SI-09 | 2層 | 土師器 | 甕 | 腹部 | - | (5.2) | 5.2 | ヘラナデ、 ヘラケズリ | ヘラナデ | 砂底 |
| 32-230 | SI-09 | 2層 | 土師器 | 甕 | 口縁~腹部 | 21.0 | (10.2) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| SI-09 | 2層 | | | | | | | | | | |
| SI-09 | 3層 | | 土師器 | 甕 | 腹部~底部 | - | (16.5) | 5.6 | ヘラナデ、 ヘラケズリ | ヘラナデ | - |
| SI-09 | 覆土 | | 土師器 | 甕 | 腹部~底部 | - | - | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| F-4 | 確認面 | | | | | | | | | | |
| 32-232 | SI-09 | 3層 | 把手付土器 | - | 把手 | - | (4.1) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 32-233 | SI-09 | 3層 | 縄文土器 | 小鉢? | 口縁部 | 8.7 | (4.85) | - | ヘラナデ、 洗練 | ヘラナデ | - |
| 32-234 | SI-09 | 3層 | 須恵器 | 甕 | 腹部 | - | (4.3) | - | ナデ | ロクロナデ | - |
| 32-235 | SI-09 | 3層 | 須恵器 | 鉢 | 口縁部 | 13.0 | (4.3) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 33-236 | SI-09 | 3層 | 須恵器 | 甕 | 腹部 | - | (21.0) | - | タタキ | ナデ | 内面あて具痕あり |
| 33-237 | SI-10 | 覆土 | 縄文土器 | 小鉢? | 口縁部 | - | - | - | LR、沈練 | ミガキ | - |
| 33-238 | SI-11 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (2.8) | 5.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 |
| 33-239 | SI-11 | 1層 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (1.6) | 5.6 | ロクロナデ | ロクロナデ、 ミガキ | - |
| 33-240 | SI-11 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (1.5) | 5.6 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 |
| 33-241 | SI-11 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (3.5) | 5.8 | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 33-242 | SI-11 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (2.7) | 10.4 | ヘラナデ、 ヘラケズリ | ヘラナデ | 砂底 |
| 33-243 | SI-11 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 16.8 | (3.9) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 33-244 | SI-11PSK1 | 1層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 11.2 | (3.4) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| SI-11 | 2層 | | | | | | | | | | |
| 33-245 | SI-11 | 6層 | 土師器 | 甕 | 腹部~底部 | - | (5.9) | 9.2 | ヘラナデ、 ヘラケズリ | ヘラナデ | - |
| 33-246 | SI-11 | 覆土 | 縄文土器? | 甕 | 腹部 | - | (5.1) | - | ハケメ | ナデ | 内外面一部灰化物付着 |
| 33-247 | SI-12 | - | 縄文土器 | 深鉢 | 腹部 | - | - | - | RL | ナデ | 内面全体に灰化物付着 |

第4表 遺構内出土石器観察表 (S I)

| 図版番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 計測値(mm,g) | | | | 石質 | 備考 |
|-------|-----------|----|-------|-----------|-----|----|------|-------|---------------------------------|
| | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | 重量 | | |
| 34-1 | SI-01 | 上層 | 石器 | 72 | 41 | 9 | 29.8 | 珪質頁岩 | |
| 34-2 | SI-07 | - | 不定形石器 | 49 | 23 | 8 | 6.7 | 珪質頁岩 | |
| 34-3 | SI-01 | 覆土 | 不定形石器 | 62 | 32 | 11 | 20.9 | 珪質頁岩 | |
| 34-4 | SI-05 | - | 不定形石器 | 115 | 40 | 21 | 78.2 | 珪質頁岩 | |
| 34-5 | SI-01 | 覆土 | 不定形石器 | 51 | 6 | 12 | 41.1 | 珪質頁岩 | |
| 35-6 | SI-01 | 覆土 | 磨削石斧 | 88 | 45 | 26 | 198 | 輝綠凝灰岩 | |
| 35-7 | SI-01 | 覆土 | くぼみ石 | 135 | 60 | 44 | 320 | 安山岩 | |
| 35-8 | SI-02内SK2 | 1層 | 磨石 | 70 | 51 | 42 | 178 | 花崗岩 | |
| 35-9 | SI-07 | - | 研石 | 51 | 37 | 33 | 90 | 石英安山岩 | 溝状の部分があり、棒状のものを研磨したと考えられる |
| 35-10 | SI-01 | 覆土 | 研石 | 108 | 86 | 57 | 710 | 安山岩 | 鉄全体付着、溝状の部分があり、棒状のものを研磨したと考えられる |
| 35-11 | SI-08 | - | 研石 | 240 | 92 | 76 | 265 | 安山岩 | |
| 35-12 | SI-08 | - | 研石 | 185 | 112 | 81 | 1934 | 安山岩 | |
| 35-13 | SI-06 | - | 研石 | 92 | 56 | 40 | 354 | 石英安山岩 | 皮膚物付着 |
| 35-14 | SI-01 | 覆土 | 研石 | 93 | 55 | 42 | 322 | 安山岩 | 皮膚物付着 |
| 35-15 | SI-08 | - | 研石 | 71 | 60 | 38 | 158 | 安山岩 | 皮膚物付着 |
| 35-16 | SI-08 | - | くぼみ石 | 125 | 89 | 67 | 714 | 安山岩 | 皮膚物付着 |

第5表 遺構内出土土製品観察表 (S I)

| 図版番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 計測値(cm) | | | 文様・調整 | | 時期 | 備考 |
|------|-----------|---------|----------|---------|-------|-----|------------|----|--------|------|
| | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | 外側 | 内面 | | |
| 35-1 | SI-01内SK2 | 覆土 | ミニチュア土器? | 7.2 | 3.8 | - | ナデ | ナデ | 縄文時代早期 | 底部尖底 |
| 35-2 | SI-01 | 覆土 | 焼成粘土塊 | 2.8 | 3.3 | 3.0 | ナデ | - | 平安時代 | |
| 35-3 | SI-01 | 覆土 | 焼成粘土塊 | 4.1 | 2.8 | 2.0 | ナデ | - | 平安時代 | |
| 35-4 | SI-05カマド | 覆土 | 焼成粘土塊 | 2.4 | 3.1 | 1.0 | ナデ | - | 平安時代 | |
| 36-5 | SI-02カマド | 2,3層 | 支脚 | 9.3 | 14.5 | 9.6 | ハラケズリ、ヘララヂ | ナデ | 平安時代 | |
| 36-6 | SI-02カマド | 3層 | 支脚 | 8.6 | 15.5 | 9.4 | ハラケズリ、ヘララヂ | ナデ | 平安時代 | |
| 36-7 | SI-06 | 覆土 | 焼成粘土塊 | 6.9 | 12.1 | 4.1 | ナデ | - | 平安時代 | |
| 36-8 | SI-08内SK6 | ミニチュア土器 | 焼成粘土塊 | 3.0 | (3.0) | - | ヘラケズリ | - | 平安時代 | |
| 36-9 | SI-10 | 覆土 | 焼成粘土塊 | 1.9 | 2.2 | 1.2 | ナデ | - | 平安時代 | |

第6表 遺構内出土鐵製品・鉄滓・羽口観察表 (S I)

| 図版番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 計測値(mm,g) | | | | メタル度 | 磁強度 | 備考 |
|-------|------------|----|----------|-----------|------|------|-------|-------|-----|------------|
| | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | 重量 | | | |
| 37-1 | SI-01 | 覆土 | 鍛先・鍛先 | 172 | 176 | 21.0 | - | L(●) | 5 | |
| 37-2 | SI-01 | 覆土 | 釘 | 6.3 | 1.4 | 0.3 | 3.4 | 説化(△) | 1 | |
| 37-3 | SI-01 | 覆土 | 棒状鉄製品 | 9.0 | 2.1 | 1.0 | 20.6 | L(●) | 4 | |
| 37-4 | SI-01内SK8 | 覆土 | 不明鉄製品 | 31.5 | 2.6 | 7.5 | 105.6 | L(●) | 5 | |
| 37-5 | SI-03内SK4 | 5層 | 釘 | 4.6 | 4.7 | 1.1 | 10.7 | 説化(△) | 2 | 釘が三つ重なっている |
| 37-6 | SI-06 | - | 筋鉄車 | 13.3 | 5.1 | 0.9 | - | 説化(△) | 3 | |
| 37-7 | SI-07 | - | 圓状鉄製品 | 3.8 | 3.7 | 1.1 | - | L(●) | 4 | |
| 37-8 | SI-08 | - | 筋鉄車 | 1.8 | 5.5 | 0.7 | 27.6 | L(●) | 4 | |
| 37-9 | SI-08 | - | 棒状鉄製品 | 2.7 | 1.3 | 0.7 | 3.1 | 説化(△) | 2 | |
| 37-10 | SI-08 | - | 棒状鉄製品 | 5.3 | 1.2 | 0.8 | 3.7 | 説化(△) | 2 | |
| 37-11 | SI-08 | - | 鉄錐? | 2.7 | 2.8 | 0.1 | 3.7 | H(○) | 3 | |
| 37-12 | SI-09 | 2層 | 釘? | 2.5 | 5.4 | 0.8 | 6.3 | 説化(△) | 1 | |
| 38-1 | SI-01カマド | - | 金床石 | 227 | 200 | 287 | 16500 | なし | 1 | |
| 38-2 | SI-01 | 粘床 | 碗形鋸治済 | 8.0 | 6.0 | 2.4 | 158 | L(●) | 3 | |
| 38-3 | SI-01内SK2 | 8層 | 碗形鋸治済 | 10.8 | 7.3 | 3.7 | 340 | 説化(△) | 2 | |
| 38-6 | SI-05 | - | 碗形鋸治済 | 7.9 | 7.9 | 3.8 | 340 | 説化(△) | 5 | |
| 38-7 | SI-05 | - | 圓治済 | 4.2 | 4.1 | 3.2 | 54 | 説化(△) | 2 | |
| 38-8 | SI-05 | - | 椀形鋸治済(大) | 11.2 | 6.7 | 5.1 | 404 | 説化(△) | 3 | |
| 38-9 | SI-05 | - | 椀形鋸治済 | 11.2 | 9.2 | 4.0 | 354 | 説化(△) | 3 | |
| 38-10 | SI-05 | - | 椀形鋸治済(中) | 9.2 | 7.9 | 27.5 | 210 | 説化(△) | 3 | |
| 39-11 | SI-05 | - | 椀形鋸治済 | 7.1 | 9.8 | 4.0 | 386 | 説化(△) | 4 | |
| 39-12 | SI-05 | - | 椀形鋸治済(大) | 6.9 | 9.9 | 3.8 | 272 | なし | 2 | |
| 39-13 | SI-06 | - | 炉壁、羽口 | 2.5 | 2.8 | 2.0 | 10 | なし | 1 | |
| 39-14 | SI-06 | - | 椀形鋸治済(小) | 41.5 | 33.0 | 15.5 | 28 | 説化(△) | 2 | |
| 39-15 | SI-06 | - | 椀形鋸治済(小) | 6.8 | 2.6 | 2.4 | 34 | なし | 1 | |
| 39-16 | SI-06 | - | 炉壁、冶解物 | 2.0 | 2.0 | 1.7 | 4 | なし | 1 | |
| 39-17 | SI-07 | - | 椀形鋸治済(小) | 5.3 | 6.2 | 1.7 | 54 | なし | 2 | |
| 39-18 | SI-08 | - | 圓治済 | 5.4 | 42.5 | 3.4 | 62 | 説化(△) | 2 | |
| 39-19 | SI-07 | - | 流出孔済 | 3.1 | 2.8 | 2.3 | 32 | なし | 1 | |
| 38-4 | SI-01内SN理通 | - | 羽口 | 7.8 | 6.5 | 3.4 | 105 | なし | 1 | |
| 38-5 | SI-01内SN理通 | - | 羽口 | 13.1 | 8.3 | 8.3 | 408 | なし | 1 | |

第7表 遺構内出土古銭観察表 (S I)

| 図版番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 計測値(mm,g) | | | | 備考 |
|-------|-------|----|----|-----------|------|-----|-----|------|
| | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | 重量 | |
| 37-13 | SI-07 | 表採 | 古銭 | 24.0 | 24.0 | 1.0 | 2.5 | 寛永通貫 |

第8表 遺構内出土土器観察表 (SK)

| 団版番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 種類 | 部位 | 計測値(cm) | | | 文様・調整 | | | 備 考 |
|------|-------|-----|------|----|-----|---------|-------|----|--------------|-------|-----|-----------|
| | | | | | | 口径 | 高さ | 底径 | 外 面 | 内 面 | 底 面 | |
| 41-1 | SK-01 | 確認面 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 20.8 | 6.5 | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 41-2 | SK-01 | 確認面 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 29.2 | (3.7) | — | 沈線.ナデ | ヘラミガキ | — | |
| 41-3 | SK-02 | 1層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 23.4 | (4.7) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 41-4 | SK-02 | 1層 | 陶文土器 | 甕 | 肩部 | — | (8.2) | — | ハケメ | ハケメ | — | |
| 41-5 | SK-02 | 1層 | 須恵器 | 甕 | 肩部 | — | — | — | タタキ | ナデ | — | |
| 41-6 | SK-03 | 1層 | 土師器 | 甕 | 肩部 | — | (5.4) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | 輪積み痕あり |
| 41-7 | SK-04 | — | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 16.0 | (3.1) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | 外面口縁部スス付着 |
| 41-8 | SK-04 | — | 陶文土器 | 深鉢 | 肩部 | — | — | — | 貝殻腹縫文. 沈線 | ナデ | — | |
| 41-9 | SK-05 | — | 陶文土器 | 深鉢 | 肩部 | — | — | — | 貝殻腹縫文. 沈線 | ナデ | — | |

第9表 遺構内出土土製品観察表 (SK)

| 団版番号 | 出土位置 | 層位 | 種 別 | 計測値(cm) | | | 文様・調整 | | | 時 期 | 備 考 |
|-------|-------|----|-------|---------|-----|-----|-------|-----|------|-----|-----|
| | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | 外 面 | 内 面 | 底 面 | | |
| 41-10 | SK-02 | 1層 | 焼成粘土塊 | 3.0 | 3.6 | 2.4 | ナデ | — | 平安時代 | | |

第10表 遺構内出土土器観察表 (SN)

| 団版番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 種類 | 部位 | 計測値(cm) | | | 文様・調整 | | | 備 考 |
|------|-------|----|-----|----|------------|---------|--------|----|-------|------|-----|------------|
| | | | | | | 口径 | 高さ | 底径 | 外 面 | 内 面 | 底 面 | |
| 42-1 | SN-01 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 ~肩部 | 14.2 | 12.7 | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | 外面部分的にスス付着 |
| 42-2 | SN-01 | 6層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 ~肩部 | 11.0 | (13.3) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 42-3 | SN-01 | 7層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 ~肩部 | 14.2 | (8.3) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 42-4 | SN-01 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 21.8 | (4.2) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 42-5 | SN-01 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 肩部 | — | (4.5) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |

第11表 遺構内出土土器観察表 (SD)

| 団版番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 種類 | 部位 | 計測値(cm) | | | 文様・調整 | | | 備 考 |
|-------|-------|-----|------|----|------------|---------|--------|------|------------------|-------|-----------------|-----------------|
| | | | | | | 口径 | 高さ | 底径 | 外 面 | 内 面 | 底 面 | |
| 62-1 | SD-01 | — | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 20.8 | (6.5) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 62-2 | SD-01 | — | 陶文土器 | 甕 | 底部 | — | (3.5) | 8.2 | ハケメ | ハケメ | — | |
| 62-3 | SD-01 | 最上層 | 須恵器 | 环 | 口縁部 ~肩部 | 12.3 | 5.0 | 5.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラナデ | |
| 62-4 | SD-01 | — | かわらけ | — | 底部 | 8.4 | 1.95 | 7.6 | ヘラナデ | ヘラナデ | ヘラナデ | |
| 62-5 | SD-01 | — | かわらけ | — | 底部 | — | (3.1) | 12.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラナデ | |
| 62-6 | SD-01 | — | 青磁 | 皿 | 底部 | 8.8 | 2.2 | 2.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラナデ | 口唇部の欠けが多く見られる |
| 62-7 | SD-02 | 中層 | 陶文土器 | 甕 | 肩部 | — | (13.8) | — | 粘土結晶粒. 沈線.ハケメ | ハケメ | — | |
| 62-8 | SD-02 | 中層 | 土師器 | 坏 | 口縁部 | 15.4 | (2.9) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 62-9 | SD-02 | 中層 | 土師器 | 坏 | 口縁部 | 15.0 | (2.4) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 62-10 | SD-02 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 口縁部 ~肩部 | 11.6 | (3.4) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 62-11 | SD-02 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 口縁部 | 12.0 | (3.3) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 62-12 | SD-02 | 下層 | 土師器 | 坏 | 口縁部 | 12.2 | (4.3) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 62-13 | SD-02 | 中層 | 土師器 | 坏 | 口縁部 | 12.0 | (4.8) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 62-14 | SD-02 | 最上層 | 土師器 | 坏 | 口縁部 ~底部 | 13.4 | (5.2) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 62-15 | SD-02 | 下層 | 土師器 | 坏 | 口縁部 ~底部 | 10.8 | 5.0 | 4.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 62-16 | SD-02 | 最上層 | 土師器 | 坏 | 底部 | — | (4.3) | 5.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転矢印. ヘラミガキ | 内面黒色処理 |
| 62-17 | SD-02 | 中層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 11.8 | (6.0) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 62-18 | SD-02 | 下層 | 土師器 | 甕 | 底部 | — | (3.15) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | 墨書きあり |
| 62-19 | SD-02 | 下層 | 土師器 | 甕 | 底部 | — | (1.5) | 5.0 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転矢印. | 右回転矢印. |
| 62-20 | SD-02 | 中層 | 土師器 | 坏 | 底部 | — | (2.9) | 4.5 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラミガキ | 右回転矢印. ヘラミガキ |
| 62-21 | SD-02 | 中層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 11.4 | (7.9) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 62-22 | SD-02 | 下層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 14.6 | (4.2) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 62-23 | SD-02 | 下層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 17.2 | (4.0) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 62-24 | SD-02 | 下層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 ~肩部 | 14.0 | (8.8) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | 輪積み痕あり |
| 62-25 | SD-02 | 中層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 21.0 | (4.5) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 62-26 | SD-02 | 中層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 21.8 | (3.8) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 62-27 | SD-02 | 下層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 22.0 | (3.5) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 63-28 | SD-02 | 中層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 24.2 | (5.2) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | 外面口縁部一部スス付着 |
| 63-29 | SD-02 | 下層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 20.6 | (5.5) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 63-30 | SD-02 | 中層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 22.6 | (6.4) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 63-31 | SD-02 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 21.0 | (5.9) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |

| 回収番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 計測値(cm) | | | 文様・調整 | | | 備考 |
|-------|-------|-----|-------|----|-----------|---------|--------|-----|---------------------|-------------|------------|-------------|
| | | | | | | 長幅 | 短幅 | 厚さ | 底径 | 外面 | 内面 | |
| 63-32 | SD-02 | 中層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 22.0 | (6.9) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 63-33 | SD-02 | 下層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 18.2 | (7.7) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 63-34 | SD-02 | 最上層 | 土師器 | 甕 | 口縁 ～胴部 | 25.2 | (8.1) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 63-35 | SD-02 | 下層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 21.4 | (3.1) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 63-36 | SD-02 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 16.0 | (4.4) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 63-37 | SD-02 | 中層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 24.4 | (4.7) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 63-38 | SD-02 | 下層 | 土師器 | 甕 | 底部 | — | (3.0) | 7.4 | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 63-39 | SD-02 | 下層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 24.2 | (4.3) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 63-40 | SD-02 | 下層 | 土師器 | 甕 | 胴部 | — | (7.4) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 63-41 | SD-02 | 最上層 | 瓦片付土器 | — | 把手 | — | (5.5) | — | ヘラズリ | ヘラナデ | — | |
| 63-42 | SD-02 | 最上層 | 瓦片付土器 | — | 把手 | — | (7.6) | — | ヘラズリ | ヘラナデ | — | |
| 63-43 | SD-02 | 下層 | 製埴土器 | — | 胴部 | — | (4.5) | — | ナデ | ヘラナデ | — | |
| 63-44 | SD-02 | 下層 | 製埴土器 | — | 胴部 | — | (6.3) | — | ナデ | ナデ | — | |
| 63-45 | SD-02 | 下層 | 製埴土器 | — | 胴部 | — | (5.6) | — | ナデ | ヘラナデ | — | 内面に補修痕あり |
| 63-46 | SD-02 | 下層 | 製埴土器 | — | 胴部 | — | (12.3) | — | ナデ | ヘラナデ | — | 内面に補修痕あり |
| 63-47 | SD-02 | 中層 | 陶文土器 | 甕 | 胴部 | — | — | — | 粘土結貼付、 割目 | ミガキ | — | |
| 63-48 | SD-02 | 中層 | 陶文土器 | 甕 | 胴部 | — | — | — | 沈線、割目 | ミガキ | — | |
| 63-49 | SD-02 | 下層 | 製埴土器 | 甕 | 胴部 | — | (1.9) | — | — | ナデ | 絞目痕 | |
| 64-50 | SD-02 | 最上層 | 陶文土器 | 甕 | 胴部 | — | — | — | ハケメ、粘土 結貼付、沈線 | ミガキ | — | |
| 64-51 | SD-02 | 最上層 | 陶文土器 | 甕 | 胴部 | — | — | — | 沈線、割目 | ミガキ | — | |
| 64-52 | SD-02 | 最上層 | 陶文土器 | 甕 | 胴部 | — | 6.1 | — | ハケメ、粘土 結貼付、沈線 | ハケメ | — | |
| 64-53 | SD-02 | 最上層 | 陶文土器 | 甕 | 胴部 | — | (6.8) | — | ハケメ、立筋、 割目、粘土結貼付 | ハケメ | — | |
| 64-54 | SD-02 | 最上層 | 陶文土器 | 甕 | 胴部 | — | (4.9) | — | ハケメ、粘土 結貼付、沈線 | ハケメ | — | |
| 64-55 | SD-02 | 最上層 | 陶文土器 | 甕 | 口縁部 | 10.6 | (8.5) | — | 割突、沈線 | ハケメ | — | |
| 64-56 | SD-02 | 下層 | 陶文土器 | 甕 | 口縁部 | 18.6 | (5.3) | — | 沈線 | ハケメ、ミ ガキ | — | |
| 64-57 | SD-02 | 最上層 | 陶文土器 | 甕 | 口縁部 | 18.6 | (4.9) | — | 沈線、ハケメ | ハケメ | — | |
| 64-58 | SD-02 | 最上層 | 陶文土器 | 甕 | 口縁部 | 21.4 | (3.9) | — | 沈線 | ハケメ | — | |
| 64-59 | SD-02 | 中層 | 陶文土器 | 甕 | 口縁部 | 21.6 | (6.2) | — | 沈線、ハケメ | ハケメ | — | |
| 64-60 | SD-02 | 下層 | 陶文土器 | 甕 | 底部 | — | (3.6) | 8.0 | ハケメ | ハケメ | ヘラおこし | |
| 64-61 | SD-02 | 最上層 | 陶文土器 | 甕 | 底部 | — | (4.5) | 6.4 | ハケメ | ハケメ | — | |
| 64-62 | SD-02 | 中層 | 須恵器 | 壺 | 底部 | — | (1.15) | 4.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 | |
| 64-63 | SD-02 | 中層 | 須恵器 | 壺 | 底部 | — | (3.15) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 64-64 | SD-02 | 下層 | 須恵器 | 壺 | 口縁部 | 18.4 | (7.9) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 64-65 | SD-02 | 最上層 | 須恵器 | 壺 | 底部 | — | (4.1) | 7.8 | ロクロナデ、 ヘラナデ | ロクロナデ | 菊花状ケズ リ | |
| 64-66 | SD-02 | 中層 | 須恵器 | 壺 | 底部 | — | (3.9) | 9.6 | ロクロナデ、 ヘラナデ | ロクロナデ | 菊花状ケズ リ | |
| 64-67 | SD-02 | 中層 | 須恵器 | 甕 | 口縁部 | 22.8 | (8.5) | — | ロクロナデ、 タタキ | ロクロナデ | — | 外画面口部に打欠痕あり |
| 64-68 | SD-02 | 上層 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | — | (6.3) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 64-69 | SD-02 | 中層 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | — | (4.2) | — | タタキ | ロクロナデ | — | |

第12表 遺構内出土石器・石製品観察表 (SD)

| 回収番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 計測値(cm, g) | 石質 | | | 備考 |
|------|-------|-----|--------|------------|----|----|------|-------|
| | | | | | 長幅 | 短幅 | 厚さ | |
| 65-1 | SD-02 | 最上層 | 石製品 | 47 | 66 | 10 | 34 | 沈線、隆蒂 |
| 65-2 | SD-02 | — | 砾石、タタキ | 173 | 70 | 52 | 1112 | 安山岩 |

第13表 遺構内出土土製品観察表 (SD)

| 回収番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 計測値(cm, g) | 文様・調整 | | | 時期 | 備考 |
|------|-------|----|-------|------------|-------|-----|------|----|----|
| | | | | | 長幅 | 短幅 | 厚さ | | |
| 65-3 | SD-02 | 下層 | 焼成粘土塊 | 4.3 | 2.9 | 0.7 | ヘラナデ | — | |

第14表 遺構内出土鐵滓・羽口観察表 (SD)

| 回収番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 計測値(cm, g) | 計測値(cm, g) | | | メタル度 | 磁羅度 | 備考 |
|------|-------|----|-------|------------|------------|-----|-------|------|-----|--------|
| | | | | | 長幅 | 短幅 | 厚さ | | | |
| 66-1 | SD-02 | 下層 | 挽鉄鍛冶滓 | 5.6 | 3.5 | 1.8 | 38 | 跡印△ | 2 | |
| 66-3 | SD-02 | 下層 | 渦動滓 | 5.6 | 1.9 | 1.2 | 14 | なし | 1 | |
| 66-4 | SD-02 | 下層 | 渦動滓 | 5.4 | 3.7 | 1.3 | 26 | なし | 1 | |
| 66-2 | SD-02 | 覆土 | 羽口 | 3.9 | 3.5 | 1.3 | 12.8 | なし | 1 | |
| 66-5 | SD-02 | 下層 | 羽口 | 9.4 | 5.3 | 3.2 | 116.2 | なし | 1 | |
| 66-6 | SD-02 | 覆土 | 羽口 | 9.5 | 5.3 | 2.1 | 93.5 | なし | 1 | |
| 66-7 | SD-02 | 中層 | 羽口 | 9.1 | 6.7 | 2.3 | 134.7 | なし | 1 | すぐれ状斑痕 |

第15表 遺構内出土土器観察表 (S P)

| 器版番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 種類 | 部位 | 計測値(cm) | | | 文様・調整 | | | 備考 |
|------|--------|----|-----|----|------------|---------|--------|-----|-------|-------|------|----------|
| | | | | | | 口径 | 底高 | 底径 | 外面 | 内面 | 底面 | |
| 51-1 | SP-01 | 1層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 18.5 | (5.3) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | 内面口縁部ス付着 |
| 51-2 | SP-18 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | — | (3.3) | 9.2 | ヘラナデ | ヘラナデ | 木葉痕? | |
| 51-3 | SP-64 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 側部 | — | (3.5) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | 刻畫有り |
| 51-4 | SP-80 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 22.0 | (2.6) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 51-5 | SP-83 | 覆土 | 陶土器 | 甕 | 口縁部 | 12.6 | (2.65) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 51-6 | SP-90 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 11.4 | (2.95) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |
| 51-7 | SP-133 | 1層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | 24.0 | (2.3) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 51-8 | SP-142 | — | 土師器 | 甕 | 口縁部 ~胴部 | 20.0 | (8.0) | — | ヘラナデ | ヘラナデ | — | |

第16表 遺構外出土土器観察表

| 器版番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 種類 | 部位 | 計測値(cm) | | | 文様・調整 | | | 備考 |
|-------|------|-----|------|----|-------|---------|-------|-----|-------------------|-------|----|--------|
| | | | | | | 口径 | 底高 | 底径 | 外面 | 内面 | 底面 | |
| 52-1 | D-6 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | — | 貝殻腹線文、 北緯、削突 | ナデ | — | |
| 52-2 | D-6 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | 貝殻腹線文 | ナデ | — | |
| 52-3 | I-6 | — | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | 貝殻腹線文、 北緯 | ミガキ | — | |
| 52-4 | I-9 | — | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | 貝殻腹線文 | ナデ | — | |
| 52-5 | D-6 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | 貝殻腹線文 | ミガキ | — | |
| 52-6 | H-10 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | 条痕、貝殻 腹線文 | 条痕 | — | |
| 52-7 | G-10 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | RL | ナデ | — | |
| 52-8 | I-9 | — | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | RL | ナデ | — | |
| 52-9 | H-11 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | RL | ミガキ | — | |
| 52-10 | I-7 | — | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | LR | ミガキ | — | |
| 52-11 | I-5 | — | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | RL | ナデ | — | |
| 52-12 | C-7 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | RL | ナデ | — | |
| 52-13 | I-6 | — | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | RL | ミガキ | — | |
| 52-14 | I-5 | — | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | LR | ミガキ | — | |
| 52-15 | I-8 | — | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | RL, R.結節 回転文 | ナデ | — | |
| 52-16 | D-5 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 口縁部 | — | (3.0) | — | 沈線 | ナデ | — | |
| 52-17 | E-5 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | — | RL, LR, 沈線 | ナデ | — | |
| 52-18 | D-7 | 確認面 | 繩文土器 | 鉢 | 脇部 | — | — | — | RL, LR, 沈 線、ナデ | ナデ | — | |
| 52-19 | D-8 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | RL, 沈線 | ナデ | — | |
| 52-20 | I-6 | — | 繩文土器 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | — | 沈線 | ナデ | — | 内面ス付着 |
| 52-21 | I-6 | — | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | 沈線 | ナデ | — | |
| 52-22 | I-6 | — | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | 沈線 | ナデ | — | |
| 52-23 | F-5 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 口縫~脇部 | — | (7.0) | — | 沈線 | ナデ | — | |
| 52-24 | I-6 | — | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | 沈線 | ナデ | — | |
| 52-25 | F-6 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | (4.3) | — | 沈線 | ナデ | — | |
| 52-26 | G-9 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | — | RL | ナデ | — | |
| 52-27 | I-8 | — | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | 沈線 | ミガキ | — | |
| 52-28 | E-4 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | 沈線、剣目、 粘土貼付 | ナデ | — | |
| 52-29 | H-9 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | — | 口縫が返口 縫、RL | ナデ | — | |
| 52-30 | D-6 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 脇部 | — | — | — | LR, 沈線、剣 目、粘土粉 | ナデ | — | |
| 52-31 | C-6 | 確認面 | 繩文土器 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | — | 口唇剣目、 口縫粘付 | ナデ | — | |
| 52-32 | E-5 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 14.6 | (5.2) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 52-33 | D-5 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 14.4 | (3.7) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 52-34 | F-4 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 11.8 | (4.2) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | 内面黒色処理 |
| 52-35 | F-4 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 12.6 | (4.7) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | 内面黒色処理 |
| 53-36 | G-10 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 12.8 | (3.1) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | 内面黒色処理 |
| 53-37 | G-10 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 13.6 | (3.8) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | 内面黒色処理 |
| 53-38 | H-9 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 12.8 | (3.8) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | 内面黒色処理 |
| 53-39 | H-11 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 12.2 | (4.8) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | 内面黒色処理 |
| 53-40 | G-10 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 13.8 | (4.9) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 53-41 | H-10 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 12.8 | (2.9) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 53-42 | H-11 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 18.6 | (8.1) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 53-43 | G-6 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 12.4 | (3.8) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 53-44 | D-5 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 底部 | — | (3.1) | 6.0 | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |

| 既版番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 計測値(cm) | | | 文様・調整 | | 備 考 |
|--------|------|-----|-------|----|-----------|---------|---------|------|-----------------|-----------------|-----------------|
| | | | | | | 口径 | 高さ | 底径 | 外 面 | 内 面 | |
| 53-45 | F-5 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 底部 | - | (2.5) | 6.6 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切、 ヘラおこし |
| 53-46 | G-5 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 底部 | - | (2.0) | 6.6 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切、 ヘラおこし |
| 53-47 | F-4 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 底部 | - | (2.5) | 5.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 右回転糸切 |
| 53-48 | D-4 | 確認面 | 土師器 | 小壺 | 口縁 ～底部 | 9.4 | 7.95 | 5.2 | ヘラケズリ | ヘラケズリ | ヘラナデ |
| 53-49 | C-6 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 11.8 | (4.35) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 53-50 | C-6 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 28.5 | (5.5) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 53-51 | F-4 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁 ～胴部 | 13.4 | (8.9) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 53-52 | D-4 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 21.6 | (5.0) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 53-53 | D-5 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 19.0 | (3.65) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 53-54 | D-5 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁 ～胴部 | 22.2 | (14.55) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | 外面部スス付着 |
| 53-55 | D-6 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 16.6 | (6.2) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 53-56 | E-5 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁 ～胴部 | 22.0 | (7.5) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 53-57 | D-6 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 24.6 | (3.4) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 53-58 | D-5 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 24.2 | (3.8) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 53-59 | E-10 | 表採 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 19.8 | (4.5) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 54-60 | E-5 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁 ～胴部 | 27.4 | (7.0) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 54-61 | G-5 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 17.0 | (3.9) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 54-62 | F-8 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 23.0 | (6.5) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 54-63 | I-7 | - | 土師器 | 壺 | 口縁 ～胴部 | 20.0 | (8.8) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 54-64 | F-9 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 22.8 | (5.4) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 54-65 | G-10 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 16.0 | (6.7) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 54-66 | I-6 | - | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 20.0 | (10.8) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | 内面部的にスス |
| 54-67 | F-5 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 16.0 | (6.1) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 54-68 | H-9 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 22.4 | (3.9) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 54-69 | G-9 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 18.4 | (5.7) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 54-70 | G-7 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 22.6 | (4.7) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 54-71 | H-10 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 19.6 | (4.8) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 54-72 | G-10 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 23.4 | (4.8) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 54-73 | F-4 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 20.4 | (4.4) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 54-74 | H-10 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | 17.8 | (3.0) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 54-75 | H-11 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | - | (5.9) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 54-76 | D-4 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | - | (5.25) | - | ヘラナデ | ヘラナデ | - |
| 54-77 | H-6 | - | 土師器 | 小壺 | 口縁部 | 10.0 | (3.0) | - | ナデ | ナデ | - |
| 54-78 | G-6 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 底部 | - | (3.8) | 5.8 | ヘラズリ | ヘラナデ | ヘラナデ |
| 54-79 | F-4 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 底部 | - | (1.8) | 9.8 | ヘラズリ | ヘラナデ | ヘラナデ |
| 54-80 | G-7 | 表採 | 土師器 | 金 | 底部 | - | (3.6) | 10.2 | ヘラナデ | ミガキ | ヘラナデ |
| 55-81 | G-10 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 底部 | - | (2.6) | 6.8 | ヘラズリ | ヘラナデ | ヘラナデ |
| 55-82 | C-6 | 確認面 | 土師器 | 壺 | 底部 | - | (2.8) | 8.0 | ヘラズリ | ヘラナデ | ヘラナデ |
| 55-83 | I-8 | - | 土師器 | 壺 | 胴部 ～底部 | - | - | - | ヘラナデ | ヘラナデ | ヘラナデ |
| 55-84 | I-8 | - | 土師器 | 壺 | 底部 | - | - | - | ヘラナデ | - | 網代痕 内面部 |
| 55-85 | F-5 | 確認面 | 陶文土器 | 壺 | 胴部 | - | - | - | 沈継 | ミガキ | - |
| 55-86 | G-6 | 確認面 | 陶文土器 | 壺 | 胴部 | - | - | - | ハサメ、沈継 | ミガキ | - |
| 55-87 | F-9 | 確認面 | 陶文土器 | 壺 | 口縁部 | - | - | - | 沈継、削目 | ミガキ | 全体に摩滅 |
| 55-88 | E-10 | 表採 | 陶文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | - | ハサメ、沈継 | ミガキ | - |
| 55-89 | H-6 | - | 陶文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | - | ハサメ、削目 | ミガキ | - |
| 55-90 | F-9 | 確認面 | 陶文土器 | 壺 | 口縁部 | - | - | - | 沈継、突尖 | ミガキ | - |
| 55-91 | D-6 | 確認面 | 陶文土器 | 壺 | 胴部 | - | - | - | 沈継、粘土 紐貼付 | ミガキ | - |
| 55-92 | I-9 | - | 陶文土器 | 壺 | 胴部 | - | - | - | ハサメ、沈継 粘土紐貼付 | ミガキ | - |
| 55-93 | F-8 | 確認面 | 陶文土器 | 壺 | 胴部 | - | - | - | ハサメ | ナデ | 網代痕 |
| 55-94 | I-5 | - | 陶文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | - | ハサメ | ナデ | - |
| 55-95 | I-7 | - | 東土文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | - | ハサメ | ミガキ | - |
| 55-96 | I-6 | - | 製造土器 | 壺 | 口縁部 | - | (4.3) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 55-97 | I-6 | - | 東土器 | 壺 | 口縁部 | 12.7 | (3.2) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 55-98 | G-6 | 確認面 | 須恵器 | 壺 | 口縁部 | 13.6 | (2.7) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 55-99 | F-4 | 確認面 | 須恵器 | 小壺 | 胴部 | - | (3.9) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 55-100 | I-7 | - | 須恵器 | 金 | 口縁部 | 11.4 | (1.5) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 55-101 | I-9 | - | 須恵器 | 金 | 口縁部 | 11.2 | (2.7) | - | ロクロナデ | ロクロナデ | - |
| 55-102 | I-8 | - | 須恵器 | 壺 | 胴部 | - | - | - | ロクロナデ、 ヘラナデ | ヘラケズリ | - |
| 55-103 | D-6 | 確認面 | 須恵器 | 壺 | 口縁 ～底部 | - | - | - | ロクロナデ | ロクロナデ、 ヘラケズリ | - |
| 55-104 | G-10 | 確認面 | 須恵器 | 壺 | 胴部 | - | - | - | タタキ | ヘラナデ | - |
| 55-105 | I-6 | - | 須恵器 | 壺 | 胴部 | - | - | - | タタキ | ナデ | - |
| 55-106 | I-6 | - | 須恵器 | 壺 | 胴部 | - | - | - | タタキ | ナデ | 外面部や摩滅 |

| 図版番号 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 計測値(cm) | | | 文様・調整 | | | 備考 |
|--------|------|-----|-----|--------------|-----------|---------|--------|-----|-------|-------|-----|----|
| | | | | | | 口幅 | 底高 | 底径 | 外 面 | 内 面 | 底 面 | |
| 55-107 | D-6 | 確認面 | 須恵器 | 壺 | 口縁 ～底部 | — | — | — | — | — | — | |
| 56-108 | D-8 | 確認面 | 須恵器 | 甕 | 底部 | — | — | — | タタキ | ナデ | — | |
| 56-109 | I-6 | — | 陶器 | 大甕(瓦 貢土壺) | 口縁部? | — | (2.2) | — | — | — | — | |
| 56-110 | I-8 | — | 甕? | ? | ? | 4.0 | 4.4 | 1.2 | — | — | — | |
| 56-111 | H-10 | 確認面 | 陶器 | 貢之巻利 | 底部 | — | (13.0) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| 56-112 | H-6 | — | 陶器 | 貢之巻利 | 底部 | — | (16.2) | — | ロクロナデ | ロクロナデ | — | |
| | F-5 | 確認面 | | | | | | | | | | |

第17表 遺構外出土石器觀察表

| 図版番号 | 出土位置 | 層位 | 種 別 | 計測値(mm, g) | | | 石 質 | 備 考 |
|-------|------|-----|--------|------------|-----|-----|------|-------|
| | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | |
| 57-1 | E-6 | 確認面 | 不定形石器 | 90 | 44 | 11 | 53.4 | 珪質頁岩 |
| 57-2 | F-5 | 確認面 | 不定形石器 | 49 | 49 | 18 | 41.9 | 珪質頁岩 |
| 57-3 | I-8 | — | 不定形石器 | 42 | 21 | 10 | 9.9 | 珪質頁岩 |
| 57-4 | F-5 | 確認面 | 砾石, 磨石 | 103 | 78 | 55 | 606 | 石英安山岩 |
| 57-5 | F-8 | 確認面 | 砾石 | 122 | 78 | 90 | 1002 | 石英安山岩 |
| 57-6 | F-9 | — | 砾石 | 235 | 135 | 157 | 5500 | 安山岩 |
| 57-7 | I-7 | — | 砾石 | 103 | 73 | 65 | 546 | 安山岩 |
| 57-8 | I-7 | — | 石皿 | 100 | 80 | 54 | 708 | 安山岩 |
| 57-9 | J-7 | — | 不明石器 | 181 | 74 | 57 | 1226 | 安山岩 |
| 57-10 | I-7 | — | 凹石 | 91 | 51 | 32 | 200 | 安山岩 |
| 57-11 | I-6 | — | 不明石器 | 33 | 28 | 17 | 12 | 安山岩 |

第18表 遺構外出土土製品觀察表

| 図版番号 | 出土位置 | 層位 | 種 別 | 計測値(cm) | | | 石 質 | 備 考 |
|------|------|-----|----------|---------|-----|-----|-------|--------|
| | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | |
| 58-1 | D-8 | 確認面 | 土器片利用土製品 | 4.0 | 4.0 | 0.6 | 沈線、ナデ | 縄文時代後期 |
| 58-2 | F-10 | 確認面 | 焼成粘土塊 | 5.8 | 7.0 | 1.9 | ナデ | — |
| 58-3 | G-10 | 確認面 | 焼成粘土塊 | 4.3 | 2.8 | 2.8 | ナデ | — |

第19表 遺構外出土鉄製品・鉄滓・羽口觀察表

| 図版番号 | 出土位置 | 層位 | 種 別 | 計測値(mm, g) | | | メタル度 | 磁強度 | 備 考 |
|------|------|------|----------|------------|------|------|------|-------|-----|
| | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | |
| 59-4 | I-6 | 表土一括 | 紡錘車 | 5.8 | 3.3 | 0.9 | 10.8 | 誘化(△) | 1 |
| 59-5 | I-9 | — | 棒状鉄製品 | 2.5 | 0.6 | 0.5 | 2.0 | L(●) | 3 |
| 59-6 | I-7 | 表土一括 | 棒状鉄製品訂? | 3.6 | 0.7 | 0.5 | 1.6 | H(○) | 2 |
| 59-1 | F-6 | 確認面 | 楕形鍛冶滓 | 11.2 | 11.2 | 3.0 | 464 | 誘化(△) | 2 |
| 59-2 | G-10 | 確認面 | 楕形鍛冶滓 | 14.1 | 11.0 | 5.2 | 754 | なし | 1 |
| 59-3 | F-6 | 確認面 | 楕形鍛冶滓 | 5.6 | 3.5 | 1.8 | 8 | なし | 1 |
| 59-4 | F-6 | 確認面 | 楕形鍛冶滓 | 70.5 | 48.5 | 1.3 | 56 | 誘化(△) | 3 |
| 59-5 | I-9 | 表土下 | 楕形鍛冶滓(小) | 6.5 | 6.1 | 1.7 | 102 | なし | 2 |
| 59-7 | G-10 | 確認面 | 楕形鍛冶滓 | 64.0 | 54.5 | 27.5 | 132 | 誘化(△) | 4 |
| 59-6 | E-5 | 確認面 | 羽口 | 4.5 | 3.4 | 1.6 | 24.4 | なし | 1 |
| 59-8 | E-5 | 確認面 | 羽口 | 8.1 | 4.8 | 2.4 | 74.3 | なし | 1 |
| 59-9 | F-8 | 確認面 | 羽口 | 7.1 | 5.3 | 2.3 | 63.4 | なし | 1 |

第V章 自然科学分析

1. 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

 藤根 久・伊藤 茂・安昭炫・廣田正史・山形秀樹・
 小林紘一・Zaur Lomtadidze・Ineza Jorjoriani

1. はじめに

野尻館遺跡は、青森県青森市大字野尻字野田、四ツ石字里見地内に所在する遺跡である。調査では、古代の住居跡などが検出されている。ここでは、古代の住居跡から出土した炭化材とグリッドから出土した鉄滓中の錆着炭化材について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、同一試料について樹種同定も行っている（2を参照）。

2. 試料と方法

試料は、竪穴住居跡であるSI-11およびSI-05から出土した炭化材各1点、G-10グリッドから出土した鉄滓中の錆着炭化材1点である（表1、図版1）。最終形成年輪の有無および年輪数等を確認した後、最外側の数年輪を採取して年代測定試料とした。各試料は、調製した後、加速器質量分析計（コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、曆年代を算出した。

表1 測定試料および処理

| 測定番号 | 遺跡データ | 試料データ | 調査による所見 | 前処理データ | 前処理 |
|-----------|--------------------|---|----------------------------|---|--|
| PLD-20105 | 遺構：SI-11 層位：2層 | 試料の種類：炭化材（ヤナギ属） 試料の性状：最終形成年輪無 その他：芯持ち残り出し？ 測定年輪数：2年輪 | 10～11世紀 | 前処理前重量：65.5mg 燃焼量：5.9mg 精製炭素量：3.85mg 炭素回収量：1.04mg | 超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N、水酸化ナトリウム：1N、塩酸：1.2N） |
| PLD-20106 | 遺構：SI-05 層位：11層 | 試料の種類：炭化材（アヌナ） 試料の性状：最終形成年輪無 測定年輪数：5年輪 | 覆土中にB-Tm (10世紀前半) 含む | 前処理前重量：16.6mg 燃焼量：6.0mg 精製炭素量：3.90mg 炭素回収量：1.09mg | 超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N、水酸化ナトリウム：1N、塩酸：1.2N） |
| PLD-20107 | 遺構：G-10 (鉄滓) | 試料の種類：錆着炭化材（モクレン属） 試料の性状：最終形成年輪無 測定年輪数：2年輪 | 10～11世紀 | 前処理前重量：139.1mg 燃焼量：5.8mg 精製炭素量：3.82mg 炭素回収量：1.01mg | 超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N、水酸化ナトリウム：1N、塩酸：1.2N） |

3. 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{14}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って曆年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C年代を、図版1に曆年較正結果をそれぞれ示す。曆年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後曆年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて曆年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代(yrBP)の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差(±1σ)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。なお、曆年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇

宇宙強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い（¹⁴Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の暦年較正にはOxCal4.1（較正曲線データ：IntCal09）を使用した。なお、1 σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2 σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

表2 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

| 測定番号 | 測定回数 | $\delta^{14}\text{C}$ (‰) | 暦年較正年代 (yrBP ± 1σ) | ¹⁴ C年代 (yrBP ± 1σ) | ¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代範囲 | |
|-----------|------|------------------------------|-----------------------|----------------------------------|---|--|
| | | | | | 1σ暦年代範囲 | 2σ暦年代範囲 |
| PLD-20105 | 9 | -21.40 ± 0.14 | 1055 ± 19 | 1055 ± 20 | 985AD (68.2%) 1016AD | 902AD (5.6%) 915AD 968AD (89.8%) 1023AD |
| PLD-20106 | 9 | -22.89 ± 0.16 | 1223 ± 20 | 1225 ± 20 | 725AD (7.8%) 738AD 771AD (43.1%) 828AD 839AD (17.3%) 865AD | 710AD (16.5%) 747AD 766AD (78.9%) 883AD |
| PLD-20107 | 9 | -24.99 ± 0.14 | 933 ± 19 | 935 ± 20 | 1040AD (11.0%) 1054AD 1078AD (27.0%) 1110AD 1116AD (30.2%) 1153AD | 1035AD (95.4%) 1156AD |

4. 考察

各試料の年代は、同位体分別効果の補正および暦年較正を行った結果、以下の通りである。

竪穴住居跡であるS I-11の2層から出土した炭化材（ヤナギ属：PLD-20105）は、1 σ暦年代範囲において985-1016 cal AD (68.2%)、2 σ暦年代範囲において902-915 cal AD (5.6%) および968-1023 cal AD (89.8%) であった。2 σ暦年代範囲の確率の高い方の年代範囲では、10世紀後半～11世紀前半の年代を示した。この炭化材の木取りは、芯持ちの削り出しのような丸木であり、最終形成年輪は確認されなかったことから、測定された年代は、多少古い年代（古木効果）を示している可能性がある。

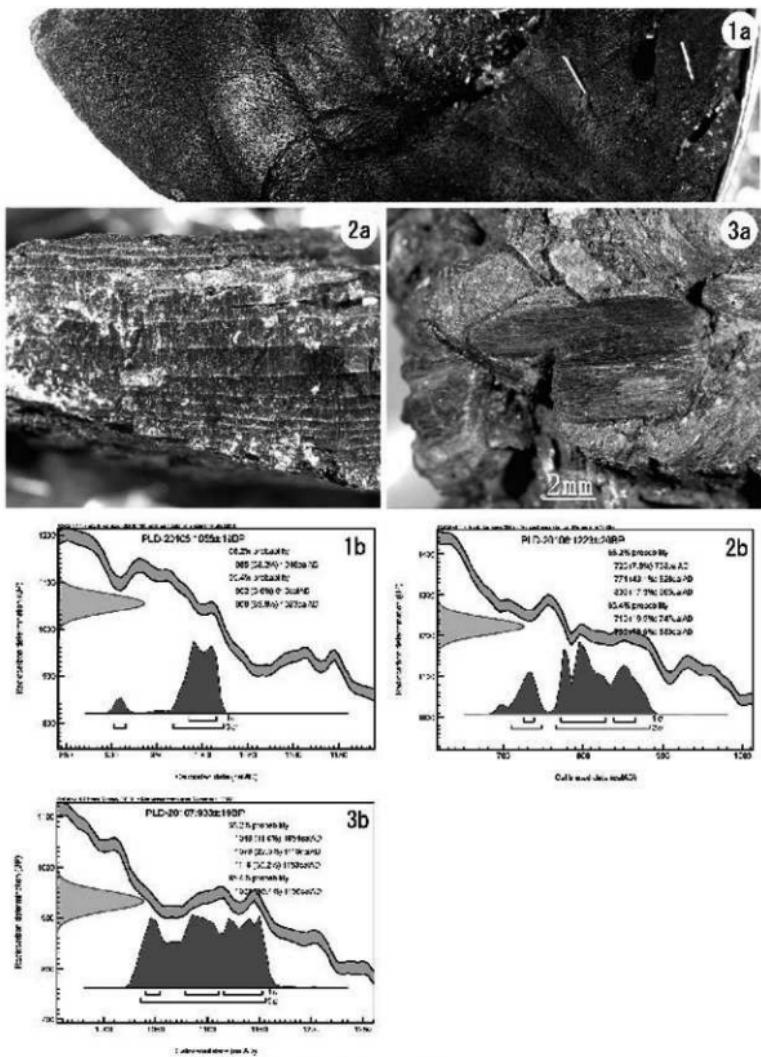
また、竪穴住居跡であるS I-05の11層から出土した炭化材（アスナロ：PLD-20106）は、1 σ暦年代範囲において725-738 cal AD (7.8%)、771-828 cal AD (43.1%)、839-865 cal AD (17.3%)、2 σ暦年代範囲において710-747 cal AD (16.5%)、766-883 cal AD (78.9%) の暦年代を示した。2 σ暦年代範囲の確率の高い年代範囲では、8世紀後半～9世紀後半の年代を示した。

調査による知見では、S I-05は覆土中にB-Tm (10世紀前半) が狭在し、考古学的には10世紀～11世紀と考えられているが、年代測定の結果は大幅に古い年代範囲を示した。この炭化材は、最終形成年輪が確認されていない。また、この炭化材は、樹種同定により針葉樹のアスナロと同定されているが、アスナロには径が小さい割に年輪数が多く、数百年輪を超える木材がある（パレオ・ラボ年代測定グループ、2011）。したがって、今回の試料が大幅に古い年代を示したのは、10～11世紀に建築材などのために伐採された、年輪が数百年分あるような木材の内側の年輪部分を測定した可能性もある（古木効果）。

G-10グリッドから出土した銹着炭化材（モクレン属：PLD-20107）は、1 σ暦年代範囲において1040-1054 cal AD (11.0%)、1078-1110 cal AD (27.0%)、1116-1153 cal AD (30.2%)、2 σ暦年代範囲において1035-1156 cal AD (95.4%) であった。2 σ暦年代範囲では、11世紀前半～12世紀中頃の年代を示した。この材は、鉄滓中の破片であり、最終形成年輪は確認できなかったため、測定された年代は、木材が実際に伐採された年代よりも古い年代を示している可能性がある（古木効果）。

引用・参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編「日本先史時代の¹⁴C年代」：3-20, 日本第四紀学会。
- バレオ・ラボAMS年代測定グループ (2011) 第3節 放射性炭素年代測定。青森市教育委員会編「石江遺跡群発掘調査報告書IV、石江遺跡群分析編2」, 47-61, 青森市教育委員会。
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 51, 1111-1150.



図版1 年代測定試料と断年校正結果

1a・1b. PLD-20105 (SI-11, 2層中の炭化材: ヤナギ属)

2a・2b. PLD-20105 (SI-05, 11層中の炭化材: アスナロ)

3a・3b. PLD-20107 (鉄津中の鈎着炭化材: モクレン属)

2. 野尻館遺跡出土炭化材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

1. はじめに

野尻館遺跡は青森市大字四ツ石字里見に所在する、平安時代を主体とする遺跡である。調査では竪穴住居跡などが検出され、遺構内から炭化材や、鉄滓中に含まれた銹着した炭化材（錆の鉄分により固定した炭化材）が出土した。ここでは年代測定に伴い出土した炭化材の樹種同定を行なった。

2. 試料と方法

試料は、竪穴住居跡である S I - 11 から出土した 1 点、S I - 05 から出土した 1 点の 2 点の出土炭化材と、G - 10 グリッドから出土した 1 点の鉄滓中の銹着炭化材の計 3 点である。放射性炭素年代測定の結果、S I - 11 出土の炭化材（試料 No. 1 : PLD-20105）は 10 世紀前半～11 世紀前半、S I - 05 出土の炭化材（試料 No. 2 : PLD-20106）は 8 世紀前半～9 世紀後半、G - 10 出土の鉄滓中の銹着炭化材（試料 No. 3 : PLD-20107）は 11 世紀前半～12 世紀中頃の暦年代をそれぞれ示した。各試料について、樹種同定を行なう前に木取りの確認と残存半径、残存年輪数の計測を行なった。残存半径は材に残存する半径を直接計測し、残存年輪数は残存半径内の年輪数を数えた。

樹種同定は、試料をまず乾燥させ、その後材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について割断面を作製し、カーボンテープで試料台に固定した。その後イオンスパッタにて金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製 VE-9800）で検鏡および写真撮影を行なった。なお、同定試料の残りは青森市教育委員会に保管されている。

3. 結果

同定の結果、針葉樹のアスナロ 1 分類群と、広葉樹のヤナギ属とモクレン属 2 分類群の計 3 分類群が産出した。各分類群は 1 点ずつの産出で、S I - 11 出土の試料はヤナギ属、S I - 05 出土の試料はアスナロ、G - 10 出土の試料はモクレン属であった。年輪計測の結果、S I - 11 出土のヤナギ属は残存半径 4.4cm 内に 11 年輪、S I - 05 出土のアスナロは残存半径 0.8cm 内に 12 年輪、G - 10 出土のモクレン属は残存半径 0.2cm 内に 2 年輪がみられた。同定結果を表 1 に示す。

表 1 野尻館遺跡出土炭化材の樹種同定結果

| 試料 No. | グリッド | 出土 遺構 | 層位 | 樹種 | 木取り | 残存半径 (cm) | 残存 年輪数 | 種類 | 年代 測定番号 |
|--------|------|----------|---------|-------|----------|-----------|--------|-------|-----------|
| 1 | - | S I - 11 | 2 層 | ヤナギ属 | 芯持ち削り出し？ | 4.4 | 11 | 炭化材 | PLD-20105 |
| 2 | - | S I - 05 | 11 層 | アスナロ | 削れ | 0.8 | 12 | 炭化材 | PLD-20106 |
| 3 | G-10 | - | 確認面 F-X | モクレン属 | 削れ | 0.2 | 2 | 銹着炭化材 | PLD-20107 |

次に、同定された材の特徴を記載し、各樹種の走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) アスナロ *Thujopsis dolabrata* (L.f.) Siebold et Zucc. ヒノキ科 図版 1 la-1c (No. 2)

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ 2 ～ 8 列となる。分野壁孔は小型のスギ型で、1 分野に 3 ～ 4 個みられる。

アスナロは温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。針葉樹の中では比較的軽軟で、切削等の加工は比較的容易である。

(2) ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 図版I 2a-2c (No.1)

小型の道管が単独ないし2～3個複合して密に散在する散孔材である。道管は單穿孔を有し、道管放射組織間壁孔は大型のふるい状となる。放射組織は上下端1～3列が直立する異性で单列である。

ヤナギ属にはタチヤナギやバッコヤナギなどがあり、水温に富んだ日当たりのよい土地を好む落葉小高木の広葉樹である。材は軽軟で韌性が強く、切削加工などは容易である。

(3) モクレン属 *Magnolia* モクレン科 図版I 3a-3c (No.3)

小型の道管が単独ないし2～3個複合し、やや疎に散在する散孔材である。道管は單穿孔を有し、道管の壁孔は階段状となる。放射組織はほぼ同性で、幅1～2列となる。

モクレン属にはホオノキやコブシなどがある。代表的なホオノキは、山間の肥沃なところに散生する落葉高木の広葉樹で、材は軽軟で堅くなく、切削その他の加工は極めて容易である。

4. 考察

堅穴住居跡では、S I -11で出土した炭化材がヤナギ属、S I -05で出土した炭化材がアスナロであった。材の用途については、出土状況などから建築材の可能性が考えられる。アスナロは木理直通で素直に生育しやすくて加工性が良く、ヤナギ属も軽軟で加工性が良いという材質を持つ。またアスナロは耐朽性が非常に高い。青森市内の新田（2）遺跡では、平安時代の堅穴住居跡などから出土した建築材の大多数がアスナロであることが確認されており（鈴木ほか, 2009; 小林, 2009）、アスナロが遺跡周辺に生育していた可能性が示唆されている（能城, 2011）。野尻館遺跡ではアスナロはS I -05で1点のみの産出であるため木材の利用傾向は確認できないが、野尻館遺跡でもアスナロが多く利用されていた可能性もある。

G-10で出土した鉄滓中の錆着炭化材は、モクレン属であった。この試料は製鉄の際に燃料材として用いられたと考えられる。モクレン属は炭化すると比較的柔らかい木炭になりやすい（平井, 1996）。一般的に製炭では、コナラ属クヌギ節（以下クヌギ節と呼ぶ）や、コナラ属コナラ節（以下コナラ節と呼ぶ）などが硬質になり、製鉄に適した樹種であるとされており（平井, 1996）、野尻館遺跡では製鉄にはあまり向かない樹種を利用していた可能性がある。

東北地方では、福島県の相馬地方に大規模な製鉄遺跡群が確認されている。その中でも奈良時代～平安時代に操業が確認されている横大道遺跡と館越遺跡で行なわれた製鉄炉跡や炭窯跡、廃滓場出土の炭化材の樹種同定の結果、製鉄の際の燃料には、クヌギ節とコナラ節が最も多く用いられ、遺跡周辺から選択伐採されていた可能性が指摘されている（パリノ・サーヴェイ株式会社, 2010; 小林, 2010; 藤根・黒沼, 2011; 株式会社古環境研究所, 2011）。前述の通りクヌギ節とコナラ節は共に木炭に非常に適した樹種であり、その材質を考慮して選択伐採が行なわれた可能性が考えられる。今回の野尻館遺跡で産出したのはモクレン属であり、燃料用の木炭の樹種を選択していないかった可能性が考えられる。ただし、相馬地方の大規模製鉄遺跡群では製鉄炉で砂鉄から鉄塊の生成が行なわれていた一方（ふくしまの遺跡編集委員会, 2005）、野尻館遺跡など青森県内の集落遺跡内でみられるのは、精製された鉄塊を用いた小鍛冶遺構の鉄滓であると考えられ（三浦, 2006）、遺構の性格の違いが、燃料材の樹種の選択性に影響を与えている可能性も考えられる。

引用文献

- 藤根 久・黒沼保子（2011）炭化材の樹種同定（1）、福島県埋蔵文化財調査事業団編「常磐自動車道遺跡調査報告62 館越遺跡」：213-222、福島県埋蔵文化財調査事業団。

福島の遺跡編集委員会（2005）福島の遺跡、373p、福島県考古学会。

平井信二（1996）木の大百科－解説編－、642p、朝倉書房。

株式会社古環境研究所（2011）炭化材の樹種同定（2）、福島県埋蔵文化財調査事業団編「常磐自動車道遺跡調査報告62 館越遺跡」：223-226、福島県埋蔵文化財調査事業団。

小林克也（2009）新田（2）遺跡出土炭化材の樹種同定、青森県埋蔵文化財調査センター編「新田（2）遺跡」：23-25、青森県教育委員会。

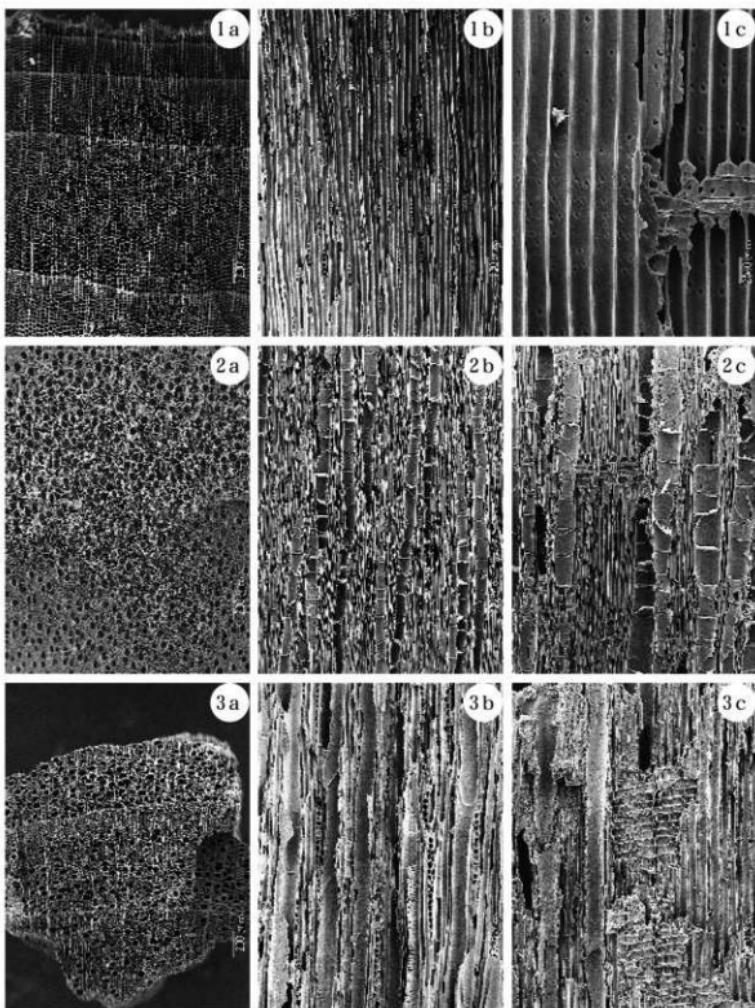
小林克也（2010）炭化材の樹種同定（2）、福島県埋蔵文化財調査事業団編「常磐自動車道遺跡調査報告60 横大同遺跡【第2分冊】」：12-18、福島県埋蔵文化財調査事業団。

三浦圭介（2006）北日本古代の集落・生産・流通、熊田亮介・坂井秀弥編「日本海域歴史大系 第二巻 古代編II」：341-386、清文堂出版株式会社。

能城修一（2011）青森市新田（1）・（2）遺跡から出土した木製品類と自然木の樹種、青森市教育委員会編「石江遺跡群発掘調査報告書IV 石江遺跡群分析編2」：1-20、青森市教育委員会。

バリノ・サーヴェイ株式会社（2010）炭化材の樹種同定（1）、福島県埋蔵文化財調査事業団編「常磐自動車道遺跡調査報告60 横大同遺跡【第2分冊】」：1-11、福島県埋蔵文化財調査事業団。

鈴木三男・小川とみ・大山幹成（2009）新田（2）遺跡出土木製品の樹種同定、青森県埋蔵文化財調査センター編「新田（2）遺跡」：15-22、青森県教育委員会。



図版I 野尻館遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. アスナロ (No. 2)、2a-2c. ヤナギ属 (No. 1)、3a-3c. モクレン属 (No. 3)
a:横断面、b:接線断面、c:放射断面

第VI章 分析と考察

第1節 遺構

1. 竪穴住居跡

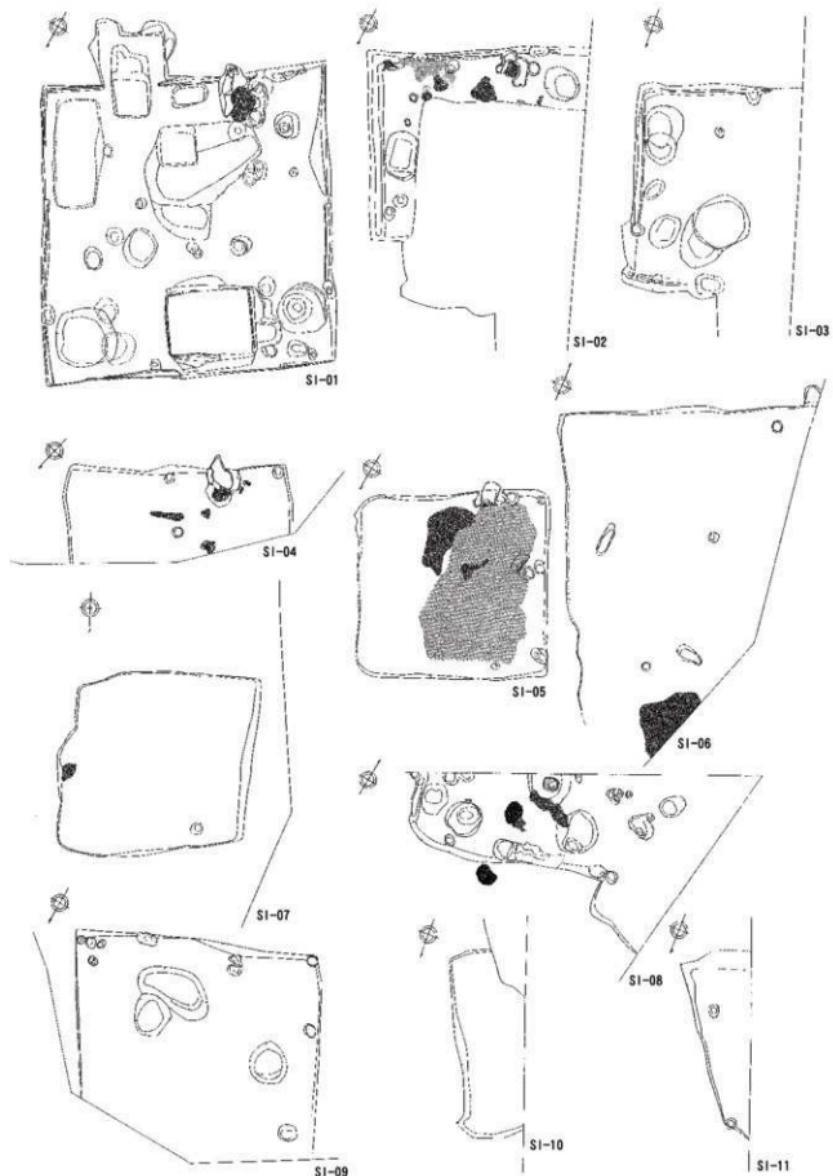
平面形・規模 ほとんどが方形を呈していると考えられる。規模は最大で7m (S I -01)、他は6~5m (S I -02~05)で中型の規模のものが多い。壁溝・柱穴配置 壁溝が認められるものはS I -01~03であるが、一部で途切れるものが多く全周するものは認められなかった。壁溝が途切れる部分については、住居隅の部分や張出部である。柱穴配置については床面中央寄りの主柱穴4本と壁柱穴が配置されるもの (S I -01)、壁柱穴と床面中央寄りの柱穴が配置されるもの (S I -02)、壁柱穴が配置されるもの (S I -03~05)が認められる。S I -03は重複の部分に柱穴が認められる可能性があるものの、現在のところ明確な配置が不明である。

カマド・主軸方向 カマドは4棟で検出した。カマド設置壁はすべて南東方向で南北寄りの位置より検出している。燃焼部は全てのカマドで一度床面を掘り込み、埋土を施したのち、火床面と袖を構築している。袖は芯材が用いられておらず、粘土のみで構築されるものが多い。S I -04は土層から角形の礫が出土しており、芯材として使用された可能性も考えられる。煙道部の構造はすべて半地下式である。燃焼部から煙道部にかけての構造はS I -01、S I -03・S I -04については段をもって立ち上がり、S I -02、S I -05は緩やかな傾斜をもって立ち上がる。S I -03は煙道の構造が不明確なもので、攪乱等の可能性もあるが、もともと煙道部が構築されなかつた可能性も考えられる。本遺跡のカマドは近隣の遺跡で検出されているカマドと比べて煙道部が短くなっていると考えられる。葛野(3)遺跡では煙道の長さが70~130cmを測り、合子沢松森(2)遺跡では50~160cmであるのに比べて、本遺跡の煙道の長さは20~50cmであった。本遺跡の住居跡の主軸は概ね南東方向を向いている。カマド主軸方向についてS I -01がN-148°-E、S I -02がN-156°-E、S I -03がN-163°-E、S I -04がN-144°-E、S I -05がN-153°-Eである。主軸方位からみると、S I -01とS I -04、S I -02とS I -05はほぼ同じ主軸であり、そのほかはややばらつきが認められる。

付属施設 付属施設としてはS I -01の張出部がある。機能は不明であるが、断面の構造はほぼ垂直で出入口とは考えられず、空間の拡張が考えられる。また、S I -01、S I -03は床面から多くの土坑を検出しておらず、土器や鉄製品等が出土している。竪穴住居跡は出土遺物などから9世紀後葉~10世紀後葉までのもので、放射性炭素年代測定の結果、S I -05は10世紀後葉~11世紀前葉、S I -11は9世紀後葉~10世紀前葉であった。

2. 竪穴遺構

竪穴遺構は8棟検出した。平面形は概ね方形を呈していると考えられるが、長方形を呈すると考えられるものも認められる。規模は重複しているものや一部が調査区外にあるものがあることから全体が不明な点も多い。一辺の長さを測ると最大で7m (S I -06)、次いで6.5m~5m (S I -08、S I -09、S I -10・S I -11)、4~3m (S I -07、S I -12・S I -13)を測るものがある。柱穴配置が認められるものはS I -08・S I -09、S I -11で、S I -08・09は壁柱穴、S I -11は全容不明であるが、床面中央寄りの4本柱による配置と考えられる。S I -08は一部壁溝と張出部が認められる。また、S I -08・09は床面から多くの土坑を検出している。S I -09については竪穴住居跡においてカマドが設置されている南東壁でカマドを検出できなかつたため竪穴遺構と判断したが、堀と重複している北西壁にカマドが存在する可能性もある。



第67図 積穴住居跡・竪穴造構集成

3. 堀

S D - 01は西郭と南郭の間より検出した空堀で、S D - 02は南郭西側より検出した堀である。S D - 01は東から西へ傾斜しており、堀の延びる方向から西郭を巡っていた可能性と直線的に横内川へ注いでいた可能性が考えられる。S D - 01の構築時期は出土遺物から12世紀後葉～13世紀前葉と考えられる。S D - 02は主郭南側の外堀と繋がると考えられる堀で、その方向からさらに西側に延びていたと考えられ、遺跡全体を囲んでいた可能性が考えられる。今回の調査で検出した部分は埋まりきった状態で確認したが、一方、本遺構と繋がる主郭南側の外堀はある程度埋まっていると考えられるものの堀の有無が確認できたように完全に埋まり切っていないことから、10世紀後葉～11世紀前葉に造られた堀を必要な部分について中世の段階で一部拡大や改変をして使用した可能性も考えられる。なお、『日本城郭大系2』(新人物往来社 1980)では、主郭南側の堀は薬研堀とされているが、S D - 02は箱堀であり、箱堀を薬研堀に改築した可能性も考えられるが、詳細は不明である。

第2節 遺物

1. 土師器

皿、壺、甕、小甕、鍋、壺が出土した。数量は皿2点、壺74点、甕198点、小甕3点、鍋8点、壺2点である。欠損により完形のものは少なく、全体が不明なものが多い。

・皿 いすれも高台をもつものでロクロ成形である。第28図134の高台部分は粘土の貼り付けによる。S I - 06から出土した資料(第25図80)は壺としたが、器高が低く皿に近い資料である。

・壺 すべてロクロ成形である。内面黒色処理されたものとそうでないものがある。その数量は24点／50点で、比率は32%／68%であり、非黒色処理のものが黒色処理のものより倍以上多い。内外面黒色処理のものはS I - 06より出土した1点のみである(第28図135)。器形は底部付近から丸みを帯びて立ち上がるものと直線的にたち上がるものがあり、丸みを帯びるものは33点、直線的に立ち上がるものは41点である。丸みを帯びるものの中、黒色処理されたものは15点、非黒色処理は21点であり、直線的に立ち上がるもののうち、黒色処理されたものは9点、非黒色処理は29点であり、いすれも非黒色処理が多いものの、直線的に立ち上がるものでは黒色処理のものの比率が低くなり、非黒色処理のものが増える結果となった。口縁部は微妙にくぼむものと直線的なものがあり、口唇部形状は丸みを帯びるものと先細りのものがある。法量からみると口径は最大で18cmで、他は15.4～10.4cmまであり、13～12cm前後のものが最も多い。器高については全体がわかる資料は少ないものの、6～5cmを測り、底径は5cm前後のものが多い。底部は欠損などで不明なものもあるが、概ね右回転糸切と考えられ、ヘラおこしと考えられる痕跡がいくつか認められる。本遺跡からは10世紀後葉～11世紀代に一般的な柱状高台をもつ資料は出土しなかった。

・甕 ロクロ成形のものと非ロクロ成形のものがあり、数量は8／137、比率は6%／94%で、圧倒的に非ロクロ成形のものが多い。欠損により、完形のものは少なく、口縁部～胴部上半のものと胴部下半～底部のものが多い。口縁部～胴部上半の資料については、口縁部の長さや胴部の形状からみると、口縁部が長く、胴部が丸みを帯びて立ち上がるものと、口縁部が長く、胴部が直線的に立ち上がるものの、口縁部が短く胴部が丸みを帯びて立ち上がるもの、直線的に立ち上がるものがみとめられる。数量は口縁部が長く、胴部が丸みを帯びて立ち上がるものが8点、口縁部が長く、胴部が直線的に立ち上がるものが13点、口縁部が短く胴部が丸みを帯びて立ち上がるものが96点、直線的に立ち上がるものが27点である。比率はそれぞれ

67%、9%、6%、18%である。底部の資料について調整はヘラナデ、網代痕、木葉痕、砂底が認められ、ヘラナデによって調整されるものが最も多い。法量は口径31.6cmが最大で、18~22cm前後が多く、底径は10~8cm前後が多い。器高は口縁部から底部まで残存している資料が少なく不明である。

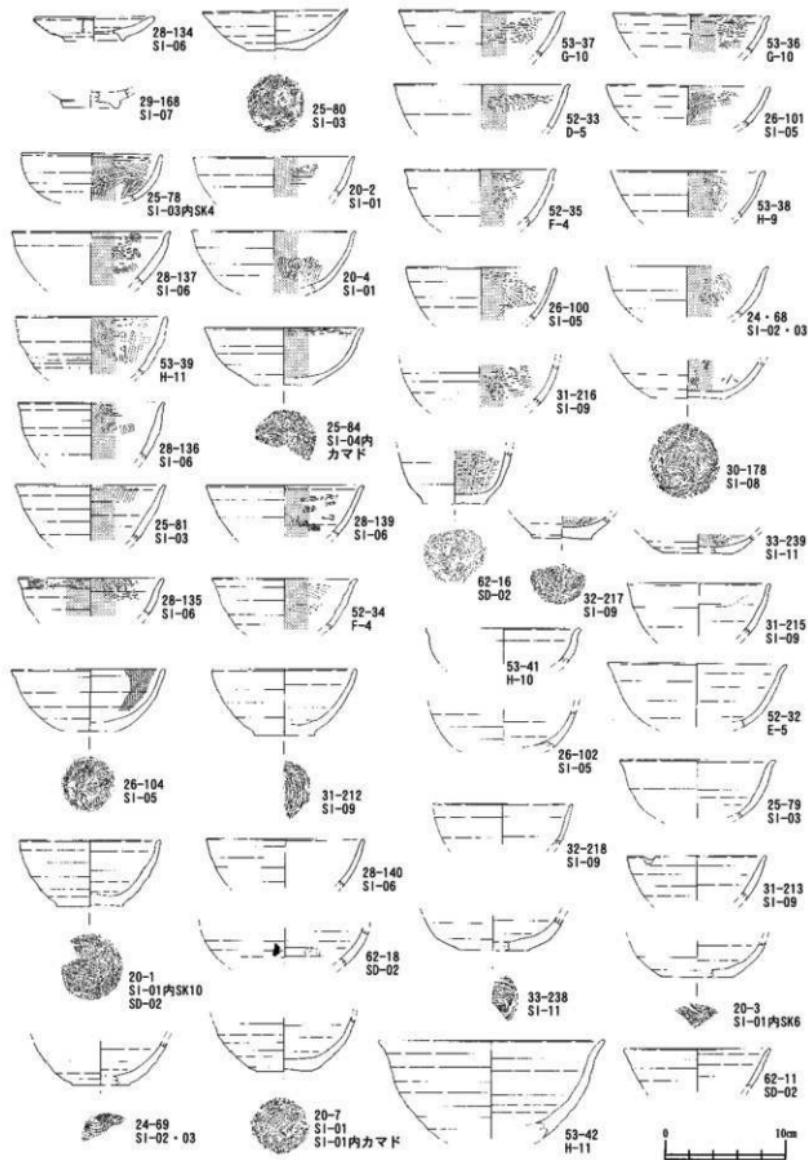
- ・**小甕** 卷き上げによる成形である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデによって調整されているものが多い。
- ・**鍋** 欠損により完形のものは少なく、口縁部～胴部と底部付近のものである。ロクロ成形のものが1点と非ロクロ成形のものが4点あり、非ロクロのものが多い。器形は口縁部が残存するものについては、口縁部が長く外反するものと直線的なものがある。
- ・**壺** ロクロ成形のもの1点と非ロクロ成形のもの1点である。第54図80は壺と考えられる底部付近のもので、外面はヘラナデが施され、内面はヘラミガキによって黒色処理されている。第63図40は胴部の資料と考えられ、ロクロ成形による。
- ・**把手付土器** 胴部のものが1点で、ほかは把手の部分である。胴部や把手は概ねヘラケズリによって調整されている。第63図42は口縁部が残存しており、その位置からみると把手は口縁部に近い上側の部分に付着していたと考えられる。

2. 擦文土器

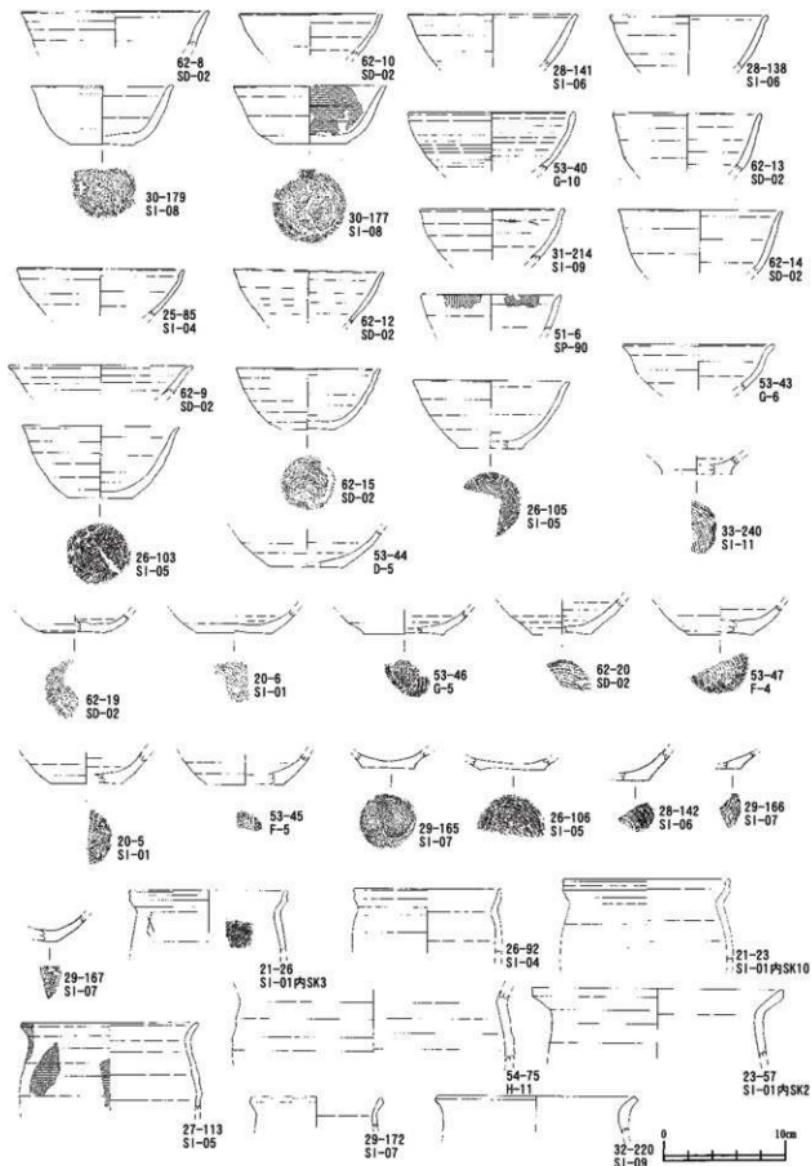
35点出土した。青森県史資料編考古3第2章第1節では擦文土器を文様と形態からⅠ～V類に5分類している（青森県 2005）。本遺跡で出土した擦文土器について、5分類と照らし合わせるとⅢ～V類のものが出土している。口縁部資料で刻目や刺突列の認められるものやハケメの上に斜位の沈線による文様が認められるもの、粘土帯が貼り付けされるものはⅢ類、沈線により格子文や鋸歯状文、口縁部に刻目がほどこされるものはIV類、口縁部に数条の横走沈線が施されるものはV類と考えられる。胴部～底部の資料はハケメが施されているものが多く、第55図93は底部の資料で底部に網代状の圧痕が認められる。擦文土器はSD-02からの出土が多い。

3. 須恵器

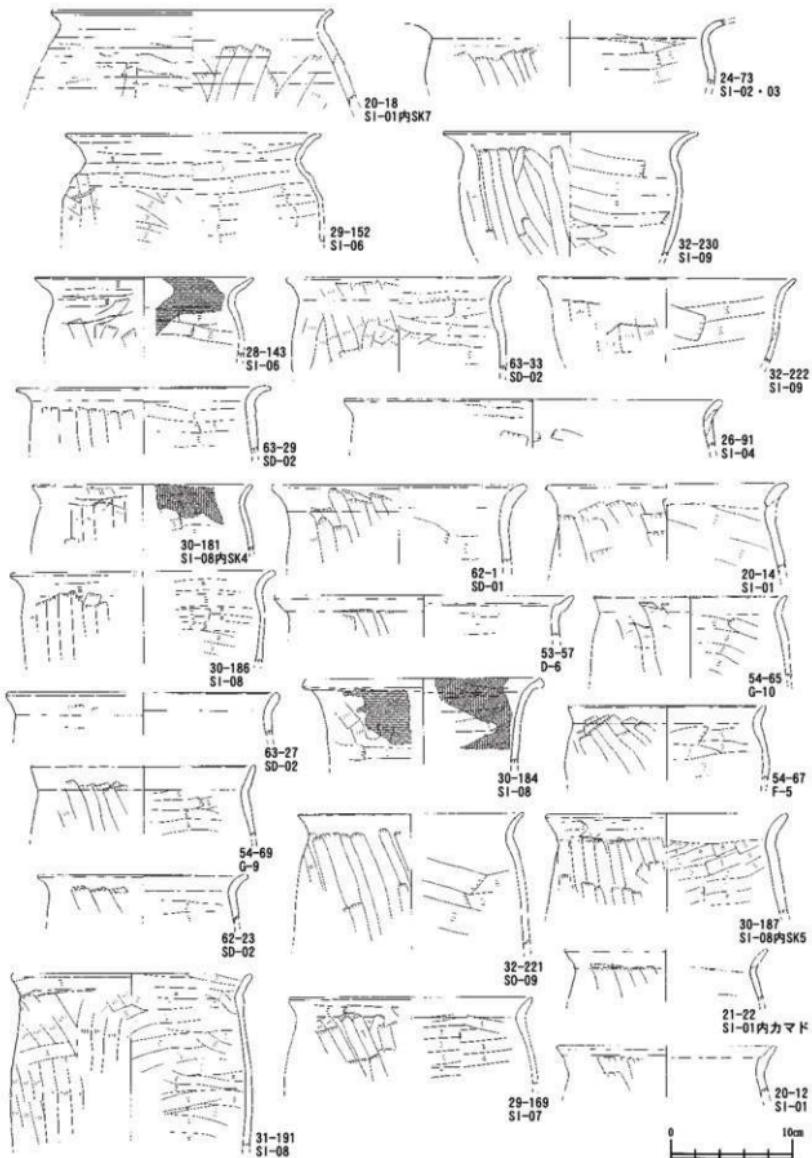
- ・**壺** 9点、壺20点、鉢2点、甕17点、ミニチュアの壺と考えられる資料1点である。
- ・**壺** すべてロクロ成形である。9点中5点に火禪痕が認められる。器形は土師器壺と同様に底部から丸みを帯びて立ち上がるものと直線的に立ち上がるものがあり、丸みを帯びるもの5点、直線的に立ち上がるものは4点である。底部が残存するものについては右回転糸切がほとんどであるが、第62図3のSD-01から出土した資料はヘラナデによって調整されている。
- ・**鉢** ロクロ成形を呈する。第22図44は口縁部がやや長めであるが、第32図235は口縁部が短く、胴部の丸みが胴部上半にある。
- ・**壺** 壺は広口壺と長頸壺に分けられるが、出土したものは全て長頸壺と考えられる。すべてロクロ成形である。全体がわかる資料は数点のみで、ほかは口縁部付近や胴部から底部の資料である。2次調整として胴部を中心にヘラナデやヘラケズリが施されるものが認められる。刻書が認められるものが3点ある。肩部が残存する資料では頸部～肩部の部分にリング状の突帯が認められる資料がほとんどである。底部の残存する資料はヘラナデによって調整されているものが多いが、第64図65・66のように菊花のケズリが施されている。また、第55図99はミニチュアの壺と考えられ、ロクロナデによって調整されている。



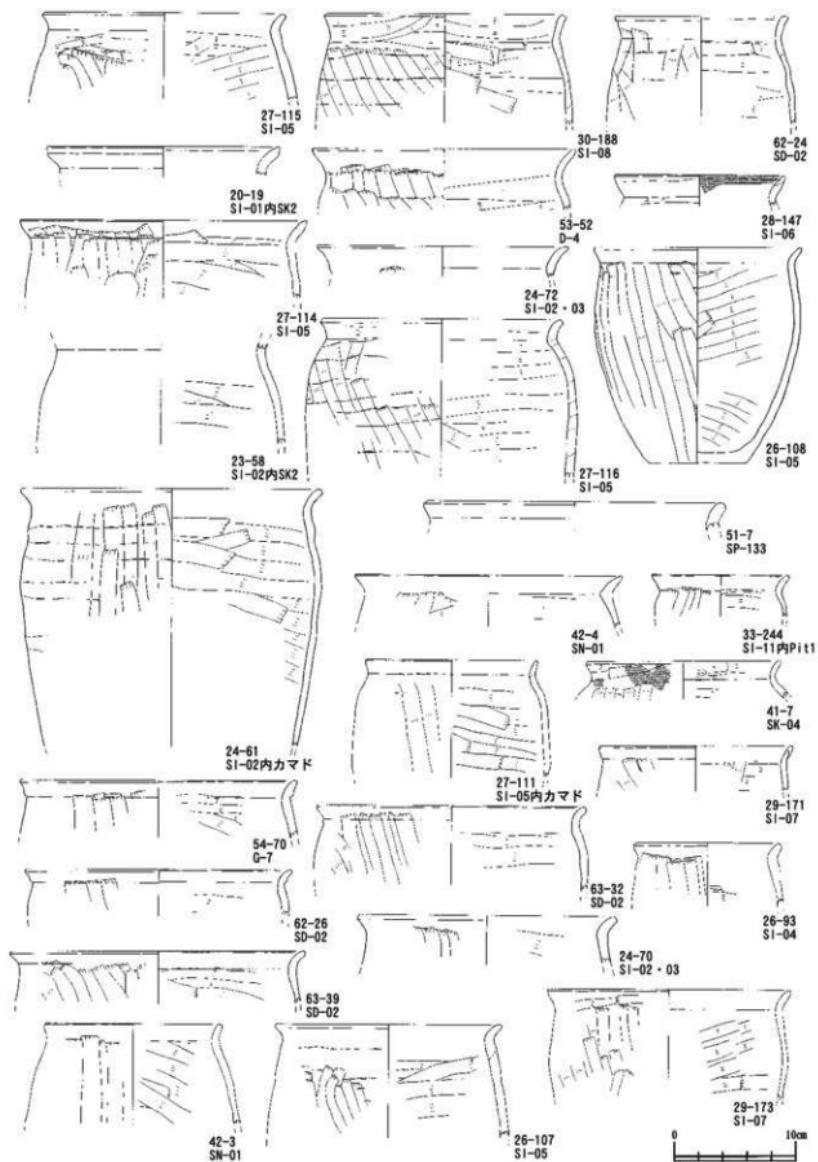
第68図 遺物集成①



第69図 遺物集成②



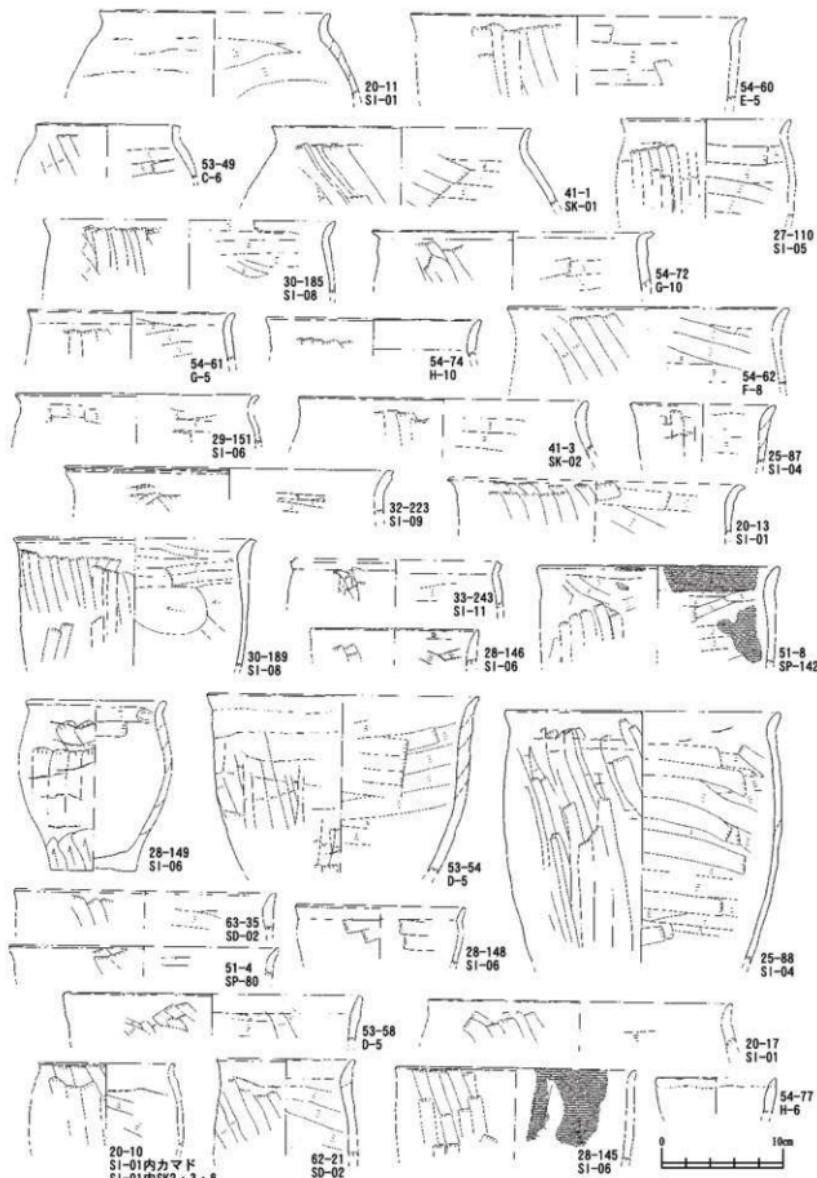
第70図 遺物集成③



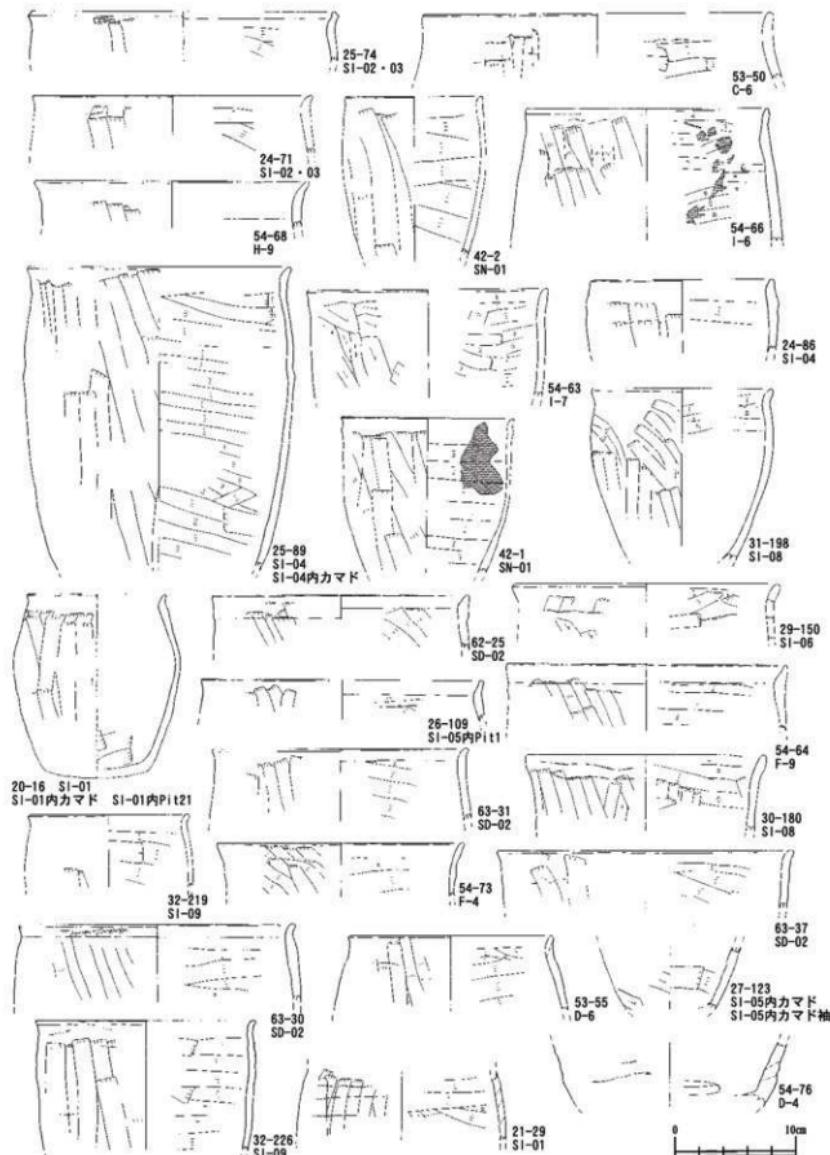
第71図 遺物集成④



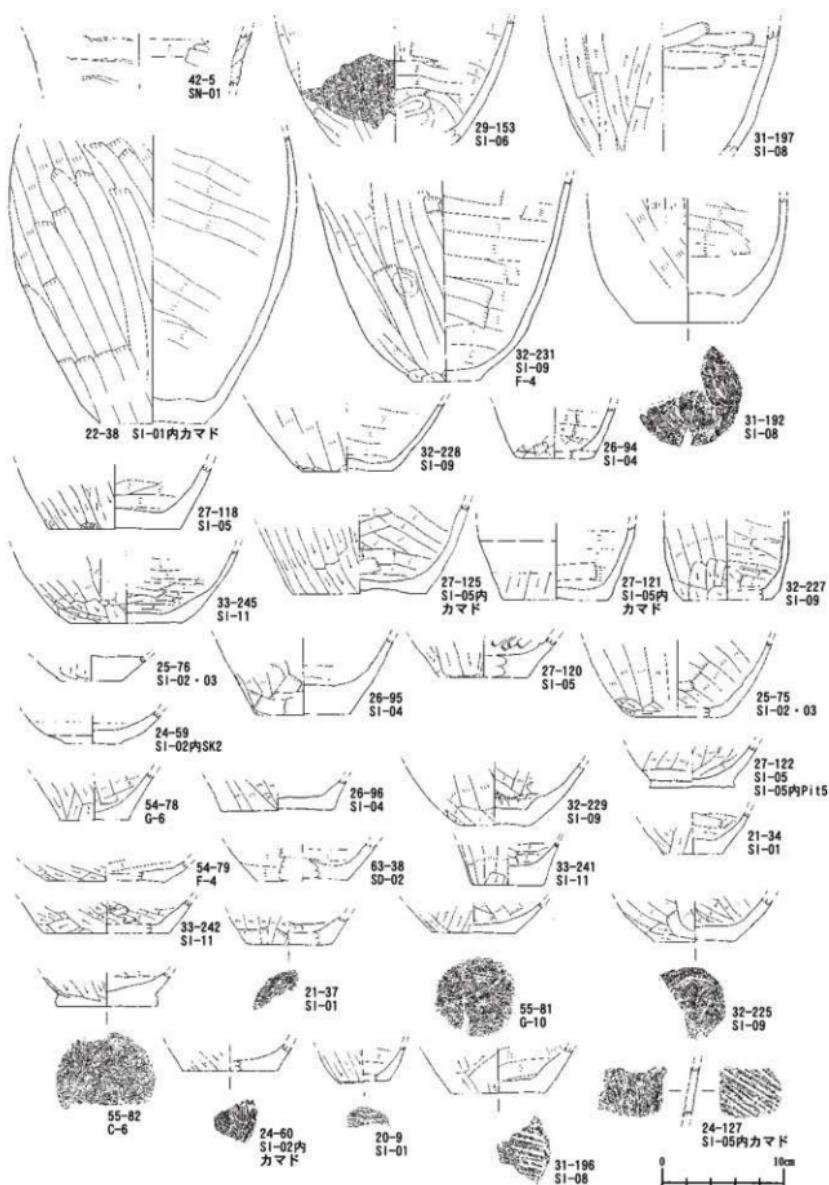
第72図 遺物集成⑤



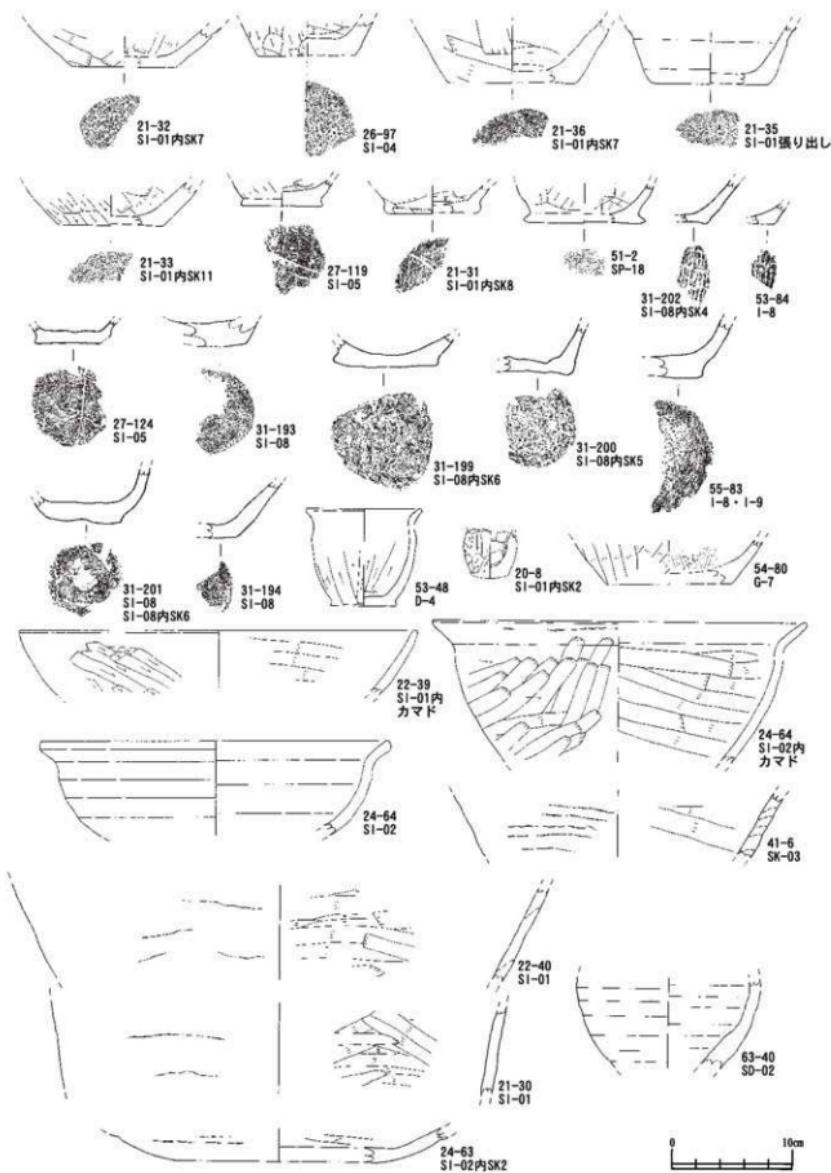
第73図 遺物集成⑥



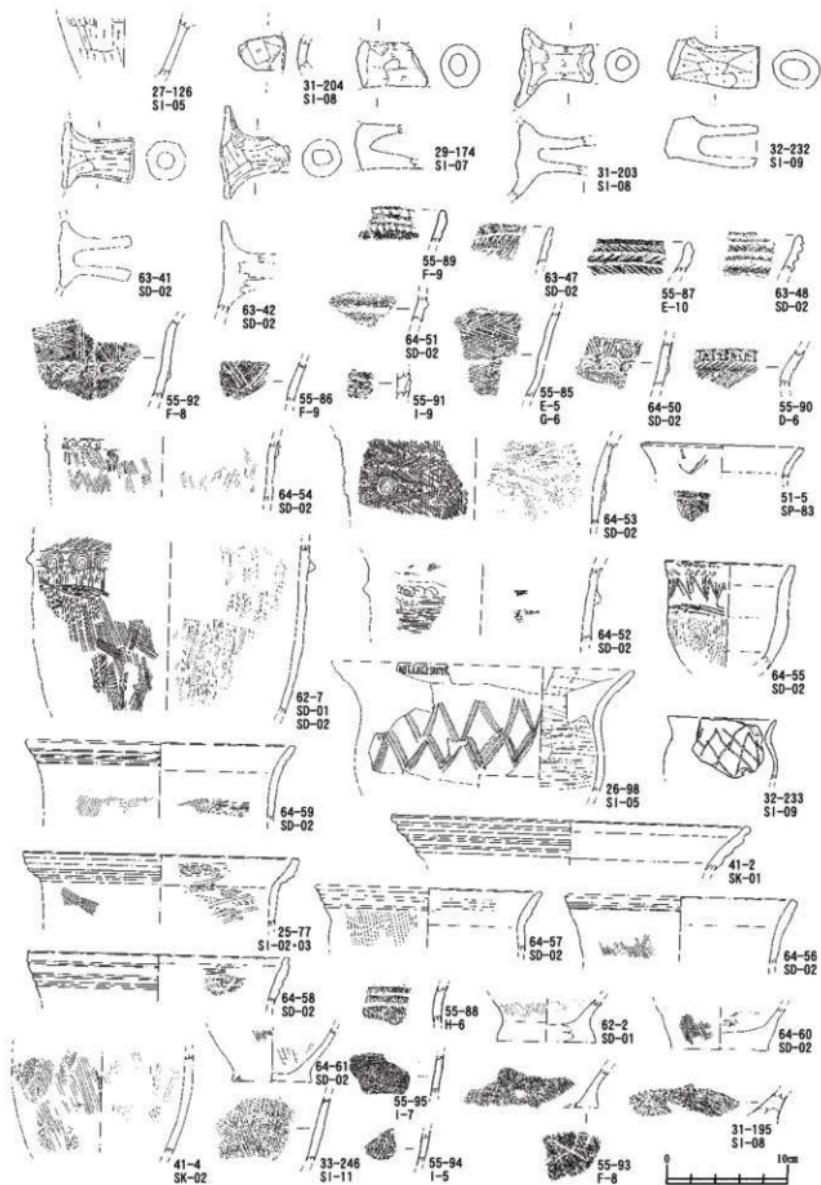
第74図 遺物集成⑦



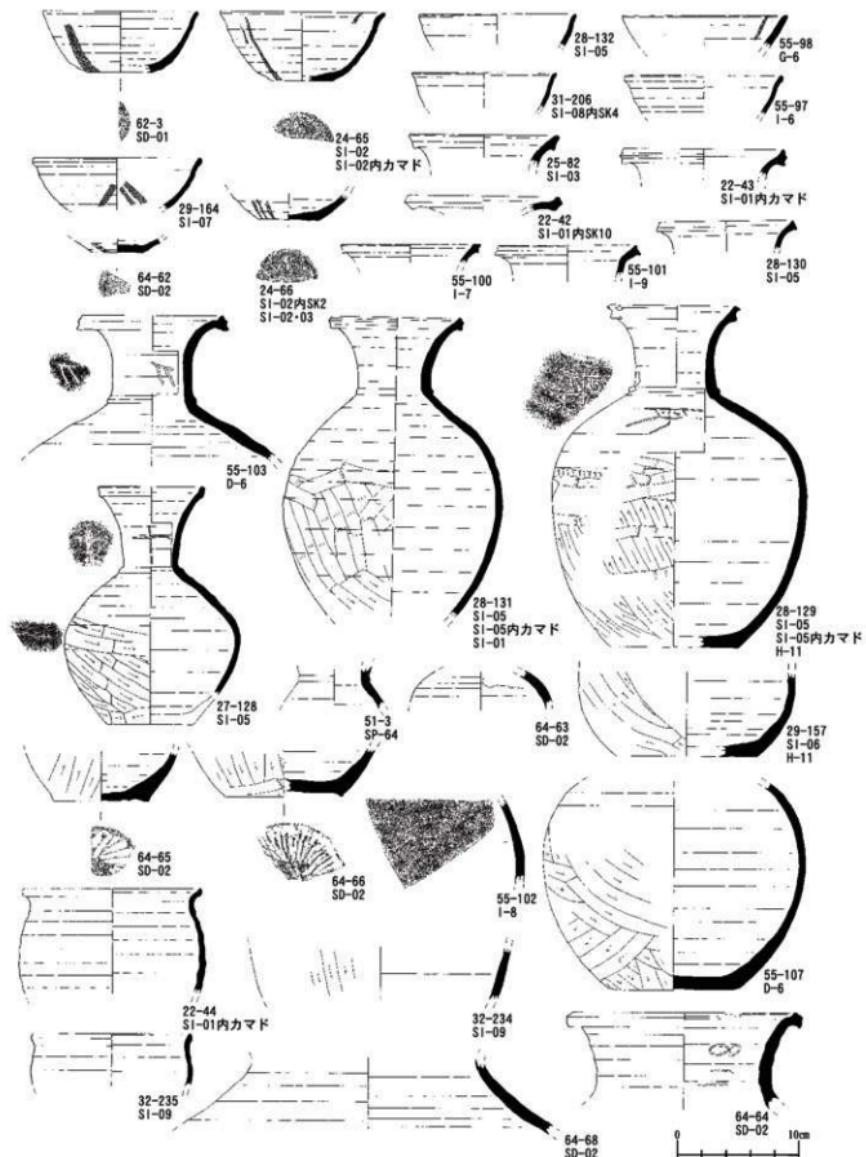
第75図 遺物集成⑧



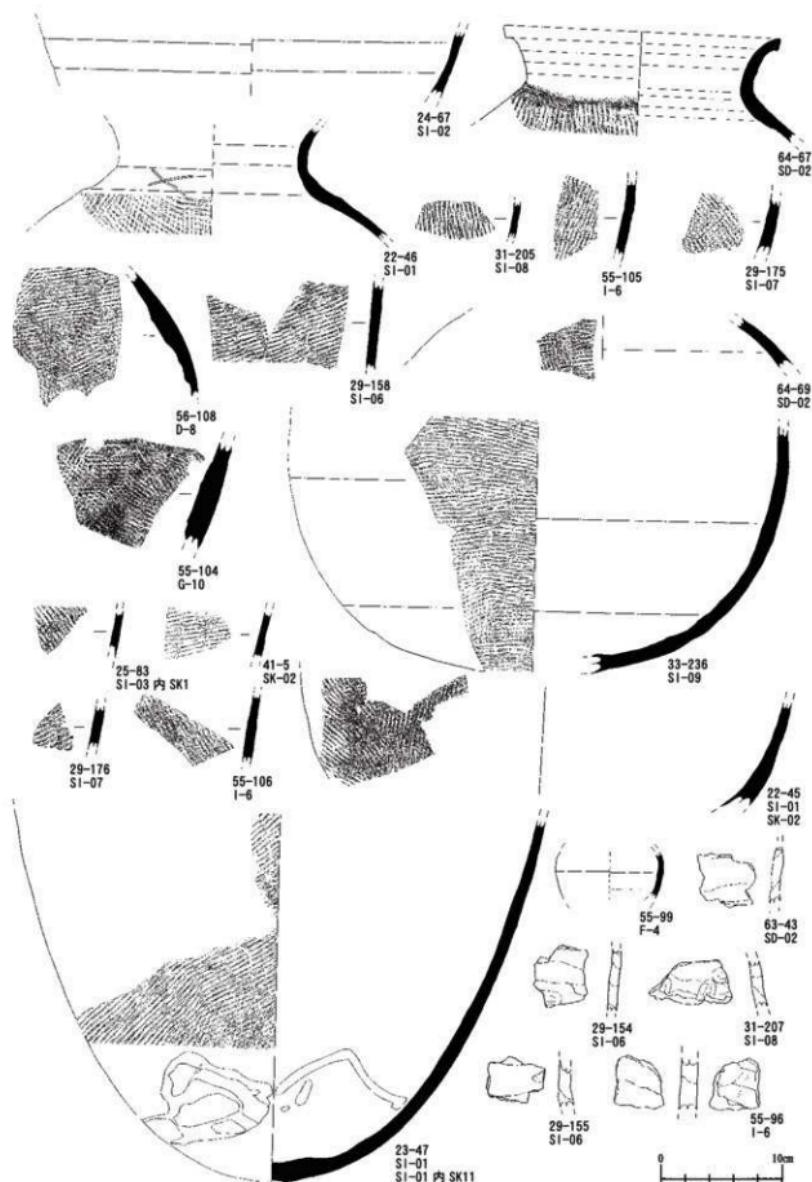
第76図 遺物集成⑨



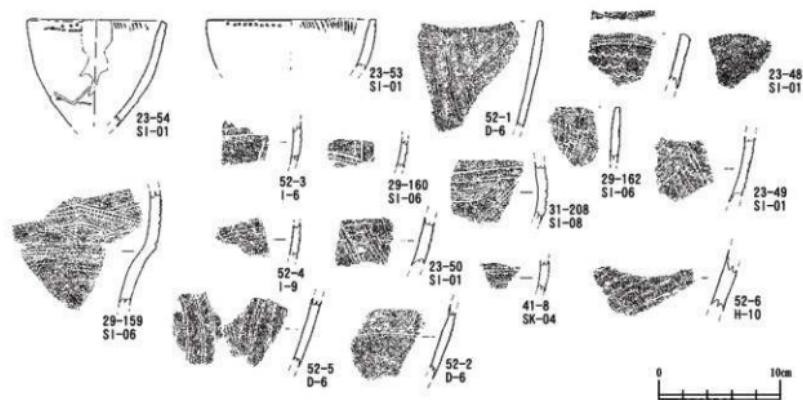
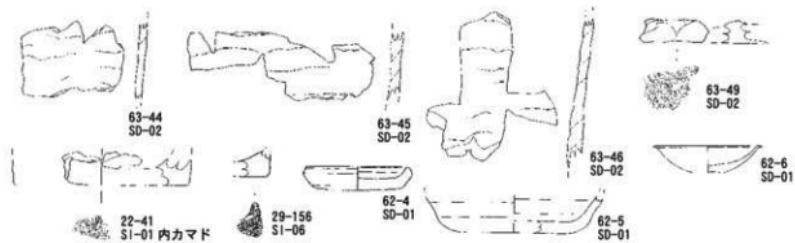
第77図 遺物集成⑩



第78図 遺物集成①



第79図 遺物集成②



第80図 遺物集成⑬

・甕 すべて中甕と考えられる。欠損により、口縁部付近や胸部から底部の資料である。口縁部はロクロ成形である。施されるタタキ目は概ね平行タタキであるが、口縁部付近や底部付近では第22図46や第64図67、69のように交差タタキとなっている。第22図46は刻書が認められる。第23図47は焼台痕が認められる。

第3節 野尻館遺跡の性格と年代について

本遺跡は主郭・西郭・南郭の3つの郭によって構成されており、この周りを外堀が巡っていたと考えられ、さらに西側を横内川が北流し、天然の堀を加えて守りを強固にしていたと考えられる。

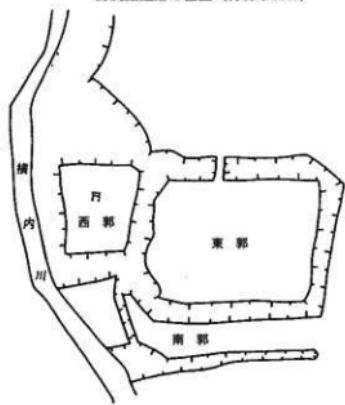
外堀は現況では南側においてのみ確認でき、それ以外の部分は途切れている（第67図）。館の構築時期については、『青森市史資料編2 古代・中世』によるとその形態から戦国期と考えられているが、一度に現在のような形が造られたかどうかについては不明としている（青森市 2005）。今回の調査の結果、検出した平安時代の堅穴住居跡の中には主郭と西郭の間の空堀や西郭南北の空堀によって切られているものが認められたことから、平安時代の集落の上に城館を構築したと考えられる。南郭から検出したSD-02は遺跡全体を巡っていたと考えられ、帰属時期や堀の状況から考えると城館構築前の平安時代の集落は周囲を堀で囲まれた環濠をもつ集落であった可能性がある。なお、SD-02は埋まりきった状態で検出したが、主郭南側の外堀は現在も埋まり切らない状態で存在しており、平安時代に構築・使用された堀を再利用して平安時代以降も使用されたと考えられる。このような状況は蓬田村蓬田大館遺跡の外堀においても認められ、古代に構築された堀について、防御性を高めるために古代末～中世において拡大・改築された可能性が考えられている（六興出版 1987）。なお、今回の調査区からは堀と郭以外に中世と考えられる遺構は検出できなかったが、基本層序第III層にあるように遺構面の上には炭化物・ローム粒などが混入した層があり、整地された層と考えられ、平安時代の住居等が埋まつた時点で整地されたと考えられる。

現在のような館の形態が構築された時期については全体を調査していないため、詳細は不明であるが、西郭と南郭の間から検出したSD-01の時期から推定すると12世紀後葉～13世紀前葉と考えられる。前掲（青森市 2005）で記しているように当初の形態は主郭のような方形居館であったと考えられ、その後、堀を構築し、現在のような館の形態になった可能性も考えられる。

第II章で前述した野尻郷関連の史料を本遺跡に引きつけて捉えるとその時期は14世紀前葉～15世紀後葉であるが、今回の調査結果から考えられる館の構築時期は12世紀後葉～13世紀前葉である。その年代差には大きな開きがあり、野尻郷関連の史料と本遺跡の調査結果から考えられる時期は整合しない。主郭周辺は未調査のため、主郭から当該時期の遺構や遺物が出土する可能性は残されているが、現状では時期的にみると本遺跡は工藤氏や根城南部氏に関連する館跡である可能性は低く、それ以前の時期の館跡と考えられ、工藤氏や根城南部氏の居館は別の場所にあったと考えられる。なお、『津軽封内城跡考』によると本遺跡は工藤氏や根城南部氏の居館とするには狹すぎるため、その居城について現在の青森市浜館の松森古館としている（小友 1943）。また同じく横内川に接する横内城の支城として造られた可能性も考えられるが、詳細は不明である。



野尻館遺跡の位置（青森市2005）



（新人物往来社1980）



（青森県教育委員会1983）



（青森市2005）

第81図 縄張概略図



西郭近景（E→）



主郭及び西郭（E→）



西郭北側空堀（E→）



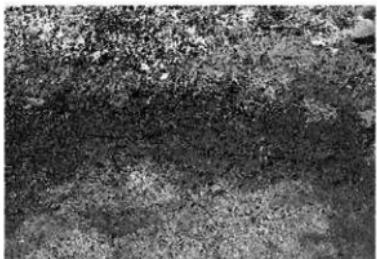
主郭及び西郭の空堀（N→）



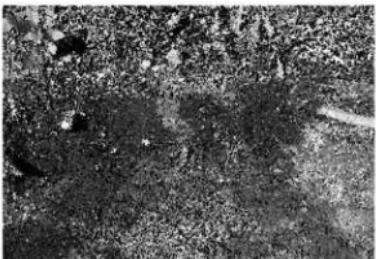
平成21年度西郭調査区（S→）



基本層序①（S→）



基本層序②（S→）



基本層序③（S→）

写真1 検出遺構①



平成22年度西郭調査区（S→）



平成22年南郭調査区（N→）



S I - 01・S I - 13完掘（N→）



S I - 01セクション（N→）



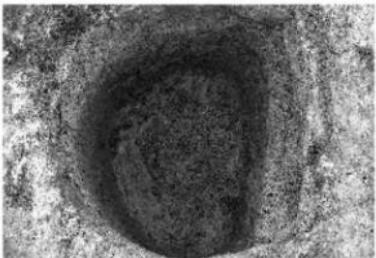
S I - 01遺物出土状況（N→）



S I - 01カマド完掘（N→）

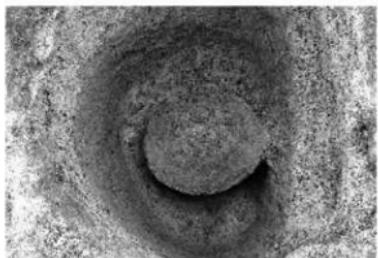


S I - 01カマドセクション（E→）



S I - 01SK - 5完掘（N→）

写真2 検出遺構②



S I - 01 SK - 5 遺物出土状況 (N→)



S I - 02・03・10・11完掘 (N→)



S I - 02・03セクション① (N→)



S I - 02・03セクション② (E→)



S I - 02 SK - 2 完掘 (E→)



S I - 02 カマド完掘 (N→)

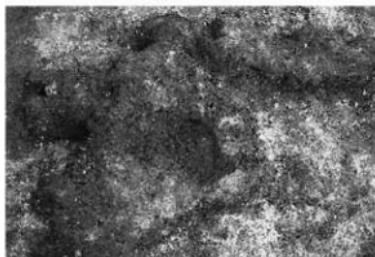


S I - 02 カマドセクション (N→)



S I - 03 カマド火床面セクション (S→)

写真 3 検出遺構③



S I - 02炭化物・焼土出土状況 (N→)



S I - 02・03完掘 (N→)



S I - 03内SK-3・4 (W→)



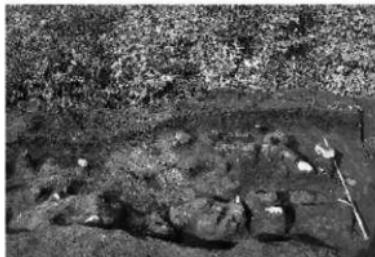
S I - 04完掘 (E→)



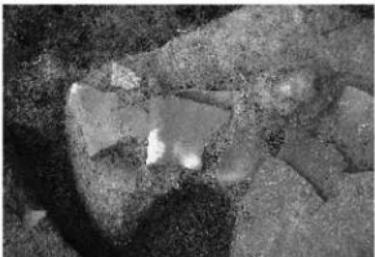
S I - 04セクション① (S→)



S I - 04セクション② (W→)



S I - 04遺物出土状況① (S→)



S I - 04遺物出土状況② (S→)

写真4 検出遺構④



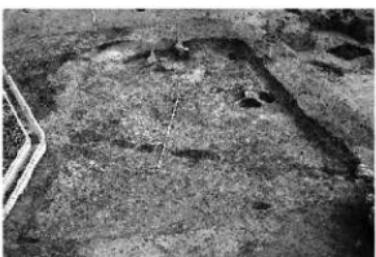
S I - 04カマド完掘 (N→)



S I - 04カマドセクション① (E→)



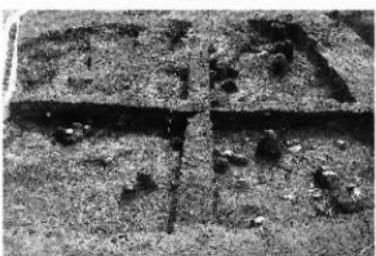
S I - 04カマドセクション② (N→)



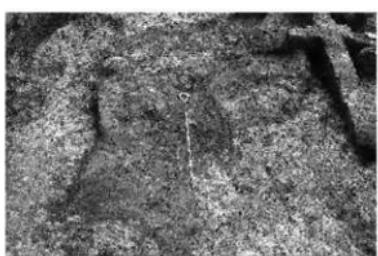
S I - 05完掘 (N→)



S I - 05セクション① (W→)



S I - 05セクション② (N→)



S I - 05遺物出土状況 (N→)



S I - 05 B-Tm検出状況 (S→)

写真5 検出遺構⑤



S I - 05 焼土・炭化物検出状況 (N→)



S I - 05 カマド完掘 (N→)



S I - 05 カマド完掘 (E→)



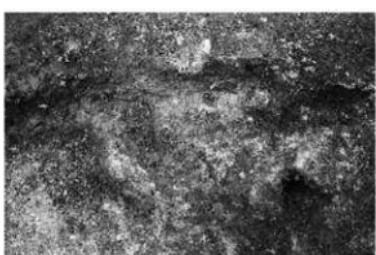
S I - 06 完掘 (W→)



S I - 06 セクション (N→)



S I - 07 確認状況 (W→)



S I - 07 焼土検出状況 (E→)

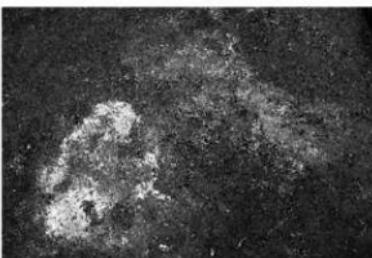


S I - 08 (W→)

写真 6 検出遺構⑥



S I - 08セクション (S→)



S I - 08上層焼土範囲 (S→)



S I - 08遺物出土状況 (S→)



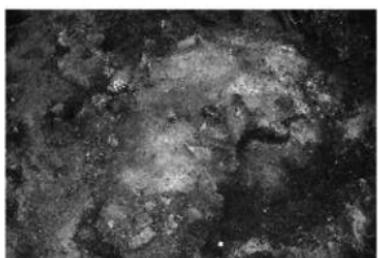
S I - 09完掘 (S→)



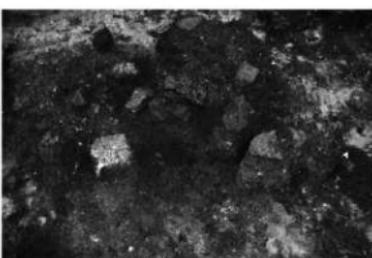
S I - 09セクション (W→)



S I - 09遺物出土状況① (E→)



S I - 09遺物出土状況② (W→)



S I - 09遺物出土状況③ (S→)

写真 7 検出遺構⑦



S I - 10・11完掘 (N→)



S I - 10セクション (N→)



S I - 11セクション (E→)



S I - 12・S I - 05東半完掘 (S→)



S I - 12・S I - 05セクション (N→)



S I - 13・SK - 03完掘 (N→)

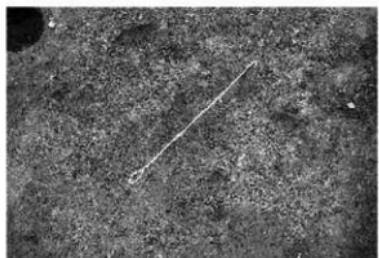


S I - 13セクション (N→)

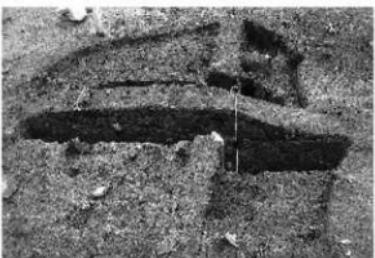


SK - 01セクション (S→)

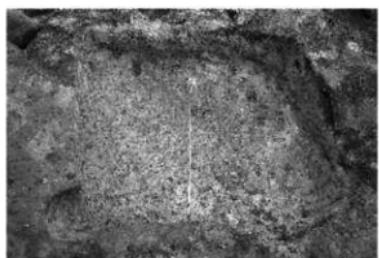
写真 8 検出遺構⑧



SK-01完掘 (S→)



SK-02セクション (N→)



SK-03完掘 (N→)



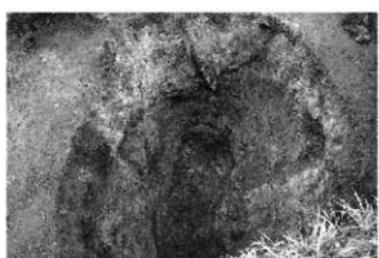
SK-04セクション (E→)



SK-04完掘 (N→)



SK-05セクション (S→)

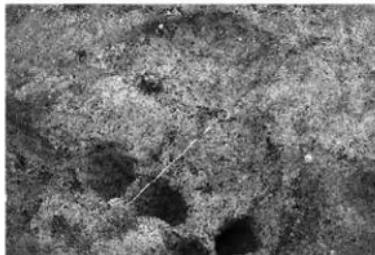


SK-05完掘 (N→)



SK-07・08セクション (N→)

写真9 検出遺構⑨



SK-07・08完掘 (N→)



SK-08セクション・完掘 (E→)



SN-01確認状況① (S→)



SN-01確認状況② (N→)



SD-01近景① (W→)



SD-01近景② (W→)



SD-01・1T (E→)



SD-01・2T (E→)

写真10 検出遺構⑩



SD-02セクション (S→)



SD-02完掘① (N→)



SD-02完掘② (S→)



SD-02完掘③ (N→)

写真11 検出遺構⑪

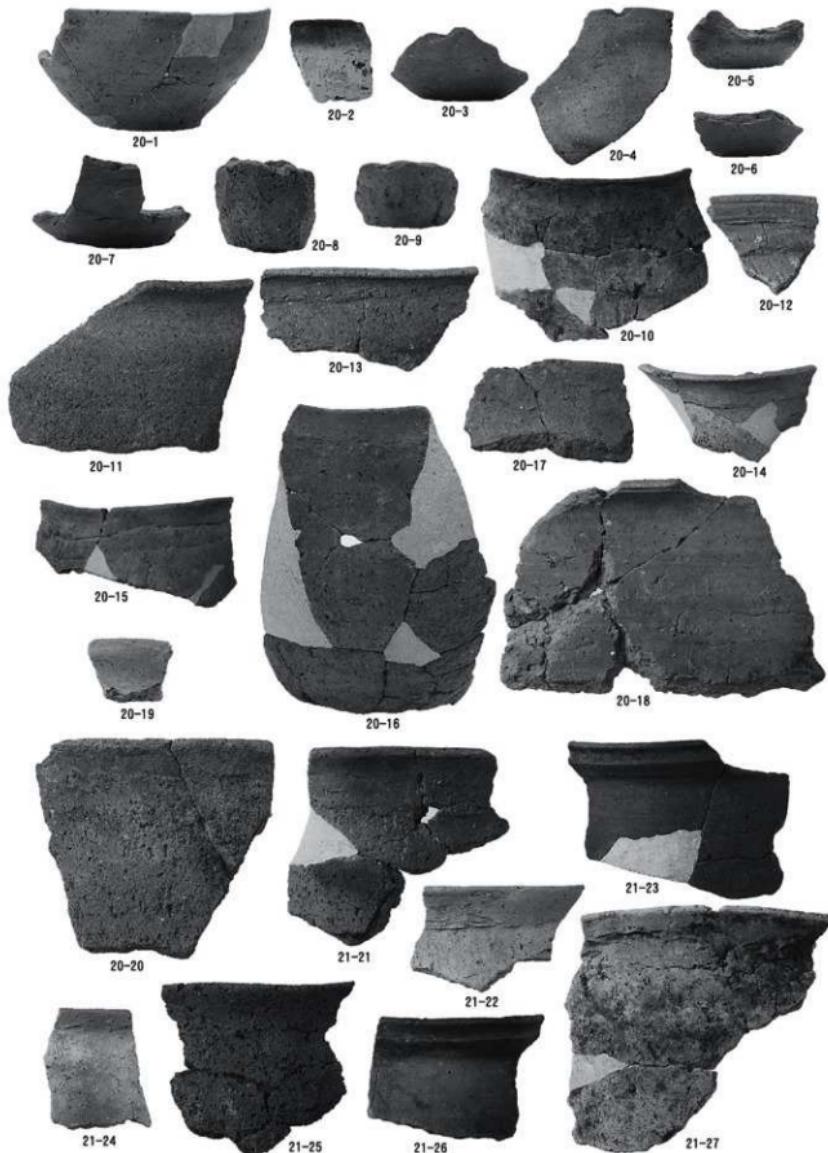


写真12 出土遺物①

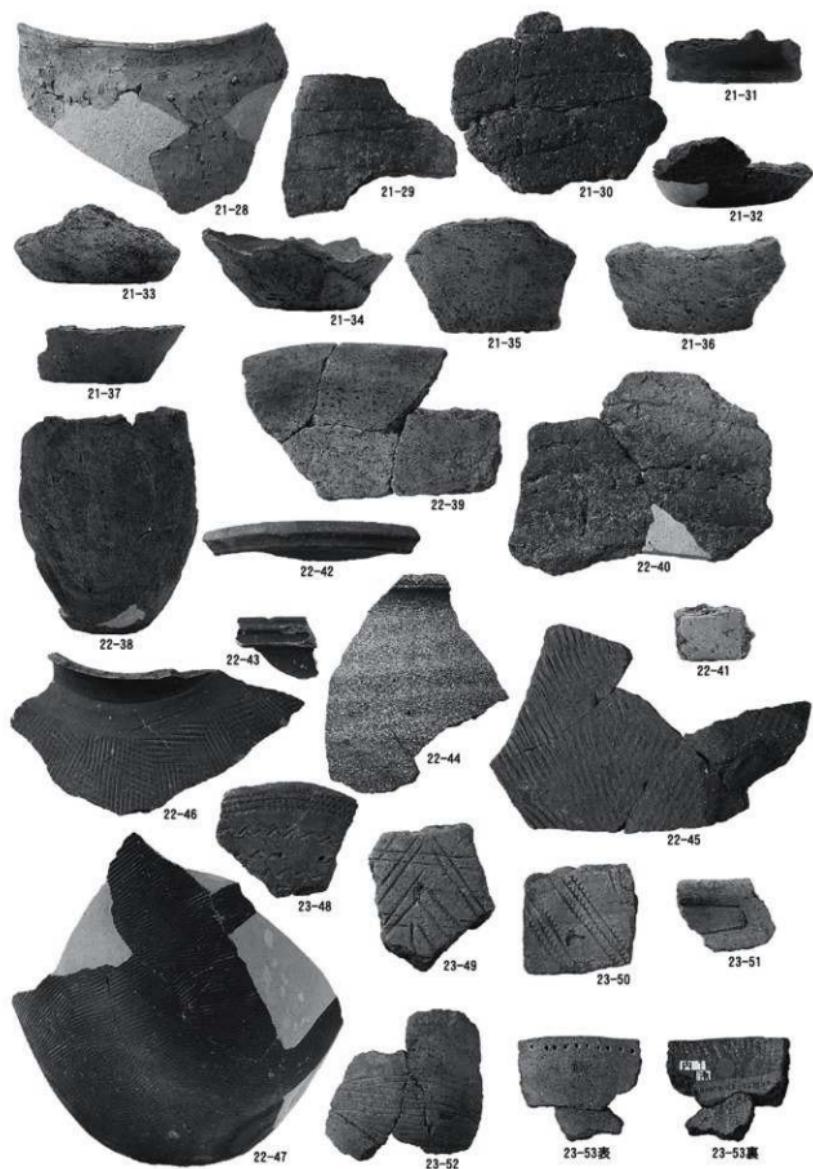


写真13 出土遺物②

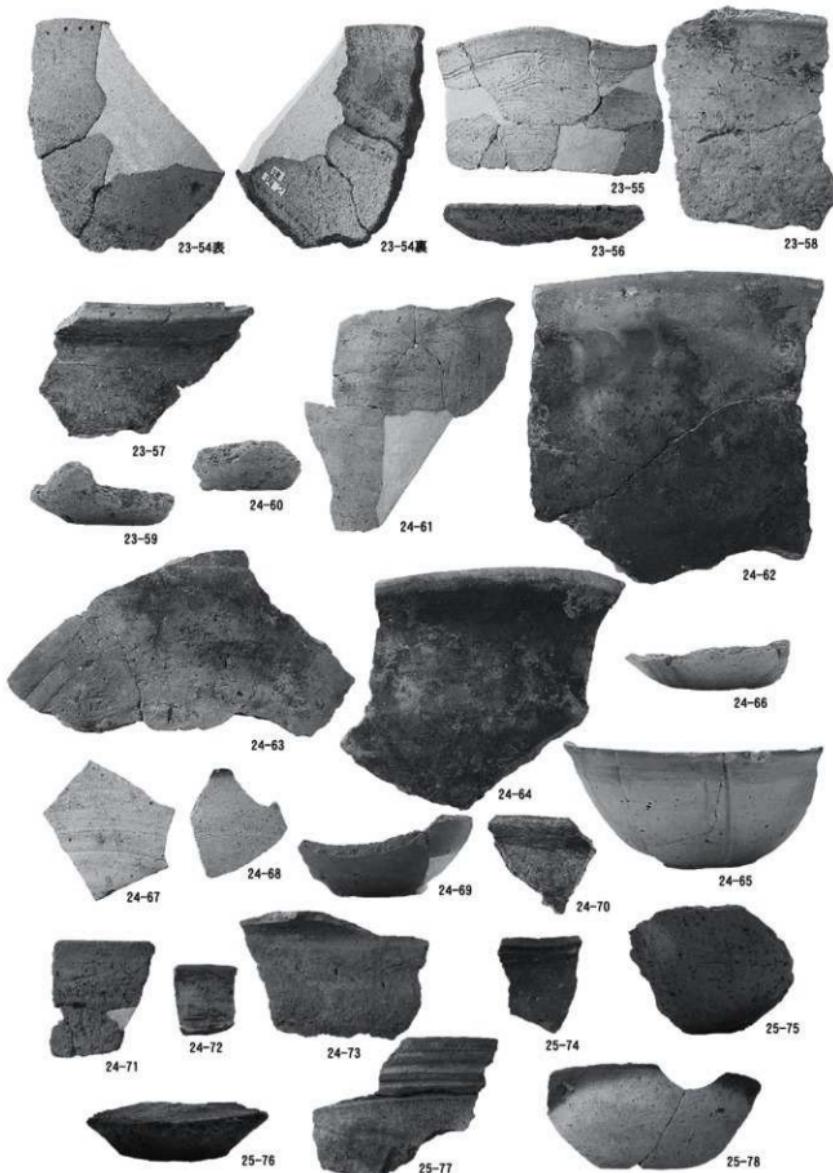


写真14 出土遺物③

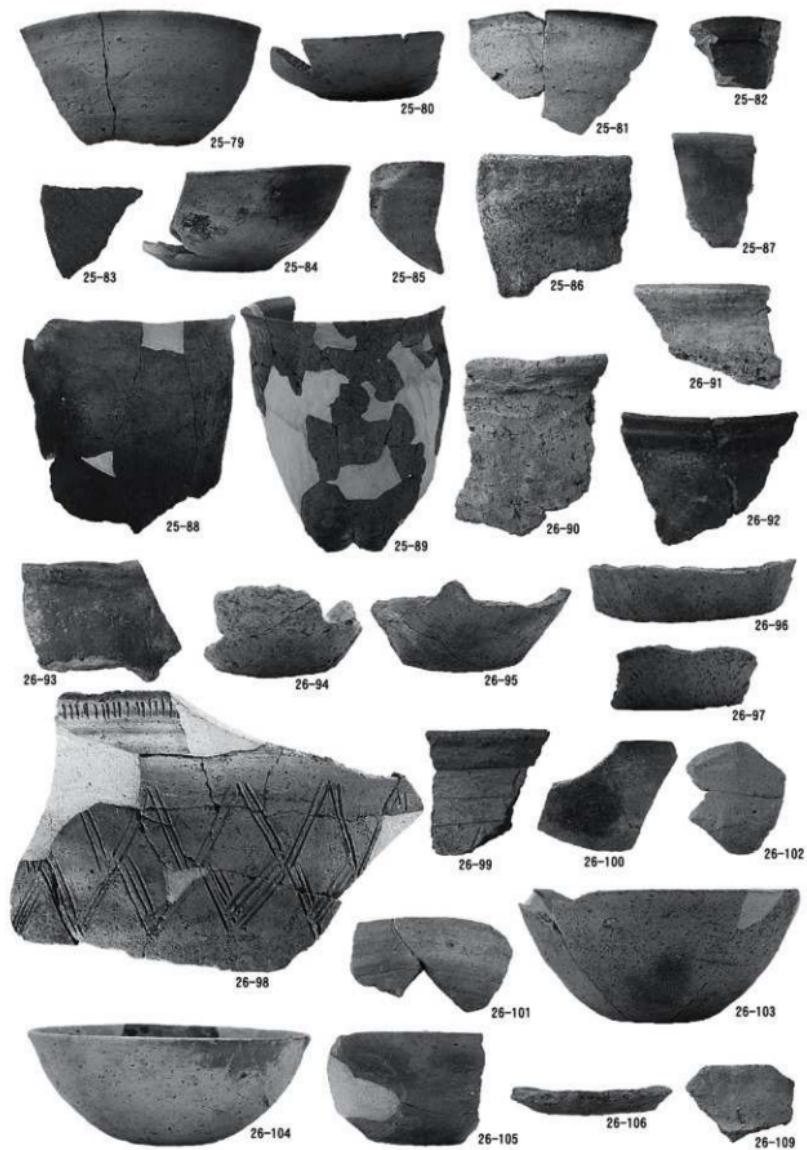


写真15 出土遺物④

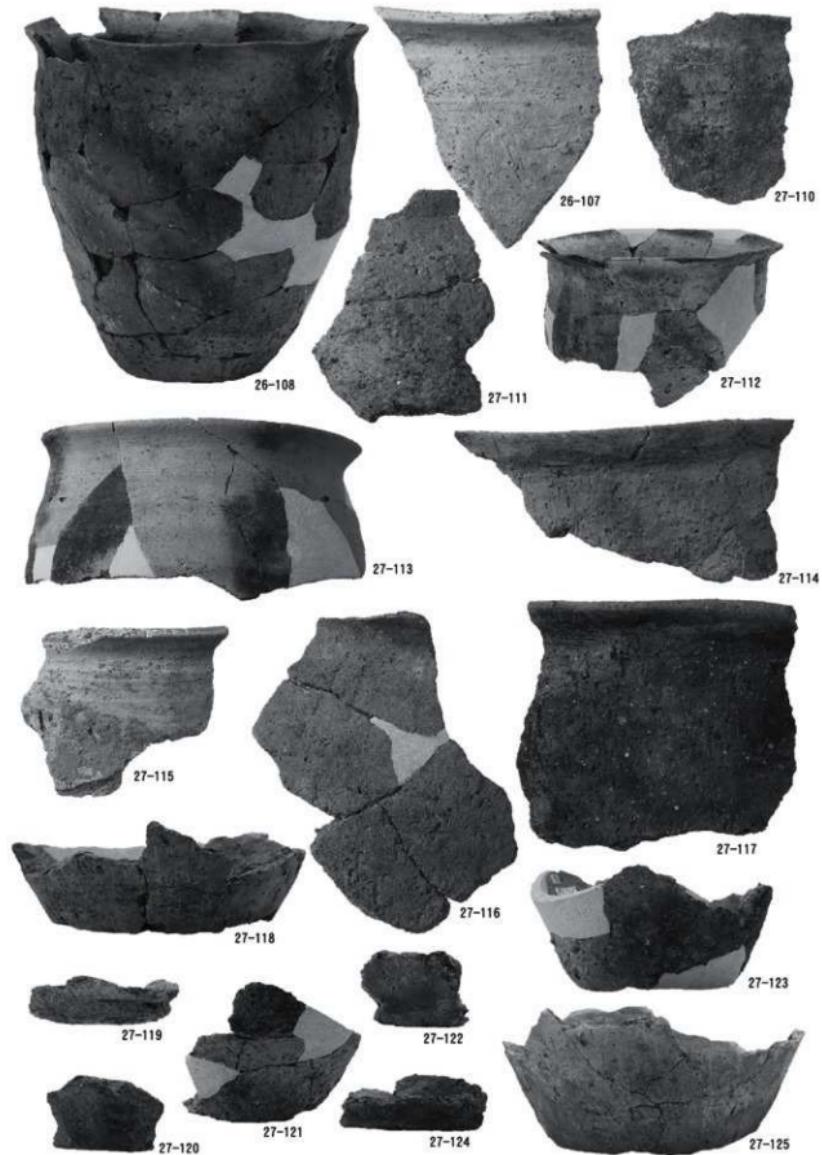


写真16 出土遺物⑤

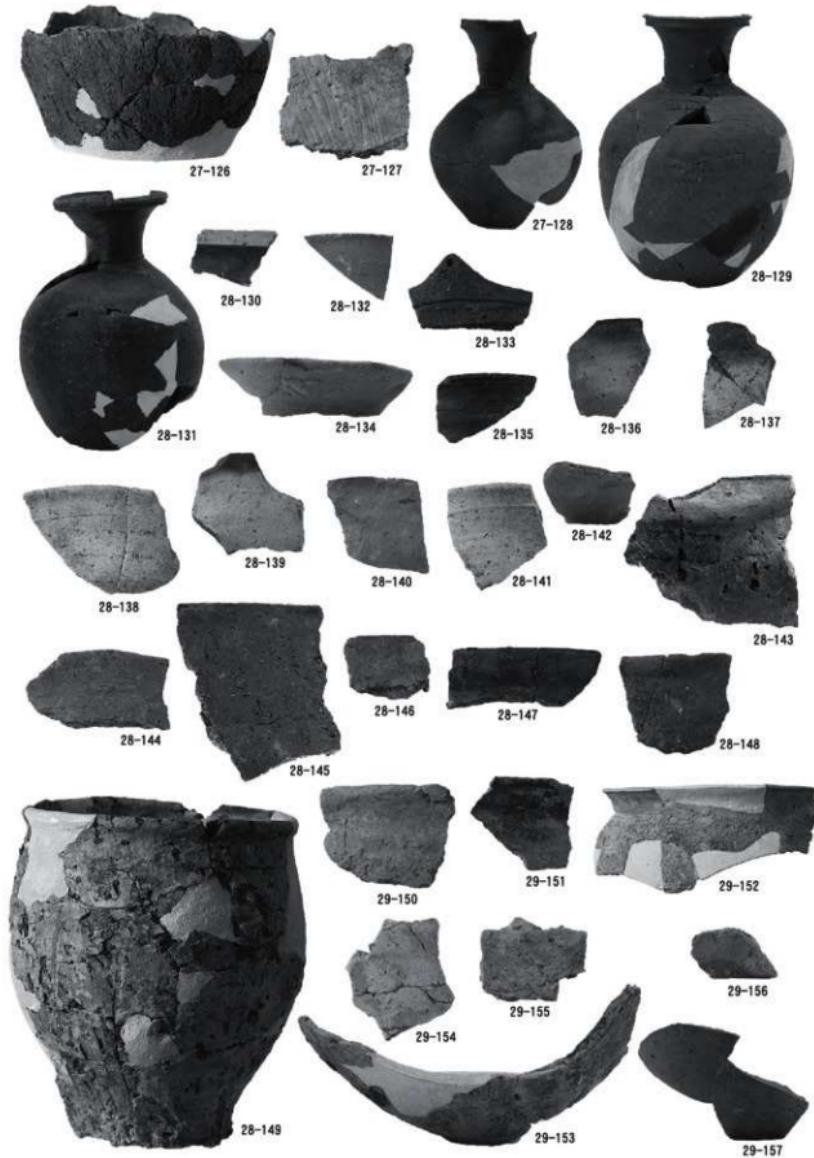


写真17 出土遺物⑥

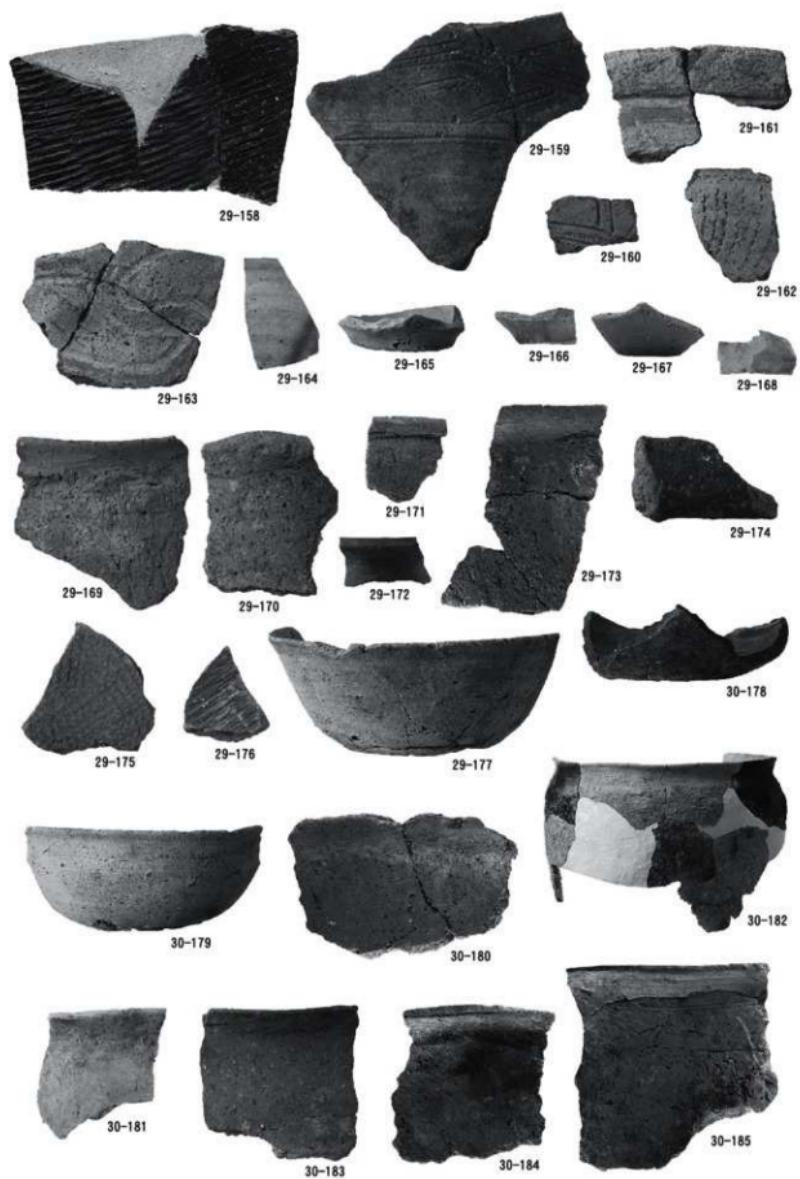


写真18 出土遺物⑦

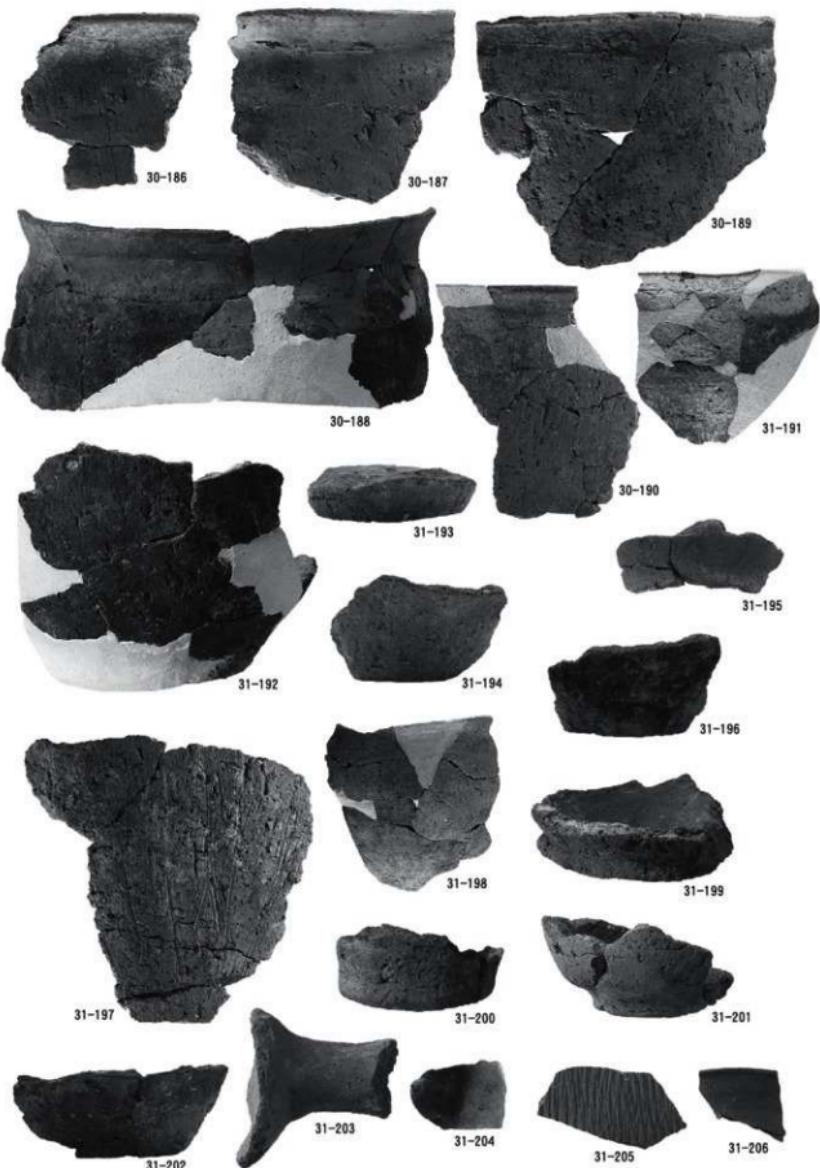


写真19 出土遺物⑧

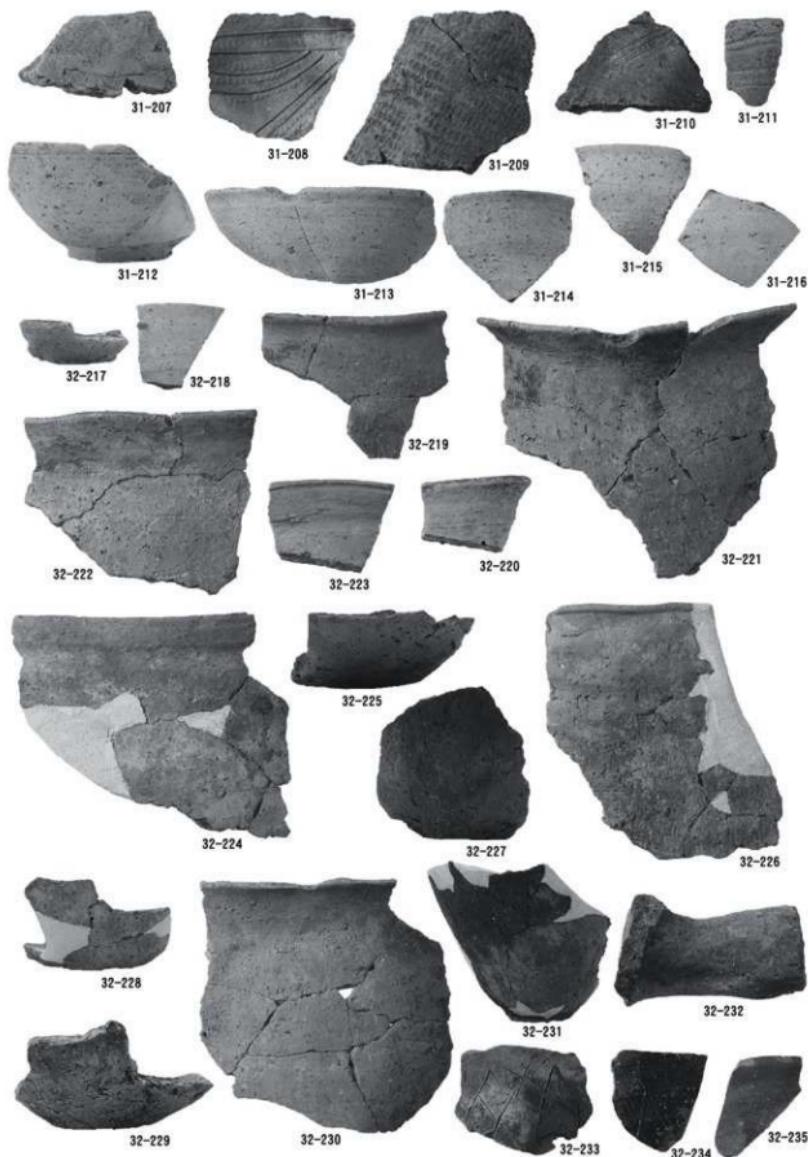


写真20 出土遺物⑨

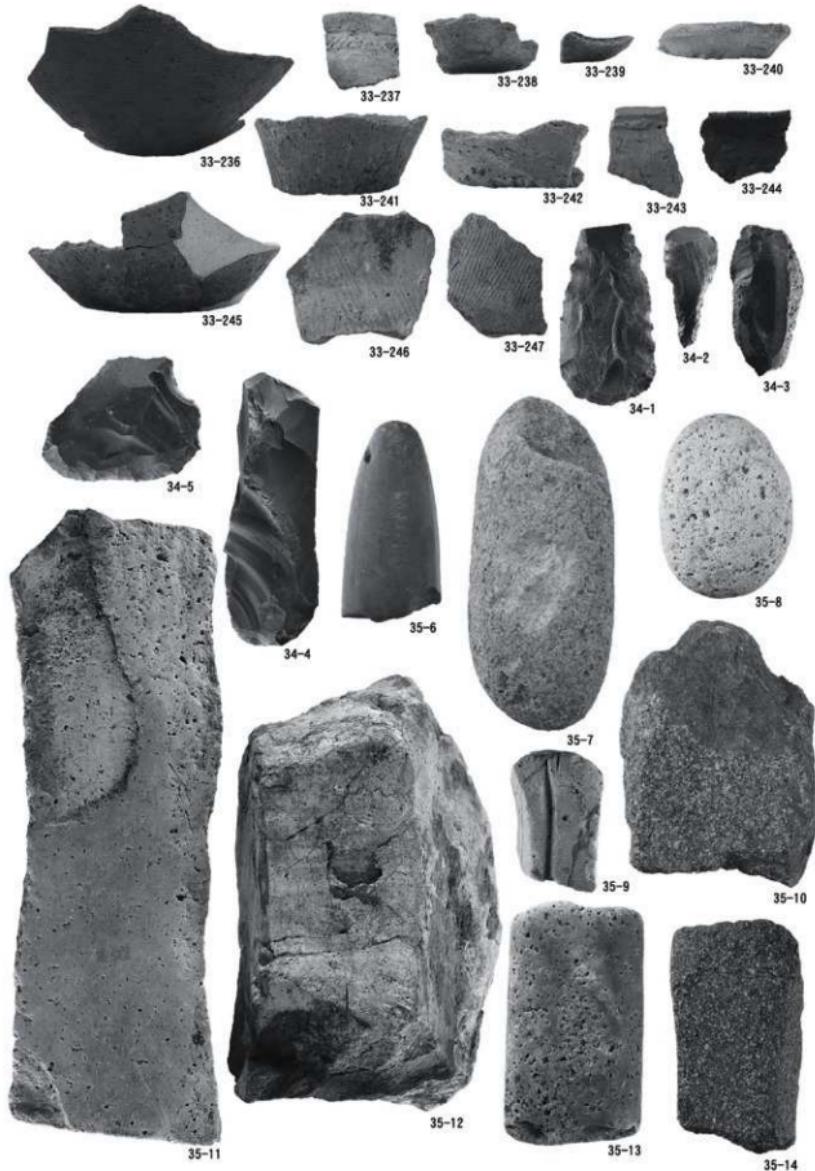


写真21 出土遺物⑩

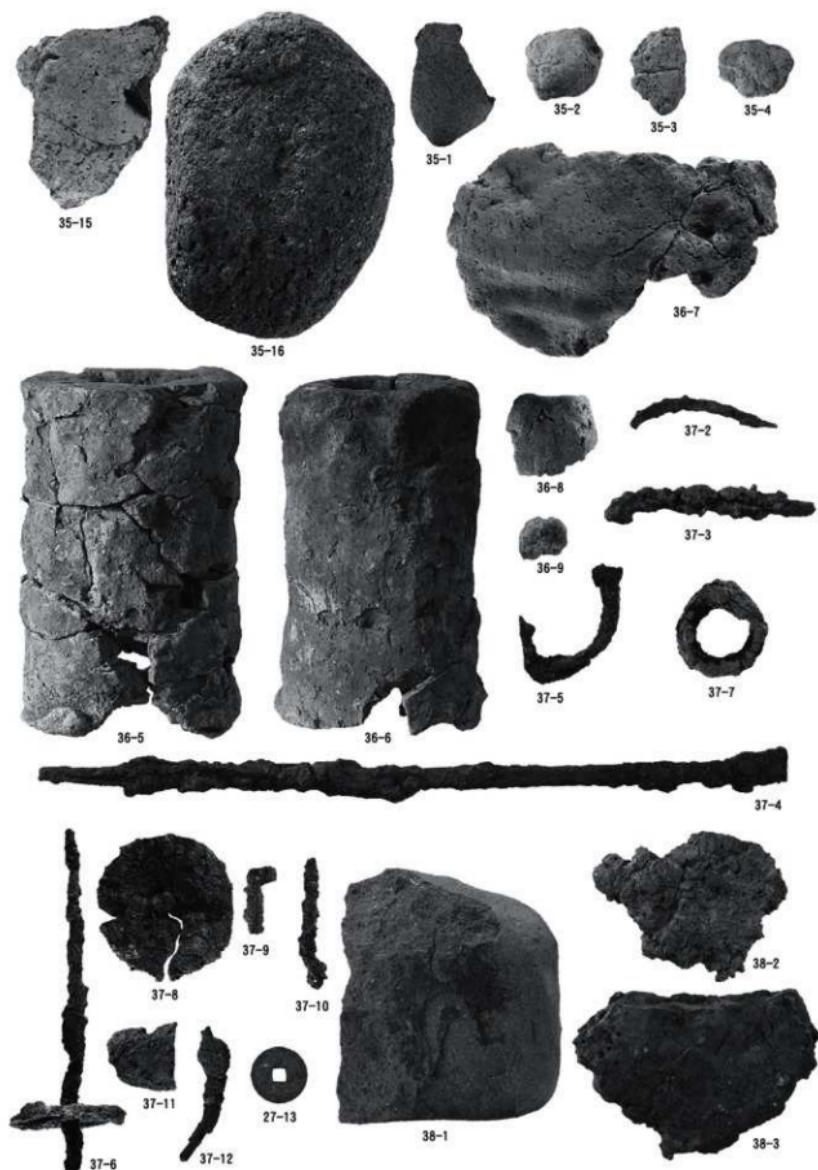


写真22 出土遺物①

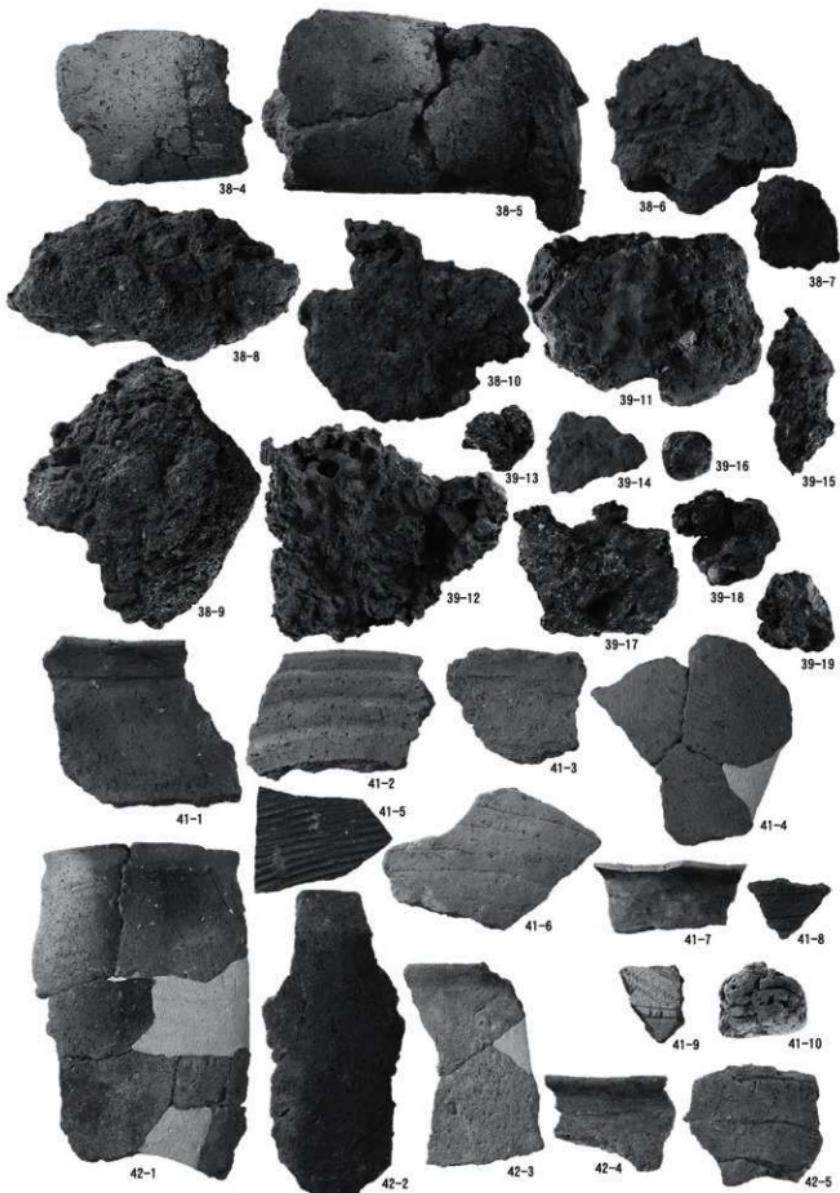


写真23 出土遺物②

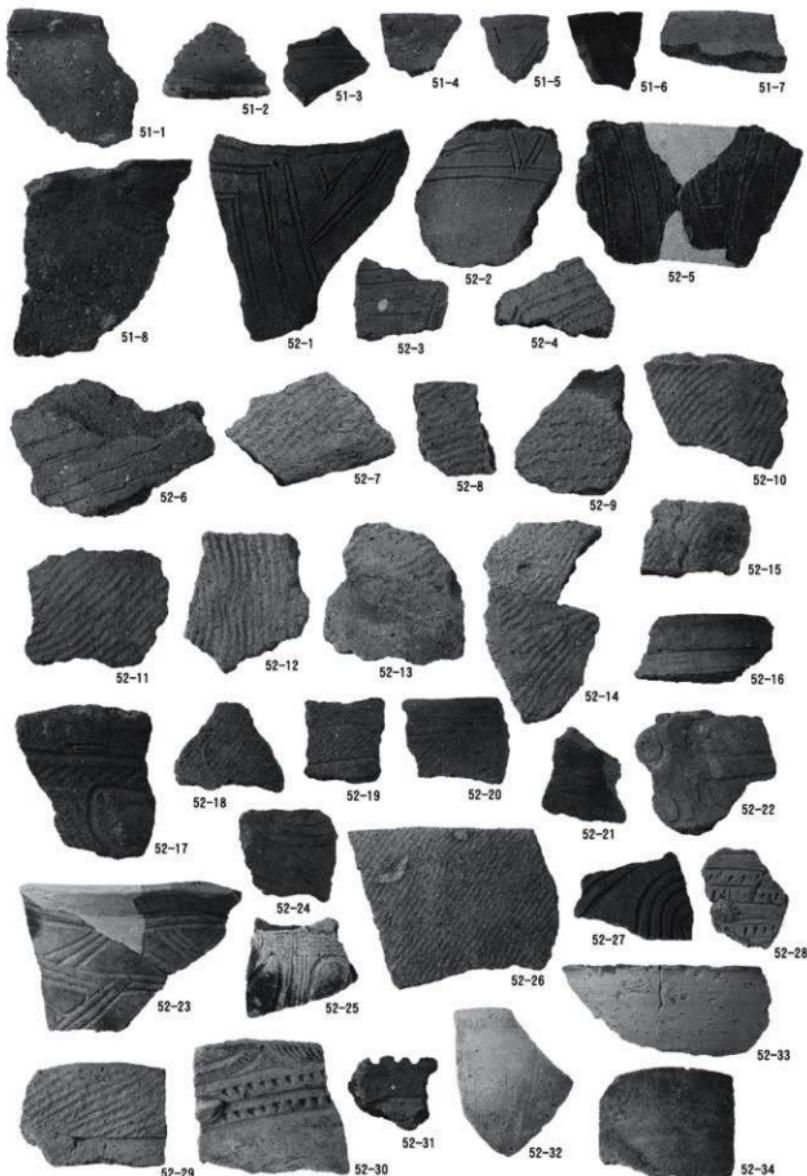


写真24 出土遺物①

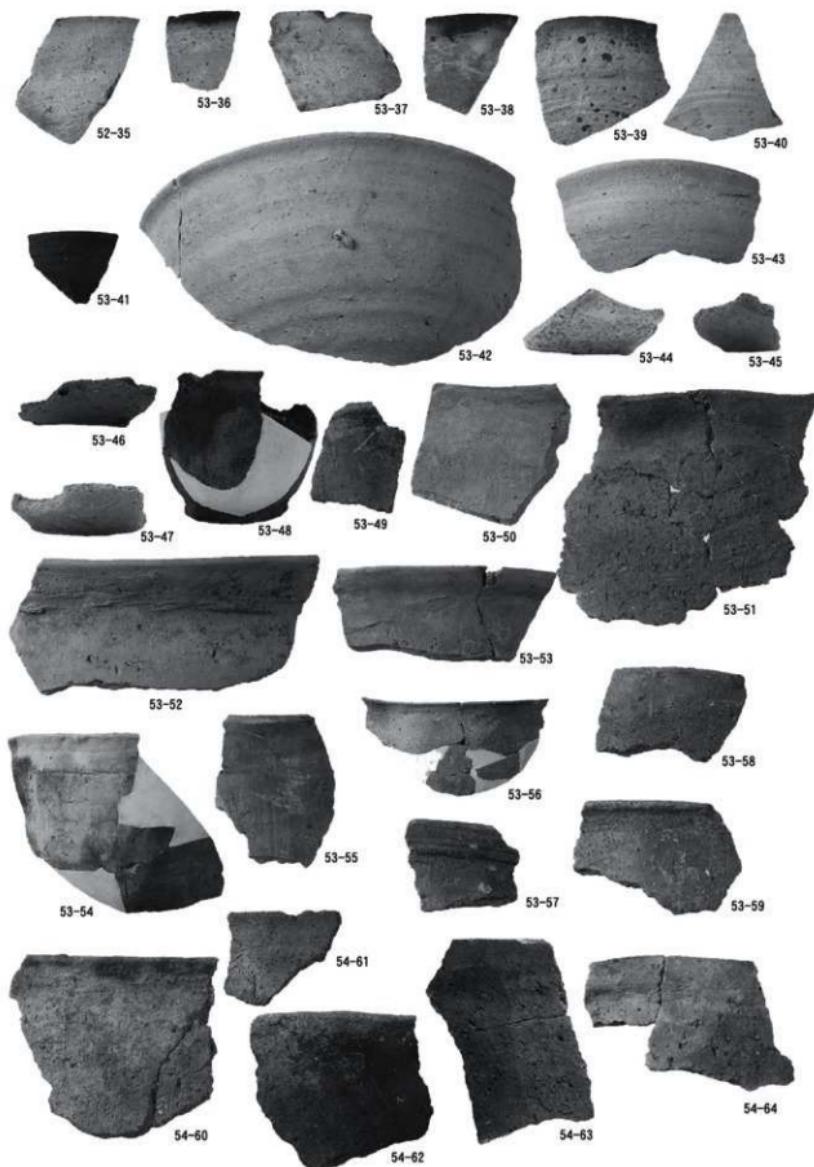


写真25 出土遺物④

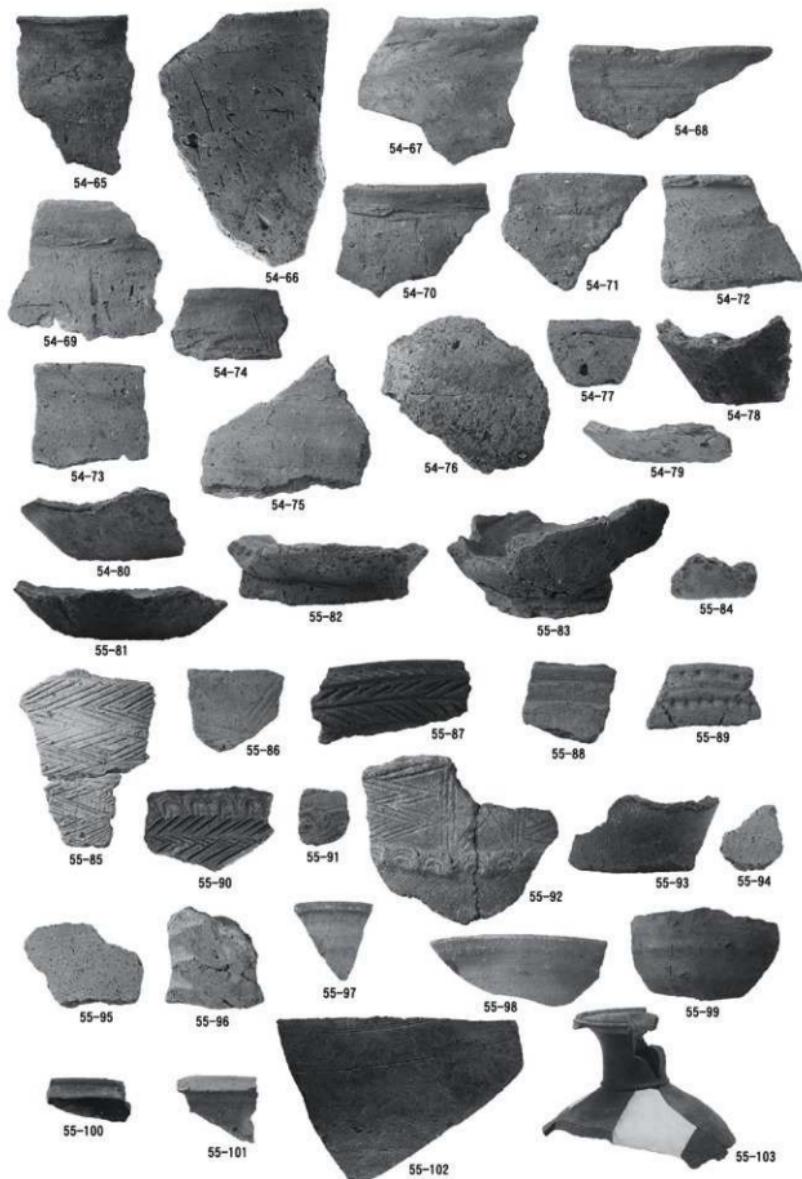


写真26 出土遺物⑯

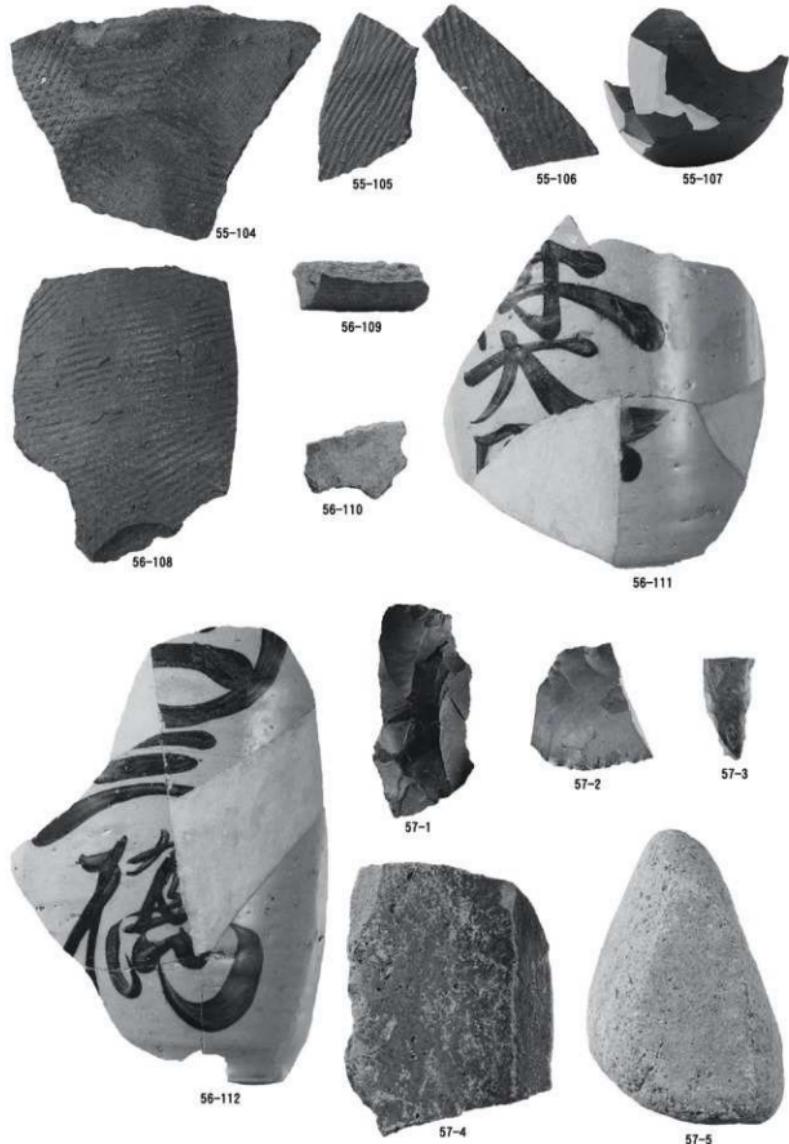


写真27 出土遺物⑩

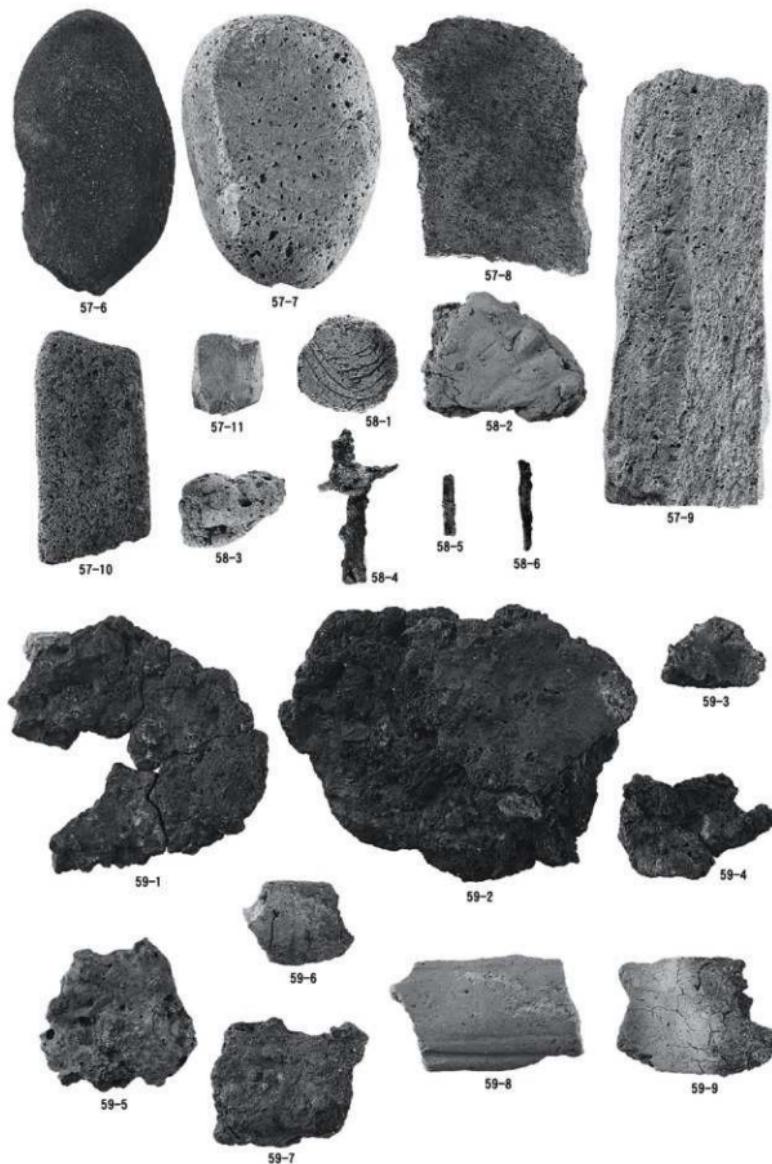


写真28 出土遺物⑦

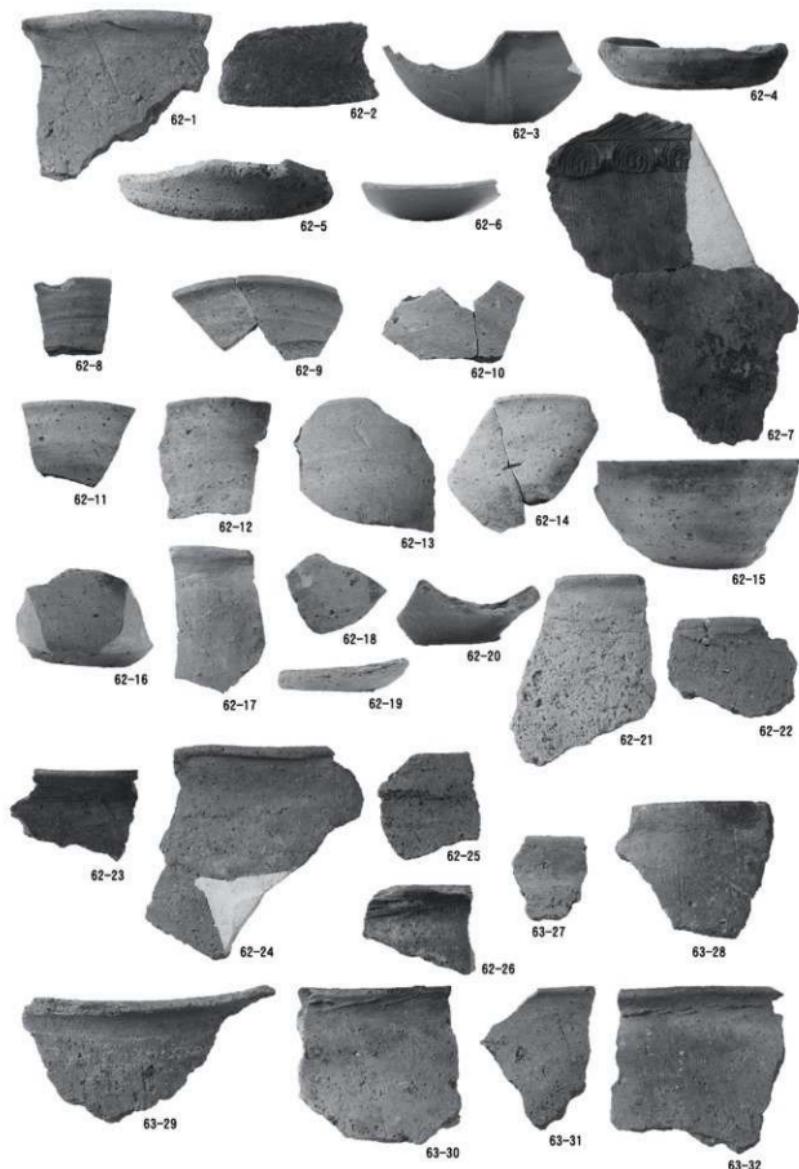


写真29 出土遺物⑧

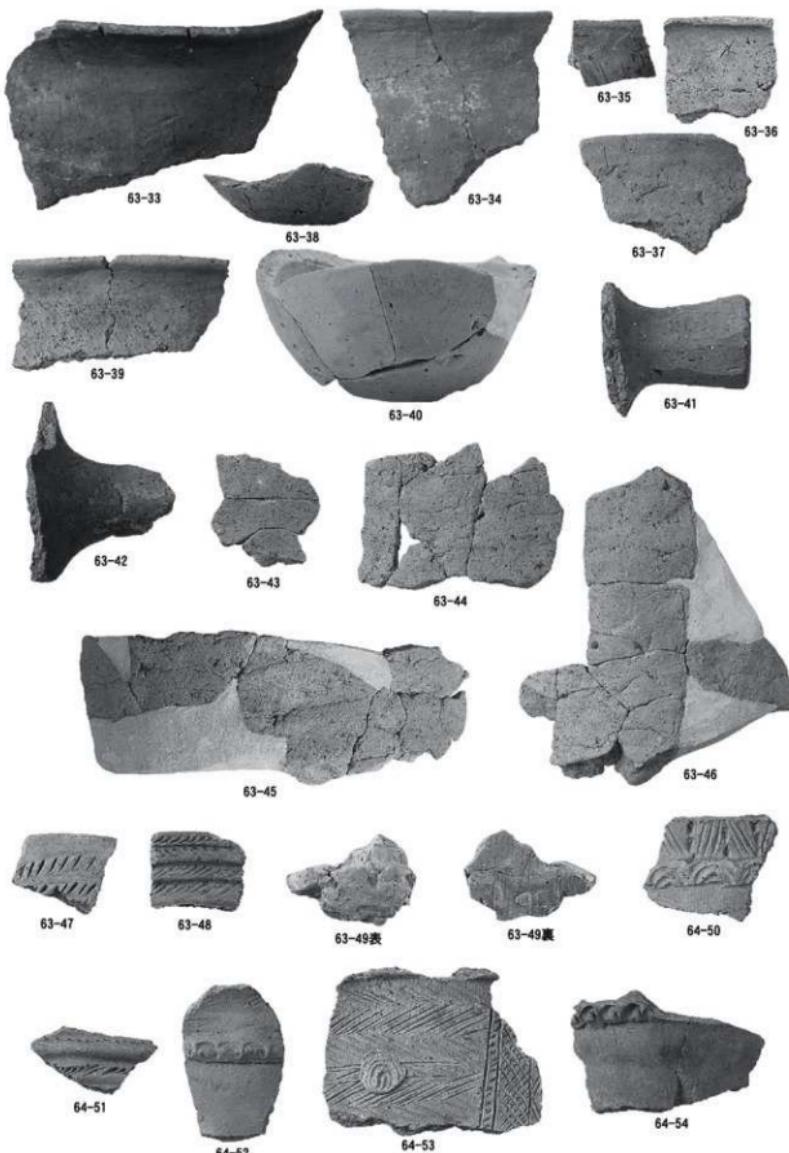


写真30 出土遺物⑩

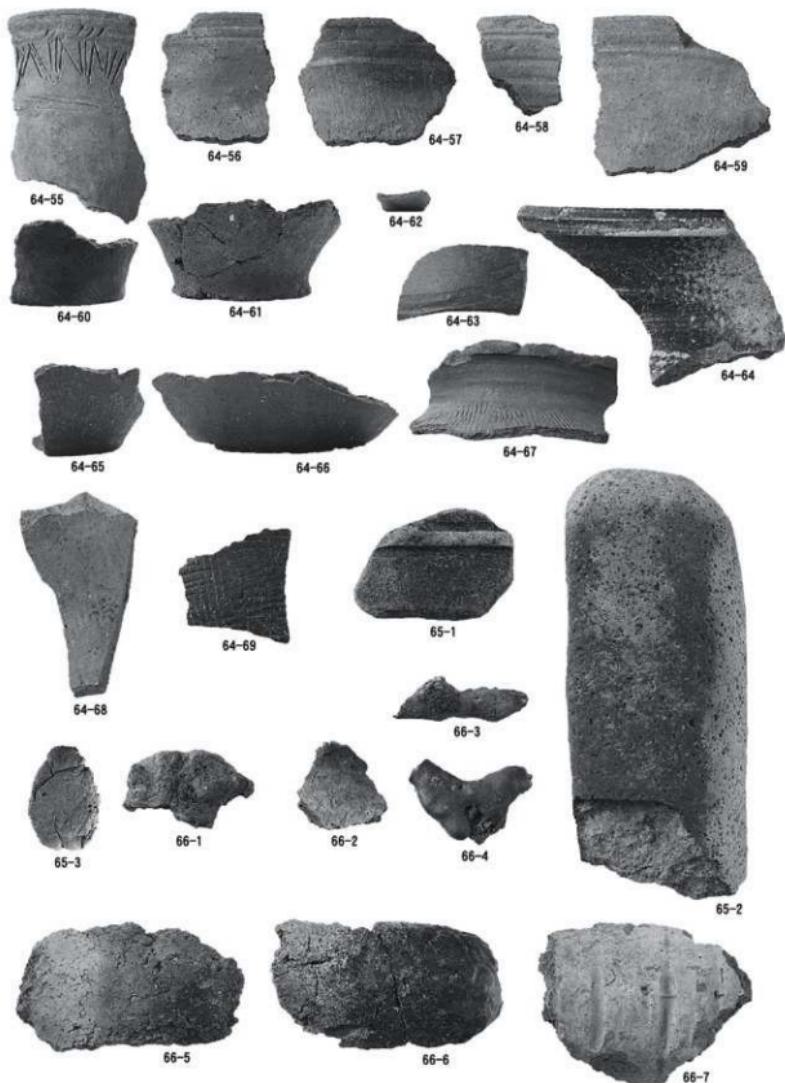


写真31 出土遺物②

ま　と　め

本遺跡は中世城館と考えられている遺跡で、主郭、西郭、南郭によって構成されている。堤川広域基幹河川改修事業に先立ち、平成21・22年度の2カ年にわたり、発掘調査を実施した結果、平安時代を主体とする竪穴住居跡5棟、竪穴造構8棟、土坑9基、焼土造構1基、堀跡2基、ピット171基、中世の堀跡1基を検出したほか、遺物は平安時代の土師器、須恵器、擦文土器を中心とかわらけ、中国産青磁、繩文土器、石器、土製品、鉄製品、鉄滓、陶磁器が15箱分出土した。調査面積は1年次456m²、2年次1,487m²で計1,943m²である。

調査は西郭・南郭について実施した。西郭は標高13～15mにあり、遺構の分布状況は西郭中央付近にピットが集中し、その周辺に住居跡が位置する状況を呈する。西郭の北東側に位置するS I-06～08付近や西郭北西側のS I-02・03、S I-10・11はやや遺構が密集する状況を呈しており、遺構の広がりは北～東の方向へ延びていると考えられる。南郭は標高11～13mにあり、東側から西側へ下る形状を呈している。南郭は主郭南側の帶郭と繋がっており、SD-02東側の部分はやや盛り上がった状況を呈しており、その部分を含めて帶郭と考えられる。検出した遺構は概ね平安時代に帰属するが、これらは中世城館構築前の集落と考えられ、SD-02と竪穴住居跡の時期などから環濠をもつ集落であった可能性が高い。これらの平安時代の遺構の時期は出土遺物などから9世紀後葉～11世紀までのもので、10世紀前葉～後葉を主体とする。

中世の遺構はSD-01の空堀のみであり、出土遺物から帰属時期は12世紀後葉～13世紀前葉と考えられる。本遺跡の城館が構築された時期については主郭周辺が未調査であり、またSD-01の遺物数の少なさからSD-01の時期のみから判断するのは早計ではあるが、SD-01の時期から推定すると12世紀後葉～13世紀前葉と考えられる。館の構築時期について第II章で前述した工藤氏や根城南部氏関連の史料から考えられる時期と大きな年代差があることから、現状では本遺跡が工藤氏や南部氏と関連する城館である可能性は低いと考えられる。

最後になりましたが、本遺跡の発掘調査及び整理作業、報告書刊行にあたり、調査委託者であります東青地域県民局河川砂防施設課をはじめ、関係各位に対しまして厚くお礼申し上げます。

引用・参考文献

- 青森県史友の会 2003 「青森県史 資料編 考古4 中世・近世」
- 青森県史友の会 2005 「青森県史 資料編 考古3 弥生～古代」
- 青森市 2005 「青森市史 資料編2 古代・中世」
- 青森県教育委員会 1982 「青森県の中世城館」
- 青森県教育委員会 1995 青森県埋蔵文化財調査報告書 第173集 「水木館遺跡」
- 青森県教育委員会 1998 青森県埋蔵文化財調査報告書 第243集 「高屋敷前遺跡発掘調査報告書」
- 青森県教育委員会 2003 青森県埋蔵文化財調査報告書 第351集 「野尻（1）遺跡V」
- 青森県教育委員会 2005 青森県埋蔵文化財調査報告書 第395集 「山元（1）遺跡」
- 青森県教育委員会 2007 青森県埋蔵文化財調査報告書 第429集 「宮田館遺跡VI」
- 青森県教育委員会 2009 青森県埋蔵文化財調査報告書 第476集 「青森県遺跡詳細分布調査報告書21」
- 青森市教育委員会 1965 青森市の文化財2 「四ツ石遺跡調査概報」
- 青森市教育委員会 1984 「グリーンマップあおもり・33」
- 青森市教育委員会 1987 青森市の埋蔵文化財 「横内城跡発掘調査報告書」
- 青森市教育委員会 1995 a 青森市埋蔵文化財調査報告書 第24集 「横内遺跡・横内（2）遺跡発掘調査報告書」
- 青森市教育委員会 1995 b 青森市埋蔵文化財調査報告書 第26集 「桜塚（2）遺跡発掘調査報告書」
- 青森市教育委員会 2000 青森市埋蔵文化財調査報告書 第52集 「大矢沢野田（1）遺跡調査報告書」
- 青森市教育委員会 2002 青森市埋蔵文化財調査報告書 第61集 「大矢沢野田（1）遺跡発掘調査報告書」
- 青森市教育委員会 2003 青森市埋蔵文化財調査報告書 第69集 「市内遺跡発掘調査報告書11」
- 青森市教育委員会 2007 青森市埋蔵文化財調査報告書 第93集 「合子沢松森（2）遺跡発掘調査報告書」
- 青森市教育委員会 2009 青森市埋蔵文化財調査報告書 第100号 「阿部野（1）遺跡発掘調査報告書」
- 青森市教育委員会 2010 青森市埋蔵文化財調査報告書 第105集 「葛野（3）遺跡発掘調査報告書」
- 青森市教育委員会 2011 青森市埋蔵文化財調査報告書 第107集 「石江遺跡群発掘調査報告書III」
- 日本考古学協会 1976 「日本考古学年報」27
- 小友 松雄 1943 「津軽封内城跡考」 青森郷土会
- 藤田 亮一 1975 「青森市内出土の早期縄文式土器片」『うとう』第81号
- 葛西 勉 1978 「青森市阿部野遺跡出土の縄文時代早期の土器」『うとう』第85号
- 新人物往来社 1995 「蛭夷の世界と北方貿易」 中世の風景を読む第1巻
- 山川出版社 2000 「青森県の歴史」
- 齊藤 淳 2002 「本州における擦文土器の変遷と分布について」『海と考古学とロマンー市川金丸先生古稀記念
顕呈論文集』
- 新人物往来社 1980 「日本城郭大系2」
- 六興出版 1987 「蓬田大館遺跡」 早稲田大学文学部考古学研究室報告
- 東奥日報社 1900 「青森県人名事典」

報告書抄録

| | |
|--------|---|
| ふりがな | のじりだいせきはつくつちょうさほうこくしょ |
| 書名 | 野尻館遺跡発掘調査報告書 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 青森市埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第III集 |
| 編著者名 | 設楽政健 |
| 編集機関 | 青森市教育委員会 |
| 所在地 | 〒038-8505 青森県青森市柳川二丁目1番1号 TEL017-761-4796 |
| 発行年月日 | 西暦2012年3月30日 |

| ふりがな 所取遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 世界測地系(JGD2000) | | 調査期間 | 調査面積(m ²) | 調査原因 |
|---------------|----------------|--------------------|---|------------------------------------|---|--|---|------------------|
| | | 市町村 | 道番号 | 北緯 | 東経 | | | |
| 野尻館遺跡 | 青森市大字 野尻字野田 | 02201 | 201-173 | 40° 47° 01° | 140° 53° 43° | 20090518 ~ 20090630 20100830 ~ 20101124 | 1,943m ² | 堤川広域基幹 河川改修事業 |
| 所取遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 野尻館遺跡 | 城館跡 | 縄文時代 平安時代 中世 | 堅穴住居跡 堅穴遺構 土坑 焼土遺構 堀跡 ビット | 5棟 8棟 9基 1基 2基 171基 | 土師器 須恵器 擦文土器 かわらけ 陶磁器 石器 土製品 鐵製品 閏連遺物 | | 検出した遺構の多くは城館構築前のもので、城館構築は空堀出土遺物から12~13世紀と考えられる。 | |
| 要約 | | | 1. 野尻館遺跡は中世城館と考えられる遺跡で、八甲田山から続く丘陵線辺部の標高11~15mの地点に位置している。遺跡は主郭、西郭、南郭の3つの郭によって構成されており、今回の調査は西郭・南郭を対象に実施した。 2. 堤川広域基幹河川改修事業に係り、2ヵ年にわたって調査を実施した。調査面積は1年次456m ² 、2年次1,487m ² である。 3. 調査の結果、平安時代の堅穴住居跡5棟、堅穴遺構8棟、土坑9基、焼土遺構1基、ビット171基、中世の堀跡2基を検出した。平安時代の遺構は9世紀後葉~11世紀で、10世紀前葉~後葉を主体としている。中世の遺構は12世紀後葉~13世紀前葉と考えられている。平安時代の集落は城館構築前の集落である。また、この平安時代の集落は環濠をもつ集落であった可能性もある。 4. 城館の構築は西郭と南郭の間より検出したSD-01から12世紀後葉~13世紀前葉と考えられる。 | | | | | |

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

| 青森市の文化財 | 1962 | 「三内園遺跡調査概報」 | 青森市埋蔵文化財調査報告書 |
|---------------|------|-----------------------------------|------------------------------------|
| 〃 | 2 | 1965 「四ヶ石遺跡調査概報」 | 〃 第56集 2001 「福山遺跡発掘調査報告書Ⅰ」 |
| 〃 | 3 | 1967 「玉清水遺跡調査概報」 | 〃 第57集 2001 「福山遺跡発掘調査報告書Ⅱ」 |
| 〃 | 4 | 1970 「三内丸山遺跡調査概報」 | 〃 第58集 2001 「大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報Ⅰ」 |
| 〃 | 5 | 1971 「野木和遺跡調査報告書」 | 〃 第59集 2001 「市内遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 6 | 1971 「玉清水田遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第60集 2001 「小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ」 |
| 〃 | 7 | 1971 「大浦遺跡調査報告書」 | 〃 第61集 2002 「大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 8 | 1973 「園内遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第62集 2002 「福山遺跡発掘調査報告書Ⅱ」 |
| | 1979 | 「震沢遺跡」 | 〃 第63集 2002 「福山遺跡発掘調査概報Ⅳ」 |
| | 1983 | 「西戸崎遺跡調査報告書」 | 〃 第64集 2002 「市内遺跡発掘調査報告書」 |
| 青森市の埋蔵文化財 | 1983 | 「山野崎遺跡」 | 〃 第65集 2003 「雲谷山吹(4)-(7)遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 1985 | 「長森遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第66集 2003 「福山遺跡発掘調査報告書Ⅲ」 |
| 〃 | 1986 | 「茂木野遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第67集 2003 「深沢(3)遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 1987 | 「横内城跡発掘調査報告書」 | 〃 第68集 2003 「近野遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 1988 | 「三内丸山(1)遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第69集 2003 「市内遺跡発掘調査報告書Ⅺ」 |
| 青森市埋蔵文化財調査報告書 | | | 〃 第70集 2003 「小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅹ」 |
| 〃 | 第16集 | 1991 「山吹(1)遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第71集 2004 「福山遺跡発掘調査報告書Ⅳ」 |
| 〃 | 第17集 | 1992 「埋蔵文化財出土遺物調査報告書」 | 〃 第72集 2004 「福山遺跡発掘調査報告書Ⅴ」 |
| 〃 | 第18集 | 1993 「三内丸山(2)遺跡発掘調査概報」 | 〃 第73集 2004 「新町野道跡発掘調査概報」 |
| 〃 | 第19集 | 1993 「市内遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第74集 2004 「市内遺跡発掘調査報告書12」 |
| 〃 | 第20集 | 1993 「小牧野遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第75集 2004 「江波遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 第21集 | 1994 「市内遺跡詳細分布調査報告書」 | 〃 第76集 2005 「柴山(3)遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 第22集 | 1994 「小内三遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第77集 2005 「赤坂遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 第23集 | 1994 「三内丸山(2)・小・三内遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第78集 2005 「三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 第24集 | 1995 「横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第79集 2005 「市内遺跡発掘調査報告書13」 |
| 〃 | 第25集 | 1995 「市内遺跡詳細分布調査報告書」 | 〃 第80集 2005 「合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報」 |
| 〃 | 第26集 | 1995 「板峯(2)遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第81集 2005 「石江遺跡群発掘調査概報」 |
| 〃 | 第27集 | 1996 「板峯(1)遺跡発掘調査概報」 | 〃 第82集 2006 「三内沢部(3)遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 第28集 | 1996 「三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第83集 2006 「合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報」 |
| 〃 | 第29集 | 1996 「市内遺跡詳細分布調査報告書」 | 〃 第84集 2006 「新町野道跡発掘調査概報Ⅱ」 |
| 〃 | 第30集 | 1996 「小牧野遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第85集 2006 「小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅻ」 |
| 〃 | 第31集 | 1997 「市内遺跡詳細分布調査報告書」 | 〃 第86集 2006 「市内遺跡発掘調査報告書14」 |
| 〃 | 第32集 | 1997 「板峯(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ」 | 〃 第87集 2006 「新町野道跡発掘調査報告書Ⅲ」 |
| 〃 | 第33集 | 1997 「新町野道跡発掘調査報告書」 | 〃 第88集 2006 「史跡高屋敷の遺跡環境整備報告書Ⅱ」 |
| 〃 | 第34集 | 1997 「葛野(2)遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第89集 2006 「鎌原遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 第35集 | 1997 「小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ」 | 〃 第90集 2007 「月見野(1)遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 第36集 | 1998 「板峯(1)遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第91集 2007 「市内遺跡発掘調査報告書15」 |
| 〃 | 第37集 | 1998 「新町野道跡発掘調査報告書」 | 〃 第92集 2007 「新町野道跡発掘調査概報Ⅲ」 |
| 〃 | 第38集 | 1998 「野木遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第93集 2007 「合子沢松森(2)遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 第39集 | 1998 「市内遺跡詳細分布調査報告書」 | 〃 第94集 2007 「石江遺跡群発掘調査報告書」 |
| 〃 | 第40集 | 1998 「小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ」 | 〃 第95集 2008 「野尻(4)遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 第41集 | 1998 「野木遺跡発掘調査概報」 | 〃 第96集 2008 「葛野遺跡群発掘調査報告書」 |
| 〃 | 第42集 | 1998 「熊沢遺跡発掘調査概報」 | 〃 第97集 2008 「市内遺跡発掘調査報告書16」 |
| 〃 | 第43集 | 1999 「市内遺跡詳細分布調査報告書」 | 〃 第98集 2008 「新町野道跡発掘調査報告書Ⅳ」 |
| 〃 | 第44集 | 1999 「葛野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ」 | 〃 第99集 2009 「市内遺跡発掘調査報告書17」 |
| 〃 | 第45集 | 1999 「小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ」 | 〃 第100集 2009 「阿部野(1)遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 第46集 | 1999 「新町野・野木遺跡発掘調査概報」 | 〃 第101集 2009 「大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅱ」 |
| 〃 | 第47集 | 1999 「福山遺跡発掘調査概報」 | 〃 第102集 2009 「細越遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 第48集 | 2000 「熊沢遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第103集 2010 「市内遺跡発掘調査報告書18」 |
| 〃 | 第49集 | 2000 「福山遺跡発掘調査概報Ⅱ」 | 〃 第104集 2010 「長瀬池遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 第50集 | 2000 「小牧野遺跡発掘調査報告書V」 | 〃 第105集 2010 「葛野(3)遺跡発掘調査報告書」 |
| 〃 | 第51集 | 2000 「板峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第106集 2010 「石江遺跡群発掘調査報告書Ⅱ」 |
| 〃 | 第52集 | 2000 「大矢沢野田(1)遺跡調査報告書」 | 〃 第107集 2011 「石江遺跡群発掘調査報告書Ⅲ」 |
| 〃 | 第53集 | 2000 「市内遺跡発掘調査報告書」 | 〃 第108集 2011 「石江遺跡群発掘調査報告書Ⅳ」 |
| 〃 | 第54集 | 2001 「新町野道跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ」 | 〃 第109集 2011 「市内遺跡発掘調査報告書19」 |
| 〃 | 第55集 | 2001 「小牧野遺跡発掘調査報告書VI」 | 〃 第110集 2012 「市内遺跡発掘調査報告書20」 |
| | | | 〃 第111集 2012 「野尻遺跡発掘調査報告書」 |

青森市埋蔵文化財調査報告書 第111集

野尻館遺跡発掘調査報告書

発行年月日 平成24年3月30日

発 行 青 森 市 教 育 委 員 会

〒038-8505 青森市柳川二丁目1番1号

TEL 017-761-4796

印 刷 高 金 印 刷 株 式 会 社

〒038-0015 青森市千刈二丁目1番31号

TEL 017-781-2244
